

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第715集

た の は た
田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2020

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して、平成29・30年度に発掘調査を実施した田ノ端Ⅱ遺跡の成果をまとめたものです。調査の結果、田ノ端Ⅱ遺跡は縄文時代早期から後期にかけての集落であることが確認され、往時の様々な環境を考える上での貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和2年2月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 高橋 嘉行

例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第42地割字田ノ端地内に所在する田ノ端Ⅱ遺跡の調査成果を収録したものである。
2. 岩手県遺跡台帳の遺跡番号と遺跡略号は以下のとおりである。
遺跡番号：IF37-2343
遺跡略号：KHⅡ-17・18
3. 調査は三陸沿岸道路建設事業に伴う緊急発掘調査である。国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。
4. 発掘対象面積、調査期間、調査担当者は以下のとおりである。
<平成29年度> 面積：1,000㎡
期 間：平成29年10月16日～12月15日
担当者：村木 敬 山川純一 佐々木昭太 佐々木あゆみ
<平成30年度> 面積：2,000㎡
期 間：平成30年4月4日～6月22日
担当者：村木 敬 西澤正晴 佐々木昭太 船渡耕己
5. 室内整理期間、整理担当者は以下のとおりである。
<平成29年度> 期 間：平成29年12月1日～平成30年3月31日
担当者：村木 敬 山川純一
<平成30年度> 期 間：平成30年10月1日～平成31年3月31日
担当者：村木 敬 佐々木昭太 船渡耕己
6. 本報告書の執筆は、第Ⅰ章は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所に依頼している。それ以外については村木が担当している。
7. 業務委託は以下の外部機関に依頼した。分析結果はⅦ章に収録している。
基準点測量：株式会社ダイヤ
遺構デジタル図化・遺構図版編集：株式会社リッケイ
土器・石器実測図化：株式会社ラング
放射性炭素年代測定：株式会社加速器研究所
火山灰分析：株式会社火山灰考古学研究所
8. 野外調査および本書の作成にあたり、以下の方からご指導・ご助言を賜った（敬称略）。
千田政博
9. 本遺跡の調査成果は、調査概報（岩文埋報692・708集）で公表しているが、本報告書の内容はそのいずれよりも優先される。
10. 本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡概要	1
	1 遺跡の位置・立地	1
	2 歴史的環境	1
III	野外・室内調査	7
	1 野外調査	7
	2 室内調査	8
	3 凡例	8
IV	分類基準	9
	1 縄文土器	9
	2 縄文石器	9
V	基本層序	11
VI	調査成果	12
	1 概略	12
	2 検出された遺構・遺物	20
VII	自然科学分析	159
	1 放射性炭素年代	159
	2 火山灰分析	164
	3 洋野町北半部の層序及び遺構堆積土について	171
VIII	総括	181
	1 縄文時代の遺構・遺物	181
	2 自然科学分析について	191
	3 縄文時代における遺構の変遷	191
	4 土器の検討	193
	5 まとめ	194

図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第44図	SI34	66
第2図	調査範囲図	3	第45図	SI35	67
第3図	段丘区分図	4	第46図	SI36	68
第4図	遺跡分布図	5	第47図	SI37・38	70
第5図	グリッド配置図	7	第48図	SI39～41	73
第6図	凡例	8	第49図	SI42・44	74
第7図	基本層序	11	第50図	SI43・45・47	77
第8図	遺構配置図	14	第51図	SI46・48～50	80
第9図	遺構配置分割図(1)	15	第52図	SI49土層注記	81
第10図	遺構配置分割図(2)	16	第53図	SI51～54	83
第11図	遺構配置分割図(3)	17	第54図	SI55～57	85
第12図	遺構配置分割図(4)	18	第55図	SI39、SI39～41出土遺物	86
第13図	遺構配置分割図(5)	19	第56図	SI39～52出土遺物(1)	87
第14図	SI01、出土遺物	21	第57図	SI41、SI39～52出土遺物(2)	88
第15図	SI02	22	第58図	SI42～47、SI43出土遺物	89
第16図	SI03	24	第59図	SI44、SI46・48出土遺物	90
第17図	SI04・05	26	第60図	SI46・48、SI48、SI39～48 出土遺物(1)	91
第18図	SI05土層注記、SI04出土遺物(1)	27	第61図	SI39～48出土遺物(2)	92
第19図	SI04出土遺物(2)、SI05出土遺物	28	第62図	SK01～09	96
第20図	SI06	29	第63図	SK10～16	99
第21図	SI07、SI07・55出土遺物	31	第64図	SK17～24	101
第22図	SI08・09、出土遺物	33	第65図	SK25～33	106
第23図	SI10、出土遺物	34	第66図	SK34～38	109
第24図	SI11、出土遺物	35	第67図	SK39～44	112
第25図	SI12	36	第68図	SK45～51	115
第26図	SI13・14	38	第69図	SK52～60	119
第27図	SI13出土遺物、SI15	39	第70図	SK61～65	122
第28図	SI16・17、SI17出土遺物	41	第71図	SK66～68	123
第29図	SI18・19・20	44	第72図	SK出土遺物(1)	124
第30図	SI18・19・20土層注記、出土遺物	45	第73図	SK出土遺物(2)	125
第31図	SI21・22、SI22出土遺物	47	第74図	SK出土遺物(3)	126
第32図	SI21・22土層注記、SI23	48	第75図	SKT01～04	129
第33図	SI24	50	第76図	SKT05～08	131
第34図	SI25、出土遺物	52	第77図	SKT09～12	133
第35図	SI26、出土遺物	53	第78図	SKT13・14	135
第36図	SI27・28	55	第79図	SKT出土遺物	136
第37図	SI28土層注記、SI29	57	第80図	遺構外出土石器(1)	138
第38図	SI30、出土遺物	58	第81図	遺構外出土石器(2)	139
第39図	SI30・31出土遺物	59	第82図	遺構外出土石器(3)	140
第40図	SI31	61	第83図	遺構外出土石器(4)	141
第41図	SI32	62	第84図	遺構外出土石器(5)・石器(1)	142
第42図	SI33	64	第85図	遺構外出土石器(2)	143
第43図	SI33土層注記	65			

第86回	遺構外出土石器 (3) ……………	144	第94回	竪穴住居形状別配置図 ……………	183
第87回	遺構外出土石器 (4) ……………	145	第95回	縄文時代の土坑 ……………	185
第88回	遺構外出土石器 (5) ……………	146	第96回	土器集成 (1) ……………	187
第89回	遺構外出土石器 (6) ……………	147	第97回	土器集成 (2) ……………	188
第90回	遺構外出土石器 (7) ……………	148	第98回	土器集成 (3) ……………	189
第91回	遺構外出土石器 (8) ……………	149	第99回	時期別遺構配置図 (1) ……………	192
第92回	遺構外出土石器 (9) ……………	150	第100回	時期別遺構配置図 (2) ……………	193
第93回	縄文時代早期後葉から前期前葉の 竪穴住居 ……………	182	第101回	町内出土土器変遷図 ……………	195

観 察 表

第1表	遺構別出土一覽 ……………	12	第4表	石器観察表 ……………	157
第2表	土器観察表 ……………	151	第5表	器種・石器材料組成表 ……………	190
第3表	土製品観察表 ……………	156			

写 真 図 版

写真図版1	遺跡遠景 ……………	198	写真図版27	SI35・36 ……………	224
写真図版2	遺跡近景 (1) ……………	199	写真図版28	SI37・38 ……………	225
写真図版3	遺跡近景 (2) ……………	200	写真図版29	SI38・39 ……………	226
写真図版4	竪穴住居群発掘 ……………	201	写真図版30	SI40・41 ……………	227
写真図版5	SI01・02 ……………	202	写真図版31	SI42・43 ……………	228
写真図版6	SI02・03 ……………	203	写真図版32	SI43・44 ……………	229
写真図版7	SI04・05 ……………	204	写真図版33	SI45・46 ……………	230
写真図版8	SI06・07 ……………	205	写真図版34	SI48・49 ……………	231
写真図版9	SI07・08 ……………	206	写真図版35	SI49～51 ……………	232
写真図版10	SI09・10 ……………	207	写真図版36	SI52・53 ……………	233
写真図版11	SI11・12 ……………	208	写真図版37	SI53・54 ……………	234
写真図版12	SI13・14 ……………	209	写真図版38	SI55・56 ……………	235
写真図版13	SI15・16 ……………	210	写真図版39	SI56・57 ……………	236
写真図版14	SI17・18 ……………	211	写真図版40	SKT01～06、作業風景 ……………	237
写真図版15	SI19、検出状況 ……………	212	写真図版41	SKT07～12 ……………	238
写真図版16	SI20、SI20遺物出土状況 ……………	213	写真図版42	SKT13・14、SK01～04 ……………	239
写真図版17	SI21・22 ……………	214	写真図版43	SK05～11 ……………	240
写真図版18	SI22・23 ……………	215	写真図版44	SK12～19 ……………	241
写真図版19	SI24 ……………	216	写真図版45	SK20～26・28 ……………	242
写真図版20	SI25・26 ……………	217	写真図版46	SK27・29～34 ……………	243
写真図版21	SI26・27 ……………	218	写真図版47	SK35・37～40 ……………	244
写真図版22	SI28・29 ……………	219	写真図版48	SK41～48 ……………	245
写真図版23	SI29・30 ……………	220	写真図版49	SK49～55 ……………	246
写真図版24	SI31・32 ……………	221	写真図版50	SK56～60 ……………	247
写真図版25	SI32・33 ……………	222	写真図版51	SK61～66 ……………	248
写真図版26	SI34・35 ……………	223	写真図版52	SK67・68、基本層序、作業風景 ……………	249

写真图版53	出土土器 (1)	250	写真图版59	出土土器 (7)	256
写真图版54	出土土器 (2)	251	写真图版60	出土石器 (1)	257
写真图版55	出土土器 (3)	252	写真图版61	出土石器 (2)	258
写真图版56	出土土器 (4)	253	写真图版62	出土石器 (3)	259
写真图版57	出土土器 (5)	254	写真图版63	出土石器 (4)	260
写真图版58	出土土器 (6)	255			

I 調査に至る経過

田ノ端Ⅱ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（待浜～階上）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年4月26日付け国東整陸一調第15号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年5月8日～5月9日に試掘調査を行い、平成25年6月24日付け教生第509号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成29年4月3日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

II 遺跡概要

1 遺跡の位置・立地

田ノ端Ⅱ遺跡は九戸郡洋野町種市第42地割字田ノ端地内に所在しており、角浜駅の南西約1.8kmに位置している。遺跡は青森県との県境、二十一川の右岸に形成された標高87～90mの丘陵上に立地している。丘陵は北東-南西方向に延びており、頂部は先端部へと標高を下げながら形成されている。南東側と南西側には急斜面が存在し、谷地形に挟まれている。この丘陵と谷地形の比高は15m前後である。いずれも谷地形は現時点では埋没している。北側は二十一川の支流によって形成されたものだが、南側については不明である。これらの地形は削平された堆積状況から縄文期には現況と同じような地形であったと思われる。本丘陵は眺望の良い地形であり、西には階上岳、東には太平洋を望むことができる。微地形については第2図に示している。丘陵頂部の地形は上述したとおりだが、南西側の沢筋に沿っても先端部が存在している。よって、先端部は北東・北西方向に形成されている。

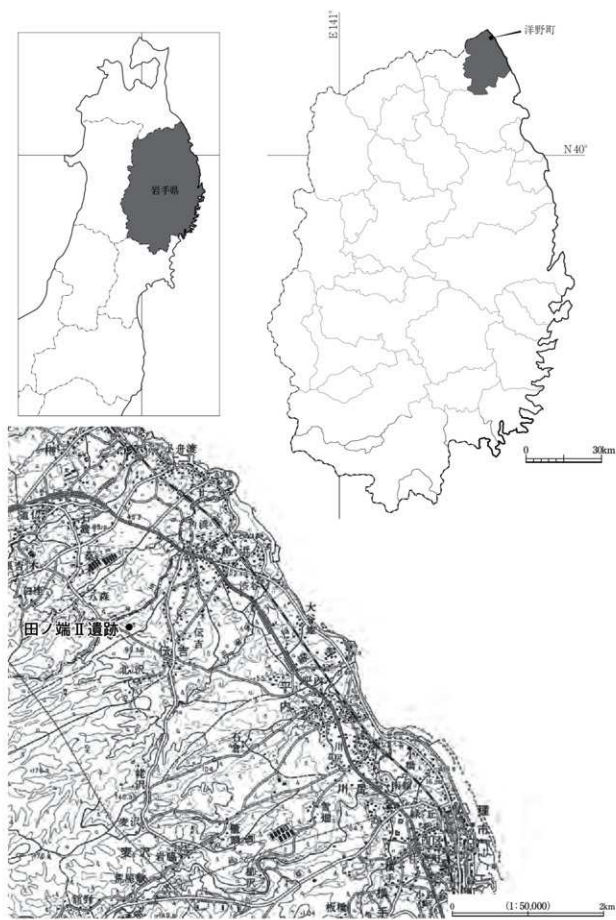
この丘陵は中位段丘・白銀平面（第3図）に地形区分されており、この段丘面上には洋野町、青森県階上町共に多くの遺跡が形成されている（青森県教育委員会2018）。

遺跡は国土地理院発行の1：50,000「階上岳」（NJ-54-14-6）の図幅に含まれ、北緯40度26分05秒、東経141度39分51秒付近にある。

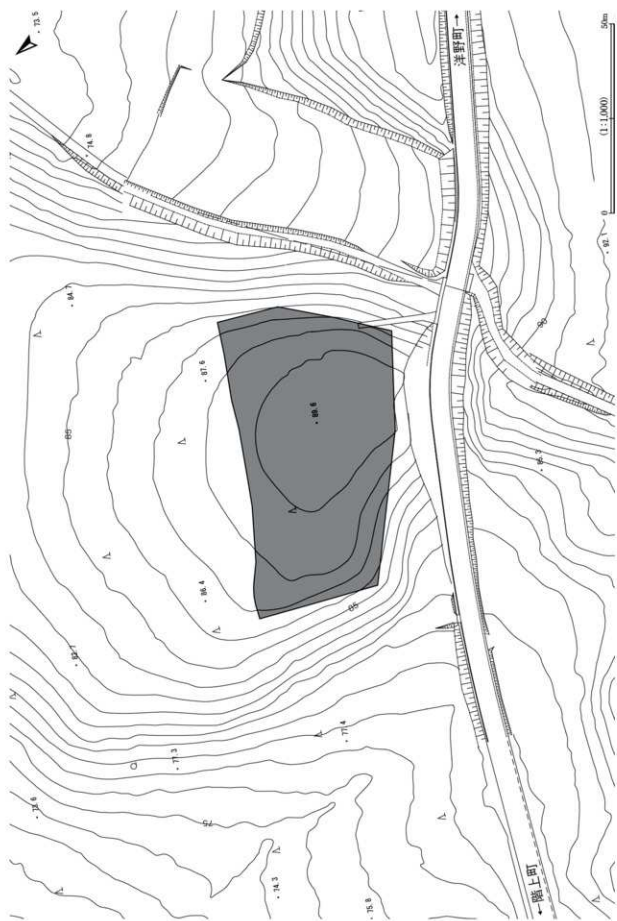
2 歴史的環境

洋野町内には203遺跡（註1）が存在している。ここでは周辺遺跡の分布状況と町内の調査概要を簡単にまとめていく。

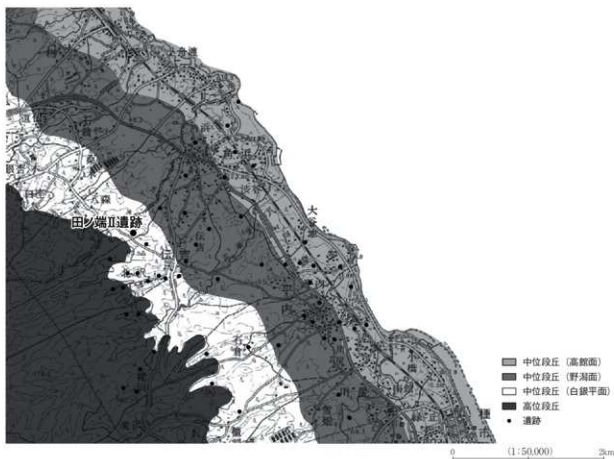
遺跡周辺には、縄文時代を中心に多くの遺跡が確認されており、これらは国道45号の西側の一段高い段丘面上（中位段丘）に分布している。その多くは縄文時代に帰属するものである（第3図）。こ



第1圖 遺跡位置圖



第2図 調査範囲図



第3図 段丘区分

のような分布状況は隣接する青森県階上町も同様である（青森県教育委員会2018）。

町内における本事業に伴う調査は、平成26年以降21遺跡が行われており、図幅に収まる15遺跡を掲載している（第4図）。さらに図の南方、久慈方面においても調査を行っているが、下記の成果と比べると得られた成果は少ない。図示した遺跡の成果は以下のとおりである。

北ノ沢Ⅰ遺跡：縄文時代前期から中期にかけての埋設土器18基、捨て場1箇所が確認されている。これらは円筒下層d式から上層b式期のものである。

西平内Ⅰ遺跡：縄文時代後期初頭から前葉にかけての竪穴住居5棟、掘立柱建物5棟、配石遺構63基、整地層2枚などが確認されている。配石遺構は外帯と内帯の構造をなすものであり、それらは整地層の下に構築されていることが捉えられている。土器は後期の他に早期のものも見受けられる。

南川尻遺跡：縄文時代後期後葉の竪穴住居2棟、溝状の陥し穴状遺構11基などが確認されている。

サンニヤⅡ遺跡：縄文時代後期以前の溝状の陥し穴状遺構20基が検出されている。

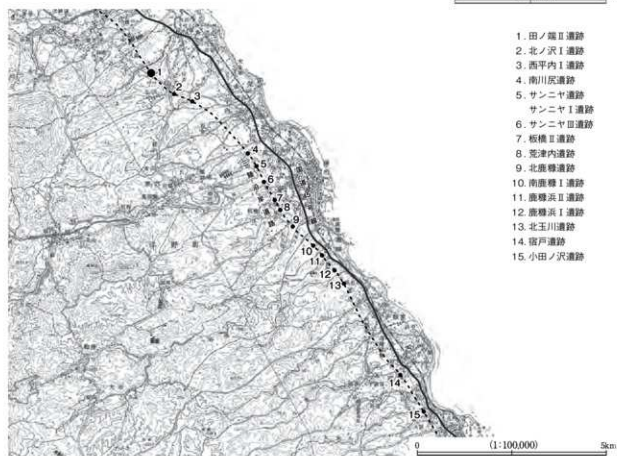
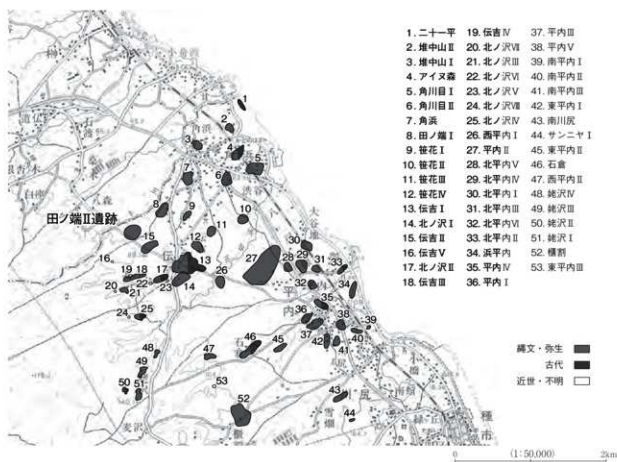
サンニヤⅠ遺跡：縄文時代後期初頭の竪穴住居4棟、溝状の陥し穴状遺構27基などが確認されている。

サンニヤⅢ遺跡：縄文時代の陥し穴状遺構が合わせて100基前後が確認されている。これらの中には前期の円形も含まれるが、多くは溝状である。

板橋Ⅱ遺跡：縄文時代後期前葉の竪穴住居12基、溝状の陥し穴状遺構38基などが確認されている。

荒津内遺跡：縄文時代の溝状の陥し穴状遺構17基やフラスコ状土坑などの土坑22基などが確認されている。前者が後期以前、後者が後期以前に帰属する可能性を示唆している

北鹿糠遺跡：縄文時代の竪穴住居1棟、溝状の陥し穴状遺構16基、土坑11基などが確認されている。



第4図 遺跡分布図

南鹿糠Ⅰ遺跡：縄文時代早期末から前期にかけての竪穴住居12棟、溝状の陥し穴状遺構6基、奈良時代の竪穴住居1棟などが確認されている。

鹿糠浜Ⅱ遺跡：縄文時代後期前葉を中心とした竪穴住居14棟と土坑68基、溝状の陥し穴状遺構7基、奈良時代の竪穴住居1棟などが確認されている。

鹿糠浜Ⅰ遺跡：縄文時代前期の竪穴住居2棟と捨て場2箇所、縄文時代後期の配石遺構、溝状の陥し穴状遺構7基、奈良時代の竪穴住居1棟などが確認されている。

北玉川遺跡：縄文時代後期前葉を中心とした竪穴住居と土坑が確認されている。

宿戸遺跡：縄文時代早期から弥生時代にかけての竪穴住居25棟、土坑67基、陥し穴状遺構22基などが確認されている。

小田ノ沢遺跡：縄文時代前期前葉を中心とした竪穴住居12棟と土坑60基、後期前葉の竪穴住居2棟が確認されている。

このように各遺跡からは早期から晩期にかけての成果が得られているが、中でも縄文時代前期と後期の成果が中心となる。この成果からは町内において前期と後期の立地が概ね共通していることが窺える。以下では縄文時代に限ってまとめていく。

早期：中葉以降、宿戸で出現しており、その後には複数の遺跡が形成されている。本遺跡や宿戸、南鹿糠Ⅰで集落を確認できた以外には、西平内ⅠやサンニヤⅢなどで土器を僅かに確認できた程度である。町内において中葉以降、断続的に生産活動が認められる。

前期：初頭以降、大小の規模にかかわらず、宿戸、小田ノ沢、南鹿糠Ⅰ、鹿糠浜Ⅰなどで集落が形成されている。また、当該期には円形の陥し穴状遺構も形成されている。当該期になると中位段丘上において多くの遺跡で活動が見られるようになる。

中期：竪穴住居の確認は宿戸、上のマッカ（図幅外）に留まる。また、前期末から中期前葉にかけて北ノ沢Ⅰで捨て場が確認されている。この他に、溝状の陥し穴状遺構が多くの遺跡において確認されており、これらは当該期から後期に形成されたものと考えられる。集落は一段低い段丘面に形成される傾向にあるため、一連の調査からは把握できなかったものと思われる。また、調査された遺跡が立地する中位段丘は狩猟場として機能していたと考えられる。

後期：初頭から前葉を中心に大小の規模にかかわらず、サンニヤⅢ、板橋Ⅱ、鹿糠浜Ⅱなど多くの遺跡で、集落が形成されている。稀に南川尻のように後葉に集落を形成する事例もある。また、配石遺構が西平内Ⅰと鹿糠浜Ⅰで検出されていることから、当該地域は祭祀的要素が強い地域であったことが想定される。当該期は中葉以降減少傾向にあるものの、前期と同様、中位段丘上に立地する多くの遺跡で生産活動が見られるようになる。前葉の年代観については西平内Ⅰ、鹿糠浜Ⅱなどは年代測定結果により同時期の年代値が得られている。

晩期：早期以降、遺跡数は最も少なく宿戸でのみ確認されており、生産活動はほぼ見られなくなる。これについては中期と異なり立地による地理的要因だけの問題ではなく、町内において共通した様相である。

また、本事業に限ってみていくと、青森県圃（青森県教育委員会2018）と比べるとその分布密度は低いことが窺える。これについては地理的・環境的な要因から生じた差によるものと思われるが、詳細については判然としない。このような遺跡形成過程の要因については今後の検討課題として挙げておきたい。

註1：岩手県遺跡情報検索システムによる。

註2：参考文献については能括にまとめて掲載している。

Ⅲ 野外調査・室内調査

1 野 外 調 査

調査区は、グリッド配置図（第5図）に示したように大グリッドは西から東に向かってA～D、北から南に向かってⅠ～Ⅳと設定した。大グリッドは1辺が25m、小グリッドは各辺を5等分して1辺が5mとなるように組み、小グリッドの北西隅を1、南東隅を25と付している。各グリッドは北西隅の杭名称による。

野外調査は、任意にトレンチを複数箇所を設定して、遺構検出面の確認を行った後、重機で検出面まで掘り下げている。遺構の確認は鋤鏝と両刃鎌を用いプランを把握し、検出遺構は堅穴住居が四分法、土坑が二分法を用いて精査を行っている。また包含層は人力にて掘り下げを行っている。遺構の記録は台帳や野帳に記録している。

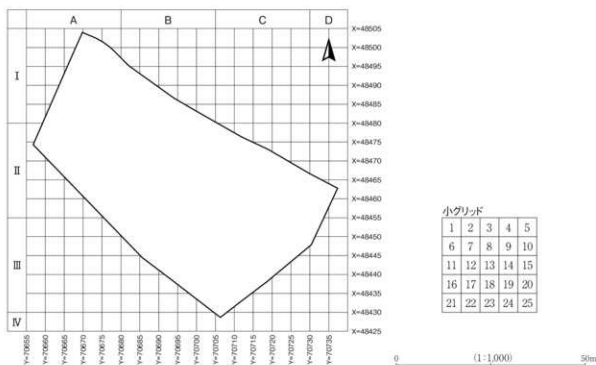
実測は、平面が「遺構くん」（CUBIC製）、断面がデジタルカメラ（株）リッケイを併用して図化している。

写真撮影は一眼レフデジタルカメラ（CanonEOS6D）、中判カメラ6×4.5cm（マミヤ）を用いている。

調査は平成29・30年度に渡って行われており、その経過は以下の通りである。

平成29年度：10月16日器材搬入、現場設営、試掘開始。18日：基準点打設。24日：重機による表土掘削開始。11月1日：土坑と陥し穴状遺構の精査開始。11月7日：堅穴住居の精査開始。12月13日：終了確認。12月15日器材搬出、現場撤収。

平成30年度：4月4日器材搬入。5日：現場設営。10日：堅穴住居の精査開始。6月19日終了確認。6月22日器材搬出、現場撤収。



第5図 グリッド配置図

2 室内調査

室内整理は、平成29・30年度に行っており、作業工程と掲載基準は以下のとおりである。

出土遺物は注記・接合復元を行った後、掲載遺物を登録している。

遺構図版作成は、野外調査で取得した断面図及び平面図のデータを、委託業務（(株)リッケイ）において合成・編集作業を行い、図版を作成している。複数回の校正を重ねた後、版下への工程を経ている。

遺構・遺物写真図版は共に、デジタルカメラで撮影したものをそのまま入校している。

遺物実測は、土器・土製品が1/2～1/4、石器が2/3・1/2～1/4で掲載している。図化については、土器・石器共にPEAKIT（(株) ラング）を用いて作成している

3 凡 例

凡例については下記のとおりである。

各遺構の略号は、堅穴住居：SI、土坑：SK、陥し穴状遺構：SKT、柱穴：Pを付している。

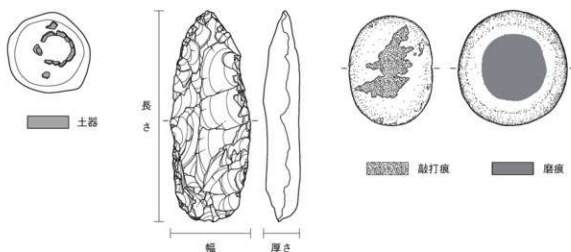
遺構名は報告書作成時に変更している。ただし、遺物注記などの修正は行っていない。変更した名称は以下のとおりである（新遺構名（旧遺構名））。

THII-17：SI04（SX15）、SI05（SX16）、SI39（SX01）、SI40（SX02）、SI41（SX03）、SI42（SX04）、SI43（SX05）、SI44（SX06）、SI45（SX07）、SI46（SX08）、SI47（SX09）、SI48（SX10）、SI49（SX11）、SI50（SX12）、SI51（SX13）SI52（SX14）

THII-18：SI53（SX15）、SI54（SX16）、SI55（SX17）、SI56（SX18）、SI57（SX19）

頂部及び南西向き斜面において検出面付近のⅢ層及びⅣ層から出土した遺物については、トレンチ及びグリッドを組んだ上で取り上げており、室内整理時に各遺構へと帰属させる作業を行っている。その結果、遺構を特定できず、複数の遺構を跨がるような出土位置を提示したものも存在している。

遺構平面図に用いられた土器及び、石器実測図に用いられている敲打痕と磨痕はトーンで示しており、以下のとおりである。



第6図 凡例

IV 分類基準

出土した遺物には縄文時代の土器と石器が認められている。土器は時期ごと、石器は器種ごとに分類基準を採用している。

1 縄文土器

土器分類は以下の項目を採用している。早期中葉～前期前葉の土器群の分類については系統的に解釈するため、前期前葉の土器群が確認できた『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』に準じているが、細分項目を一部改変している。

早期中葉～前期前葉：該当する土器群は早期中葉から後葉にかけての土器が主体をなすものの前期前葉までが確認されている。その様相は判然としないことから、下記のように口縁部文様帯で各群に分け、さらに胴部文様で細分している。

I群：押しじ線文の一群。地文は斜行縄文を施文する。

II群：結節回転文の一群。地文の施文により細分している。

a：斜行縄文を施文するもの。

b：捻糸文（単軸絡糸体第1類）を施文するもの。

c：直前段合燃などの特殊縄文を施文するもの。

III群：羽状縄文の一群。口縁から底部まで結束もしくは非結束の羽状縄文を施文するものであり、それらを細分している。

a：結束羽状縄文を施文するもの。

b：非結束羽状縄文を施文するもの。

IV群：縄文が施文されている一群。地文の施文により細分している。

a：斜行縄文を施文するもの。

b：附加条や直前段合燃などの特殊縄文を施文するもの。

V群：捻糸文（単軸絡糸体第1類）の一群。地文の施文により細分している。

a：捻糸文以外に側面圧痕を施文するもの。

b：捻糸文のみを施文するもの。

VI群：文様帯が不明の一群。

後期前葉：十腰内I式より古い土器群に相当するものと思われる（榎本2008）。平行沈線に、斜行縄文が施文されている。

2 縄文石器

石鏃：扁平で左右対称となり、先端部を形成するもの。平面及び基部形状で分類している。

I類：平面形状が柳葉形であり、尖頭部と基部の境が不明瞭なもので、所謂「尖基鏃」である。

II類：基部が平坦であり、尖頭部と基部の境が存在しないもので、所謂「平基無茎鏃」である。

尖頭器：平面形状は柳葉形に近い形状をしており、長軸が5cm以上の扁平縦長で鋭い先端部を形成するもの。

石鏡：器体中軸線で左右対称となり、平面形状が撥形・長方形を呈し、一端ないし両端に刃部を形成するもの。

石匙：基部に抉りを入れて掴み部を作出し、二次加工により片側ないし両側縁に刃部を形成するもの。掴み部の中軸線に対する刃部の位置により3分類している。

I類：刃部を縦位に形成するもの。

II類：刃部を斜位に形成するもの。

III類：刃部を横位に形成するもの。

不定形石器：剥片の側縁に対して二次加工により刃部を形成するもの。刃部形状により4分類している。

I類：「V」字もしくは「U」字状に形成するもの。

II類：「ノ」字状に形成するもの。

III類：1側縁に形成するもの。

IV類：刃部形状が不明なもの。

剥片：石核から剥離されたものであり、ここでは規模を問わず全てを対象としている。

礫器：二次加工によって礫の縁辺に刃部を作出するもの。

磨製石斧：敲打・剥離により整形され、研磨が施された後に仕上げられたものである。完成品へと至る製作工程は以下の5段階に分けられ、本文及び観察表には各段階を（○段階）で示している。

1段階：剥離整形。片面もしくは両面に対して剥離を行う。

2段階：剥離・敲打整形。剥離された面及び自然面に対して剥離を行う。

3段階：敲打整形。敲打による整形が行われ、それによって覆われている。

4段階：敲打・研磨整形。敲打された面及び自然面に研磨が施されている。

5段階：完成品。

ただし、近年の調査成果（（公財）岩手県文化振興事業団2018、2019）からは、片面に自然面を残したまま、研磨段階へと移行する資料も確認できたため、それらも上記の段階に含めている。

敲磨器：敲打痕や磨痕が認められたもの。

I a類：側面に敲打痕を形成するもの。

I b類：端部に敲打痕を形成するもの。

I c類：平坦面に敲打痕を形成するもの。

I d類：a～c類で構成されているもの。この中には多面体形状のものも含む。

II a類：平坦面に磨痕を形成するもの。

II b類：側面に磨痕を形成するもの。

II c類：a・b類で構成されているもの。

III類：I類とII類で構成されているもの。

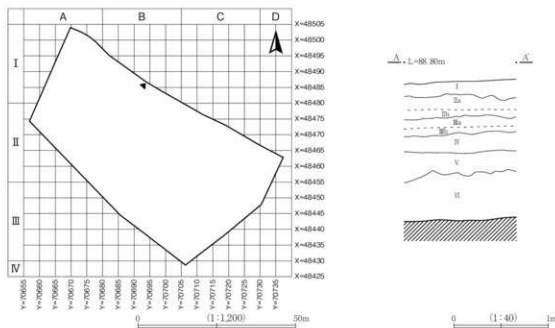
礫片：磨製石斧や礫器、敲磨器類などから剥離された剥片を対象としている。

原石：丘陵の基盤となる花崗岩以外の本来丘陵上に存在しない加工されず、剥片剥離が施されていないものである。

V 基本層序

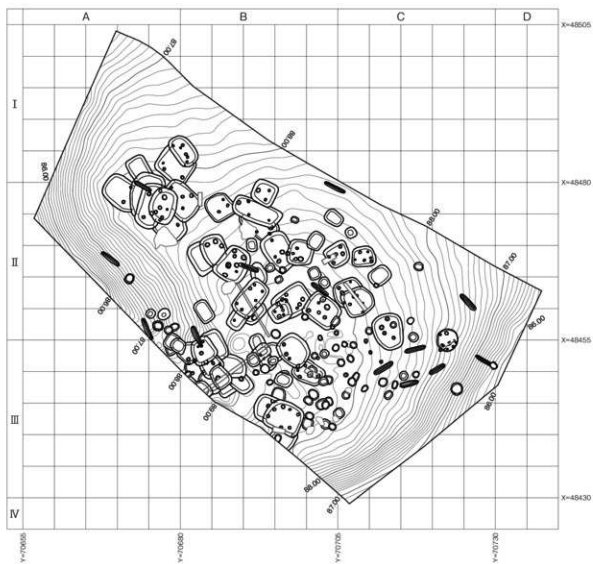
丘陵頂部のI B18グリッド付近で層序を確認している。以下の層位は洋野町内において概ね基本的に観察される堆積である。Ⅱ層とⅢ層の細分については早田氏（(株)火山灰考古学研究所）との現地での作業を通じて確認できたものである。火山灰同定により様々なテフラ、軽石が検出されており、成果を以下にまとめている。その詳細はⅦ章2節に掲載している。ただし、報告書中の土層注記にはⅡ層相当、Ⅲ層相当との表記があるが、それらは区分せず一括して扱っている。

- I 層**：黒褐色土（10YR3/2）粘性弱く、しまりやや弱い。表土。層厚20cm。生物の擾乱を受けている。
- Ⅱ a 層**：黒色土（10YR2/1）粘性やや弱い、しまりやや強い。層厚30cm。縄文時代後期の遺物包含層。十和田 a テフラを確認している。
- b 層**：黒褐色土（10YR3/1）粘性やや弱い、しまりやや強い。層厚5cm。
- Ⅲ a 層**：暗褐色土（10YR3/4）粘性やや弱い、しまり強い。層厚10cm。縄文時代早期から前期にかけての遺物包含層。十和田中振テフラを確認している。
- b 層**：黒褐色土（10YR3/2）粘性やや弱い、しまりやや強い。層厚10cm。縄文時代早期から前期にかけての遺物包含層。十和田小国軽石を確認している。
- Ⅳ 層**：暗褐色～にぶい黄褐色土（10YR3/3～10YR4/3）。粘性やや強い、しまりやや強い。遺構検出。十和田南部軽石を確認している。
- V 層**：褐色土（10YR4/4）粘性強い、しまり強い。粘土。十和田八戸テフラを含む。
- Ⅵ 層**：にぶい黄褐色土（10YR5/4）粘性強い、しまり強い。以下、十和田八戸テフラが堆積している。

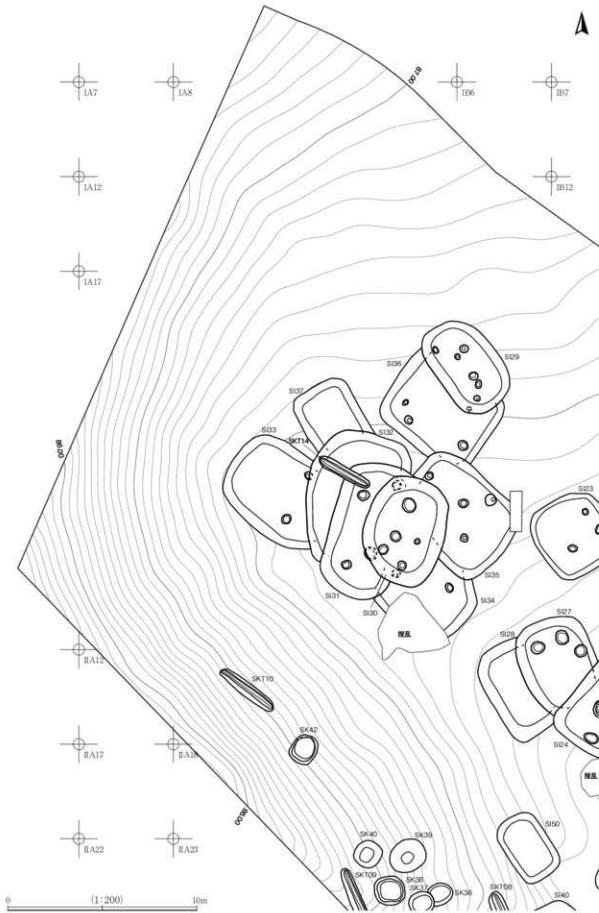


第7図 基本層序

遺構	土層		土製品	石器																				
	点数	重量 (g)		石鏃	尖頭鏃	石鏃	石靴	不定形石鏃	刮片	磨製石片	1a	1b	1c	1d	2a	2b	2c	2d	石錐	礫石	不明	原石		
SK01																								
SK02	3	36.16						3																
SK03	1	23.84																			1			
SK04																								
SK05								1																
SK06																								
SK07																								
SK08																								
SK09																								
SK10																								
SK11	10	52.02																			1			
SK12																								
SK13	1	2.87																						
SK14																								
SK15	1	36.35																						
SK16																								
SK17																								
SK18																								
SK19	12	154.96		1				1		1														
SK20																								
SK21	1	3.66																						
SK22	4	46.03																						
SK23																								
SK24																								
SK25																								
SK26																								
SK27																								
SK28																								
SK29																								
SK30	2	30.62																						
SK31	1	6.22				1																		
SK32																								
SK33	1	9.99																						
SK34	1	18.81						1		1														
SK35	1	77.94																			1			
SK36																								
SK37																								
SK38	60	805.21															1						1	
SK39																								
SK40																								
SK41	6	78.65																				1		
SK42																								
SK43	2	21.25																				1		
SK44	1	36.73									1	1										1		
SK45	9	87.53																						
SK46	2	124.1																						
SK47	1	11									1										1		3	
SK48																								
SK49	1	11.9																						
SK50																								
SK51																								
SK52																								
SK53																								
SK54																								
SK55																								
SK56																								
SK57	1	5.6																						
SK58																								
SK59	2	81.8																						
SK60																						1		
SK61	2	14.5																						
SK62																								
SK63																								
SK64																								
SK65																								
SK66																								
SK67																								
SK68	82	963.81																						
SK68-80	197	2628.9				1					1	1	1								2			
SK701	1	45.76						1																
SK702	20	291.35			1			2	2			1												
SK703	46	756.72						2	2			1											1	
SK704																								
SK705	4	181.31							1															
SK706	2	38.17																						
SK707	16	86.4						2	2			1										1		
SK708	3	40.83																					1	
SK709																	1						1	
SK710	2	21.91																						
SK711																								
SK712	1	12.1																						
SK713																								
SK714	2	29.6																						
I	485	4893.93	1	3	1	2	6	31	4	2	8	2	3	4	4	1					11	1	36	
II		672.53						1				1											8	
III	952	15308.16	1	2		1	4	12	51	1	4	14	6	3	10	9	1	3			3	28	1	63
IV										1	1											1		2
V	148	1939.51						3	2	1							1					2		2
合計	3088	33227.74	2	13	3	2	13	48	188	13	16	48	13	14	18	15	1	9	2	4	99	7	143	



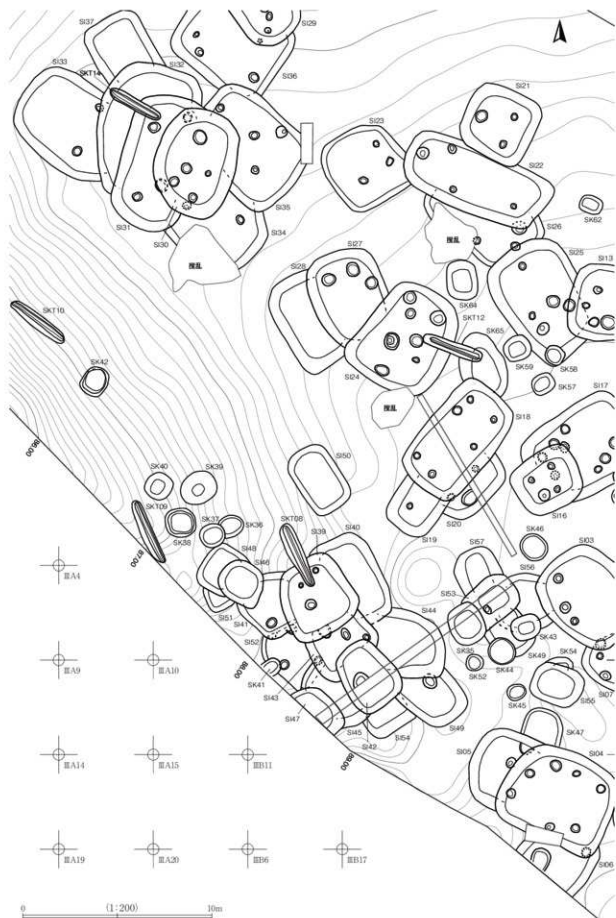
第8図 遺構配置図



第9図 遺構配置分割図(1)



第10図 遺構配置分割図(2)



第11図 遺構配置分割図(3)

2 検出された遺構・遺物

SI01 (第14図 写真図版5)

[位置・検出層位] II C24、III C4グリッドに位置しており、標高87.9～88.1mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。周辺には当該期のフラスコ状土坑(SK11)など複数基が確認されているが、竪穴住居は本遺構のみである。

[重複遺構] SKT07と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形基調である。規模は長軸3.56m、短軸3.35m、検出面からの深さは14cmである。

[壁・床面] 壁は緩やかに外傾して立ち上がり、全周する。壁高は5～10cmである。床面は斜面に平行して傾斜しているものの、概ね平坦である。

[堆積土] 黒色・黒褐色土からなる。上面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1～6は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は27～58cm、床面からの深さは13～27cmである。

[出土遺物] 土器11点、石器2点が堆積土中から出土している。本遺構に帰属する遺物は認められず、いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属するものである。

1はIV a群である。この他にも掲載遺物と同群のものが認められたが、小片のため図化していない。石器は剥片である。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層と重複関係から判断している。

SI02 (第15図 写真図版5・6)

[位置・検出層位] II C22・23、III C2・3グリッドに位置しており、標高88.6～88.9mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の南東端にあり、SI08などが隣接している。

[重複遺構] SK16と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸5.77m、短軸4.79m、検出面からの深さは49cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は36～50cmである。床面は若干の傾斜が認められるものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色・褐色土を主体に33層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する柱穴5個(P1～5)を確認している。炉は検出していない。

P1～5は床面中央から北東壁側に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は50～102cm、床面からの深さは17～47cmである。

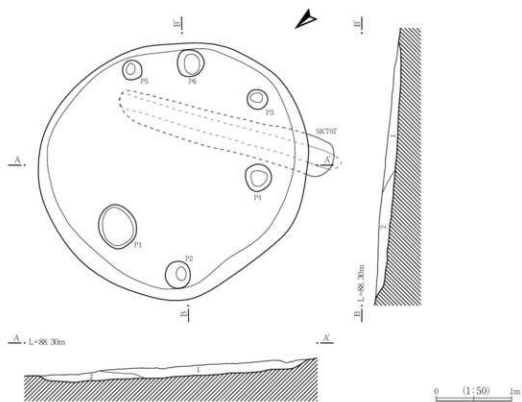
[出土遺物] 石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

石器は剥片である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 本遺構の斜面下方に形成されているSK22、SKT02・03などからは、当該期の遺物が出土しており、それらは位置関係から本遺構に帰属する可能性がある。

SIO1



1. 黒色土(10YR2-1) 黏性少、しまりや中強い、呈層粗乱。
 2. 黒褐色土(10YR2-2) 黏性やや弱い、しまりや中強い、呈層ブロックを少量含む。

SIO1	地層土	層厚 (cm)
P1	黒褐色土	56-69 - 13
P2	黒褐色土	35-33 - 23
P3	黒褐色土	25-27 - 17
P4	黒褐色土	26-34 - 19
P5	黒褐色土	27-26 - 26
P6	黒褐色土	32-35 - 27

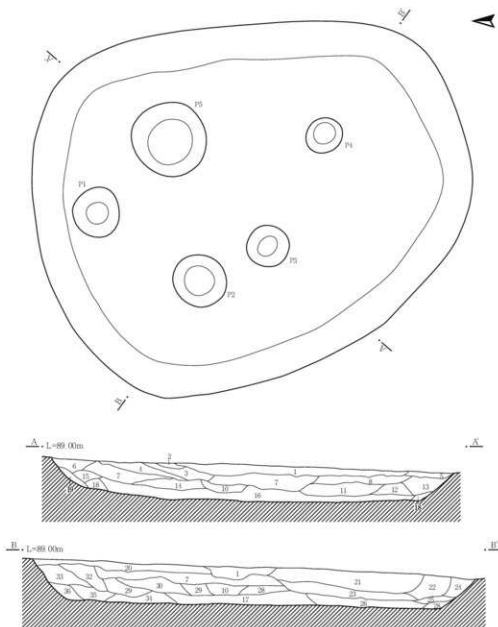


0 (1:3) 10cm

第14図 SIO1、出土遺物

2 検出された遺構・遺物

SI02



- | | | | |
|----------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 1. 明褐色土(10YR3/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い、
厚層相。 | 20. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 2. 明褐色土(10YR3/4) | 粘性やや強い、しまりやや強い、
厚層相。 | 21. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中、しまりやや強い、
草層アワツチを少量含む。 |
| 3. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 | 22. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 4. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中、しまりやや強い。 | 23. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 5. 黒色土(10Y2/1) | 粘性弱、しまりやや強い。 | 24. 黒褐色土(10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 6. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中、しまりやや強い。 | 25. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 7. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 26. ヤブイロ褐色土(2.5Y4/3) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 8. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 27. — | — |
| 9. — | — | 28. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 10. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 | 29. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 11. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 | 30. 褐色土(10YR4/1) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 12. じい・黄褐色土(10YR4/3) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 31. — | — |
| 13. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 32. 黒褐色土(2.5Y3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 14. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 33. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 15. 褐色土(10YR4/1) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 34. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 16. 褐色土(10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い、
厚層相。 | 35. 黒褐色土(2.5Y3/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 17. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 | 36. 褐色土(10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 18. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性、しまり共にやや強い。 | | |
| 19. じい・黄褐色土(10YR4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 | | |

SI02	層相土	範囲 (cm)
P1	じい・黄褐色土	42~61・47
P2	じい・黄褐色土	73~68・17
P3	じい・黄褐色土	33~55・21
P4	じい・黄褐色土	30~45・19
P5	じい・黄褐色土	322~96・23

0 (1:50) 1m

第15図 SI02

SI03 (第16図 写真図版6)

【位置・検出層位】ⅡB24、ⅢB4・5グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南西側にあり、SI04・11・16などが隣接している。また、南東方向には土坑群が認められる。

【重複遺構】SI07とSI56と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸5.31m、短軸4.49m、検出面からの深さは51cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は42～48cmである。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色・灰黄褐色土を主体に27層からなる。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

柱穴は南壁際に配置しており、配列からは主柱穴の可能性はある。しかしながら、他の位置に柱穴を確認できないため判然としない。規模は41～60cm、床面からの深さは23～32cmである。

【出土遺物】石器2点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

石器は剥片である。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】本遺構の西側、斜面下方に位置する竪穴住居(SI39～52)の堆積土上面からは多くの遺物が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

SI04 (第17・18・19図 写真図版7)

【位置・検出層位】ⅢB9・13・14グリッドに位置しており、標高89.1～89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南西端に形成されており、SI03・07などが隣接している。また、南東方向には土坑群が認められる。

【重複遺構】SI05・06、SK47と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI05とSI06より5cm前後低いことを確認している。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形である。規模は長軸5.96m、短軸4.83m、検出面からの深さは61cmである。

【壁・床面】壁はトレンチで削平されている南壁の一部以外は確認している。それらは外傾して立ち上がり、全周する。壁高は50～60cmである。床面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に78層からなる。大量のブロック状の塊が流入しながら堆積しており、人為堆積のような様相が認められる。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴7個(P1～7)を確認している。炉は検出していない。

P1～6は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状はばらつきが認められる。規模は43～61cm、床面からの深さは17～39cmである。

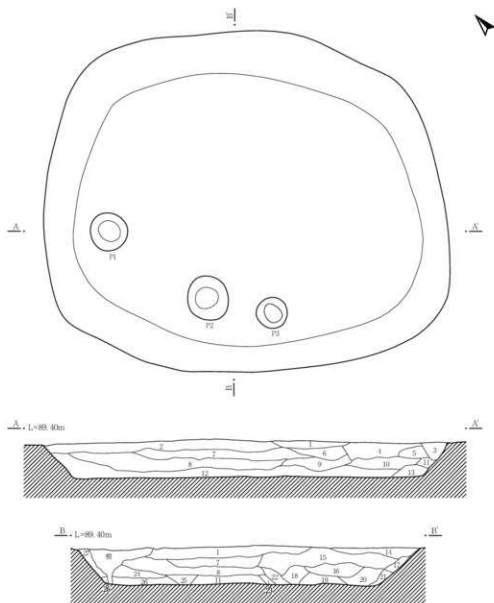
【出土遺物】石器194点、石器27点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

2はI群、3・4はIIa群、5はIIIa群、6はIIIb群、7・8・11・12はIVa群、9・10はIVb群である。これらの他は概ねIVa群が主体であるが、掲載遺物と同群のものも認められている。ただし、それらは小片のため図化していない。

13は石匙、14は敲磨器Ib類、15は不明石器に分類したが、穿孔を伴う砥石と想定している。この他には不定形石器や剥片などが認められる。

2 検出された遺構・遺物

SI03



- | | | | |
|-----------------------|----------------------|-----------------------|---------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 15. 黒褐色土 (10YR4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR2/3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 16. じいい黄褐色土 (10YR5/3) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 3. 黒風土 (10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 | 17. 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 4. 黒褐色土 (2.5Y4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 | 18. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 5. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 | 19. 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 6. 黒風土 (10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 | 20. オリーブ褐色土 (2.5Y4/4) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 7. 黒褐色土 (10YR2/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 | 21. じいい黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 8. 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘性中、しまり強い。 | 22. 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 9. 黒風土 (10YR4/4) | 粘性中、しまり強い。 | 23. 暗灰黄褐色土 (2.5Y4/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 10. 黒褐色土 (2.5Y5/3) | 粘性中、しまり強い。 | 24. 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 11. 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘性ややしまり強い、砂-土壌層。 | 25. 黒風土 (10YR4/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 12. 灰黄褐色土 (10YR5/2) | 粘性中、しまりやや強い、厚層の二次堆積。 | 26. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 13. じいい黄褐色土 (10YR5/4) | 粘性中、しまりやや強い、厚層の二次堆積。 | 27. 黒風土 (10YR4/1) | 粘性やや弱い、しまり強い。 |
| 14. 黒風土 (10YR3/2) | 粘性やや弱い、しまり中。 | | |

SI03	遺構土	層厚 (cm)
P1	(1.2) じいい黄褐色土	300-09-32
P2	(1.2) じいい黄褐色土	400-54-25
P3	(1.2) じいい黄褐色土	44-11-23

0 (1:50) 1m

第16図 SI03

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕本遺構の北側の斜面下方に位置する竪穴住居(SI39～52)の堆積土上面からは多くの遺物が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

SI05 (第17・18・19図 写真図版7)

〔位置・検出層位〕ⅢB 8・9・13グリッドに位置しており、標高89.0～89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の南西端にあり、SI03・07などが隣接している。また、南東方向には土坑群が認められる。

〔重複遺構〕SI04、SK47と重複しており、SI04より古く、SK47より新しい。トレンチを入れ切り重い関係を把握した結果、床面がSI04より5cm前後高いことを確認している。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸4.30m、短軸2.09m、検出面からの深さは56cmである。

〔壁・床面〕残存する西壁側は外傾して立ち上がる。壁高は50cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・暗褐色土を主体に24層からなる。SI04同様、大量のブロック状の塊が流入しながら堆積しており、人為堆積のような様相が認められる。

〔竪・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴2個(P1・2)を確認している。竪は検出していない。

P2は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は57・77cm、床面からの深さは19・53cmである。

〔出土遺物〕土器6点、石器10点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

16はⅡa群である。この他にはV群などが認められたが、小片のため図化していない。

17は尖頭器、18は石匙Ⅲ類、19は敲磨器Ⅰb類である。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕本遺構の北側の斜面下方に位置する竪穴住居(SI39～52)の堆積土上面からは多くの遺物が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

SI06 (第20図 写真図版8)

〔位置・検出層位〕ⅢB 14・18・19グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の南西端にあり、SI03・07などが隣接している。また、南東方向には土坑群が認められる。

〔重複遺構〕SI04と重複しており、本遺構が古い。SI04の壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。また、床面がSI04より5cm前後高いことを確認している。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は不整形である。規模は長軸3.93m、短軸0.98～2.99m、検出面からの深さは55cmである。

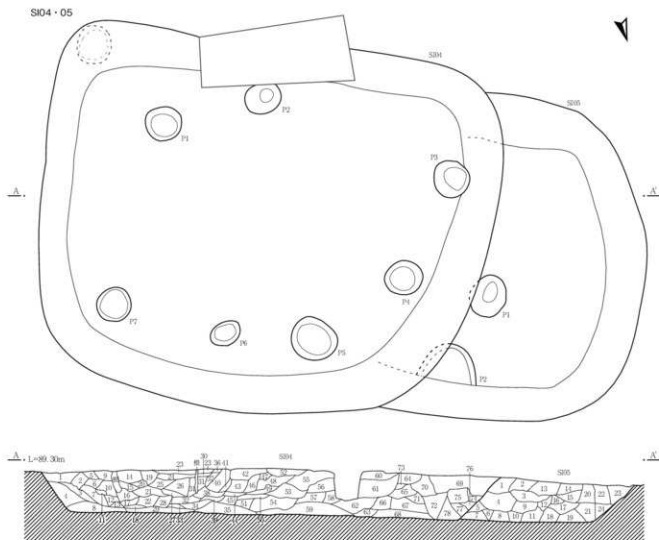
〔壁・床面〕残存する東西の壁は外傾して立ち上がる。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・暗褐色土を主体に26層からなる。SI04同様、大量のブロック状の塊が流入しながら堆積しており、人為堆積のような様相が認められる。

〔竪・土坑・柱穴〕住居に帰属する土坑1基(SK01)と柱穴1個(P1)を確認している。竪は検出していない。

SK01は確認できた平面形が隅丸方形基調である。規模が97×80cm、床面からの深さが14cmである。

2 検出された遺構・遺物



S104	
1. 暗褐色土・10YR3/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
2. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
3. 紅褐色土・10YR5/4	粘性・しまり共に中～強い、V層層構造。
4. 褐色土・10YR4/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
5. 暗褐色土・10YR3/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
6. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
7. 紅褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
8. 赤土・10YR4/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
9. 紅褐色土・10YR5/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
10. 紅褐色土・10YR4/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
11. 黒褐色土・10YR3/2	粘性中、しまり中～強い。
12. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
13. 明褐色土・10YR6/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
14. 暗褐色土・10YR3/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
15. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
16. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
17. 黒褐色土・10YR3/2	粘性中、しまり中～強い。
18. 褐色土・10YR4/1	粘性中、しまり中～強い。
19. 黒褐色土・10YR3/1	粘性中～強い、しまり中～強い。
20. 暗褐色土・10YR3/1	粘性中、しまり中～強い。
21. 黒褐色土・10YR3/1	粘性中～強い、しまり中～強い。
22. 黒褐色土・10YR3/1	粘性中、しまり中～強い。
23. 紅褐色土・10YR5/4	粘性中、しまり中～強い。
24. 褐色土・10YR4/4	粘性・しまり共に中～強い。
25. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
26. 紅褐色土・10YR5/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
27. 赤土・10YR4/4	粘性・しまり共に強い。
28. 紅褐色土・10YR5/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
29. 赤土・10YR4/4	粘性中、しまり中～強い。
30. 暗褐色土・10YR4/1	粘性中～強い、しまり中～強い。
31. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
32. 暗褐色土・10YR3/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
33. 暗赤土・10YR3/3	粘性中、しまり共に中～強い。
34. 暗赤土・10YR3/3	粘性中、しまり共に中～強い。
35. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性・しまり共に中～強い。
36. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
37. 暗褐色土・10YR4/1	粘性中、しまり中～強い。
38. 暗褐色土・10YR3/3	粘性中、しまり中～強い。
39. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性・しまり共に中～強い。
40. 紅褐色土・10YR4/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
41. 黒褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
42. 紅褐色土・10YR4/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
43. 暗褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
44. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
45. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
46. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
47. 暗褐色土・10YR4/1	粘性中、しまり中～強い。
48. 暗褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
49. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
50. 黒褐色土・10YR3/1	粘性中、しまり中～強い。
51. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
52. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
53. 黒褐色土・10YR3/1	粘性中～強い、しまり中～強い。
54. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中、しまり中～強い。
55. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
56. 黒褐色土・10YR2/1	粘性中～強い、しまり中～強い。
57. 黒褐色土・10YR3/1	粘性中、しまり中～強い。
58. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
59. 紅褐色土・10YR5/4	粘性・しまり共に中～強い。
60. 黒褐色土・10YR2/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
61. 黒褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
62. 暗褐色土・10YR4/1	粘性中、しまり中～強い。
63. 暗赤黄色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
64. 暗褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い、層層構造。
65. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
66. 赤土・10YR4/4	粘性中、しまり中～強い。
67. 暗赤土・10YR3/3	粘性・しまり共に中～強い。
68. 紅褐色土・10YR5/4	粘性中～強い、しまり中～強い。
69. 紅褐色土・10YR4/3	粘性中、しまり中～強い。
70. 紅褐色土・10YR5/3	粘性中、しまり中～強い。
71. 暗褐色土・10YR4/1	粘性中、しまり中～強い。
72. 赤黄褐色土・10YR4/2	粘性中、しまり中～強い。
73. 暗褐色土・10YR4/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
74. 黒褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
75. 赤土・10YR4/4	粘性中、しまり中～強い。
76. 暗褐色土・10YR3/2	粘性中～強い、しまり中～強い。
77. 暗褐色土・10YR3/3	粘性中～強い、しまり中～強い。
78. 赤土・10YR4/4	粘性中、しまり中～強い。

第17図 SI04・05

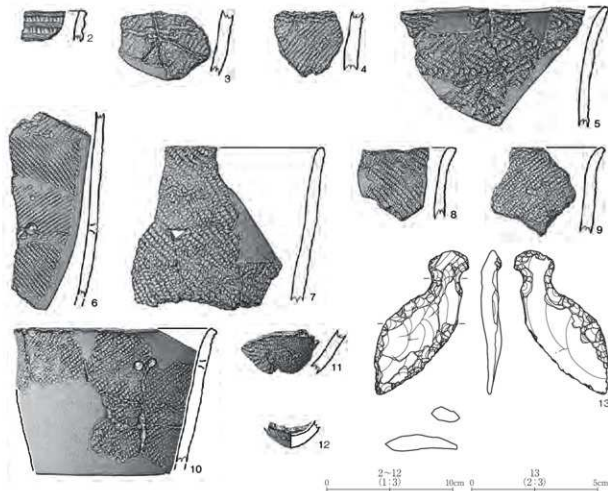
S103

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。
4. 暗リレー層褐色土(2.5Y3/3) 粘性中、しまり中～強い。
5. 黒褐色土(10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
6. リレー層褐色土(2.5Y4/3) 粘性、しまり強に～中～強い。
7. じさい黄褐色土(10YR4/2) 粘性、しまり強に～中～強い。
8. 暗リレー層褐色土(2.5Y3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い。
9. リレー層褐色土(2.5Y4/3) 粘性中～強い、しまり中～強い。
10. じさい黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
11. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
12. じさい黄褐色土(10YR5/4) 粘性中～強い、しまり中～強い。
13. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
14. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
15. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
16. 黒褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い。
17. 黒褐色土(10YR3/4) 粘性中～強い、しまり中～強い。
18. じさい黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
19. 黒褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中。
20. 黒褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い。
21. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
22. 黒褐色土(10YR3/4) 粘性中～強い、しまり中～強い。
23. 黒褐色土(10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
24. リレー層褐色土(2.5Y4/3) 粘性、しまり強に～中～強い。

S103	層様土	層厚 (cm)
P1	じさい黄褐色土	32×17・27
P2	じさい黄褐色土	30×12・17
P3	じさい黄褐色土	33×18・30
P4	じさい黄褐色土	32×17・17
P5	じさい黄褐色土	40×27・19
P6	じさい黄褐色土	32×11・18
P7	じさい黄褐色土	37×17・17

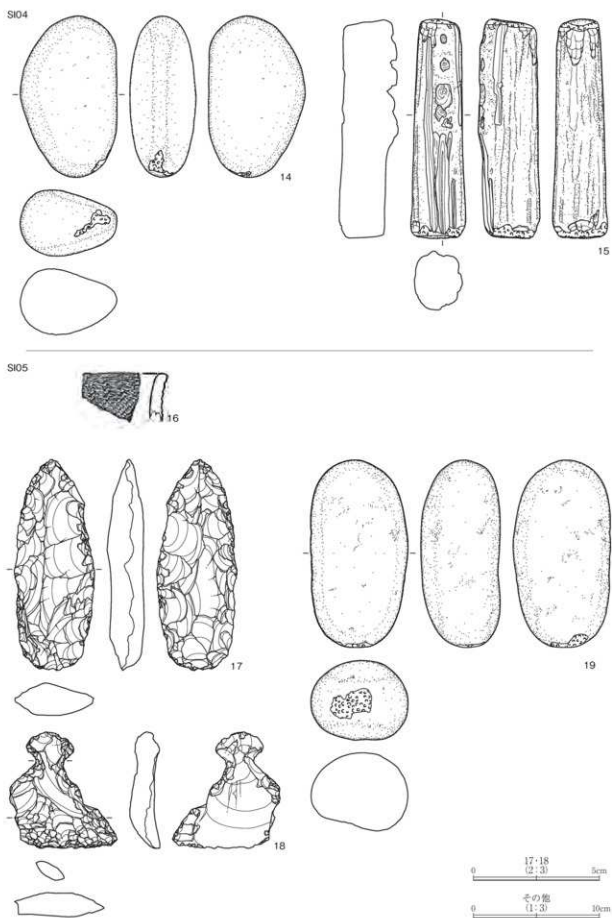
S105	層様土	層厚 (cm)
P1	灰黄褐色土	32×19・33
P2	じさい黄褐色土	77×19・19

S104



第18図 S105土層注記、S104出土遺物(1)

2 検出された遺構・遺物



第19図 SI04出土遺物（2）、SI05出土遺物

SI07 (第21図 写真図版8・9)

〔位置・検出層位〕ⅢB4・5・9・10グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南西側にあり、SI04・16などが隣接している。また、南東方向には土坑群が認められる。

〔重複遺構〕SI03、SK07・08・10と重複しており、本遺構が古い。SI03の壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。また、床面がSI03より僅かに低いことを確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸4.81m、短軸3.65m、検出面からの深さは31cmである。

〔壁・床面〕確認できた壁は外傾して立ち上がる。壁高は30cm前後である。床面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・褐灰色土を主体に13層からなる。

〔炉・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1～4・6は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P5は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は43～96cm、床面からの深さは14～62cmである。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期は重複関係から判断している。本遺構とSI55が位置する検出面からは複数点の遺物が出土したものの、帰属遺構を特定できなかったことからここで記載している。20はⅢa群、21はⅥ群、22は敲磨器Ⅰb類、23は敲磨器Ⅱb類である。

SI08 (第22図 写真図版9)

〔位置・検出層位〕ⅢC16・17・21グリッドに位置しており、標高88.7mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南東側にあり、SI02・10～12・38などが隣接している。

〔重複遺構〕SI09と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI09より3cm前後低いことを確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形基調である。規模は長軸4.81m、短軸4.50m、検出面からの深さは47cmである。

〔壁・床面〕壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は30～40cmである。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色土を主体に26層からなる。斜面上方となる西側の方から流入する堆積状況を確認している。

〔炉・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1～6は床面中央から南西壁側に配置している。壁際にあるP3・5・6は配列から主柱穴と考えられる。規模は26～47cm、床面からの深さは9～16cmである。

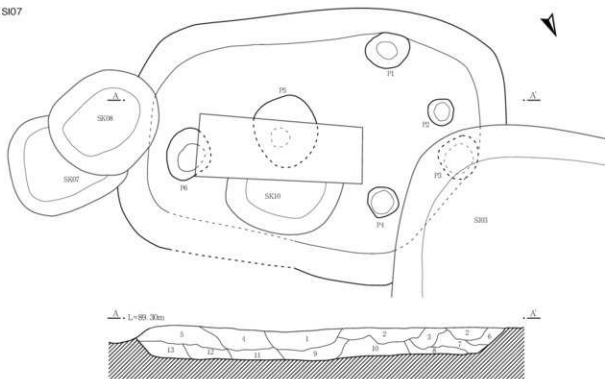
〔出土遺物〕土器8点、石器6点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

24・25はⅠ群で、同一個体である、26はⅤ群である。この他にも掲載遺物と同群のものが認められたが、小片のため図化していない。

27は石鏃である。この他には剥片などが認められる。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

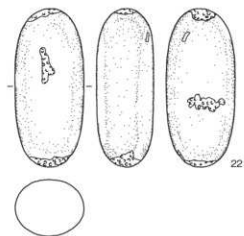
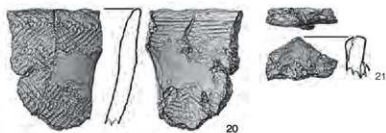
SI07



- | | | | |
|----------------------|-----------------|----------------------|---------------|
| 1. 明褐色土 (10YR3/4) | 粘質中、しまり中不強い。 | 8. 褐色土 (10YR4/4) | 粘質、しまり高に中不強い。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘質中不強く、しまり中不強い。 | 9. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘質中、しまり中不強い。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘質中、しまり中不強い。 | 10. 明灰黄褐色土 (2.5Y4/2) | 粘質、しまり高に中不強い。 |
| 4. 明褐色土 (10YR3/3) | 粘質中不強く、しまり中不強い。 | 11. 褐色土 (10YR4/1) | 粘質中、しまり中不強い。 |
| 5. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘質中、しまり中不強い。 | 12. 褐色土 (10YR4/4) | 粘質、しまり高に中不強い。 |
| 6. 褐色土 (10YR4/1) | 粘質中、しまり中不強い。 | 13. 黄灰色土 (2.5Y4/1) | 粘質、しまり高に中不強い。 |
| 7. にごり黄褐色土 (10YR4/3) | 粘質、しまり高に中不強い。 | | |

0 (1:50) 1m

SI07・55出土遺物



SI07	層様土	層厚 (cm)
P1	1.0A+黄褐色土	59×8 - 29
P2	1.0A+黄褐色土	36×34 - 13
P3	1.0A+黄褐色土	37×33 - 20
P4	1.0A+黄褐色土	43×39 - 14
P5	1.0A+黄褐色土	96×85 - 62
P6	1.0A+黄褐色土	70×58 - 24

0 (1:3) 10cm

第21図 SI07、SI07・55出土遺物

SI09 (第22図 写真図版10)

【位置・検出層位】ⅡB20、ⅢC16グリッドに位置しており、標高88.7mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南東側にあり、SI02・10～12・38などが隣接している。

【重複遺構】SI08と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI08より3cm前後高いことを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸方形基調である。規模は長軸4.81m、短軸3.85m、検出面からの深さは34cmである。

【壁・床面】残存する壁は外傾して立ち上がる。壁高は30～40cmである。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土を主体に9層からなる。

【竪・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。炉は検出していない。

P1・2・4は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P3は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は32～74cm、床面からの深さは18～28cmである。

【出土遺物】土器4点、石器3点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

28はⅣa群である。この他にも掲載遺物と同群のものが認められたが、小片のため図化していない。石器は剥片や敲磨器類などである。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

SI10 (第23図 写真図版10)

【位置・検出層位】ⅡC11・12グリッドに位置しており、標高88.6～88.8mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南東側にあり、SI09・12・38などが隣接している。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形である。規模は長軸3.71m、短軸3.19m、検出面からの深さは32cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は25～35cmである。床面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に6層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

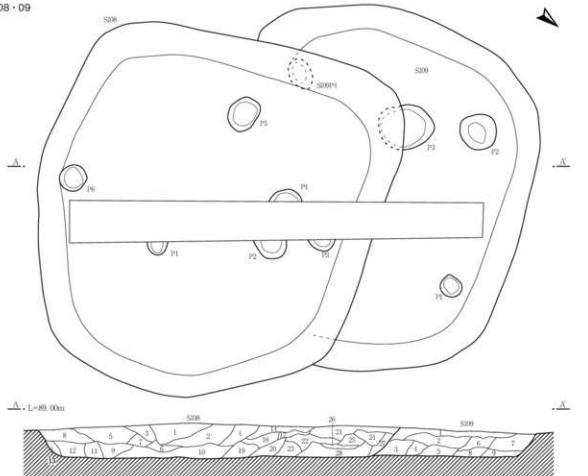
【竪・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1・2・4～6は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P3は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状は概ね類似している。規模は29～53cm、床面からの深さは12～32cmである。

【出土遺物】土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。29はⅣa群である。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

SI08・09



SI08

1. 黒色土 (10YR4/0) 粘質中、しまり中～強い。
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。厚層。
3. 黒色土 (10YR2/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
4. じいい黄褐色土 (10YR4/3) 粘質中、しまり中～強い。
5. 暗灰黄土 (2.5Y4/2) 粘質中、しまり強い。厚層粘質。
6. 暗灰黄土 (2.5Y4/2) 粘質中、しまり強い。
7. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
8. 褐色土 (2.5Y4/1) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
9. 黒色土 (10YR2/1) 粘質弱く、しまり中～強い。
10. 黒色土 (2.5Y3/1) 粘質弱く、しまり強い。
11. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) 粘質中、しまり強い。
12. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
14. 黒色土 (10YR2/2) 粘質弱く、しまり中～強い。
15. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
16. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
17. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
18. 黒色土 (10Y2/1) 粘質中、しまり中～強い。ロームブロックを少量含む。
19. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
20. 黒色土 (10YR2/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
21. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
22. 黒色土 (2.5Y3/1) 粘質中、しまり中～強い。
23. じいい黄褐色土 (10YR4/3) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
24. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
25. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
26. 暗灰黄土 (2.5Y4/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
27. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
28. 黄褐色土 (2.5Y5/4) 粘質、しまり共に中～強い。

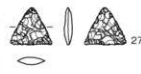
SI09

1. 黒色土 (10YR2/2) 粘質弱く、しまり中～強い。
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
3. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
4. じいい黄褐色土 (10YR4/3) 粘質中、しまり中～強い。
5. 暗灰黄土 (2.5Y4/2) 粘質中～弱く、しまり強い。
6. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
7. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
8. 黒色土 (10YR2/2) 粘質中～弱く、しまり中～強い。
9. 褐色土 (10YR4/3) 粘質中、しまり中～強い。

SI08	高麗土	規模 (cm)
P1	灰黄褐色土	20×18・14
P2	灰黄褐色土	42×21・10
P3	灰黄褐色土	34×16・9
P4	黒色土	14×16・15
P5	褐色土	17×16・16
P6	褐色土	30×34・9

SI09	高麗土	規模 (cm)
P1	灰黄褐色土	52×27・27
P2	灰黄褐色土	54×51・26
P3	灰黄褐色土	74×62・18
P4	灰黄褐色土	42×27・27

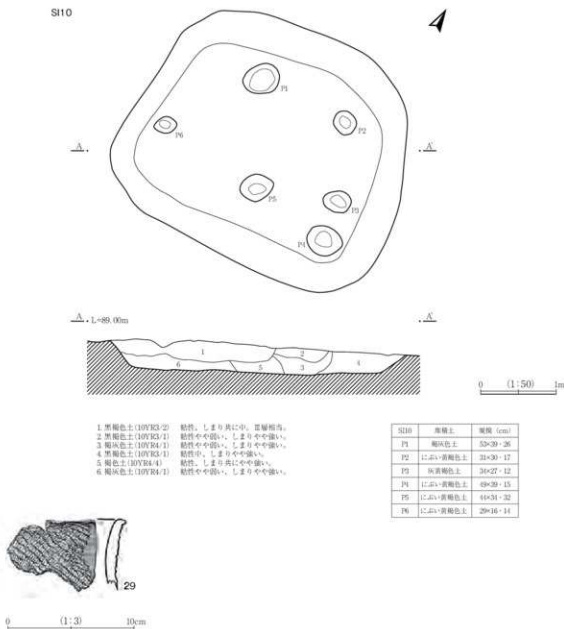
SI08



0 27 (2・3) 5cm 0 その他 (1:3) 10cm

第22図 SI08・09. 出土遺物

2 検出された遺構・遺物



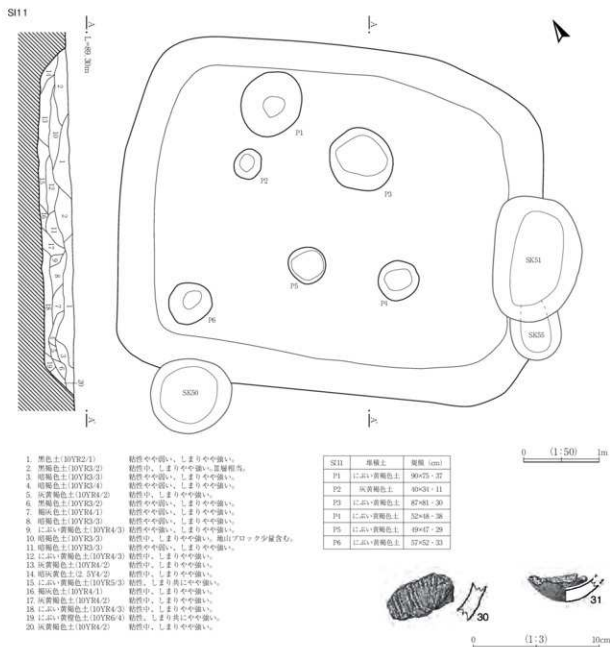
第23図 SI10、出土遺物

SI11 (第24図 写真図版11)

[位置・検出層位] II B 20・24・25、II C 21グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の南東側にあり、SI03・08・09などが隣接している。

[重複遺構] SI17、SK50・51・55、SKT13と重複しており、SK50・51・55、SKT13より古く、SI17より新しい。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸5.55m、短軸4.57m、検出面からの深さは42cmである。



第24図 S11、出土遺物

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は35cmである。床面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

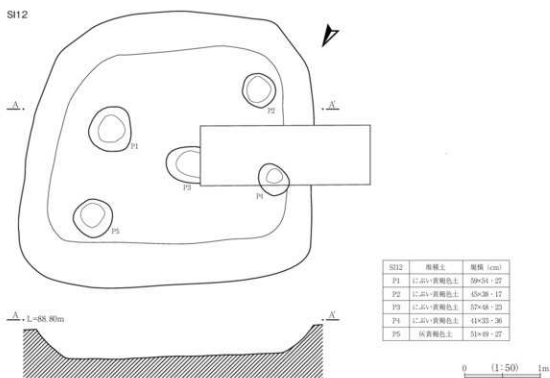
【堆積土】黒褐色・灰黄褐色土を主体に20層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1・3～6はやや床面中央寄りに配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P2は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は40～90cm、床面からの深さは11～38cmである。

【出土遺物】土器15点、石器7点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

2 検出された遺構・遺物



第25図 SI12

30はV群、31は尖底深鉢の底部である。これらの他は分類不明なうえに小片のため図化していない。石器は剥片や礫片などである。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

SI12 (第25図 写真図版11)

【位置・検出層位】ⅡB10・15、ⅡC6・11グリッドに位置しており、標高88.7mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の南東側にあり、SI09・10・13～15などが隣接している。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形である。規模は長軸3.80m、短軸3.61m、検出面からの深さは34cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は34cmである。床面は概ね平坦である。

【堆積土】断面図は未取得だが、黒褐色土などからなることを確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴5個(P1～5)を確認している。炉は検出していない。

P1・2・4・5は概ね四隅に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P3は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状は概ね類似している。規模は41～59cm、床面からの深さは17～36cmである。

【出土遺物】土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕断面は図化していなかったことから堆積状況の把握までには至っていない。また、堆積土については写真から判断している。

SI13 (第26・27図 写真図版12)

〔位置・検出層位〕ⅡB 9・10・14・15グリッドに位置しており、標高88.9～89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の中央北西側にあり、SI12・17などが隣接している。

〔重複遺構〕SI14・25と重複しており、SI14より古く、SI25より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI14より6cm前後低いことを確認している。また、南西壁にSI25の立ち上がりを確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形である。規模は長軸4.11m、短軸4.05m、検出面からの深さは41cmである。

〔壁・床面〕壁は重複する北東隅以外は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は30～36cmである。床面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・褐灰色土を主体に3I層からなる。

〔竪・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。竪は検出していない。

P1・3は中央から南西・南東隅に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。その他は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は39～83cm、床面からの深さは13～25cmである。

〔出土遺物〕土器24点、石器4点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

32・33はⅡa群である。

石器は剥片と敲磨器類である。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕土器(32)は重複するSI25から出土したものと接合している。

SI14 (第26図 写真図版12)

〔位置・検出層位〕ⅡB10・15グリッドに位置しており、標高88.8～88.9mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の中央北西側にあり、SI12・15などが隣接している。

〔重複遺構〕SI13と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI13より6cm前後高いことを確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.95m、短軸2.47m、検出面からの深さは33cmである。

〔壁・床面〕壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は30～36cmである。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に13層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔竪・土坑・柱穴〕住居に帰属する竪や柱穴などは検出してない。

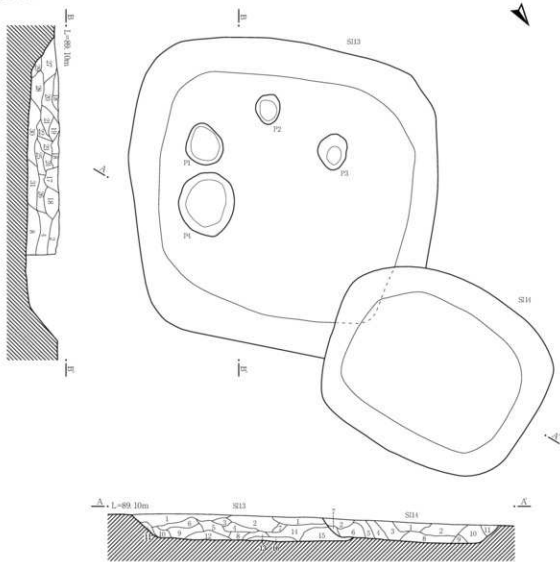
〔出土遺物〕土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

2 検出された遺構・遺物

SI13・14



- SI13
- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 2. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い
 - 4. 暗褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 5. 黒褐色土(10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 6. 黒褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い
 - 8. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い
 - 9. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い
 - 10. 土(土)黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中～強い、地山崩壊土
 - 11. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 12. オリーブ褐色土(10YR4/3) 粘性、しまり強に中～強い
 - 13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 14. 黒褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 15. 土(土)黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中～強い、地山崩壊土
 - 16. 土(土)黄褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまり中～強い
 - 17. 黒褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 18. 暗褐色土(10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 19. 黒褐色土(10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 20. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い
 - 21. 褐色土(10YR4/4) 粘性、しまり強に中～強い
 - 22. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い
 - 23. 褐色土(10YR4/4) 粘性、しまり強に中～強い
 - 24. オリーブ褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中～強い
 - 25. 黒褐色土(10YR4/1) 粘性中、しまり中～強い
 - 26. 土(土)黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中～強い
 - 27. 暗褐色土(10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 28. 褐色土(10YR4/4) 粘性、しまり強に中～強い
 - 29. 褐色土(10YR4/4) 粘性、しまり強に中～強い
 - 30. 土(土)黄褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまり中～強い

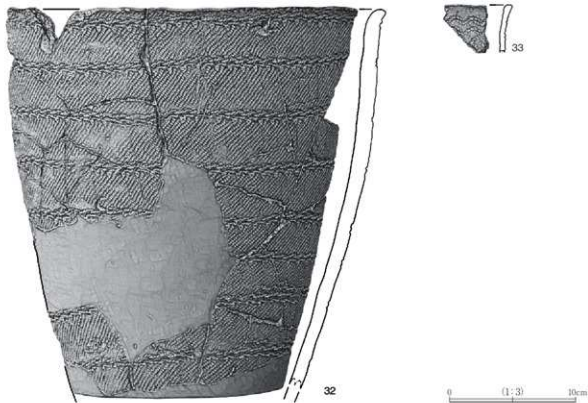
- SI14
- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 2. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 3. 暗褐色土(10YR3/4) 粘性中、しまり中～強い、土層崩壊
 - 4. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 6. 褐色土(10YR4/4) 粘性中、しまり中～強い
 - 7. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 8. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い、ローマ字の字跡が表面を覆う
 - 9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い
 - 10. 土(土)黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中～強い
 - 11. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 12. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い
 - 13. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い

SI13	層様土	範囲 (cm)
P1	12.5a(土)黄褐色土	20-100・12
P2	12.5a(土)黄褐色土	20-20・18
P3	12.5a(土)黄褐色土	40-14・19
P4	灰黄褐色土	80-70・25

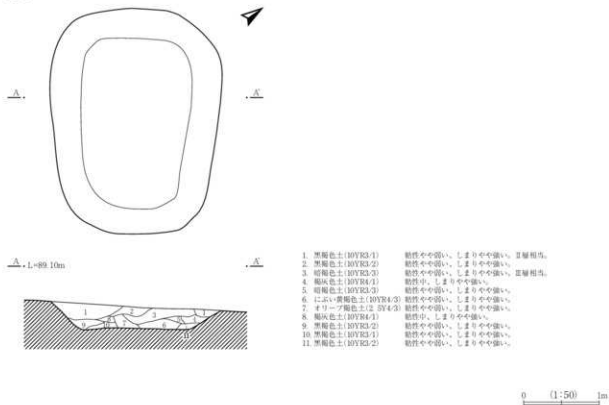
0 (1:50) 1m

第26図 SI13・14

SI13



SI15



1. 黒褐色土 (MVR3-1) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い、互層相土。
2. 黒褐色土 (MVR3-2) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。
3. 暗褐色土 (MVR3-2) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い、互層相土。
4. 暗褐色土 (MVR4-1) 粗粒中、しまり中不揃い。
5. 暗褐色土 (MVR3-2) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。
6. 上赤～黄褐色土 (MVR4-3) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。
7. オリーブ褐色土 (2) (MVR4-3) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。
8. 暗褐色土 (MVR4-1) 粗粒中、しまり中不揃い。
9. 黒褐色土 (MVR3-2) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。
10. 黒褐色土 (MVR3-1) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。
11. 黒褐色土 (MVR3-2) 粗粒中不揃い、しまり中不揃い。

第27図 SI13出土遺物、SI15

SI15 (第27図 写真図版13)

[位置・検出層位] II B 5・10、II C 6 グリッドに位置しており、標高88.5～88.7mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央北東側にあり、SI12・14などが隣接している。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.95m、短軸2.27m、検出面からの深さは26～35cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は24～35cmである。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に11層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 頂部に形成された竪穴住居の中でも小規模のものである。この規模だけで判断していくのであれば、南西向き斜面で認められる住居群と類似している。遺構時期は主体層から判断している。

SI16 (第28図 写真図版13)

[位置・検出層位] II B 18・19・23・24グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI03・11・20などが隣接している。

[重複遺構] SI17と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI17より10cm前後低いことを確認している。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.59m、短軸3.20m、検出面からの深さは48cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は40～48cmである。床面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に25層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。これらは斜面上方の東側より流入する堆積状況を確認している。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。炉は検出していない。

P1～4は概ね四隅に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は33～62cm、床面からの深さは32～57cmである。

[出土遺物] 土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はIV a 群が認められたが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

SI17 (第28図 写真図版14)

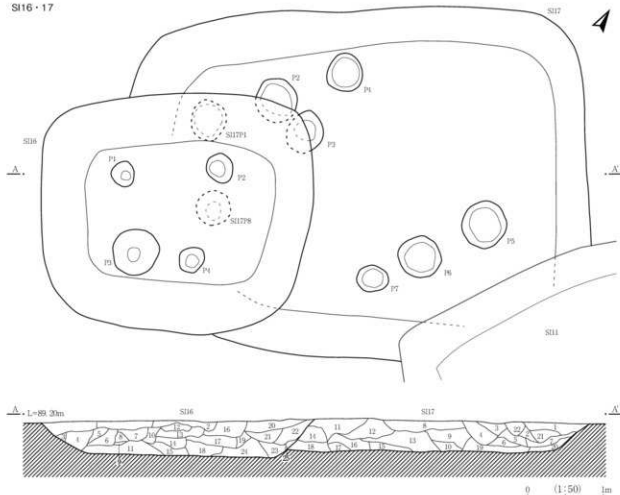
[位置・検出層位] II B 18～20・24グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI03・18・20などが隣接している。

[重複遺構] SI11・16と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、床面がSI16より10cm前後高いことを確認している。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸5.99m、短軸4.66m、検出面からの深さは41cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は35cm前後である。床面は若干の凹凸が認められるもの

SI16・17



SI16

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 黒褐色土(10YR3/3) | 粘性中程度、しまり中程度、豆腐相土。 |
| 2. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 3. 褐色土(10YR4/6) | 粘性中、しまり共に中程度、ローム層土。 |
| 4. 褐色土(10YR3/3) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 5. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 6. 褐色土(10YR3/3) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 7. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 8. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 9. 褐色土(10YR4/1) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 10. 中黄色土(2.5Y4/3) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 11. 褐色土(2.5Y4/2) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 12. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 13. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 14. 褐色土(10YR4/1) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 15. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 16. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 17. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 18. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 19. 褐色土(10YR4/6) | 粘性中、しまり共に中程度、龜山凝土。 |
| 20. 黒褐色土(2.5Y3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 21. 褐色土(10YR3/3) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 22. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中程度、しまり共に中程度。 |
| 23. 褐色土(10YR4/6) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 24. 灰黄褐色土(2.5Y4/2) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 25. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |

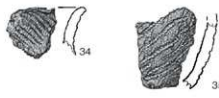
SI17

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 2. 黒褐色土(10YR3/4) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 3. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中、しまり中程度。 |
| 4. 黒褐色土(2.5Y3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 5. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 6. 褐色土(10YR4/6) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 7. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 8. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 9. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 10. 褐色土(10YR4/6) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 11. 黒褐色土(10YR3/1) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 12. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 13. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 14. 灰黄褐色土(10YR4/2) | 龜山(ローム)少量含む。 |
| 15. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 16. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度、ローム層土。 |
| 17. 灰色土(10YR4/2) | 粘性中、しまり共に中程度、ローム層土。 |
| 18. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 19. 灰色土(10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中程度。 |
| 20. 灰色土(10YR4/2) | 粘性中、しまり共に中程度、ローム層土。 |
| 21. 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性中程度、しまり中程度。 |
| 22. 黒褐色土(2.5Y3/1) | 粘性中程度、しまり中程度。 |

SI16	層位上	層位 (cm)
P1	17.5Y-黄褐色土	33*26-32
P2	17.5Y-黄褐色土	38*33-32
P3	17.5Y-黄褐色土	62*56-57
P4	17.5Y-黄褐色土	37*30-25

SI17	層位上	層位 (cm)
P1	灰色土	54*42-17
P2	灰黄褐色土	61*54-17
P3	灰黄褐色土	39*48-17
P4	灰黄褐色土	36*48-13
P5	灰黄褐色土	63*57-17
P6	灰黄褐色土	36*32-14
P7	灰黄褐色土	39*30-18
P8	褐色土	47*40-37

SI17



0 (1:3) 10cm

第28図 SI16・17、SI17出土遺物

の概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土を主体に2層からなる。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴8個(P1～8)を確認している。炉は検出していない。

P1・2・4～8は北西壁と南壁の際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P3は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状は概ね類似している。規模は39～63cm、床面からの深さは13～37cmである。

【出土遺物】土器19点、石器3点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

34はIV a群、35はV群である。これらの他にはII a群やIV a群なども認められたが、小片のため図化していない。

石器は剥片と敲磨器類である。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、4,800yrBP、5,270yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より新しい値である。この要因については判然としない。詳細は159頁に記載している。

SI18 (第29・30図 写真図版14)

【位置・検出層位】II B17・18・22・23グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI16・17・24・25などが隣接している。

【重複遺構】SI19・20、SK65と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を捉えた結果、床面がSI19より5cm前後、SI20より10cm前後低いことを確認している。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形である。規模は長軸6.37m、短軸3.83m、検出面からの深さは50cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は40～45cmである。床面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・褐灰色土を主体に5層からなる。これらは中央が風倒木痕により削平されているため判然としないが、北壁側から激しく流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1・2・4・5は四隅と壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状は概ね類似している。規模は34～50cm、床面からの深さは14～25cmである。

【出土遺物】土器3点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

36はIV a群である。この他にはV群なども認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】西側の斜面下方に位置する竪穴住居(SI39～52)の堆積土上面からは多くの遺物が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

SI19 (第29・30図 写真図版15)

〔位置・検出層位〕II B22・23グリッドに位置しており、標高88.9mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI16・24などが隣接している。

〔重複遺構〕SI18・20と重複しており、SI18より古く、SI20より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を捉えた結果、床面がSI18より5cm前後高く、SI20より僅かに低いことを確認している。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.70m、短軸2.46m、検出面からの深さは42cmである。

〔壁・床面〕残存する壁は外傾して立ち上がる。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色土を主体に13層からなる。

〔如・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴1個(P1)を確認している。炉は検出していない。

P1は主柱穴の可能性もあるが、用途不明である。

〔出土遺物〕土器2点、石器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

37はII a群である。この他にも同群のものが認められたが、小片のため図化していない。

石器は敲磨器類である。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕西側の斜面下方に位置する竪穴住居(SI39～52)の堆積土上面からは多くの遺物が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

SI20 (第29・30図 写真図版16)

〔位置・検出層位〕II B18・23グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI16・24などが隣接している。

〔重複遺構〕SI18・19と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を捉えた結果、床面がSI18より10cm前後、SI19より僅かに高いことを確認している。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は隅丸長方形か隅丸方形である。規模は長軸4.19m、短軸1.37m、検出面からの深さは46cmである。

〔壁・床面〕残存する壁は外傾して立ち上がる。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色土を主体に7層からなる。

〔如・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1・3は床面中央に対となるような位置に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。P2は用途不明である。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状は概ね類似している。規模は34～84cm、床面からの深さは15～20cmである。

〔出土遺物〕土器9点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

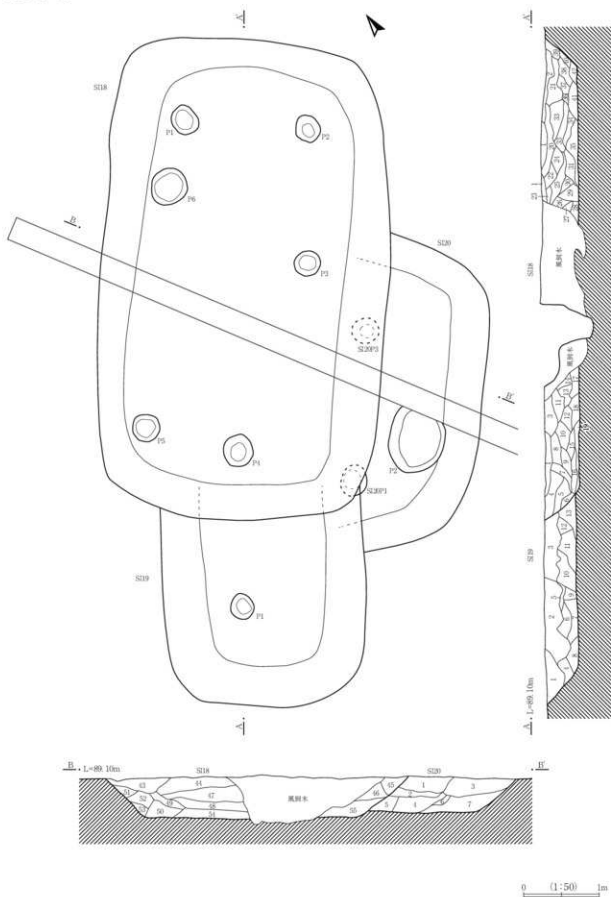
38はIV b群である。この他にも38と同一個体と分類不明のものも認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕西側の斜面下方に位置する竪穴住居の堆積土上面からは多くの遺物が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。また、堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、5260yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より新しい値である。この要因については判然としない。詳細は159頁に記載している。

2 検出された遺構・遺物

SI18・19・20



第29図 SI18・19・20

S18

1. 黒土 (10YR2/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
4. 黒土 (10YR2/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
6. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
7. 日曜報告。
8. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
9. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
10. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
12. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
14. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
15. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
16. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
17. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
18. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
19. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
20. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
21. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
22. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
23. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
24. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
25. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
26. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
27. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
28. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
29. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
30. オリーブ褐色土 (10YR4/4) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。

日曜報告

S18	標本土	断面 (cm)
P1	10YR3/1	10-11
P2	灰黄褐色土	10-20・25
P3	灰黄褐色土	10-31・36
P4	10YR3/1	10-37・38
P5	灰黄褐色土	10-31・36
P6	灰黄褐色土	10-11・14



36

S19

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
5. 暗褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
7. 10YR4/2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
8. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
9. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
10. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
11. 10YR4/2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
12. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
13. 10YR4/2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。

S19	標本土	断面 (cm)
P1	灰黄褐色土	10-27・38



37

S20

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
5. 10YR4/2 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。
7. 暗褐色土 (10YR3/1) 粘性中程度、しまり中程度、日曜報告。

S20	標本土	断面 (cm)
P1	灰黄褐色土	10-31・36
P2	灰黄褐色土	10-71・38
P3	灰黄褐色土	10-31・36



38

0 (1:3) 10cm

第30図 S18・19・20土層注記、出土遺物

SI21 (第31・32図 写真図版17)

【位置・検出層位】 I B 23、II B 3・4 グリッドに位置しており、標高88.3～88.5mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央北側にあり、SI23などが隣接している。

【重複遺構】 SI22と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】 平面形は隅丸方形である。規模は長軸3.84m、短軸3.75m、検出面からの深さは46cmである。

【壁・床面】 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】 黒褐色土を主体に32層からなる。斜面上方の南西側から激しく流入する堆積状況を確認している。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【炉・土坑・柱穴】 住居に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1～3は配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は37～67cm、床面からの深さは17～22cmである。

【出土遺物】 出土していない。

【遺構時期】 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】 遺構時期は重複関係から判断している。

SI22 (第31・32図 写真図版17・18)

【位置・検出層位】 II B 2～4・7～9グリッドに位置しており、標高88.5～88.7mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央北側にあり、SI13・14・25・35などが隣接している。

【重複遺構】 SI21・26と重複しており、SI21より古く、SI26より新しい。

【平面形・規模】 確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸7.82m、短軸3.41m、検出面からの深さは51cmである。

【壁・床面】 東壁以外の壁は外傾して立ち上がる。壁高は50cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】 主体層位不明の黒褐色土を主体に21層からなる。

【炉・土坑・柱穴】 住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。炉は検出していない。

P1～4は概ね壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は30～68cm、床面からの深さは17～43cmである。

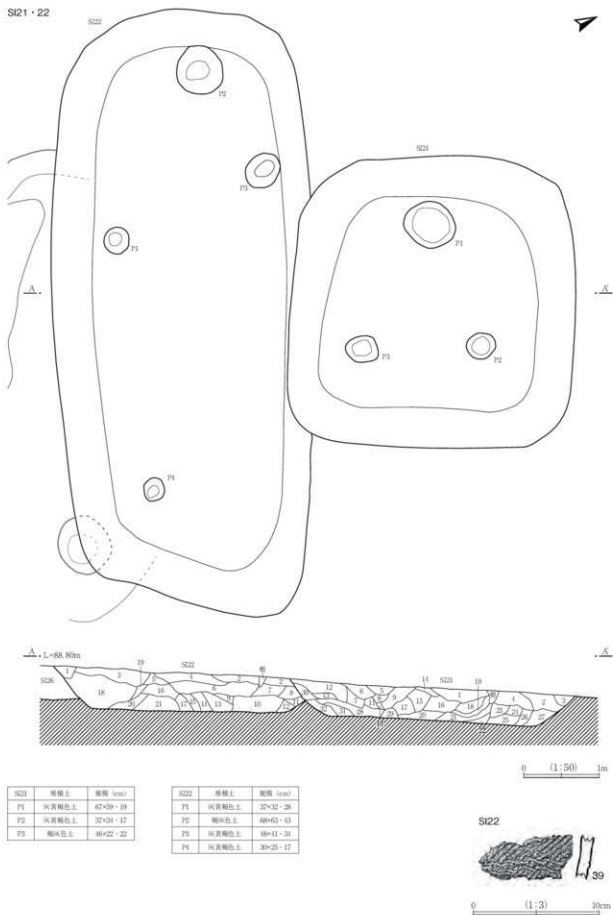
【出土遺物】 土器4点、石器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

39はII a群である。この他にも39と同一個体のものが認められたが、小片のため図化していない。

石器は剥片と敲磨器類である。

【遺構時期】 縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】 堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、8,860yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より古い値である。この要因については判然としない。詳細は159頁に記載している。



第31図 SI21・22、SI22出土遺物

2 検出された遺構・遺物

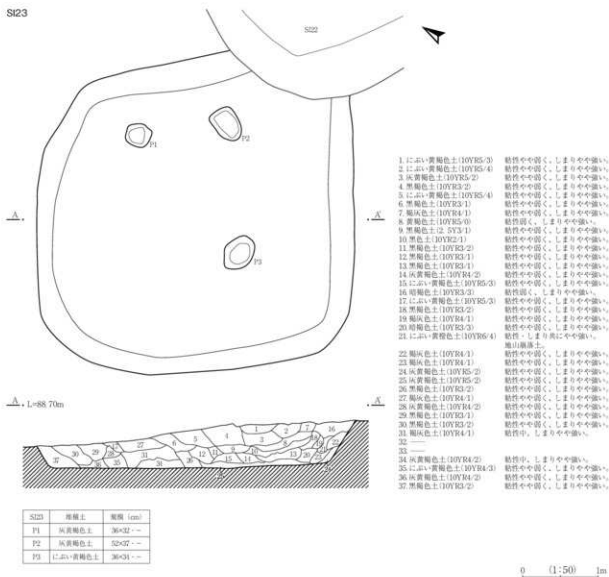
SI21

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い、巨粒層あり。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
7. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
8. 黒褐色土 (2) SY3/2 粘性中、しまり中～強い。
9. じいぶ・黄褐色土 (10YR4/3) 粘性中、しまり高～中～強い。
10. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
11. 灰褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
12. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中、しまり中～強い。
13. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い。
14. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
15. 暗褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり高～中～強い、微塵土。
16. 黒褐色土 (2) SY3/2 粘性中、しまり高～中～強い、微塵土。
17. 暗褐色土 (10YR4/4) 粘性中、しまり高～中～強い。
18. じいぶ・黄褐色土 (10YR5/3) 粘性中、しまり高～中～強い。
19. じいぶ・黄褐色土 (10YR5/4) 粘性中、しまり高～中～強い。
20. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
21. 黄褐色土 (2) SY3/3 粘性中、しまり中～強い。
22. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。
23. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
24. じいぶ・黄褐色土 (10YR5/3) 粘性中、しまり中～強い。
25. 暗褐色土 (10YR4/4) 粘性中、しまり高～中～強い。
26. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。
27. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
28. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。
29. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い。
30. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
31. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い。
32. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり高～中～強い。

SI22

1. 暗褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
2. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
5. 黒褐色土 (2) SY3/1 粘性中～弱中、しまり中～強い。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
7. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまり中～強い。
8. じいぶ・黄褐色土 (10YR5/3) 粘性中、しまり高～中～強い。
9. 黒褐色土 (10YR4/4) 粘性中、しまり高～中～強い。
10. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまり高～中～強い。
11. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
12. 暗褐色土 (2) SY3/3 粘性中、しまり高～中～強い。
13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
14. 暗褐色土 (2) SY3/3 粘性中、しまり高～中～強い。
15. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり高～中～強い。
16. 黒褐色土 (2) SY3/2 粘性中、しまり高～中～強い。
17. じいぶ・黄褐色土 (10YR5/3) 粘性中、しまり高～中～強い。
18. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
19. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中～弱中、しまり中～強い。
20. じいぶ・黄褐色土 (10YR5/3) 粘性中、しまり高～中～強い。
21. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。

SI23



第32図 SI21・22土層注記、SI23

SI23 (第32図 写真図版18)

〔位置・検出層位〕ⅡB 1・2・6・7グリッドに位置しており、標高88.2～88.5mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の中央北側にあり、SI21・27・35などが隣接している。

〔重複遺構〕SI22と重複しており、本遺構が古い。SI22北西隅の精査時に本遺構の立ち上がりを確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形である。規模は長軸4.18m、短軸4.17m、検出面からの深さは29～58cmである。

〔壁・床面〕南東隅以外の壁は外傾して立ち上がる。壁高は50cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に35層からなる。これらは周囲より激しく流入する堆積状況を確認している。

〔炉・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1～3は中央よりやや北東壁側に配置しており、配列から主柱穴の可能性もあるが判然としない。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は36～52cm、床面からの深さは未計測である。

〔出土遺物〕石器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。石器は敲磨器類などである。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、3,670yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より新しい値である。この要因については縄文時代後期の生産活動を反映しているものと考えられるが判然としない。詳細は159頁に記載している。

SI24 (第33図 写真図版19)

〔位置・検出層位〕ⅡB 12・13・17グリッドに位置しており、標高88.7～88.9mの頭頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI18・23・25・26などが隣接している。

〔重複遺構〕SI27・28、SKT12と重複しており、SKT12より古く、SI27・28より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を捉えた結果、それらとの新旧関係を確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は長軸5.76m、短軸4.71m、検出面からの深さは48cmである。

〔壁・床面〕攪乱で削平されている南西隅以外の壁は外傾して立ち上がる。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に33層からなる。これらは周囲より流入する堆積状況を確認している。

〔炉・土坑・柱穴〕住居に帰属する柱穴7個(P1～7)を確認している。炉は検出していない。

P1・4・5は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状は概ね類似している。規模は38～93cm、床面からの深さは16～38cmである。

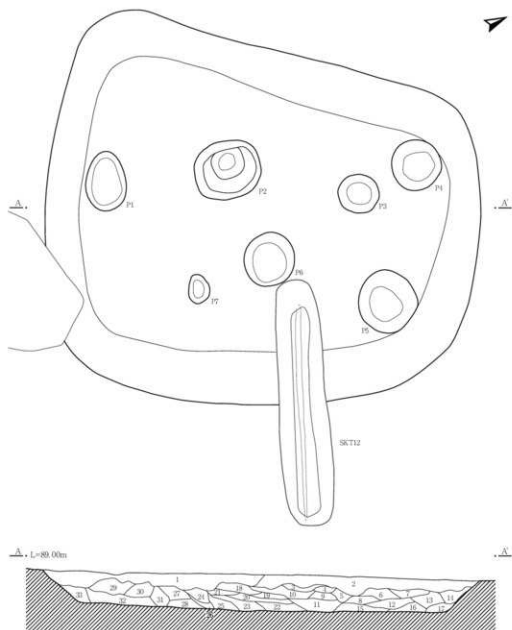
〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期は重複関係から判断している。

2 検出された遺構・遺物

S124



- | | | | |
|--------------------------|-----------------|--------------------------|-----------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり中～強い。 | 27. 1:255・黄褐色土 (10YR5/3) | 粘性中、しまり共に中～強い。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性強い、しまり中～強い。 | 28. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性中、しまり中～強い。 |
| 3. 暗褐色土 (10YR3/3) | 粘性中、しまり中～強い。 | 29. 暗褐色土 (10YR3/2) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 |
| 4. 暗褐色土 (10YR3/4) | 粘性中、しまり中～強い。 | 30. 1:255・黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 |
| 5. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性中、しまり中～強い。 | 31. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性中、しまり中～強い。 |
| 6. 暗褐色土 (10Y3/4) | 粘性中、しまり中～強い。 | 32. 1:255・黄褐色土 (10YR6/4) | 粘性中、しまり共に中～強い。 |
| 7. 黒褐色土 (2.5Y3/2) | 粘性中、しまり中～強い。 | 33. 1:255・黄褐色土 (10YR6/3) | 粘性中、しまり共に中～強い。 |
| 8. 黒褐色土 (2.5Y3/2) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 9. 暗褐色土 (10YR3/3) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 10. オリーブ褐色土 (2.5Y4/4) | 粘性中、しまり共に中～強い。 | | |
| 11. 1:255・褐色土 (10YR4/2) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 12. オリーブ黄褐色土 (2.5Y4/2) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 13. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 14. 暗灰褐色土 (2.5Y4/2) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 15. 暗灰褐色土 (10YR4/1) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 16. 黄褐色土 (2.5YR5/4) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 17. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 18. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 19. 1:255・黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 20. オリーブ褐色土 (2.5Y4/2) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |
| 21. 1:255・黄褐色土 (10YR5/3) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 22. 褐色土 (10YR4/4) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 23. 褐色土 (10YR4/4) | 粘性中、しまり中～強い。 | | |
| 24. 暗褐色土 (10YR3/4) | 粘性中、しまり共に中～強い。 | | |
| 25. 1:255・黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性中、しまり共に中～強い。 | | |
| 26. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性中～強い、しまり中～強い。 | | |

S124	階層上	層厚 (cm)
P1	灰黄褐色土	84±5-29
P2	灰黄褐色土	93±78-37
P3	灰黄褐色土	55±50-16
P4	灰黄褐色土	69±67-26
P5	灰黄褐色土	83±77-38
P6	灰黄褐色土	76±68-22
P7	灰黄褐色土	38±25-23

0 (1:50) 1m

第33図 S124

SI25 (第34図 写真図版20)

[位置・検出層位] II B 8・9・13・14グリッドに位置しており、標高88.8mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI17・18・22・24などが隣接している。

[重複遺構] SI13・26、SK58・59と重複しており、SI13・SK58・59より古く、SI26より新しい。SI13北西隅の精査時に本遺構の立ち上がりを確認している。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸6.35m、短軸4.53m、検出面からの深さは48cmである。

[壁・床面] 南東隅以外の壁は外傾して立ち上がる。壁高は45cm前後である。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色・褐灰色土を主体に33層からなる。これらは周囲より激しく流入する堆積状況を確認している。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する柱穴5個(P1～5)を確認している。炉は検出していない。

P1・3・4は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は40～74cm、床面からの深さは14～53cmである。

[出土遺物] 土器6点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

40はV群である。この他にも40と同一個体のものが認められたが、小片のため図化していない。

石器は剥片である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、8700yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より古い値である。この要因については判然としない。詳細は159頁に記載している。

SI26 (第35図 写真図版20・21)

[位置・検出層位] II B 7～9グリッドに位置しており、標高88.9mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI21などが隣接している。

[重複遺構] SI22・25と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI22より床面が10cm高いことを確認している。また、SI25北西隅の壁面において、本遺構の立ち上がりを確認している。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸5.23m、短軸3.18m、検出面からの深さは43cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は35cm前後である。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色・褐灰色土を主体に34層からなる。大量のブロック状の塊が流入しながら堆積しており、人為堆積のような様相が認められる。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1～3は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。ただし、本遺構の大半は重複や攪乱によって削平されているため判然としない。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は30～80cm、床面からの深さは17～26cmである。

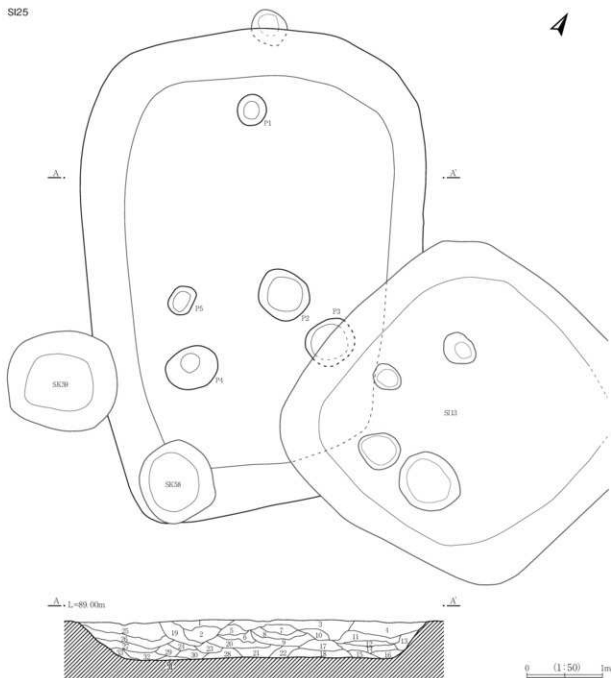
[出土遺物] 土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

41はIV a群である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

S25

4



1. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性や中強い、しまりや中強い。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性や中強い、しまりや中強い。
茶黒褐色土?
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性や中強い、しまりや中強い。
4. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘性や中強い、しまりや中強い。
5. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまりや中強い。
6. 褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまりや中強い。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまりや中強い。
8. オリーブ褐色土 (10YR4/3) 粘性中、しまりや中強い。
9. 濃い赤褐色土 (10YR4/3) 粘性中、しまりや中強い。
10. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまりや中強い。
11. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまりや中強い。
12. オリーブ褐色土 (10YR4/3) 粘性中、しまりや中強い。
13. 黄褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまりや中強い。
14. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまりや中強い。
15. オリーブ褐色土 (10YR4/3) 粘性中、しまりや中強い。
16. 濃い赤褐色土 (10YR6/3) 粘性、しまり共に中強い。
17. 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性、しまり共に中強い。
18. 濃い赤褐色土 (10YR5/4) 粘性中、しまりや中強い。
19. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまりや中強い。
20. オリーブ褐色土 (10YR4/3) 粘性中、しまりや中強い。
21. 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性、しまり共に中強い。
22. 濃い赤褐色土 (10YR6/3) 粘性、しまり共に中強い。
23. 暗灰黄色土 (10YR7/2) 粘性、しまりや中強い。

24. 暗灰黄色土 (10YR7/2) 粘性中、しまりや中強い。
25. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性や中強い、しまりや中強い。
26. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性や中強い、しまりや中強い。
27. 暗灰黄色土 (10YR7/2) 粘性中、しまりや中強い。
28. 暗灰黄色土 (10YR6/4) 粘性中、しまりや中強い。
29. 濃い赤褐色土 (10YR6/3) 粘性中、しまりや中強い。
30. 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性中、しまりや中強い。
31. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまりや中強い。
32. 濃い赤褐色土 (10YR6/3) 粘性や中強い、しまりや中強い。
33. 暗灰黄色土 (10YR7/4) 粘性や中強い、しまりや中強い。

S25	層位土	層位 (cm)
P1	褐色土	43~37・40
P2	灰黄褐色土	42~41・22
P3	褐色土	40~39・14
P4	灰黄褐色土	24~58・33
P5	灰黄褐色土	40~39・21



第34図 S25、出土遺物

SI27 (第36図 写真図版21)

【位置・検出層位】ⅡB 6・7・11・12グリッドに位置しており、標高88.6mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI23・26・34などが隣接している。

【重複遺構】SI24・28と重複しており、SI24より古く、SI28より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI28より床面が5cm低いことを確認している。また、SI24の北西壁に本遺構の立ち上がりを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸4.36m、短軸3.98m、検出面からの深さは42cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は35～40cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・オリーブ褐色土を主体に57層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。これらは周囲より激しく流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1～3は壁際に配置しており、配列から支柱穴と考えられる。規模と形状は概ね類似している。規模は65～81cm、床面からの深さは18～28cmである。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

SI28 (第36・37図 写真図版22)

【位置・検出層位】ⅡB 6・11グリッドに位置しており、標高88.5～88.6mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竪穴住居群の中央にあり、SI23・24・34などが隣接している。

【重複遺構】SI27と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI27より床面が5cm高いことを確認している。また、SI24・27の壁において本遺構の立ち上がりを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸5.16m、短軸2.34m、検出面からの深さは42cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の褐灰色土を主体に17層からなる。これらは斜面上方となる東側より激しく流入する堆積状況を確認している。

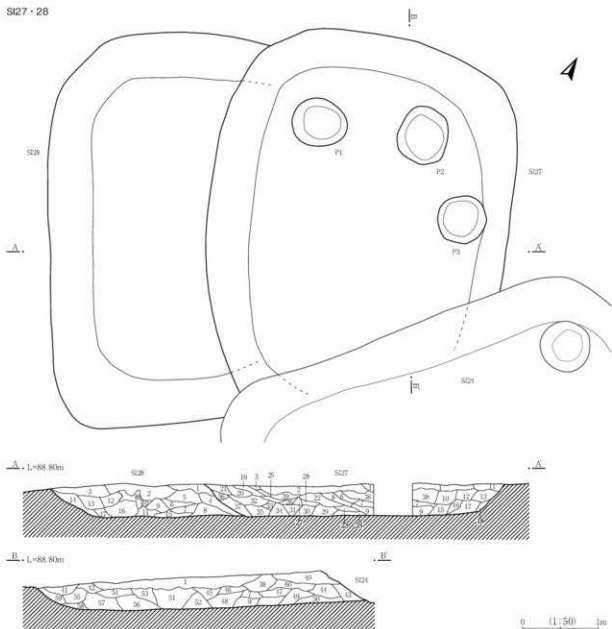
【炉・土坑・柱穴】帰属する炉や柱穴などは検出していない。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

SI27・28



SI27

1 黒褐色土(10YR3/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

2 暗褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

3 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

4 —

5 —

6 濃い黄褐色土(10YR4/3)

粘性中、しまり中～強い

7 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中、しまり強い

8 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり強い

9 暗褐色土(2.5Y4/2)

粘性中、しまり強い

10 黒褐色土(2.5Y3/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

11 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

12 黄褐色土(2.5Y4/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

13 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中～強い、しまり中～強い

14 —

15 オリーブ褐色土(2.5Y4/1)

粘性中、しまり中～強い

16 オリーブ褐色土(2.5Y3/2)

粘性中、しまり中～強い

17 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり中～強い

18 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中、しまり中～強い

19 暗褐色土(10YR3/3)

粘性中～強い、しまり中～強い

20 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

21 黒褐色土(10YR3/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

22 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり中～強い

23 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中、しまり中～強い

24 暗黄褐色土(2.5Y4/2)

粘性中、しまり中～強い

25 暗褐色土(10YR4/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

26 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中、しまり中～強い

27 暗褐色土(10YR4/1)

粘性中、しまり中～強い

28 暗黄褐色土(2.5Y4/2)

粘性中、しまり中～強い

29 オリーブ褐色土(2.5Y4/1)

粘性中、しまり中～強い

30 暗黄褐色土(2.5Y4/2)

粘性中、しまり中～強い

31 褐色土(10YR4/4)

粘性中、しまり中～強い

32 暗褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

33 濃い黄褐色土(10YR4/3)

粘性中、しまり中～強い

34 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり中～強い

35 黒褐色土(2.5Y3/2)

粘性中、しまり中～強い

36 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

37 灰褐色土(10YR4/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

38 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中、しまり中～強い

39 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

40 暗褐色土(10YR3/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

41 黄褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

42 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

43 濃い黄褐色土(10YR4/3)

粘性中、しまり中～強い

44 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり中～強い

45 暗褐色土(10YR3/2)

粘性中、しまり中～強い

46 暗黄褐色土(2.5Y4/2)

粘性中、しまり中～強い

47 褐色土(10YR4/4)

粘性中、しまり共に中

48 暗褐色土(10YR3/2)

粘性中、しまり中～強い

49 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり中～強い

50 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中、しまり中～強い

51 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

52 暗褐色土(10YR4/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

53 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)

粘性中～強い、しまり中～強い

54 暗褐色土(10YR4/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

55 暗褐色土(10YR4/1)

粘性中～強い、しまり中～強い

56 褐色土(10YR4/4)

粘性中、しまり中～強い

58 灰黄褐色土(10YR4/2)

粘性中、しまり中～強い

59 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

60 黒褐色土(10YR3/2)

粘性中～強い、しまり中～強い

SI27	層位土	規模 (cm)
P1	濃い黄褐色土	71×60-18
P2	濃い黄褐色土	81×66-26
P3	濃い黄褐色土	60×60-26

第36図 SI27・28

SI29 (第37図 写真図版22・23)

【位置・検出層位】I A 20・25、I B 16・21グリッドに位置しており、標高87.7～87.9mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI32・35・37などが隣接している。

【重複遺構】SI36と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI36より床面が5cm前後低いことを確認している。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸5.21m、短軸3.34m、検出面からの深さは45cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は30～45cm前後である。床面は若干北西方向に傾斜しているものの概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・オリーブ褐色土を主体に56層からなる。中位にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。これらは周囲より流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1～4は床面中央、P5・6は壁際に配置しており、配列から後者は主柱穴の可能性がある。ただし、その他に対応する柱穴が確認できないため判然としない。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は32～51cm、床面からの深さは16～32cmである。

【出土遺物】土器5点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はIV群などが認められたが、小片のため図化していない。

石器は礫片である。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

SI30 (第38・39図 写真図版23)

【位置・検出層位】II A 5・10グリッドに位置しており、標高88.2mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI29・36などが隣接している。

【重複遺構】SI31・34・35と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI31・34・35より床面が5cm前後低いことを確認している。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸5.61m、短軸4.31m、検出面からの深さは54cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は40～50cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・灰黄褐色土を主体に56層からなる。中位にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。これらは周囲より激しく流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴6個(P1～6)を確認している。炉は検出していない。

P1・3・4は壁際、P2・5は床面中央に配置しており。前者は配列から主柱穴と考えられる。主柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は29～81cm、床面からの深さは11～20cmである。

【出土遺物】土器2点、石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

42はV群である。この他にはIV a 群が認められたが、小片のため図化していない。

石器は礫片である。

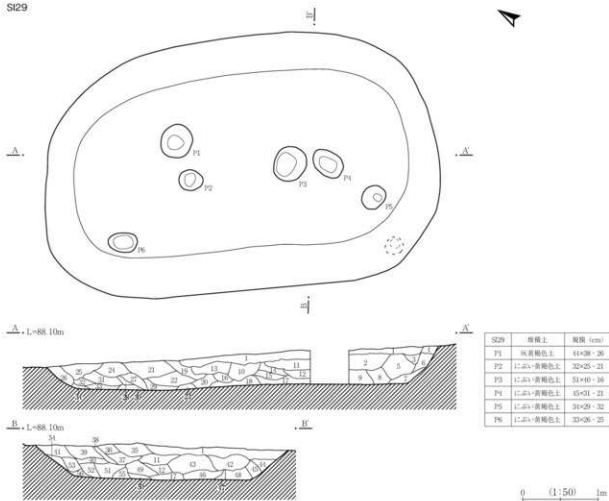
【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】本遺構とSI31の検出面からは多くの遺物が出土していることを確認できた。しかしながら、

S18

1. 黒褐色土(10YR3/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。	11. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。
2. 暗褐色土(10YR3/3)	粘性中~強い, しまり中~強い。	12. 黄褐色土(2.5Y4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。
3. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。	13. 暗黄褐色土(10YR4/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。
4. 2.5Y-R黄褐色土(10YR4/3)	粘性中, しまり中~強い。	14. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。
5. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。	15. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性弱, しまり中。
6. 暗褐色土(2.5Y3/2)	粘性中, しまり中~強い。	16. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
7. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中, しまり中~強い。	17. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/0)	粘性中, しまり中~強い。
8. 灰黄褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。		
9. 暗黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。		
10. 暗7.5Y-R黄褐色土(10YR3/3)	粘性中~強い, しまり中~強い。		

S129



S29	層位土	深度 (cm)
P1	灰黄褐色土	14~20-20
P2	12.5Y-R黄褐色土	20~25-21
P3	12.5Y-R黄褐色土	34~40-16
P4	12.5Y-R黄褐色土	45~51-21
P5	12.5Y-R黄褐色土	54~59-32
P6	12.5Y-R黄褐色土	59~26-25

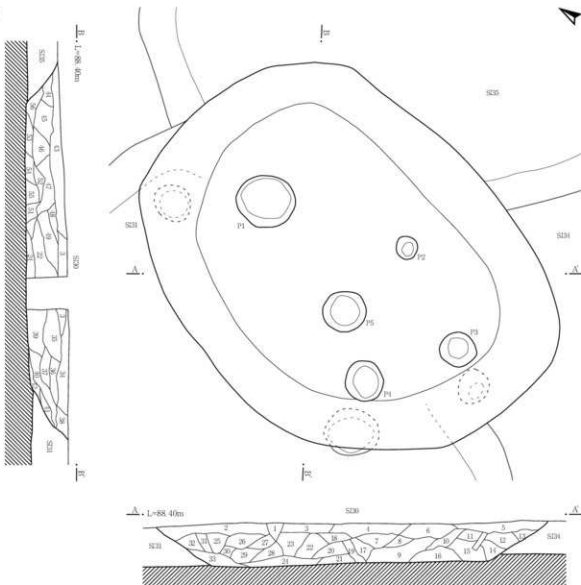
S129

1. 黒褐色土(10YR3/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。	31. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。	32. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/3)	粘性中, しまり中~強い。
3. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。	33. 黄褐色土(10YR3/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。
4. 12.5Y-R黄褐色土(10YR4/3)	粘性中, しまり中~強い。	34. 12.5Y-R黄褐色土(10YR3/3)	粘性中~強い, しまり中~強い。
5. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。	35. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。
6. 暗褐色土(2.5Y3/2)	粘性中, しまり中~強い。	36. 暗褐色土(10YR3/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。
7. 暗褐色土(2.5Y3/2)	粘性中, しまり中~強い。	37. 暗黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中, しまり中~強い。
8. 暗黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。	38. 黄褐色土(10YR3/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。
9. 暗7.5Y-R黄褐色土(2.5Y3/3)	粘性中, しまり中~強い。	39. 黄褐色土(10YR3/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。
10. 暗黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中, しまり中~強い。	40. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。
11. 暗褐色土(10YR3/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。	41. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。
12. 暗褐色土(10YR3/4)	粘性中~強い, しまり中~強い。	42. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
13. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。	43. 12.5Y-R黄褐色土(10YR4/3)	粘性中, しまり中~強い。
14. 12.5Y-R黄褐色土(10YR4/3)	粘性中, しまり中~強い。	44. 12.5Y-R黄褐色土(10YR3/3)	粘性中, しまり中~強い。
15. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中, しまり中~強い。	45. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
16. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/0)	粘性中, しまり中~強い。	46. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中, しまり中~強い。
17. 黄褐色土(2.5Y3/2)	粘性中, しまり中~強い。	47. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。
18. 黄褐色土(2.5Y3/2)	粘性中, しまり中~強い。	48. 黄褐色土(2.5Y3/2)	粘性中, しまり中~強い。
19. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。	49. 12.5Y-R黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
20. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。	50. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。
21. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。	51. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。
22. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。	52. 暗褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
23. 9.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/4)	粘性中, しまり中~強い。	53. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中, しまり中~強い。
24. 灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。	54. 12.5Y-R黄褐色土(10YR3/3)	粘性中, しまり中~強い。
25. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。	55. 黄褐色土(10YR3/2)	粘性中, しまり中~強い。
26. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中~強い, しまり中~強い。	56. 12.5Y-R黄褐色土(10YR3/2)	粘性中, しまり中~強い。
27. 暗黄褐色土(2.5Y4/2)	粘性中~強い, しまり中~強い。		
28. 暗褐色土(10YR4/1)	粘性中, しまり中~強い。		
29. 12.5Y-R黄褐色土(10YR4/3)	粘性中, しまり中~強い。		
30. 12.5Y-R黄褐色土(2.5Y4/4)	粘性中, しまり中~強い。		

第37図 S128土層注記, S129

2 検出された遺構・遺物

SI30



1. 黒褐色土 (10YR6/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
2. 黒褐色土 (10YR6/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
3. 黒褐色土 (10YR6/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
4. 黒褐色土 (10YR6/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
5. 黒褐色土 (10YR6/4) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
6. 黒褐色土 (10YR6/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
7. 黒褐色土 (2. SY3/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
8. 黒褐色土 (10Y4/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
9. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
10. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
11. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
12. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
13. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
14. 黒褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
15. 暗褐色土 (2. SY4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
16. 土いり黄褐色土 (10YR4/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
17. 黒褐色土 (2. SY3/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
18. 土いり黄褐色土 (10YR5/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
19. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
20. 暗褐色土 (2. SY4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
21. 土いり黄褐色土 (2. SY4/4) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
22. 暗褐色土 (2. SY4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
23. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
24. 土いり黄褐色土 (10YR4/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
25. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
26. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
27. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
28. 黒褐色土 (2. SY3/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
29. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
30. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
31. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
32. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。

33. 土いり黄褐色土 (10YR4/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
34. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
35. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
36. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
37. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
38. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
39. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
40. 黄褐色土 (10YR3/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
41. 土いり黄褐色土 (2. SY4/4) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
42. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
43. 黄褐色土 (10YR3/2) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
44. 黒褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
45. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
46. 土いり黄褐色土 (2. SY4/4) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
47. 土いり黄褐色土 (10YR5/3) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
48. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
49. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中～強い、しまり中～強い、
土層粗高。
51. 土いり黄褐色土 (2. SY4/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
52. 土いり黄褐色土 (10YR5/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
53. 黒褐色土 (2. SY3/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
54. 黄褐色土 (2. SY3/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
55. 土いり黄褐色土 (10YR5/3) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。
56. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまり中～強い、
土層粗高。

0 (1:50) 1m

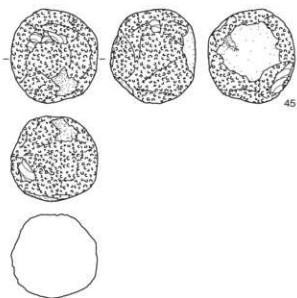
SI30	層様土	層深 (cm)
P1	黄褐色土	82+68 - 11
P2	黄褐色土	29+27 - 15
P3	黄褐色土	33+41 - 18
P4	黒褐色土	35+48 - 20
P5	土いり黄褐色土	31+51 - 16



0 (1:3) 10cm

第38図 SI30. 出土遺物

SI30・31



0 (1:3) 10cm

第39回 SI30・31出土遺物

所属遺構を特定できなかったことから、第39回にまとめて掲載している。土器は57点、石器12点である。43・44はIV a群である。45は敲磨器I d類である。

SI31 (第40図 写真図版24)

[位置・検出層位] II A 4・5・9・10グリッドに位置しており、標高88.1～88.2mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI33・36などが隣接している。
[重複遺構] SI30・32・34と重複しており、SI30より古く、SI32・34より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI30より床面が5cm前後高く、SI32より僅かに低いことを確認している。
[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸7.19m、短軸1.23～3.33m、検出面からの深さは50cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は45cm前後である。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色土を主体に34層からなる。これらは周囲より激しく流入する堆積状況を確認している。

[炉・土坑・柱穴] 住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。炉は検出していない。

P1～4は概ね壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は52～72cm、床面からの深さは15～19cmである。

[出土遺物] 土器1点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

石器は礫片である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期は重複関係から判断している。また、堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、10,150yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より古い値である。この要因については判然としない。詳細は159頁に記載している。また、SI30にも記載したように、検出面において両遺構に跨がる遺物(第39図43～45)を確認している。

SI32 (第41図 写真図版24・25)

[位置・検出層位] I A 24・25、II A 4・5グリッドに位置しており、標高87.9～88.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI29・35・36などが隣接している。

[重複遺構] SI31・33・37と重複しており、SI31より古く、SI33・37より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI31より床面が5cm前後高く、SI37より僅かに低いことを確認している。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸7.15m、短軸0.91～4.87m、検出面からの深さは45cmである。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は40cm前後である。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色土を主体に30層からなる。

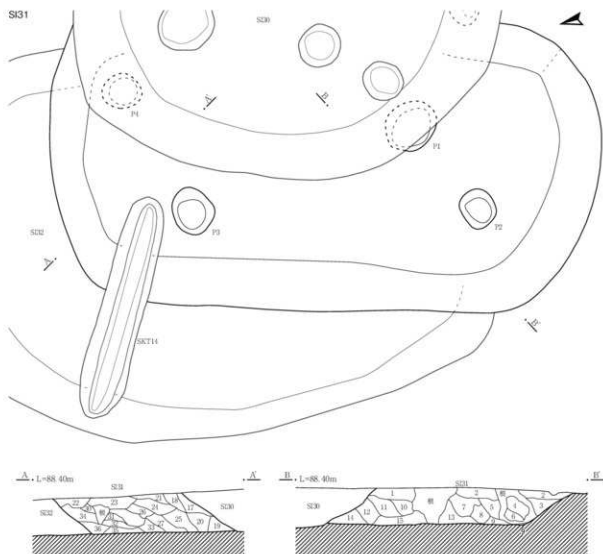
[炉・土坑・柱穴] 帰属する炉や柱穴などは検出していない。

[出土遺物] 土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はIV b群と分類不明のものだが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期は重複関係から判断している。



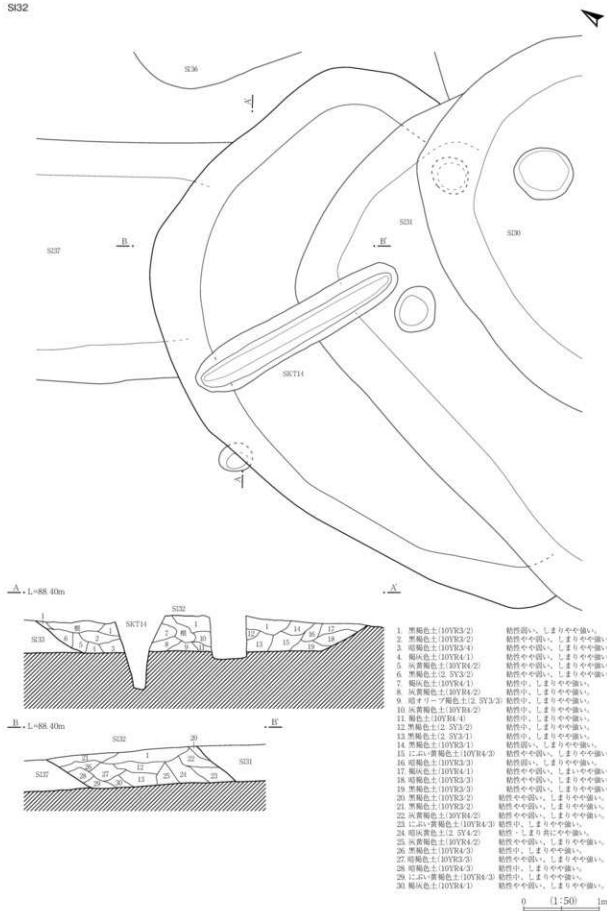
- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 2. 褐色土 (10YR4/1) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 3. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 4. 濃い黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 5. 褐色土 (10YR4/4) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 6. 褐色土 (10YR4/4) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 7. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 8. 褐色土 (10YR4/4) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 9. 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 10. 褐色土 (10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 11. 濃い黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 12. 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 13. 褐色土 (10YR4/4) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 14. 褐色土 (10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 15. 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 17. 褐色土 (10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 18. 黒色土 (10YR2/1) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 19. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 20. 濃い黄褐色土 (10YR4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 21. 褐色土 (10YR4/1) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 22. 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 23. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 24. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 25. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 26. 黄白色土 (2.5Y4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 27. 黄褐色土 (2.5Y5/3) | 粘性、しまり共にやや強い。 |
| 28. 褐色土 (10YR4/1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 30. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 31. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 32. 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 33. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 34. 褐色土 (10YR3/3) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 35. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 36. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘性やや強い、しまりやや強い。 |

SI31	層様土	層厚 (cm)
P1	褐色土	72×63 - 15
P2	1.0Y-黄褐色土	57×68 - 18
P3	1.0Y-黄褐色土	60×54 - 17
P4	褐色土	52×47 - 19

第40図 SI31

2 検出された遺構・遺物

SI32



第41図 SI32

SI33 (第42・43図 写真図版25)

【位置・検出層位】I A 23・24、II A 3・4グリッドに位置しており、標高87.8～88.2mの頂部から緩斜面に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI30・31・37などが隣接している。

【重複遺構】SI32と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI32の床面より僅かに低いことを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸4.01～5.97m、短軸4.72m、検出面からの深さは22～50cmである。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は20～30cmである。床面は北西方向に傾斜しているものの概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土を主体に64層からなる。これらは周囲より激しく流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴1個(P1・2)を確認している。炉は検出していない。

P1・2は壁際において対となるように配置されているが、対応する西壁側に認められないため用途は判然としない。

【出土遺物】石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

SI34 (第44図 写真図版26)

【位置・検出層位】II A 10、II B 6グリッドに位置しており、標高88.3～88.4mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI27・28・36などが隣接している。

【重複遺構】SI30・31・35と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI30の床面より10cm高いことを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形か隅丸方形である。規模は長軸2.46～4.09m、短軸3.45m、検出面からの深さは40cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は35cmである。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土を主体に31層からなる。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴2個(P1・2)を確認している。炉は検出していない。

P1・2は配置が判然としないため用途不明である。

【出土遺物】石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はII群が認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

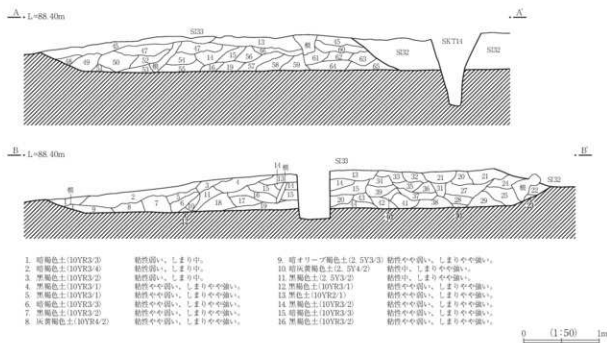
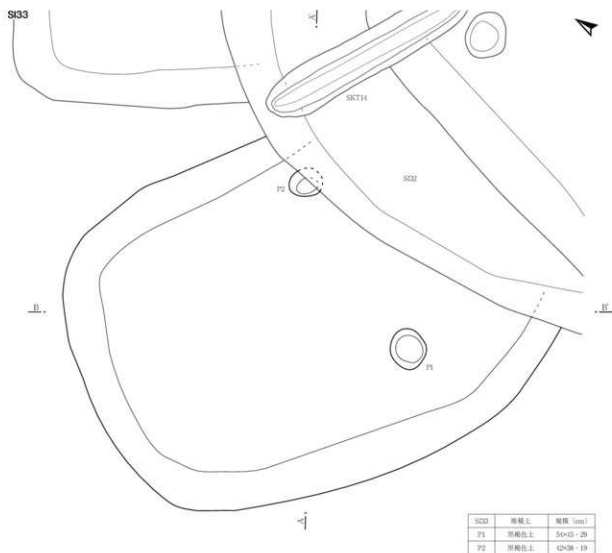
【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

SI35 (第45図 写真図版26・27)

【位置・検出層位】II A 5・10、II B 1・6グリッドに位置しており、標高88.0mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI23・27・28・29などが隣接している。

【重複遺構】SI30・31・34・36と重複しており、SI30・31より古く、SI34・36より新しい。トレンチを

2 検出された遺構・遺物



第42図 SI33

17. 黒褐色土 (I0YR6/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。	42. 暗褐色土 (I0YR7/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
18. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。	43. 暗褐色土 (I0YR3/3)	粘性強い、しまりやや強い。
19. 暗褐色土 (I0YR3/4)	粘性やや強い、しまりやや強い。	44. 暗褐色土 (I0YR4/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
20. オリーブ褐色土 (I2.5Y4/4)	粘性中、しまりやや強い。	45. 暗褐色土 (I0YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。
21. 暗褐色土 (I0YR4/1)	粘性強い、しまりやや強い。	46. 暗褐色土 (I0YR2/4)	粘性やや強い、しまりやや強い。
22. 灰褐色土 (I0YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。	47. 暗褐色土 (I0YR4/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
23. オリーブ褐色土 (I2.5Y4/3)	粘性中、しまりやや強い。	48. 灰褐色土 (I0YR4/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。
24. 暗褐色土 (I2.5Y4/2)	粘性中、しまりやや強い。	49. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。
25. 黒褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。	50. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
26. 一		51. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
27. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。	52. 暗褐色土 (I0YR3/2)	粘性中、しまりやや強い。
28. オリーブ褐色土 (I2.5Y4/4)	粘性やや強い、しまりやや強い。	53. 黒褐色土 (I0YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
29. 暗褐色土 (I2.5Y4/2)	粘性強い、しまりやや強い。	54. 黒褐色土 (I2.5Y4/2)	粘性中、しまりやや強い。
30. 濃い灰褐色土 (I0YR6/4)	粘性なし、しまり中、塊状崩壊土。	55. 黒褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
31. 暗褐色土 (I0YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。	56. 灰褐色土 (I0YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。
32. 暗褐色土 (I0YR4/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。	57. 暗褐色土 (I0YR4/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
33. 黄褐色土 (I2.5Y3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。	58. 灰褐色土 (I0YR4/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
34. 黒褐色土 (I0YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。	59. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
35. 黒褐色土 (I2.5Y3/4)	粘性やや強い、しまりやや強い。	60. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
36. 黒褐色土 (I0YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。	61. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
37. 黒褐色土 (I0YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。	62. 暗褐色土 (I0YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。
38. 暗褐色土 (I2.5Y4/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。	63. 黒褐色土 (I0YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。
39. 暗褐色土 (I0YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。	64. 黄褐色土 (I2.5Y4/1)	粘性中、しまりやや強い。
40. 黒褐色土 (I0YR4/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。	65. オリーブ褐色土 (I2.5Y3/2)	粘性中、しまりやや強い。
41. 黒褐色土 (I0YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。		

第43回 SI33土層注記

入れ切り合い関係を把握した結果、それぞれの住居との新旧関係を確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸6.22m、短軸4.73m、検出面からの深さは40cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は40～45cmである。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色・オリーブ褐色土を主体に63層からなる。

【竈・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。竈は検出していない。

P1・3・4は壁際付近に配置しており、主柱穴と考えられる。主柱穴に用いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は44～65cm、床面からの深さは23～43cmである。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。また、堆積土中から出土した炭化材を放射性炭素年代測定した結果、11,530yrBPと得られている。年代値は想定した遺構時期より古い値である。この要因については判然としない。詳細は159頁に記載している。

SI36 (第46回 写真図版27)

【位置・検出層位】I A 20・25、I B 21グリッドに位置しており、標高87.8～88.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竈穴住居群の北西側にあり、SI32・37などが隣接している。

【重複遺構】SI29・35と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI29の床面より僅かに高いことを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形か隅丸方形である。規模は長軸5.82m、短軸2.51～3.91m、検出面からの深さは35～50cmである。

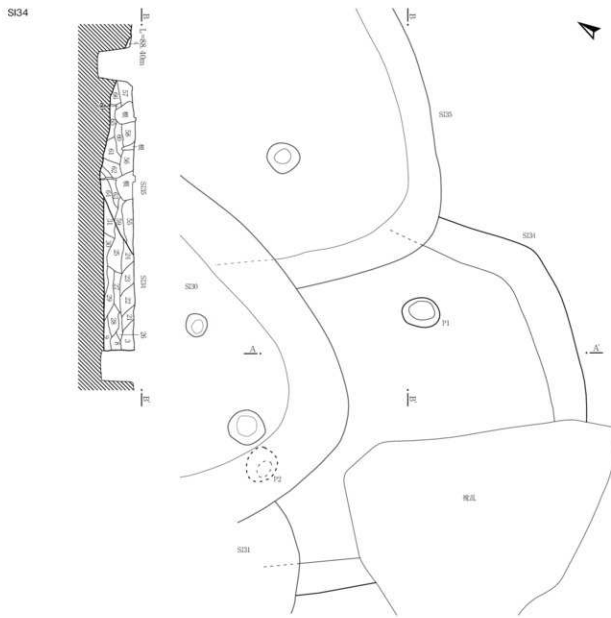
【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は35～43cmである。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土を主体に46層からなる。これらは周囲より流入する堆積状況を認識している。

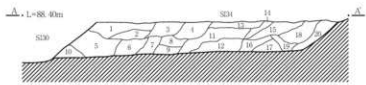
【竈・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴4個(P1～4)を確認している。竈は検出していない。

P1～3は壁際付近に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。ただし、北東壁際の配置が判然としていないものの、SI29の床面中央で検出されたP2～4が対応する可能性がある。主柱穴に用

2 検出された遺構・遺物



- S34
1. 黒褐色土(10YR3/1) 黏性やや強い、しまりやや強い
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 黏性やや強い、しまりやや強い
 3. 黒褐色土(10YR3/3) 黏性やや強い、しまりやや強い
 4. 灰黄褐色土(10YR4/1) 黏性やや強い、しまりやや強い
 5. 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 6. じいい黄褐色土(10YR4/3) 黏性中、しまりやや強い
 7. 灰黄褐色土(10YR4/4) 黏性中、しまりやや強い
 8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黏性中、しまりやや強い
 9. 暗灰黄褐色土(2.5Y4/3) 黏性中、しまりやや強い
 10. 黒褐色土(10YR3/1) 黏性やや強い、しまりやや強い
 11. 黒褐色土(10YR4/1) 黏性やや強い、しまりやや強い
 12. 黒褐色土(2.5Y4/2) 黏性やや強い、しまりやや強い
 13. 黒褐色土(10YR3/2) 黏性やや強い、しまりやや強い
 14. 黒褐色土(10YR3/2) 黏性やや強い、しまりやや強い
 15. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 黏性中、しまりやや強い
 16. オリーブ褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 17. オリーブ褐色土(2.5Y4/1) 黏性、しまり共にやや強い
 18. 暗褐色土(10YR3/4) 黏性中、しまりやや強い
 19. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 黏性中、しまりやや強い
 20. 黒褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 21. 灰オリーブ褐色土(2.5Y5/3) 黏性中、しまりやや強い
 22. 黒褐色土(10YR3/2) 黏性やや強い、しまりやや強い
 23. 黒褐色土(10YR4/1) 黏性やや強い、しまりやや強い
 24. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黏性中、しまりやや強い
 25. 褐色土(10YR4/4) 黏性中、しまりやや強い
 26. 暗褐色土(10YR3/3) 黏性中、しまりやや強い
 27. 灰黄褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 28. オリーブ褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 29. 灰オリーブ褐色土(2.5Y5/3) 黏性中、しまりやや強い
 30. 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 31. 黒褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い



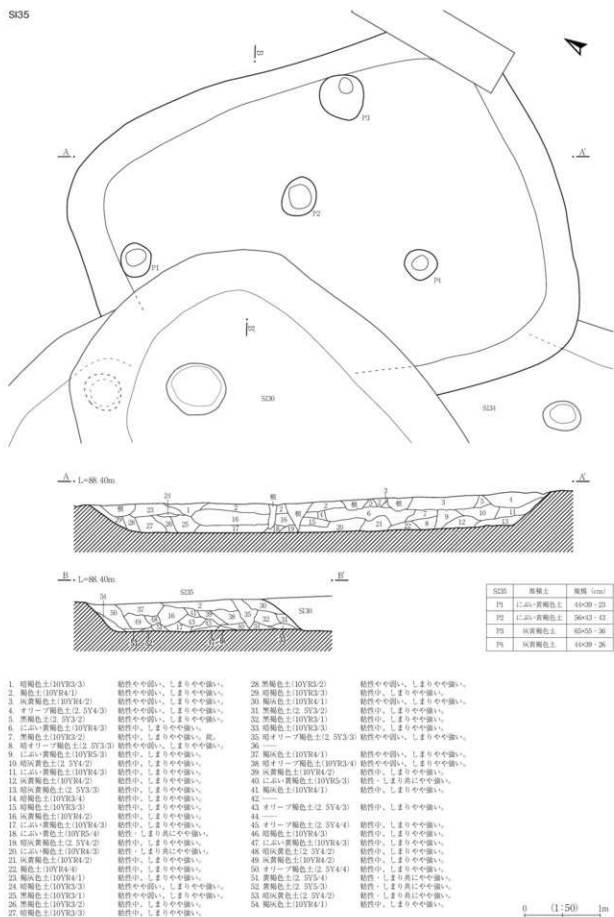
S34	層別土	範囲 (cm)
P1	灰黄褐色土	56×40・23
P2	暗褐色土	80×41・25

- S35
55. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黏性やや強い、しまり強い
 56. 暗褐色土(10YR3/4) 黏性中、しまりやや強い
 57. 褐色土(10YR3/1) 黏性やや強い、しまりやや強い
 58. 黒褐色土(10YR3/2) 黏性やや強い、しまりやや強い
 59. 暗褐色土(10YR3/3) 黏性中、しまりやや強い
 60. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黏性中、しまりやや強い
 61. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 黏性中、しまりやや強い
 62. 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い
 63. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黏性中、しまりやや強い
 64. じいい黄褐色土(10YR4/3) 黏性、しまり共にやや強い
 65. オリーブ褐色土(2.5Y4/1) 黏性中、しまりやや強い
 66. 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2) 黏性中、しまりやや強い



第44図 SI34

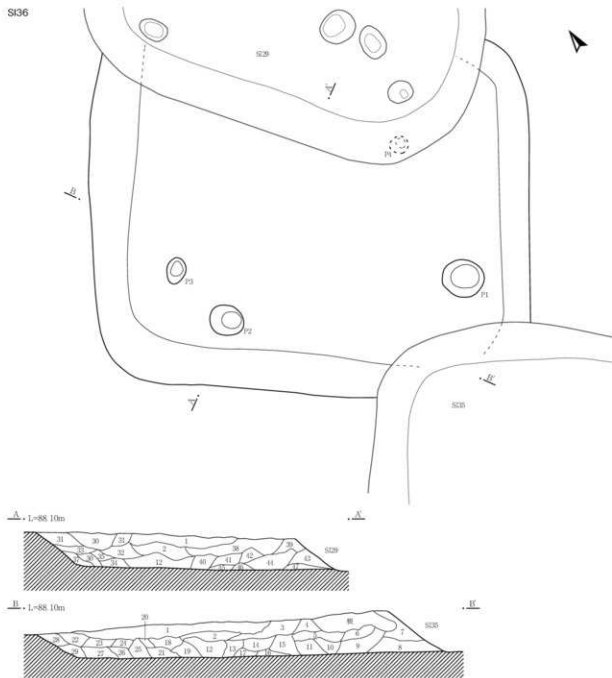
SI35



1. 明褐色土(10YR3/3) 粘性不中強い、しまり中不強い、
2. 褐色土(10YR4/1) 粘性不中強い、しまり中不強い、
3. 灰青褐色土(10YR4/2) 粘性不中強い、しまり中不強い、
4. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性不中強い、しまり中不強い、
5. 黒褐色土(2.5Y3/2) 粘性不中強い、しまり中不強い、
6. にじみ黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中不強い、
7. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中、しまり中不強い、
8. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 粘性不中強い、しまり中不強い、
9. にじみ黄褐色土(10YR5/3) 粘性中、しまり中不強い、
10. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性中、しまり中不強い、
11. にじみ黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中不強い、
12. 灰青褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中不強い、
13. 暗灰青褐色土(2.5Y3/3) 粘性中、しまり中不強い、
14. 明褐色土(10YR3/4) 粘性中、しまり中不強い、
15. 明褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまり中不強い、
16. 灰青褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中不強い、
17. にじみ黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中不強い、
18. にじみ黄色土(10YR5/4) 粘性 - しまり共に不強い、
19. 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2) 粘性中、しまり中不強い、
20. にじみ褐色土(10YR4/3) 粘性、しまり共に不強い、
21. 灰青褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中不強い、
22. 褐色土(10YR4/4) 粘性中、しまり中不強い、
23. 明褐色土(10YR4/1) 粘性不中強い、しまり中不強い、
24. 明褐色土(10YR3/2) 粘性不中強い、しまり中不強い、
25. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性不中強い、しまり中不強い、
26. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中、しまり中不強い、
27. 明褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまり中不強い、
28. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性不中強い、しまり中不強い、
29. 明褐色土(10YR3/2) 粘性中、しまり中不強い、
30. 褐色土(2.5Y4/1) 粘性不中強い、しまり中不強い、
31. 黒褐色土(2.5Y3/2) 粘性中、しまり中不強い、
32. 明褐色土(10YR3/1) 粘性中、しまり中不強い、
33. 明褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまり中不強い、
34. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 粘性不中強い、しまり中不強い、
35. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 粘性不中強い、しまり中不強い、
36. 明褐色土(10YR4/1) 粘性不中強い、しまり中不強い、
37. 暗オリーブ褐色土(10YR3/4) 粘性不中強い、しまり中不強い、
38. 暗オリーブ褐色土(10YR3/4) 粘性不中強い、しまり中不強い、
39. 灰青褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中不強い、
40. にじみ黄褐色土(10YR5/3) 粘性、しまり共に不強い、
41. 明褐色土(10YR4/1) 粘性中、しまり中不強い、
42. —
43. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性中、しまり中不強い、
44. —
45. オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 粘性中、しまり中不強い、
46. 明褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中不強い、
47. にじみ黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまり中不強い、
48. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性中、しまり中不強い、
49. 灰青褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまり中不強い、
50. オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 粘性中、しまり共に不強い、
51. 黄褐色土(2.5Y5/4) 粘性、しまり共に不強い、
52. 黄褐色土(2.5Y5/3) 粘性、しまり共に不強い、
53. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性、しまり共に不強い、
54. 明褐色土(10YR4/1) 粘性中、しまり中不強い、

第45図 SI35

2 検出された遺構・遺物



- | | | | |
|------------------------|-----------------|------------------------|--------------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3-1) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 25. 黒褐色土 (2. 5Y3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 2. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 26. 黄灰色土 (2. 5Y4-1) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 27. 黒褐色土 (10YR3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 4. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 28. 灰黄褐色土 (10YR4-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 5. 灰黄褐色土 (10YR4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 | 29. 黒褐色土 (2. 5Y3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 6. じいぶ黄褐色土 (10YR4-3) | 粘性中、しまりやや強い。 | 30. 黒褐色土 (10YR3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 7. 赤アース層褐色土 (2. 5Y3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 31. 暗褐色土 (10YR3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 8. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 32. 暗灰黄色土 (2. 5Y4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 9. 黒褐色土 (2. 5Y3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 33. 暗褐色土 (10YR3-4) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 10. 暗灰黄色土 (2. 5Y4-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 34. 暗褐色土 (10YR4-1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 11. じいぶ黄褐色土 (10YR4-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 35. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 12. 黒褐色土 (10YR3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 36. 黒褐色土 (10YR3-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 13. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性中、しまりやや強い。 | 37. 灰黄褐色土 (10YR4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 14. じいぶ黄褐色土 (10YR4-3) | 粘性中、しまりやや強い。 | 38. 暗褐色土 (10YR4-1) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 15. オリーブ褐色土 (2. 5Y4-3) | 粘性中、しまりやや強い。 | 39. 黒褐色土 (2. 5Y3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 |
| 16. 暗灰黄褐色土 (2. 5Y4-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 40. 暗灰黄色土 (2. 5Y4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 17. 灰黄褐色土 (10YR4-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 41. じいぶ黄褐色土 (10YR4-3) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 18. 灰黄褐色土 (10YR4-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 42. 灰黄褐色土 (10YR4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 19. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 43. 暗灰黄色土 (2. 5Y4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 20. 黒褐色土 (10YR3-1) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 44. 褐色土 (10YR4-1) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 21. 黒褐色土 (10YR3-2) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 45. 暗灰黄色土 (2. 5Y4-2) | 粘性中、しまりやや強い。 |
| 22. 暗褐色土 (10YR4-1) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 46. じいぶ黄褐色土 (2. 5Y6-2) | 粘性なし、しまり強い、テフララップ。 |
| 23. 暗褐色土 (10YR3-3) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | 47. 暗褐色土 (10YR4-1) | 粘性弱い、しまりやや強い。 |
| 24. 暗褐色土 (10YR4-1) | 粘性やや弱い、しまりやや強い。 | | |

SI36	層相土	範囲 (cm)
P1	灰黄褐色土	22+51 - 22
P2	黒褐色土	96+11 - 36
P3	灰黄褐色土	27+21 - 24
P4	灰黄褐色土	28+23 - 23

0 (1:50) 1m

第46図 SI36

いられた柱穴の規模と形状にはばらつきが認められる。規模は28～57cm、床面からの深さは23～36cmである。

【出土遺物】土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はIV a 群が認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

SI37 (第47図 写真図版28)

【位置・検出層位】I A 24・25グリッドに位置しており、標高87.8～88.0mの頂部から緩斜面に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の北西側にあり、SI33・36などが隣接している。

【重複遺構】SI32と重複しており、本遺構が古い。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI32の床面より僅かに高いことを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.76～3.34m、短軸3.19m、検出面からの深さは30cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は25cm前後である。床面は北東方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明のふい黄褐色土を主体に15層からなる。これらは斜面上方の北東方向より流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】帰属する炉や柱穴などは検出していない。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

SI38 (第47図 写真図版28・29)

【位置・検出層位】II C 12・17グリッドに位置しており、標高87.6mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の南東側にあり、SI08～10などが隣接している。

【重複遺構】SK53と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.51m、短軸2.79m、検出面からの深さは40cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は35cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に29層からなる。中位にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。これらは周囲より流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】帰属する炉や柱穴などは検出していない。

【出土遺物】土器2点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

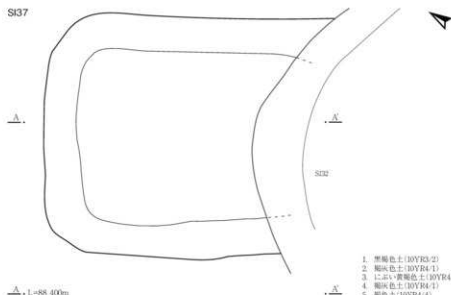
土器はIV a 群が認められたが、小片のため図化していない。

石器は敲磨器類である。

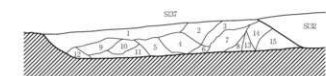
【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

2 検出された遺構・遺物

SI37

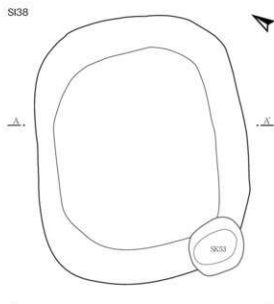


A-A, L=88.400m



1. 赤褐色土(10YR3/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、
2. 褐色土(10YR4/1) 粘性やや強い、しまりやや強い、
3. 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまりやや強い、
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性中、しまりやや強い、
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性、しまり共にやや強い、
6. 濃い黄褐色土(10YR3/4) 粘性、しまり共にやや強い、 礫山崩壊土、
7. 濃い黄褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまりやや強い、
8. 褐色土(10YR4/1) 粘性中、しまりやや強い、
9. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性中、しまりやや強い、
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまりやや強い、
11. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性、しまり共にやや強い、
12. 濃い黄褐色土(10YR3/3) 粘性、しまり共にやや強い、
13. 濃い黄褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまりやや強い、
14. 褐色土(10YR4/1) 粘性やや強い、しまりやや強い、
15. 濃い黄褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまりやや強い、

SI38



A-A, L=67.800m



1. 褐色土(10YR4/1) 粘性やや強い、しまりやや強い、
2. 赤褐色土(10YR3/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、
3. 赤褐色土(10YR3/1) 粘性やや強い、しまりやや強い、
4. 赤褐色土(2.5Y3/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、
5. 赤褐色土(2.5Y3/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、
6. 赤褐色土(10YR3/1) 粘性やや強い、しまりやや強い、
7. 赤褐色土(10YR3/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、
8. 褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い、しまりやや強い、土層相違点、
9. 褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い、しまりやや強い、土層相違点、
10. 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性中、しまりやや強い、
11. 褐色土(10YR4/1) 粘性中、しまりやや強い、
12. 灰褐色土(2.5Y4/1) 粘性中、しまりやや強い、
13. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性中、しまりやや強い、
14. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性やや強い、しまりやや強い、
15. 暗黄褐色土(2.5Y4/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、炭酸カルシウム、
16. 赤褐色土(10YR3/1) 粘性中、しまりやや強い、
17. 褐色土(10YR4/1) 粘性中、しまりやや強い、
18. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまりやや強い、
19. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性やや強い、しまりやや強い、
20. 暗黄褐色土(2.5Y4/2) 粘性中、しまりやや強い、
21. 濃い黄褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い、しまりやや強い、
22. 褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い、しまりやや強い、
23. 褐色土(10YR3/3) 粘性中、しまりやや強い、
24. —
25. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性中、しまりやや強い、
26. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性やや強い、しまりやや強い、
27. —
28. 暗黄褐色土(2.5Y4/2) 粘性中、しまりやや強い、
29. 赤褐色土(2.5Y3/2) 粘性中、しまりやや強い、
30. 暗黄褐色土(2.5Y4/2) 粘性中、しまりやや強い、
31. 濃い黄褐色土(10YR3/4) 粘性中、しまりやや強い、

0 1:50 1m

SI39 (第48図 写真図版29)

〔位置・検出層位〕ⅡB21、ⅢB1・2グリッドに位置しており、標高88.2～88.7mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI18・19の5m西、SI05の15m北に位置している。

〔重複遺構〕SI40・41・43と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI40・41・43より床面が低いことを確認している。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形である。規模は長軸4.04m、短軸3.93m、検出面からの深さは35～55cm前後である。

〔壁・床面〕壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は30～55cm前後である。床面は西・北方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に27層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。これらは斜面上方の東方向より流入する堆積状況を確認している。

〔炉・土坑・柱穴〕遺構に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1～3は北壁際寄りに配置しているが、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は27～61cm、床面からの深さは18～36cmである。

〔出土遺物〕土器55点、石器8点が検出面及び堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に帰属する。

46はⅡa群である。この他にはⅣa群が認められたが、小片のため図化していない。

47は石鏃である。この他は不定形石器、剥片、敲磨器類などである。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕本遺構と重複するSI40・41などとの検出面からは多くの遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、一括して報告している。それらについては第54～56図に掲載しており、Ⅱa・c群、Ⅳa・b群、V群などが認められている。

SI40 (第48図 写真図版30)

〔位置・検出層位〕ⅡB21・22、ⅢB2グリッドに位置しており、標高88.7～88.9mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI18・19の5m西、SI05の15m北に位置している。

〔重複遺構〕SI39・43・44と重複しており、SI39・43より古く、SI44より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI39より床面が高いことを確認している。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸4.96m、短軸1.77～2.69m、検出面からの深さは47cm前後である。

〔壁・床面〕壁は外傾して立ち上がる。壁高は45cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色・灰黄褐色土を主体に13層からなる。これらは斜面上方の東方向より流入する堆積状況を確認している。

〔炉・土坑・柱穴〕遺構に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕遺構時期については重複関係から判断している。

SI41 (第48図 写真図版30)

【位置・検出層位】ⅢA5、ⅢB1グリッドに位置しており、標高87.9～88.2mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI18・19の5m西、SI05の15m北に位置している。

【重複遺構】SI39・46・52と重複しており、SI39・46より古く、SI52より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI39より床面が僅かに高いことを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸3.31m、短軸1.42～2.57m、検出面からの深さは30cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は30cm前後である。床面は西・北方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明のぶい黄褐色・褐灰色土を主体に13層からなる。これらは斜面上方の東方向より流入する堆積状況を確認している。

【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴1個(P1)を確認している。炉は検出していない。

P1は配置が判然としなため用途不明である。

【出土遺物】土器19点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

63はV群である。その他には掲載遺物と同群のものが認められたが、小片のため図化していない。石器は剥片である。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】本遺構と重複するSI39との検出面からは多くの遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、一括して報告している。それらについては第56・57図に掲載しており、Ⅱa群、Ⅲ群、Ⅳa群などの土器が認められている。

SI42 (第49図 写真図版31)

【位置・検出層位】ⅢB1・2・6・7グリッドに位置しており、標高88.8～88.9mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI03の12m西、SI05の10m北に位置している。

【重複遺構】SI43・45・49・54と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI44・45より床面が僅かに低いことを確認している。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.63m、短軸2.82m、検出面からの深さは55cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は40～50cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・褐灰色土を主体に17層からなる。中位にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

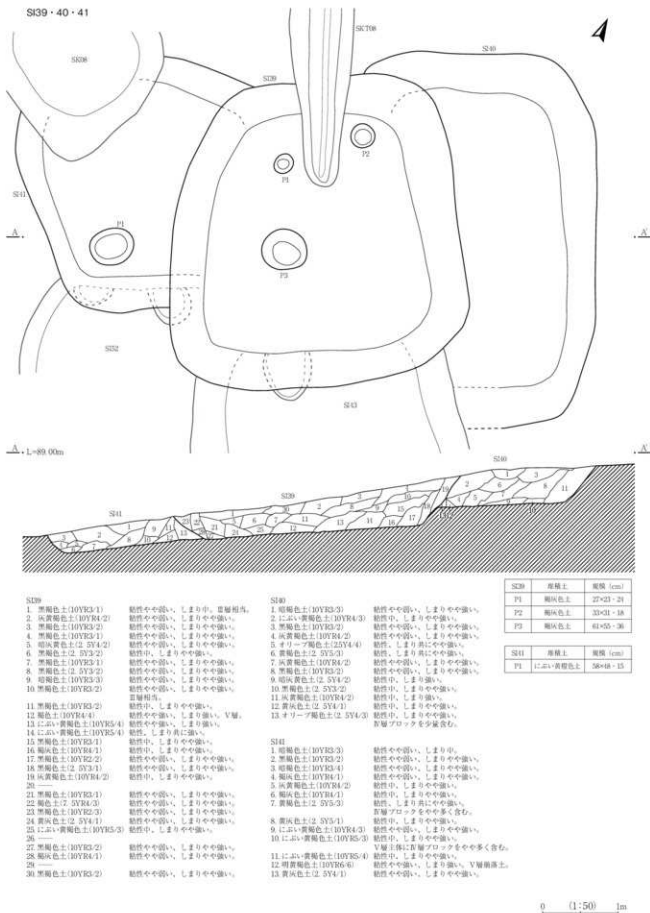
【炉・土坑・柱穴】住居に帰属する柱穴1個(P1)を確認している。炉は検出していない。

P1は配置が判然としなため用途不明である。

【出土遺物】出土していない。

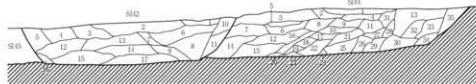
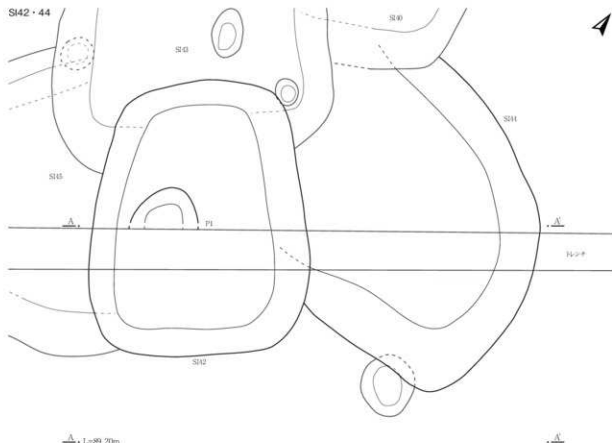
【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】本遺構と重複する遺構の検出面からは多くの遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、一括して報告している。それらについては第56・57図に掲載しており、Ⅱa群、Ⅲ群、Ⅳa群など土器が認められている。



第48図 S139～41

2 検出された遺構・遺物



SI42

1. 黒色土 (10YR2/1) 粘質中～やや強い、しまり中～強い。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質中、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質中～やや強い、しまり中～強い。
4. 褐色土 (10YR2/3) 粘質中～やや強い、しまり中～強い。
5. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中～やや強い、しまり中～強い。
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中、しまり中～強い。
8. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い、甚細粒高。
9. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～やや強い、しまり中～強い。
10. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
11. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中、しまり中～強い。
12. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
14. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中、しまり中～強い。
15. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い、IV層間落土。
16. 灰黄色土 (10YR4/3) 粘質中、しまり中～強い。
17. 褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。

SI44

1. 黒色土 (10YR2/2) 粘質中～強い、しまり中～強い。
2. 褐色土 (10YR2/3) 粘質中～強い、しまり中～強い。
3. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～強い、しまり中～強い。
4. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
5. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～強い、しまり中～強い。
6. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中、しまり中～強い。
8. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
9. 灰黄色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
10. 灰黄色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
11. 灰黄色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
12. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中～強い、しまり中～強い。
13. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
14. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中～強い、しまり中～強い。
15. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中、しまり中～強い。
16. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
17. 灰黄色土 (10YR4/2) 粘質中～強い、しまり中～強い。
18. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質中、しまり中～強い。
19. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質中、しまり中～強い。
20. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質中～強い、しまり中～強い。
21. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
22. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中～強い、しまり中～強い。
23. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
24. 灰黄色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
25. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
26. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
27. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
28. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
29. 灰黄色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
30. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中～強い、しまり中～強い。
31. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘質中、しまり中～強い。
32. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまり中～強い。
33. 灰黄色土 (10YR4/3) 粘質中、しまり中～強い。
34. 灰黄色土 (10YR4/2) 粘質中、しまり中～強い。
35. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質中～強い、しまり中～強い。

SI42	層様土	層厚 (cm)
PI	灰黄褐色土	88942-33



第49図 SI42・44

SI43 (第50図 写真図版31・32)

[位置・検出層位] III B 1・2・6グリッドに位置しており、標高88.4～88.7mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI03の13m西、SI05の13m北に位置している。

[重複遺構] SI39・40・42・44・45・52と重複しており、SI39・42より古く、SI40・44・45・52より新しい。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸3.64m、短軸1.07～2.61m、検出面からの深さは30cm前後である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は30～50cm前後である。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に22層からなる。東側の斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

[炉・土坑・柱穴] 遺構に帰属する柱穴3個(P1～3)を確認している。炉は検出していない。

P1～3は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状にはばらつきが認められる。規模は35～66cm、床面からの深さは16～33cmである。

[出土遺物] 土器28点、石器7点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

72はII a群、73はIV a群である。この他は周辺に位置する遺構から出土した土器と接合している。

74は敲磨器I d類、75は敲磨器I a類である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 本遺構と重複する遺構の検出面からは多くの遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、一括して報告している。それらについては第55～57図に掲載しており、II a・b群、IV a・b群、V群などの土器が認められる。

SI44 (第49図 写真図版32)

[位置・検出層位] III B 2・3・7・8グリッドに位置しており、標高88.9～89.0mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI03の10m西、SI05の7m北に位置している。

[重複遺構] SI40・42・43・49と重複しており、SI40・42・43より古く、SI49より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI42より床面が僅かに高いことを確認している。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸3.65m、短軸3.57m、検出面からの深さは55cm前後である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は45cm前後である。床面は西・北方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色土を主体に35層からなる。東側の斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

[炉・土坑・柱穴] 遺構に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

[出土遺物] 土器15点、石器9点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

76はVI群である。この他の土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

77は敲磨器III類である。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕 遺構時期は重複関係から判断している。

SI45 (第50図 写真図版33)

〔位置・検出層位〕 ⅢB 6・7グリッドに位置しており、標高88.7mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI03の15m西、SI05の10m北に位置している。

〔重複遺構〕 SI42・43・47・52・54と重複しており、SI42・43・47より古く、SI52・54より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI42・47より床面が僅かに高いことを確認している。

〔平面形・規模〕 確認できた平面形は楕円形基調である。規模は長軸4.07m、短軸0.91～1.31m、検出面からの深さは45cm前後である。

〔壁・床面〕 壁は外傾して立ち上がる。壁高は30cm前後である。床面は西・北方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

〔堆積土〕 主体層位不明の褐灰色土を主体に11層からなる。

〔炉・土坑・柱穴〕 遺構に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

〔出土遺物〕 土器1点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はⅣa群が認められたが、小片のため図化していない。

石器は礫片である。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕 遺構時期は重複関係から判断している。

SI46 (第51図 写真図版33)

〔位置・検出層位〕 ⅢA 5、ⅢB 1グリッドに位置しており、標高87.6～87.9mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所であり、SI18・19の11m西、SI05の20m北に位置している。

〔重複遺構〕 SI41・48・51と重複しており、本遺構が新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI48より床面が僅かに高いことを確認している。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸方形である。規模は長軸2.40m、短軸2.17m、検出面からの深さは38cm前後である。

〔壁・床面〕 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は40～50cm前後である。床面は概ね平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色・灰黄褐色土を主体に19層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。これらは東側の斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

〔炉・土坑・柱穴〕 遺構に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

〔出土遺物〕 土器2点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はⅣa群などが認められたが、小片のため図化していない。

石器は礫片である。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕 遺構時期は重複関係から判断している。また、本遺構と重複するSI48の検出面からは多くの

2 検出された遺構・遺物

遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、一括して報告している。それらについては第58・59図に掲載しており、Ⅱa群、Ⅲ群、Ⅳa群、Va・b群などの土器、石鍬や石匙などが認められている。

SI47 (第50図)

〔位置・検出層位〕ⅢB6グリッドに位置しており、標高88.5～88.7mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所にあり、SI03の20m西、SI05の10m北に位置している。

〔重複遺構〕SI45・52と重複しており、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.11m、短軸1.13m、検出面からの深さは45cm前後である。

〔壁・床面〕壁は外傾して立ち上がる。壁高は20～40cm前後である。床面は北方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色・オリーブ褐色土を主体に20層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔竪・土坑・柱穴〕遺構に帰属する竪や柱穴などは検出していない。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕本遺構と重複する遺構の検出面からは多くの遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、それらについては一括して第57・58図に掲載している。

SI48 (第51図 写真図版34)

〔位置・検出層位〕ⅡA25、ⅢA5グリッドに位置しており、標高87.3～87.5mの南向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所にあり、SI18・19の11m西、SI05の20m北に位置している。

〔重複遺構〕SI46・51、SK37と重複しており、SI46、SK37より古く、SI51より新しい。トレンチを入れ切り合い関係を把握した結果、SI46より床面が僅かに低いことを確認している。

〔平面形・規模〕確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.58m、短軸1.12～1.75m、検出面からの深さは30cm前後である。

〔壁・床面〕壁は外傾して立ち上がる。壁高は25cm前後である。床面は北・西方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色土を主体に5層からなる。

〔竪・土坑・柱穴〕遺構に帰属する竪や柱穴などは検出していない。

〔出土遺物〕土器3点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はV群などが認められたが、小片のため図化していない。

96は不定形石器Ⅳ類である。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕本遺構と重複する遺構の検出面からは多くの遺物が出土している。遺構を特定できなかったことから、それらについては一括して第59・60図に掲載している。

SI49 (第51・52図 写真図版34・35)

[位置・検出層位] III B 7・8グリッドに位置しており、標高88.9～89.1mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所にあり、SI03の10m西、SI05の4m北に位置している。

[重複遺構] SI42・44・54と重複しており、SI42・44より古く、SI54より新しい。SI42・44などの南壁に本遺構の立ち上がりを確認している。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.51m、短軸2.96m、検出面からの深さは60cm前後である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は50cm前後である。床面は北・西方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色・灰黄褐色土を主体に29層からなる。これらは東側の斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

[竈・土坑・柱穴] 遺構に帰属する柱穴1個(P1)を確認している。竈は検出していない。主柱穴の可能性はある。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期は重複関係から判断している。

SI50 (第51図 写真図版35)

[位置・検出層位] II B 16・21・22グリッドに位置しており、標高88.3～88.6mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の中央北側にあり、SI19・24・40などが隣接している。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸3.68m、短軸2.37m、検出面からの深さは25cm前後である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は20～30cm前後である。床面は北・西方向に若干傾斜しているものの概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明のオリブ褐色・灰黄褐色土を主体に13層からなる。

[竈・土坑・柱穴] 遺構に帰属する竈や柱穴などは検出していない。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期は周辺に配置されている遺構の時期から判断している。

SI51 (第53図 写真図版35)

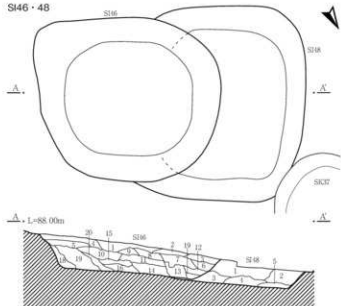
[位置・検出層位] III A 5グリッドに位置しており、標高87.5mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。本遺構は頂部に形成されている竪穴住居群より離れた場所にあり、SI18・19の11m西、SI05の20m北に位置している。

[重複遺構] SI46・48と重複しており、本遺構が古い。両遺構の南壁に本遺構の立ち上がりを確認している。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸1.53m、短軸1.07m、検出面

2 検出された遺構・遺物

SI46・48



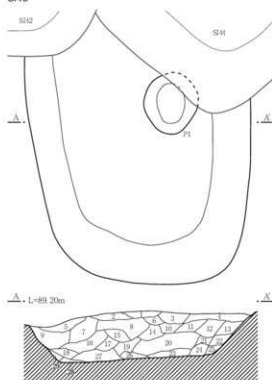
SI46

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性や中強い, しまりや中強い。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
5. 黒褐色土 (10YR3/4) 粘性や中強い, しまりや中強い。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
8. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
9. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
10. 10に△(黄褐色土 (10YR4/3) 粘性, しまり共に中強い。
11. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
12. 暗灰褐色土 (2. 5Y4/2) 粘性中, しまりや中強い。
13. 灰黄褐色土 (2. 5Y3/4) 粘性中, しまりや中強い。
14. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
15. オリーブ褐色土 (2. 5Y4/3) 粘性中, しまりや中強い。
16. 暗灰黄色土 (2. 5Y4/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
17. —
18. 暗灰褐色土 (10YR4/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
19. 10に△(黄褐色土 (10YR3/4) 粘性や中強い, しまり強い。
20. 10に△(黄褐色土 (10YR3/3) 粘性中, しまりや中強い。

SI48

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中, しまりや中強い。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
4. 10に△(黄褐色土 (10YR3/3) 粘性, しまり共に中強い。
5. オリーブ褐色土 (2. 5Y4/3) 粘性中, しまりや中強い。

SI49



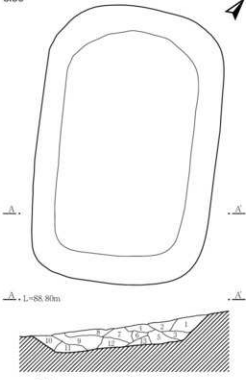
SI49

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性や中強い, しまりや中強い。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性や中強い, しまりや中強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
5. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
6. 黒褐色土 (10YR3/4) 粘性中, しまりや中強い。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
8. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性や中強い, しまりや中強い。
9. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性や中強い, しまりや中強い。
10. 暗灰黄色土 (2. 5Y4/2) 粘性中, しまりや中強い。
11. 黒褐色土 (2. 5Y3/1) 粘性中, しまりや中強い。
12. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
14. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中, しまりや中強い。
15. 10に△(黄褐色土 (10YR4/3) 粘性, しまり共に中強い。
16. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
17. 褐色土 (10YR4/4) 粘性中, しまりや中強い。
18. 暗灰黄色土 (2. 5Y4/2) 粘性中, しまりや中強い。
19. 10に△(黄褐色土 (10YR3/4) 粘性弱い, しまり中, 灰層ブロックを少量含む。

SI49

層	地層土	視察 (cm)
SI49	黒褐色土	82~98・25
P1	黒褐色土	

SI50



SI50

1. 暗灰褐色土 (10YR4/1) 粘性や中強い, しまりや中強い。
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中, しまりや中強い。
3. 10に△(黄褐色土 (10YR3/3) 粘性, しまり共に中強い。
4. オリーブ褐色土 (2. 5Y4/3) 粘性, しまり共に中強い。
5. オリーブ褐色土 (2. 5Y4/4) 粘性, しまり共に中強い。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性, しまり共に中強い。
7. 黄褐色土 (2. 5Y4/1) 粘性, しまり共に中強い。
8. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性や中強い, しまりや中強い。
9. 黒褐色土 (2. 5Y3/1) 粘性, しまり共に中強い。
10. 暗灰黄色土 (2. 5Y4/2) 粘性中, しまりや中強い。
11. オリーブ褐色土 (2. 5Y4/4) 粘性, しまり共に中強い。
12. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性, しまり共に中強い。
13. オリーブ褐色土 (2. 5Y4/3) 粘性, しまり共に中強い。

0 (1:50) 1m

第51図 SI46, SI48~50

20. 黒褐色土(S10YR2/2)	粘性の中強い、しまりやや強い、灰層がロックを多量含む。	25. 明褐色土(S10YR7/6)	粘性・しまり共に強い、灰層層薄土。
21. 黒褐色土(S10YR2/1)	粘性の中強い、しまりやや強い。	26. 灰黄褐色土(S10YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。
22. 灰黄褐色土(S10YR4/2)	粘性中、しまり強い、灰層層薄土。	27. 褐色土(S10YR4/1)	粘性中、しまりやや強い。
23. 黒褐色土(S10YR2/2)	粘性中、しまりやや強い。	28. オリーブ褐色土(S10YR4/3)	粘性の中強い、しまりやや強い。
24. 灰黄褐色土(S10YR4/2)	粘性中、しまりやや強い、灰層層薄土。	29. 黒褐色土(S10YR2/2)	粘性中、しまりやや強い。

第52図 S149土層注記

からの深さは25cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は25cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の褐灰色土を主体に7層からなる。これらは東側の斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

【竈・土坑・柱穴】遺構に帰属する竈や柱穴などは検出していない。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

S152 (第53図 写真図版36)

【位置・検出層位】ⅢB 1・6グリッドに位置しており、標高88.2~88.4mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は頂部に形成されている竈穴住居群より離れた場所であり、S103の20m西、S105の15m北に位置している。

【重複遺構】SI39・41・43・45・47、SK41と重複しており、本遺構が古い。SI41・47などの壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形基調である。規模は長軸3.54m、短軸2.17m、検出面からの深さは30cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は20cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土を主体に15層からなる。

【竈・土坑・柱穴】遺構に帰属する柱穴4個(P1~4)を確認している。竈は検出していない。

P1~4は壁際に配置しており、配列から主柱穴と考えられる。規模と形状は概ね類似している。規模は44~54cm、床面からの深さは8~15cmである。

【出土遺物】土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はⅡa群であり、64に接合している。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期は重複関係から判断している。

S153 (第53図 写真図版36・37)

【位置・検出層位】ⅢB 3グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。当該期の竈穴住居群の南西側にあり、S103・16・20などが隣接している。

【重複遺構】SI56・57、SK35・49と重複しており、SK35より古く、SI56・57、SK49より新しい。SK35の壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.32m、短軸2.26m、検出面からの深さは55cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は50cm前後である。床面は概ね平坦である。

2 検出された遺構・遺物

[堆積土] 黒褐色・灰黄褐色土を主体に12層からなる。

[竈・土坑・柱穴] 遺構に帰属する柱穴1個(P1)を確認している。竈は検出していない。P1は主柱穴の可能性がある。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期は重複関係から判断している。

SI54 (第53図 写真図版37)

[位置・検出層位] III B 7 グリッドに位置しており、標高88.7mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。本遺構は頂部に形成されている堅穴住居群より離れた場所にあり、SI03の12m西、SI05の6m北に位置している。

[重複遺構] SI42・45・49と重複しており、本遺構が古い。SI45・49の壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.33m、短軸1.52m、検出面からの深さは35cm前後である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は35cm前後である。床面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明のオリブ褐色土を主体に7層からなる。

[竈・土坑・柱穴] 遺構に帰属する竈や柱穴などは検出していない。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期は重複関係から判断している。

SI55 (第54図 写真図版38)

[位置・検出層位] III B 9 グリッドに位置しており、標高89.1～89.2mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の堅穴住居群の南西側にあり、SI03～05・07などが隣接している。また、南東方向には土坑群が認められる。

[重複遺構] SK54と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.73m、短軸2.10m、検出面からの深さは38cm前後である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がり、全周する。壁高は35cm前後である。床面は概ね平坦である。

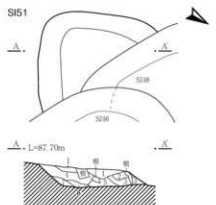
[堆積土] 黒褐色土を主体に8層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[竈・土坑・柱穴] 遺構に帰属する竈や柱穴などは検出していない。

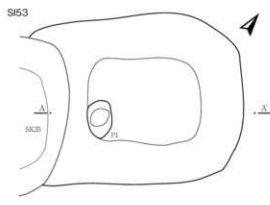
[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

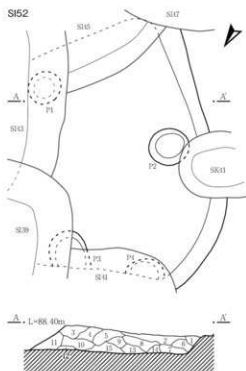
[備考] 遺構時期については主体層から判断している。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
4. 二色黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
5. 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘性中、しまり中～強い。
6. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまり中～強い。
7. 暗褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり強い。
2. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。
5. 黄褐色土 (2.5Y4/1) 粘性中、しまり中～強い。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
8. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い。
9. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
10. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
11. 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
12. 二色黄褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。

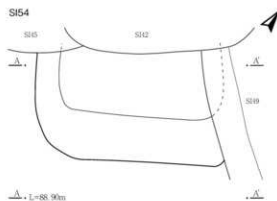


1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性中、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘性中～強い、しまり中～強い、瓦層相見。
4. 黄褐色土 (2.5Y4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
5. 暗褐色土 (10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
6. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) 粘性中、しまり中～強い。
7. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い、瓦層。
8. 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性中、しまり中～強い、瓦層ブロックを少量含む。
9. 黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
10. 二色黄褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い、瓦層ブロックを少量含む。
11. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
12. 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性中、しまり中～強い。
13. 黄褐色土 (2.5Y3/3) 粘性中、しまり中～強い。
14. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
15. 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。

SI52	階層土	規模 (cm)
P1	灰黄褐色土	41×42 - 15
P2	灰黄褐色土	34×48 - 8
P3	灰黄褐色土	38×47 - 10
P4	灰黄褐色土	47×21 - 15

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり強い。
2. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。
5. 黄褐色土 (2.5Y4/1) 粘性中、しまり中～強い。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
8. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性中～強い、しまり中～強い。
9. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
10. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中、しまり中～強い。
11. 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
12. 二色黄褐色土 (10YR3/2) 粘性中、しまり中～強い。

SI53	階層土	規模 (cm)
P1	灰黄褐色土	59×36 - 26



1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
2. 二色黄褐色土 (10YR4/2) 粘性中～強い、しまり中～強い。
3. 暗褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまり中～強い。
4. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) 粘性中、しまり中～強い。
5. 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性中～強い、しまり中～強い。
6. オリーブ褐色土 (2.5Y4/3) 粘性中、しまり中～強い。
7. 暗褐色土 (10YR4/1) 粘性中、しまり中～強い。

SI54	階層土	規模 (cm)
P1	二色黄褐色土	30×36 - 26

0 (1:50) 1m

第53図 SI51～54

SI56 (第54図 写真図版38・39)

【位置・検出層位】ⅢB3・4グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

【重複遺構】SI03・53、SK43・49と重複しており、SI03、SI53、SK43より古く、SK49より新しい。重複する遺構の壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は不整形である。規模は長軸3.32m、短軸3.28m、検出面からの深さは52cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は45cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の灰黄褐色土を主体に6層からなる。

【炉・土坑・柱穴】遺構に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については重複関係から判断している。また、本遺構と重複するSK49も平面形状と規模が類似することから住居跡の可能性がある。

SI57 (第54図 写真図版39)

【位置・検出層位】ⅡB23、ⅢB3グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。当該期の竪穴住居群の南西側にあり、SI03・16・20などが隣接している。

【重複遺構】SI53と重複しており、本遺構が古い。SI53の壁面に本遺構の立ち上がりを確認している。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は長軸2.35m、短軸1.73m、検出面からの深さは40cm前後である。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がる。壁高は35cm前後である。床面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明のオリブ褐色土を主体に8層からなる。

【炉・土坑・柱穴】遺構に帰属する炉や柱穴などは検出していない。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については重複関係から判断している。

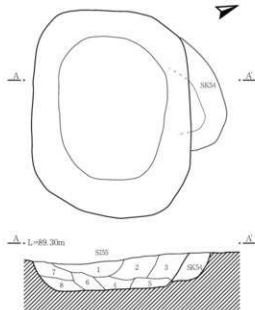
SI39～48一括出土遺物 (第60・61図)

トレンチ調査により検出面付近で出土したものが、各遺構に帰属できなかった遺物を一括して掲載している。

97～99はⅡa群、100はⅡ群、101・102はⅢa群、103～106はⅣa群、107はⅤb群である。底部には尖底と平底が認められる。

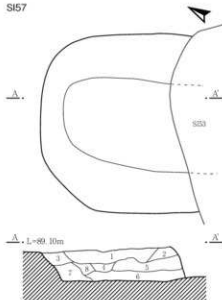
109は尖頭器、110～112は石鏃Ⅱ類、113～115は不定形石器Ⅱ・Ⅰ・Ⅳ類、116は石鏢、117は敲磨器Ⅲ類である。

SI55



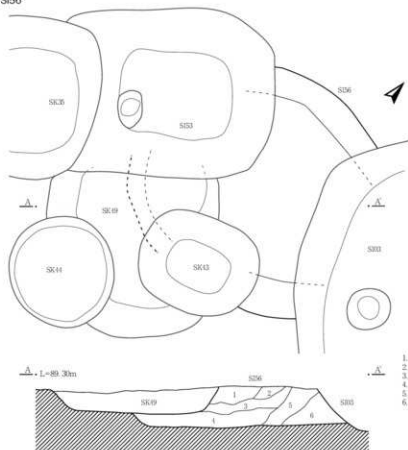
1. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘質やや中硬い、しまりやや強い、量層相当。
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
3. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまりやや中強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質中、しまりやや中強い。
5. 黄褐色土 (10YR5/6) 粘質、しまり共にやや強い。
6. 褐色土 (10YR4/1) 粘質中、しまりやや中強い。
7. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまりやや中強い。
8. 褐色土 (10YR4/1) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。

SI57



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質やや中硬い、しまり強い。
2. 褐色土 (10YR4/1) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
3. 褐色土 (10YR4/1) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質硬い、しまり中。
5. 灰黄色〜黄褐色土 (2.5YR3/2) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
6. 褐色土 (10YR4/1) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
7. 黄色〜黄褐色土 (2.5Y4/4) 粘質中、しまりやや中強い。
8. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘質中、しまりやや中強い。

SI56



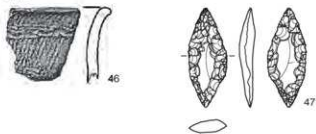
1. 褐色土 (10YR4/1) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質やや中硬い、しまりやや中強い。
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまりやや中強い。
4. 黄褐色土 (10YR5/6) 粘質中、しまりやや中強い。
5. 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 粘質中、しまりやや中強い。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質中、しまりやや中強い。

0 (1:50) 1m

第54図 SI55~57

2 検出された遺構・遺物

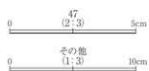
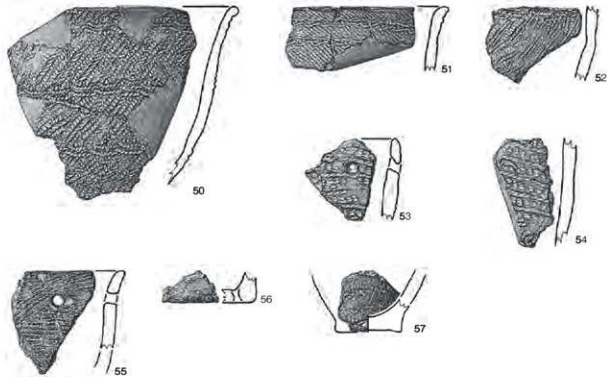
SI39



SI39・40

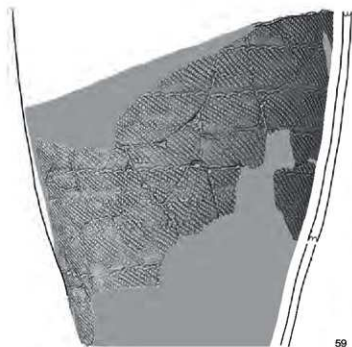


SI39・41

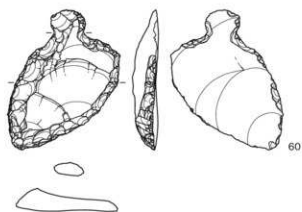


第55図 SI39、SI39～41出土遺物

SI39・42



SI39・41・43・52



0 58 (1:3) 10cm

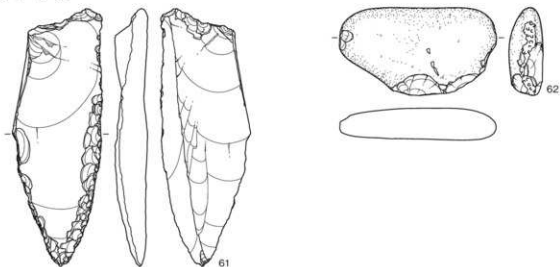
0 59 (1:4) 10cm

0 60 (2:3) 5cm

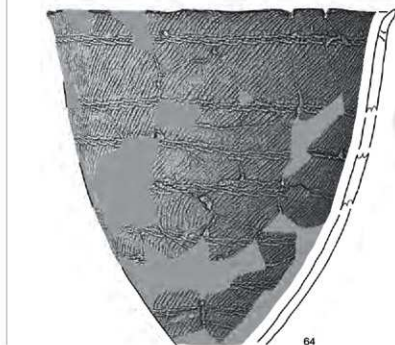
第56図 SI39~52出土遺物(1)

2 検出された遺構・遺物

SI39・41・43・52



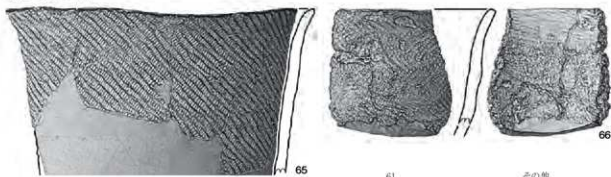
SI39・41・44・45・47・48・52



SI41



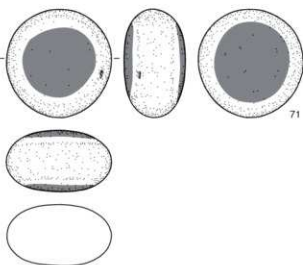
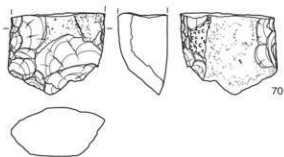
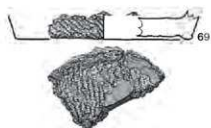
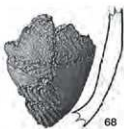
SI42・43・45・47



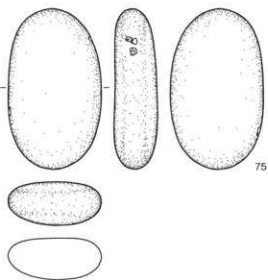
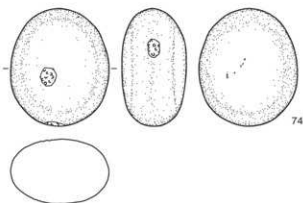
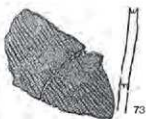
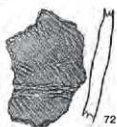
0 61 (2:3) 5cm 0 その他 (1:3) 10cm

第57図 SI41、SI39～52出土遺物（2）

SI42・43・45・47



SI43

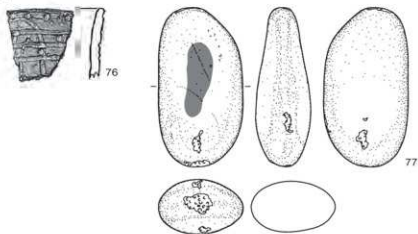


0 (1:3) 10cm

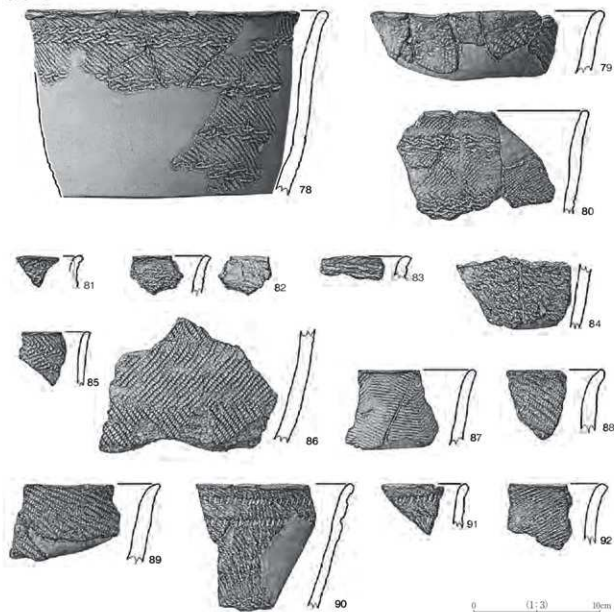
第58図 SI42~47、SI43出土遺物

2 検出された遺構・遺物

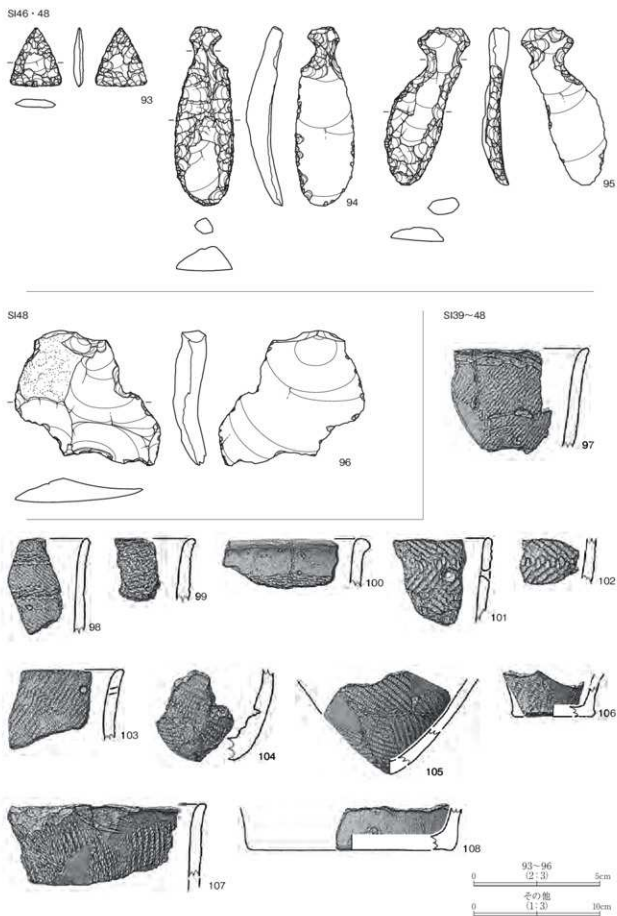
S144



S146・48



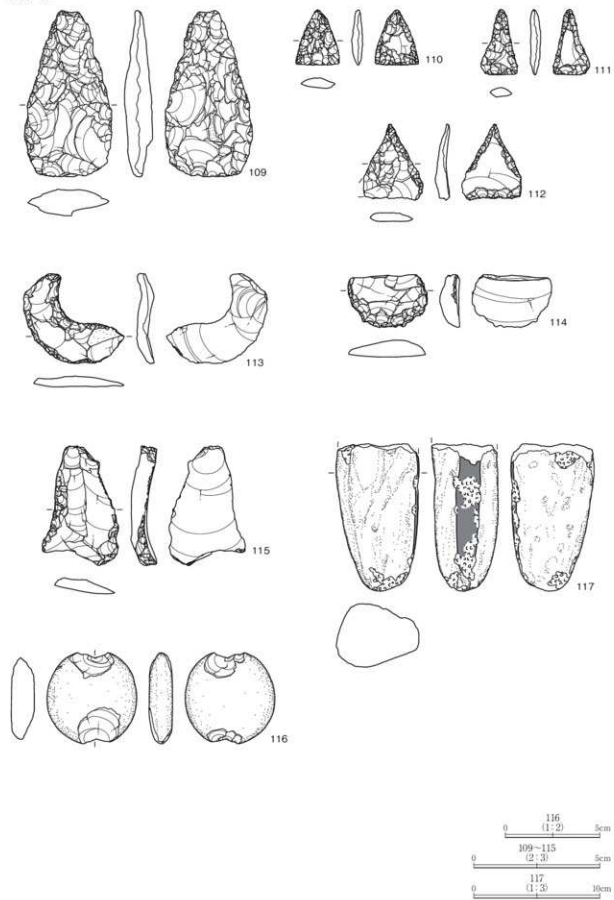
第59図 S144、S146・48出土遺物



第60図 SI46・48、SI48、SI39~48出土遺物(1)

2 検出された遺構・遺物

SI39~48



第61図 SI39~48出土遺物(2)

SK01 (第62図 写真図版42)

[位置・検出層位] II C 23グリッドに位置しており、標高88.5～88.6mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は112×96cm、検出面からの深さは9cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] II層相当の黒色土からなる。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK02 (第62・72図 写真図版42)

[位置・検出層位] III C 3・8グリッドに位置しており、標高88.3～88.5mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は108×94cm、検出面からの深さは18cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に4層からなる。中位にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器3点、石器4点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

118はIV b群である。

石器は剥片が主体である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK03 (第62・72図 写真図版42)

[位置・検出層位] III C 7・8グリッドに位置しており、標高88.5～88.6mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は140×136cm、検出面からの深さは30cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に3層からなる。底面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

119はII a群である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK04 (第62図 写真図版42)

[位置・検出層位] III C 7グリッドに位置しており、標高88.5～88.6mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

2 検出された遺構・遺物

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は143×117cm、検出面からの深さ28cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に6層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

SK05 (第62図 写真図版43)

[位置・検出層位] ⅢC6グリッドに位置しており、標高88.9～89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は118×83cm、検出面からの深さは10cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に2層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

SK06 (第62図 写真図版43)

[位置・検出層位] ⅢB15グリッドに位置しており、標高89.0mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

[重複遺構] SK09と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は118×109cm、検出面からの深さは21cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に3層からなる。中位にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

SK07 (第62図 写真図版43)

[位置・検出層位] ⅢB10グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

[重複遺構] SK08と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 確認できた平面形は隅丸方形である。規模は151×132cm、検出面からの深さは25cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒黒・暗褐色土を主体に2層からなる。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については重複関係及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

SK08 (第62図 写真図版43)

【位置・検出層位】ⅢB10グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SK07と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】平面形は楕円形である。規模は146×130cm、検出面からの深さは10～23cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

【堆積土】黒褐・暗褐色土を主体に4層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

SK09 (第62図 写真図版43)

【位置・検出層位】ⅢB15グリッドに位置しており、標高89.0mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SK06と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】確認できた平面形は不整形である。規模は167×152cm、検出面からの深さは18cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

【堆積土】主体層位不明の黒褐色土からなる。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については重複関係及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

SK10 (第63図 写真図版43)

【位置・検出層位】ⅢB5グリッドに位置しており、標高89.3mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。試掘トレンチによって削平されているため、断面において本遺構を確認している。

【重複遺構】SI07と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は152×71cm、検出面からの深さは30cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

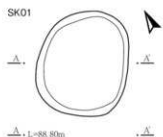
【堆積土】黒褐色土を主体に6層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

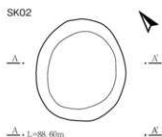
【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構時期から判断している。

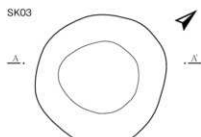
2 検出された遺構・遺物



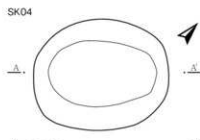
1. 黒色土 (10YR2-1) 粘性中～強い、しまり中、
 量産ブロック状、
 2層相角。



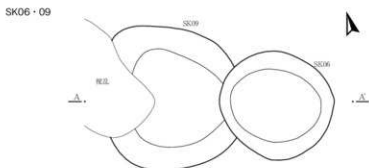
1. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中～強い、しまり中、
 粘性中～強い、しまり中、
 量産相角。
 2. 黒色土 (10YR2-2) 粘性中～強い、しまり中、
 量産相角。
 3. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中、しまり中～強い、
 4. 灰黄褐色土 (10YR4-2) 粘性中、しまり中～強い、



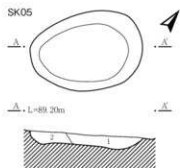
1. 黒色土 (10YR2-1) 粘性中～強い、しまり中～強い、
 2. 黒色土 (10YR2-2) 粘性中～強い、しまり中、
 3. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中～強い、しまり中、
 量産相角。



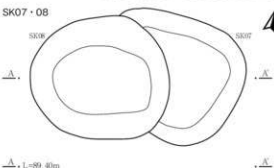
1. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中～強い、しまり中、
 2. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中～強い、しまり中～強い、量産相角。
 3. 黒褐色土 (10YR3-2) 粘性中～強い、しまり中～強い、
 4. 黒褐色土 (10YR2-2) 粘性中、しまり中～強い、
 5. 灰黄褐色土 (10YR4-2) 粘性中、しまり中～強い、
 6. 暗褐色土 (10YR3-3) 粘性中～強い、しまり中、



- SK06
 1. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中、しまり中～強い、
 2. 黒褐色土 (10YR3-2) 粘性中、しまり中～強い、量産相角。
 3. 灰黄褐色土 (10YR4-2) 粘性中、しまり共に中～強い、量産相角薄土。
- SK09
 1. 黒褐色土 (10YR3-2) 粘性中、しまり中～強い、



1. 黒褐色土 (10YR3-2) 粘性中、しまり共に中～強い、量産相角。
 2. 暗褐色土 (10YR3-3) 粘性中～強い、しまり中、



- SK08
 1. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中、しまり共に中～強い、
 量産相角。
 2. 暗褐色土 (10YR3-3) 粘性中～強い、しまり中、
 3. 暗褐色土 (10YR3-4) 粘性中～強い、しまり中、
 4. 灰黄褐色土 (10YR4-2) 粘性中、しまり中～強い、
 量産ブロックを少量含む。
- SK07
 1. 黒褐色土 (10YR3-1) 粘性中、しまり共に中～強い、
 2. 暗褐色土 (10YR3-3) 粘性中～強い、しまり中、

0 (1:40) 1m

第62図 SK01～09

SK11 (第63・72図 写真図版43)

〔位置・検出層位〕ⅢC9グリッドに位置しており、標高86.7～87.3mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は開口部と底面が共に概ね円形である。規模は開口部径が193×183cm、狭空部径が152×143cm、底面径は176cm、検出面からの深さは50～90cmである。

〔壁・底面〕壁は内傾して立ち上がる。底面から30～60cmでくびれ、開口部へ漏斗状に開く。底面は平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に15層からなる。底面にはⅡ層相当の黒褐色土が堆積している。斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

〔出土遺物〕土器が10点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属するものであり、遺構本来の時期に属する縄文時代後期の遺物は認められない。

120はⅡa群、121はⅣa群である。これらの他にはⅤ群なども認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代後期前葉である。

〔備考〕用途はフラスコ状土坑である。遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK12 (第63図 写真図版44)

〔位置・検出層位〕ⅢC7グリッドに位置しており、標高88.8mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形である。規模は146×136cm、検出面からの深さは18cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に2層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK13 (第63図 写真図版44)

〔位置・検出層位〕ⅢC7グリッドに位置しており、標高88.6mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形である。規模は128×81cm、検出面からの深さは18cmである。

〔壁・底面〕壁は外傾ないし直立して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色・暗褐色土を主体に4層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はⅡa群が認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK14 (第63図 写真図版44)

[位置・検出層位] III C 1 グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は118cm、検出面からの深さは20cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は中央が皿状に凹む。

[堆積土] 黒褐色土を主体に5層からなる。中位にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK15 (第63・72図 写真図版44)

[位置・検出層位] III B15、III C11グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。南西側は複乱により削平されている。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形である。規模は173×157cm、検出面からの深さは23cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に5層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器1点が出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

122はIV a 群である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK16 (第63図 写真図版44)

[位置・検出層位] II C21・22グリッドに位置しており、標高88.9mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は115×107cm、検出面からの深さは20cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は内湾気味に立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に5層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

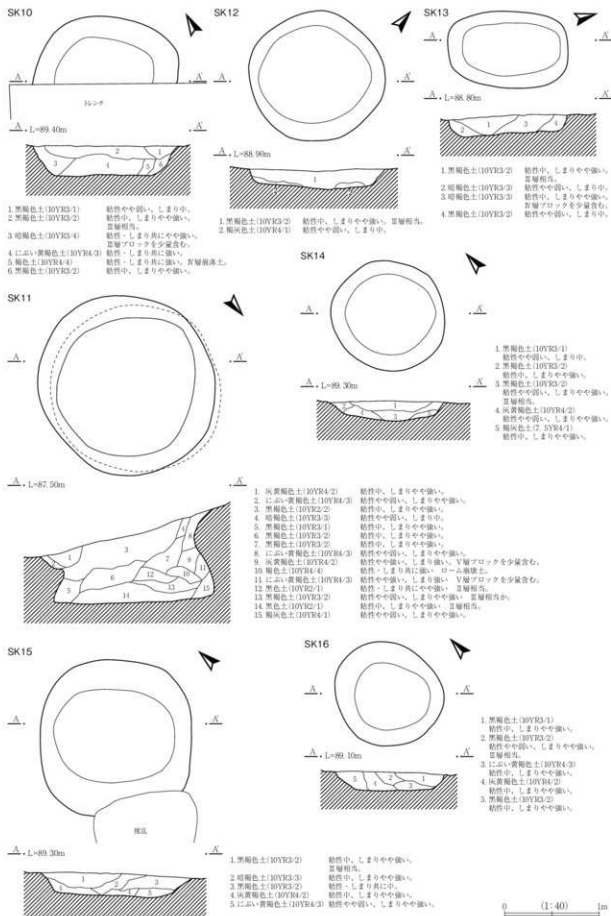
[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK17 (第64図 写真図版44)

[位置・検出層位] III B14・15グリッドに位置しており、標高89.3mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SK19と重複しており、本遺構が新しい。



第63図 SK10~16

2 検出された遺構・遺物

- [平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は140×107cm、検出面からの深さは20cmである。
- [壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土を主体に5層からなる。中位にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。
- [出土遺物] 出土していない。
- [遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。
- [備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK18 (第64図 写真図版44)

- [位置・検出層位] ⅢB10・15グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。
- [重複遺構] SK20・21と重複しており、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形である。規模は129×117cm、検出面からの深さは25cmである。
- [壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土を主体に3層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。
- [出土遺物] 出土していない。
- [遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。
- [備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

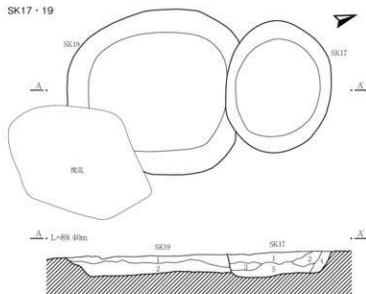
SK19 (第64・72図 写真図版44)

- [位置・検出層位] ⅢB14・15グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。南東側は攪乱により削平されている。
- [重複遺構] SK17と重複しており、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は隅丸方形である。規模は175×168cm、検出面からの深さは18cmである。
- [壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。
- [堆積土] 主体層位不明の黒褐色・暗褐色土からなる。
- [出土遺物] 土器12点、石器3点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。
- 123はⅥ群、124はⅡa群である。これらの他には124と同一個体やⅤ群などが認められている。
- 125は石鏃の製作段階における失敗品である。
- [遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。
- [備考] 遺構時期については重複関係及び出土遺物から判断している。

SK20 (第64図 写真図版45)

- [位置・検出層位] ⅢB10・15グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。
- [重複遺構] SK18・21と重複しており、SK18より古く、SK21より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は191×154cm、検出面からの深さは23cmである。
- [壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

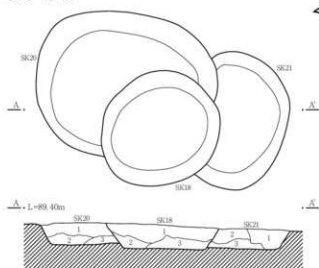
SK17・19



- SK17
1. 黒色土 (10YR2/1) 粘液中、しまりや中強い。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中、しまりや中強い。葦層相付。
 4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中、しまりや中強い。葦層ブロックを少量含む。
 5. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘液中、しまりや中強い。

- SK19
1. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘液中、しまりや中強い。

SK18・20・21

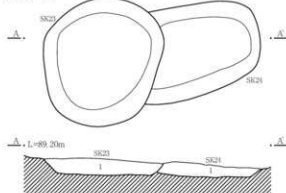


- SK18
1. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中、しまりや中強い。葦層相付。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘液中、しまりや中強い。

- SK20
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘液中、しまりや中強い。

- SK21
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘液中、しまりや中強い。

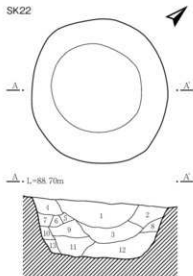
SK23・24



- SK23
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。葦層ブロックを少量含む。葦層相付。

- SK24
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。

SK22



1. 黒色土 (10YR2/1) 粘液中、しまりや中強い。葦層相付。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中、しまりや中強い。
3. 黒色土 (10YR2/1) 粘液中、しまりや中強い。
4. 暗褐色土 (10YR4/1) 粘液中、しまりや中強い。
5. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
6. 暗褐色土 (10YR4/1) 粘液中、しまりや中強い。
7. 1.5倍葦褐色土 (10YR4/3) 粘液中、しまりや中強い。葦層ブロック。

8. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中、しまりや中強い。
9. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中、しまりや中強い。
10. 黒褐色土 (10YR4/2) 粘液中、しまりや中強い。葦層ブロック。
11. 黒褐色土 (10YR2/1) 粘液中、しまりや中強い。葦層相付。
12. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘液中や弱い、しまりや中強い。
13. 暗褐色土 (10YR4/1) 粘液中、しまりや中強い。葦層相付。

第64図 SK17~24

2 検出された遺構・遺物

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色土などからなる。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については重複関係から判断している。

SK21 (第64図 写真図版45)

[位置・検出層位] ⅢB10・15グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

[重複遺構] SK18・20と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は147×80cm、検出面からの深さは21cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色土などからなる。

[出土遺物] 土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。土器はⅣa群が認められたが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については重複関係から判断している。

SK22 (第64・72図 写真図版45)

[位置・検出層位] ⅡC23、ⅢC3グリッドに位置しており、標高88.4～88.5mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は153×143cm、検出面からの深さは58cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に13層からなる。上面及び底面にはⅡ層相当の黒色・黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器4点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属するものであり、遺構本来の時期に属する縄文時代後期の遺物は確認されていない。

126はⅣa群である。この他にはⅢ群やⅤ群なども認められたが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK23 (第64図 写真図版45)

[位置・検出層位] ⅢC6グリッドに位置しており、標高89.0～89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

[重複遺構] SK24と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形円形である。規模は149×124cm、検出面からの深さは17cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] Ⅲ層相当の黒褐色土からなる。

[出土遺物] 出土していない。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK24 (第64図 写真図版45)

〔位置・検出層位〕 III C 6 グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

〔重複遺構〕 SK23と重複しており、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 確認できた平面形は隅丸長方形である。規模は113×97cm、検出面からの深さは13cmである。

〔壁・底面〕 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕 主体層位不明の黒褐色土からなる。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕 遺構時期については重複関係から判断している。

SK25 (第65図 写真図版45)

〔位置・検出層位〕 III C 1 グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

〔重複遺構〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形である。規模は124×102cm、検出面からの深さは15cmである。

〔壁・底面〕 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体に3層からなる。底面には皿層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK26 (第65図 写真図版45)

〔位置・検出層位〕 III C 1 グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

〔重複遺構〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形である。規模は108×103cm、検出面からの深さは22cmである。

〔壁・底面〕 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体に4層からなる。上面には皿層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔遺構時期〕 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK27・29 (第65図 写真図版4)

【位置・検出層位】ⅢC5、ⅢD1グリッドに位置しており、標高85.9～86.2mの南東向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SKT05と重複しており、SKT05→SK27→SK29の順に形成されている。両遺構は共にSKT05の精査時に確認できたもののだが、平面において新旧関係を把握している。

SK27

【平面形・規模】平面形は開口部と底面は共に楕円形である。規模は開口部径が121×95cm、狭窄部径が107×84cm、底面径が137×125cmで、検出面からの深さは50～70cmである。

【壁・底面】壁は内傾して立ち上がる。底面から30～50cmでくびれ、開口部へ漏斗状に開く。底面はSK29と重複するため判然としませんが、確認できた箇所では概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・黒色土を主体に5層を確認している。底面にはⅡ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代後期前葉である。

【備考】用途はフラスコ状土坑である。遺構時期については主体層及び重複関係から判断している。

SK29

【平面形・規模】平面形は開口部と底面は隅丸長方形である。規模は102×83cm、SK27の底面からの深さは38cmである。

【壁・底面】壁は内傾ないし直立して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

【堆積土】黒色土を主体に3層からなる。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代後期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び重複関係から判断している。本遺構はSK27の底面から掘り込まれて形成されている。堆積土の観察からは自然堆積と思われるうえに、出土遺物が伴わないことから遺構の用途については判然としない。よって、SK27の付属施設と考えられるが、墓塚などとして用いられた可能性も残されている。

SK28 (第65図 写真図版45)

【位置・検出層位】ⅢC6グリッドに位置しており、標高89.0～89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は円形である。規模は125×122cm、検出面からの深さは22cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・暗褐色土からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK30 (第65図 写真図版46)

【位置・検出層位】ⅢB10グリッドに位置しており、標高89.2～89.3mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SK33と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】平面形は楕円形である。規模は175×139cm、検出面からの深さは16cmである。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に5層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はⅡa群やV群などが認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK31 (第65・72図 写真図版46)

【位置・検出層位】ⅢC1グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は開口部と底面が共に円形である。規模は開口部径が86×82cm、狭窄部径が73×66cm、底面径が105×98cm、検出面からの深さは72cmである。

【壁・底面】壁は内傾して立ち上がる。底面から60cmでくびれ、開口部へ漏斗状に開く。底面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に10層からなる。底面にはⅡ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】土器1点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はV群が認められたが、小片のため図化していない。

127は頁岩製石甕である。

【遺構時期】縄文時代後期前葉である。

【備考】用途はフラスコ状土坑である。遺構時期については主体層などから判断している。

SK32 (第65図 写真図版46)

【位置・検出層位】ⅢB5グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形である。規模は127cm、検出面からの深さは36cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

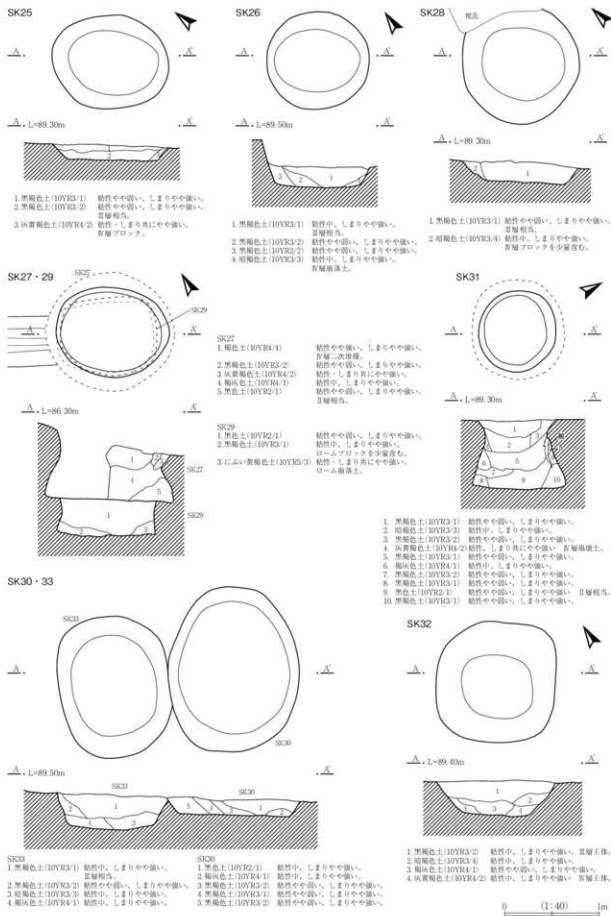
【堆積土】黒褐色土を主体に4層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

2 検出された遺構・遺物



第65図 SK25~33

SK33 (第65図 写真図版46)

〔位置・検出層位〕ⅢB 9・10・15グリッドに位置しており、標高89.3mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕SK31と重複しており、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形である。規模は151×117cm、検出面からの深さは37cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は中央が皿状に凹む。

〔堆積土〕主体層位不明の黒褐色土などからなる。

〔出土遺物〕土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はⅡa群が認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕遺構時期については重複関係及び出土遺物から判断している。

SK34 (第66図 写真図版46)

〔位置・検出層位〕ⅢB 5グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。

〔重複遺構〕SK68と重複しており、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形である。規模は104×103cm、検出面からの深さは18cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に2層からなる。

〔出土遺物〕土器1点、石器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はⅣa群が認められたが、小片のため図化していない。

石器は剥片や敲磨器類などである。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から後葉である。

〔備考〕遺構時期については重複関係と主体層から判断している。

SK35 (第66・72図 写真図版47)

〔位置・検出層位〕ⅢB 3グリッドに位置しており、標高89.1～89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕SI53、SK49と重複しており、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は215×187cm、検出面からの深さは105cmである。

〔壁・底面〕断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色・灰黄褐色土を主体に2層からなる。中位にⅡ層相当の黒色土、底面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代前期前葉に属する。

128はⅠ群である。

〔遺構時期〕縄文時代前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK36 (第66図)

[位置・検出層位] II A25グリッドに位置しており、標高87.6～87.8mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SK37と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は115×112cm、検出面からの深さは35cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は斜面に平行して形成されているものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色・灰黄褐色土を主体に4層からなる。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については重複関係から判断している。

SK37 (第66図 写真図版47)

[位置・検出層位] II A25グリッドに位置しており、標高87.4～87.6mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI48、SK36と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は133×125cm、検出面からの深さは34cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は斜面に平行して形成されているものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色・灰黄褐色土を主体に10層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK38 (第66・72図 写真図版47)

[位置・検出層位] II A25グリッドに位置しており、標高87.0～87.2mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形である。規模は161×153cm、検出面からの深さは78cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は凹凸が認められるものの外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色・灰黄褐色土を主体に20層からなる。底面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。これらは斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

[出土遺物] 土器60点、石器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

129はVI a群である。この他にはIII群やIV a群なども認められたが、その多くは131と同一個体である。

130は敲磨器I d類である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。また、近接するSK39・40の検出

2 検出された遺構・遺物

時にまとまって遺物が出土しているが、帰属遺構を特定できなかったことから、それらは第72・73図に一括して報告している。土器はⅡ群、Ⅲ群など、石器は石匙や敲磨器類などが認められる。

SK39 (第67図 写真図版47)

【位置・検出層位】ⅡA25グリッドに位置しており、標高87.2～87.6mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は楕円形である。規模は198×167cm、検出面からの深さは63cmである。

【壁・底面】断面形は楕円形であり、壁は凹凸が認められるものの内湾気味に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・ぶい黄褐色土を主体に17層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。これらは斜面上方から流入する堆積状況を確認している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。本遺構周辺で出土した帰属不明の遺物はSK38～40にまとめて記載している。

SK40 (第67図 写真図版47)

【位置・検出層位】ⅡA24・25グリッドに位置しており、標高86.9～87.2mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形である。規模は141×140cm、検出面からの深さは51cmである。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は凹凸が認められるものの外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】黒褐色・ぶい黄褐色土を主体に7層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。本遺構周辺で出土した帰属不明の遺物はSK38～40にまとめて記載している。

SK41 (第67図 写真図版48)

【位置・検出層位】ⅢB6グリッドに位置しており、標高88.2～88.3mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SI52と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】調査区外へ延びていくため判然としなが、確認できた平面形は楕円形である。規模は89×80cm、検出面からの深さは42cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】黒色・黒褐色土を主体に4層からなる。上面にはⅡ層相当の黒色土、Ⅲ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】土器 6点、石器 1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はⅣ a群やⅤ群などが認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK42 (第67図 写真図版48)

【位置・検出層位】Ⅱ A14・19グリッドに位置しており、標高86.9～87.3mの南西向き斜面に形成されている。検出層位はⅣ層である。本遺構は木根などの攪乱によって削平されていると認識してから掘削を行っていたが、底面付近で周辺の遺構と同じ隅丸長方形の土坑であることが明らかとなった。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形である。規模は157×134cm、確認できた深さは51cmである。現況から判断すれば、55～80cmの深さがあったものと想定される。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は凹凸が認められるものの外傾して立ち上がる。底面は中央が皿状に凹む。

【堆積土】主体層位不明の褐灰色・褐色土を確認している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK43 (第67図 写真図版48)

【位置・検出層位】Ⅲ B3・4グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SI56、SK49と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形である。規模は157×134cm、検出面からの深さは51cmである。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に6層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】土器 2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK44 (第67・74図 写真図版48)

【位置・検出層位】Ⅲ B3・8グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SK49と重複しており、本遺構が新しい。

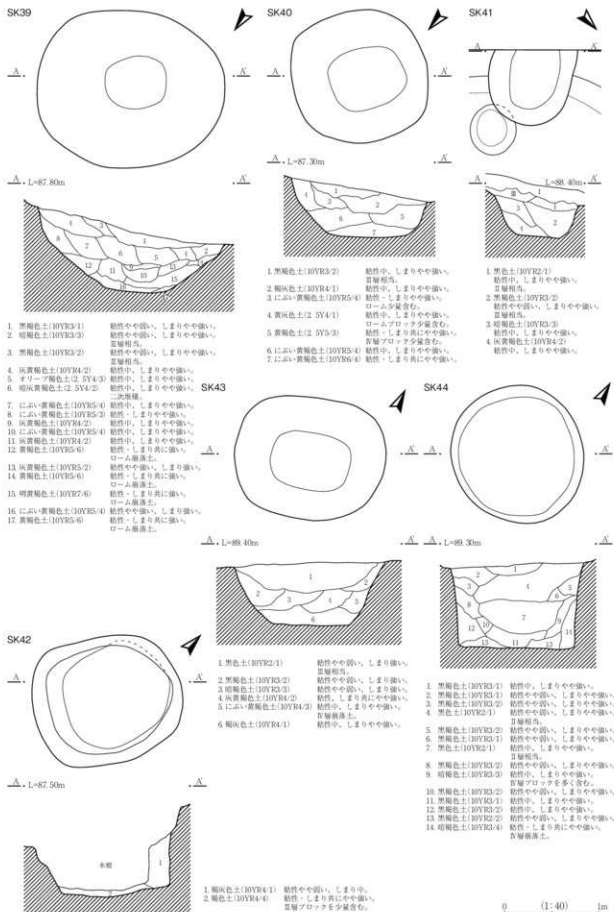
【平面形・規模】平面形は円形である。規模は147×139cm、検出面からの深さは88cmである。

【壁・底面】断面形は箱形であり、壁は直立気味に立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に14層からなる。上面と中位にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

【出土遺物】土器 1点と石器 3点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代後期前葉に属する。

2 検出された遺構・遺物



第67図 SK39~44

141は後期前葉に属するものである。

142は敲磨器 I a 類、143は敲磨器 I d 類である。

〔遺構時期〕縄文時代後期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK45 (第68・74図 写真図版48)

〔位置・検出層位〕Ⅲ B 8 グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形である。規模は101×85cm、検出面からの深さは12cmである。

〔壁・底面〕断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕黒色・褐灰色土を主体に4層からなる。上面にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器9点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代後期前葉である。

144は後期前葉に属するもので、9点は同一個体である。

〔遺構時期〕縄文時代後期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK46 (第68図 写真図版48)

〔位置・検出層位〕Ⅱ B 23・24グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形である。規模は149×134cm、検出面からの深さは35cmである。

〔壁・底面〕断面形は逆台形であり、壁は凹凸が認められるものの外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色・暗褐色土を主体に7層からなる。底面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器2点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はⅣ a 群が認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK47 (第68図 写真図版48)

〔位置・検出層位〕Ⅲ B 8・9グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕SI04・05と重複しており、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形である。規模は215×174cm、検出面からの深さは35cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕褐灰色・灰黄褐色土を主体に8層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。

SK48 (第68図 写真図版48)

[位置・検出層位] II C13グリッドに位置しており、標高88.2～88.3mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は148×131cm、検出面からの深さは17cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に5層からなる。底面には皿層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び周辺に配置する遺構の時期から判断している。

SK49 (第68・74図 写真図版49)

[位置・検出層位] III B 3グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI53・56、SK35・43・44と重複しており、本遺構はSI56より新しく、それ以外より古い。

[平面形・規模] 確認できた平面形は楕円形である。規模は227×217cm、検出面からの深さは17cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒色土を主体に2層からなる。

[出土遺物] 土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

145はⅢ群である。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。また、平面形状と規模が重複するSI56と類似することから住居跡の可能性がある。

SK50 (第68図 写真図版49)

[位置・検出層位] II B24・25グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI11と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は109×99cm、検出面からの深さは26cmである。

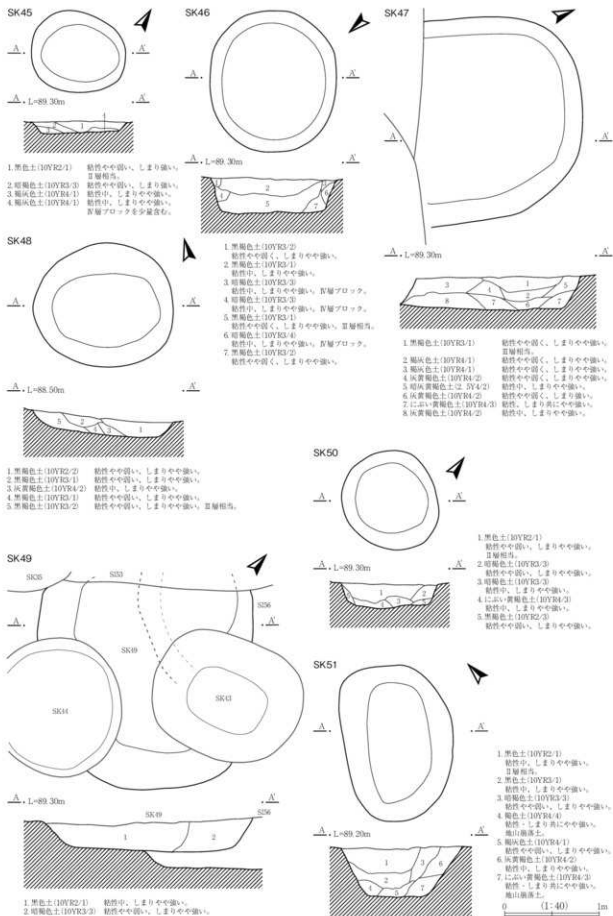
[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒色・暗褐色土を主体に5層からなる。上面にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び出土遺物から判断している。



第68図 SK45～51

SK51 (第68回 写真図版49)

[位置・検出層位] II B 25、II C 21グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI11、SK55と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形円形である。規模は165×116cm、検出面からの深さは51cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸が認められるものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒色土を主体に7層からなる。上面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層及び重複関係から判断している。

SK52 (第69回 写真図版49)

[位置・検出層位] III B 3・8グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形基調である。規模は95×89cm、検出面からの深さは17cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

[堆積土] 黒色・黒褐色土を主体に3層からなる。上面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層から判断している。

SK53 (第69回 写真図版49)

[位置・検出層位] II C 17グリッドに位置しており、標高88.7mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI38と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形である。規模は73×68cm、検出面からの深さは19cmである。

[壁・底面] 断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色・黒褐色土からなる。上面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層から判断している。

SK54 (第69回 写真図版49)

[位置・検出層位] III B 4・9グリッドに位置しており、標高89.2mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI55と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 確認できた平面形は楕円形である。規模は132×46cm、検出面からの深さは34cmである。

【壁・底面】断面形は椀形であり、壁は内湾気味に立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】黒褐色土からなる。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については重複関係から判断している。

SK55 (第69図 写真図版49)

【位置・検出層位】ⅡB 25グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SI11、SK51と重複しており、SK51より古く、SI11より新しい。

【平面形・規模】確認できた平面形は楕円形である。規模は72×66cm、検出面からの深さは29cmである。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色・暗褐色土からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層と重複関係から判断している。

SK56 (第69図 写真図版50)

【位置・検出層位】ⅡB 25グリッドに位置しており、標高89.1mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形基調である。規模は72×65cm、検出面からの深さは35cmである。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色を主体に4層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から前期前葉である。

【備考】遺構時期については主体層から判断している。

SK57 (第69図 写真図版50)

【位置・検出層位】ⅡB 14・19グリッドに位置しており、標高89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は隅丸長方形である。規模は121×104cm、検出面からの深さは22cmである。

【壁・底面】断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

【堆積土】黒褐色を主体に5層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

【出土遺物】土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

土器はV群が認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

【備考】遺構時期については主体層と出土遺物から判断している。

SK58 (第69図 写真図版50)

〔位置・検出層位〕ⅡB14グリッドに位置しており、標高88.9～89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕SI25と重複しており、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形基調である。規模は100×98cm、検出面からの深さは17cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は凹凸が認められるものの外傾して立ち上がる。底面は中央が皿状に凹む。

〔堆積土〕黒褐色・暗褐色土を主体に4層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層から判断している。

SK59 (第69・74図 写真図版50)

〔位置・検出層位〕ⅡB13グリッドに位置しており、標高88.9mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕SI25と重複しており、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は147×133cm、検出面からの深さは37cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に7層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

146はⅢa群である。この他にはⅣa群も認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層と出土遺物から判断している。

SK60 (第69図 写真図版50)

〔位置・検出層位〕ⅡB20グリッドに位置しており、標高88.9～89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は177×160cm、検出面からの深さは53cmである。

〔壁・底面〕断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に17層からなる。底面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

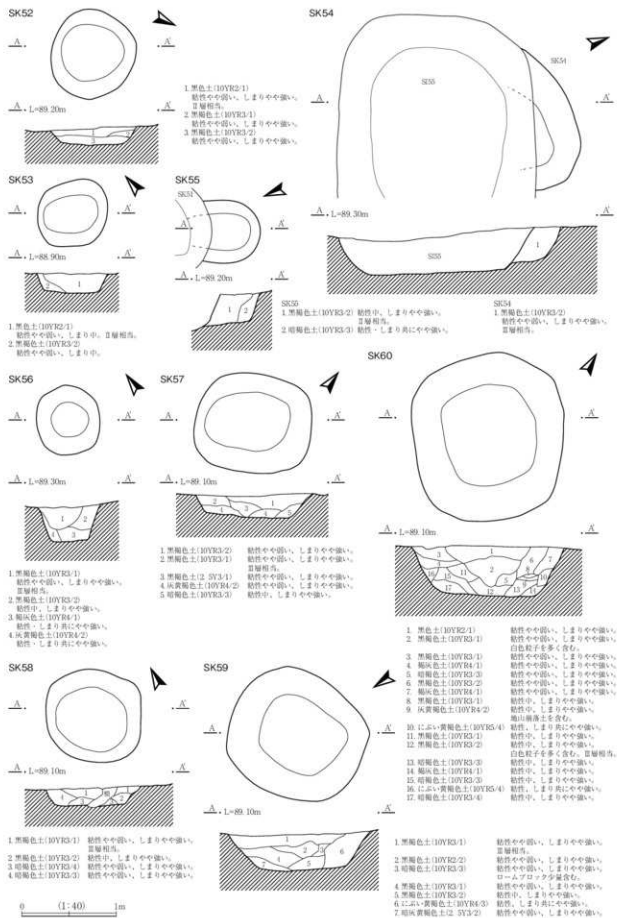
〔備考〕遺構時期については主体層から判断している。

SK61 (第70図 写真図版51)

〔位置・検出層位〕ⅡB25グリッドに位置しており、標高88.7mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は85×63cm、検出面からの深さは20cmである。



第69図 SK52~60

2 検出された遺構・遺物

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に4層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。土器はⅣa群などが認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層から判断している。

SK62 (第70図 写真図版51)

〔位置・検出層位〕ⅡB9グリッドに位置しており、標高88.6～88.7mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は122×94cm、検出面からの深さは20cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に5層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層から判断している。

SK63 (第70図 写真図版51)

〔位置・検出層位〕ⅡB15・20グリッドに位置しており、標高88.9～89.0mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は201×185cm、検出面からの深さは23cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に11層からなる。上面にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

〔備考〕遺構時期については主体層から判断している。

SK64 (第70図 写真図版51)

〔位置・検出層位〕ⅡB8・13グリッドに位置しており、標高88.7mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形である。規模は212×162cm、検出面からの深さは39cmである。

〔壁・底面〕断面形は皿形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

〔堆積土〕黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に13層からなる。中位にはⅢ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕出土していない。

〔遺構時期〕縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層から判断している。

SK65 (第70図 写真図版51)

[位置・検出層位] II B 13・18グリッドに位置しており、標高88.9mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI18、SKT12と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 確認できた平面形は楕円形である。規模は364×247cm、検出面からの深さは41cmである。

[壁・底面] 断面形は皿形であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

[堆積土] 主体層位不明の黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に15層からなる。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から後葉である。

[備考] 遺構時期については重複関係から判断している。

SK66 (第71図 写真図版51)

[位置・検出層位] II C 6グリッドに位置しており、標高88.6mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形である。規模は168×167cm、検出面からの深さは64cmである。

[壁・底面] 断面形は椀形であり、壁は内湾気味に立ち上がる。底面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に11層からなる。上面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代早期中葉から前期前葉である。

[備考] 遺構時期については主体層から判断している。

SK67 (第71図 写真図版52)

[位置・検出層位] III B 5グリッドに位置しており、標高88.6mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は開口部と底面が共に概ね円形である。開口部径は114×102cm、狭窄部径は91×86cm、底面径は102×95cm、検出面からの深さは35cmである。

[壁・底面] 壁は内傾して立ち上がる。底面から約25cmでくびれ、開口部へ漏斗状に開く。底面は概ね平坦である。

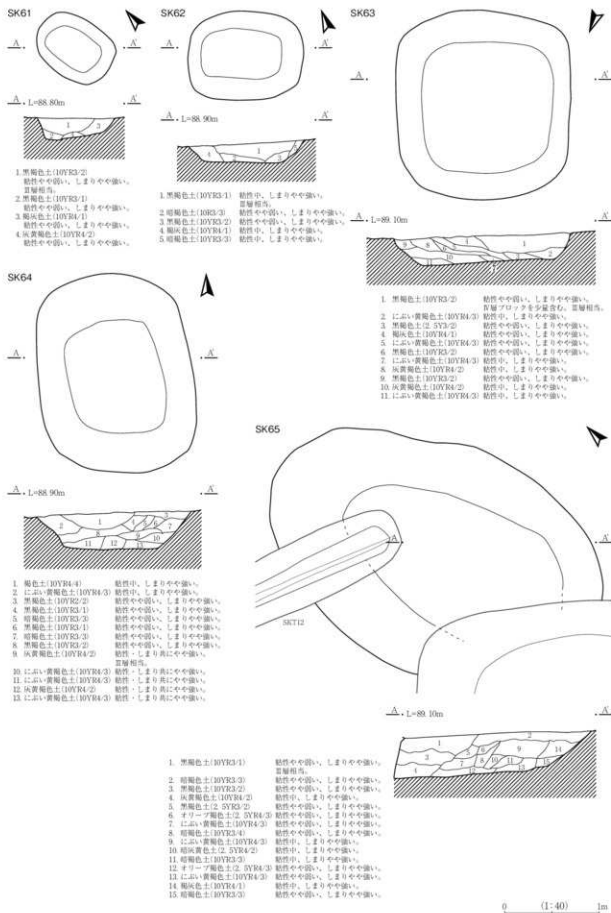
[堆積土] 黒色・黒褐色土を主体に6層からなる。上面と底面にはIII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

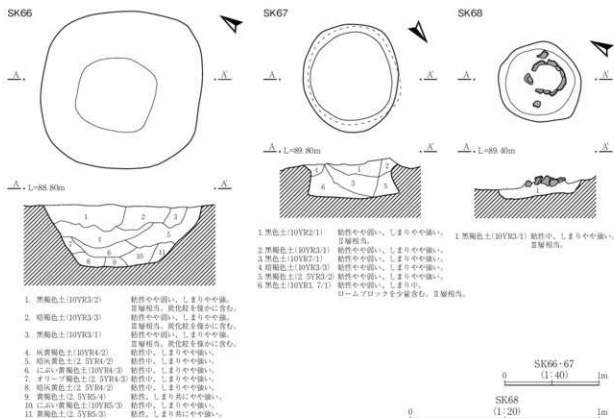
[遺構時期] 縄文時代後期前葉である。

[備考] 用途はフラスコ状土坑である。遺構時期については主体層から判断している。

2 検出された遺構・遺物



第70図 SK61～65



第71図 SK66～68

SK68 (第71・74図 写真図版52)

【位置・検出層位】ⅢB 5グリッドに位置しており、標高890～882mの頂部に形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SK34と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】平面形は円形である。規模は91×84cm、検出面からの深さは12cmである。

【壁・底面】断面形は逆台形であり、壁は外傾して立ち上がる。底面は若干の凹凸が認められるものの概ね平坦である。

【堆積土】Ⅲ層相当の黒褐色土からなる。

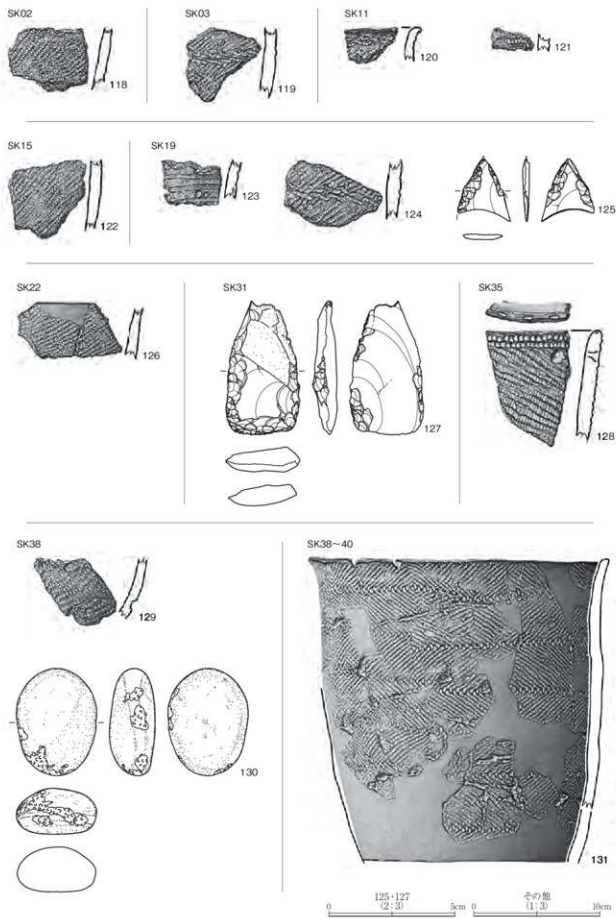
【出土遺物】土器82点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から後葉に属する。

147・148はⅡa群であるが、それぞれ別個体と思われる。

【遺構時期】縄文時代早期中葉から後葉である。

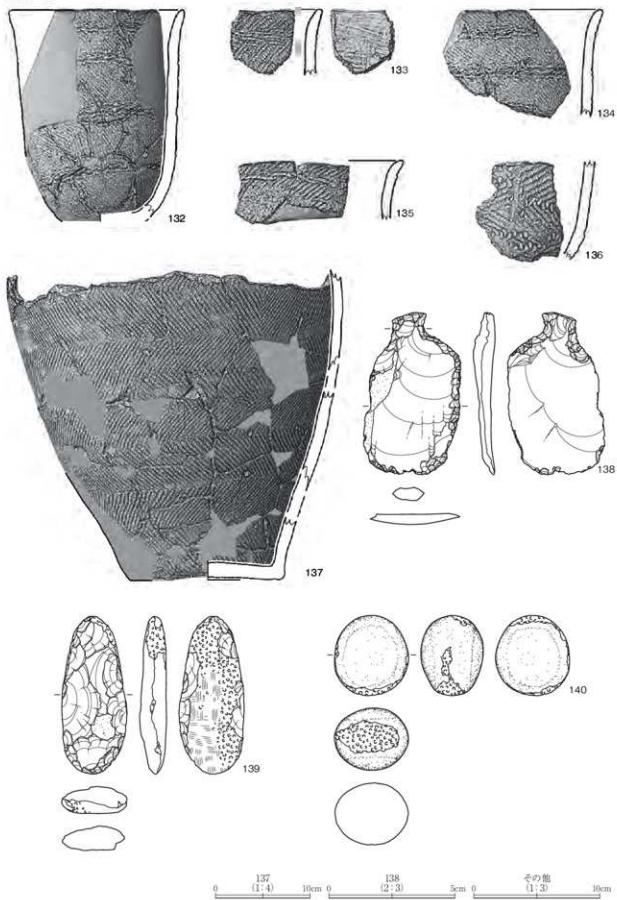
【備考】遺構時期については主体層と出土遺物から判断している。

2 検出された遺構・遺物



第72図 SK出土遺物(1)

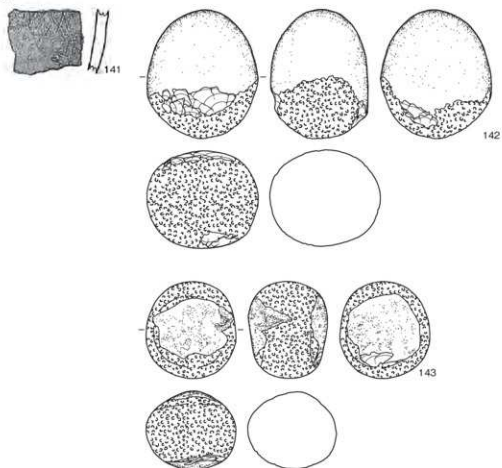
SK38~40



第73図 SK出土遺物(2)

2 検出された遺構・遺物

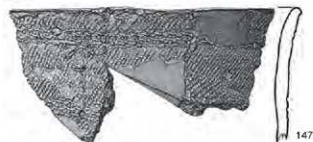
SK44



SK45



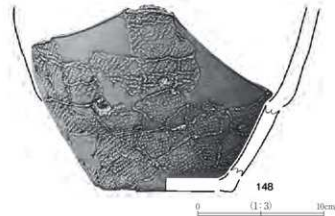
SK68



SK49



SK59



第74図 SK出土遺物(3)

SKT01 (第75図 写真図版40)

[位置・検出層位] III C 3 グリッドに位置しており、標高88.3~88.4mの南東向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は324×62cm、検出面からの深さは115cmである。

[壁・底面] 壁は概ね外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色・灰黄褐色土を主体に14層からなる。底面にはII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器1点、石器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はIV a 群が認められたが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-76°-E。軸線方向からは南東向き斜面の下方に形成されているSKT03と対になるものと思われる。両者の距離は7m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT02 (第75・79図 写真図版40)

[位置・検出層位] III C 3・4・8・9 グリッドに位置しており、標高87.9~88.0mの南東向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は276×74cm、検出面からの深さは115cmである。

[壁・底面] 壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて緩やかに外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

[堆積土] 黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に8層からなる。底面にはII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器22点、石器6点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

149・150はII a 群、151はIII b 群である。これらの他には掲載遺物と同群のものが認められる。

152は石鏃II期、153・154は不定形石器I類・II類である。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-61°-E。軸線方向からは南東向き斜面の上方に形成されているSKT06と対になるものと思われる。両者の距離は9m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT03 (第75・79図 写真図版40)

[位置・検出層位] III C 7・8 グリッドに位置しており、標高88.4~88.5mの南東向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は291×83cm、検出面からの深さは101cmである。

[壁・底面] 壁は凹凸が認められるものの外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体に13層からなる。底面にはII層相当の黒色土が堆積している。

2 検出された遺構・遺物

【出土遺物】土器46点、石器4点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

155・156はⅡa群、157はⅣa群、158はⅤa群、159・160はⅤb群である。これらの他には掲載遺物とは異なるⅣ群も認められたが、小片のため図化していない。

【遺構時期】縄文時代中期から後期初頭である。

【備考】軸線方向はN-77°-E。軸線方向からは南東向き斜面の上方に形成されているSKT01と対になるものと思われる。両者の距離は7m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT04 (第75図 写真図版40)

【位置・検出層位】ⅡC19・20・25グリッドに位置しており、標高87.6~87.7mの南東向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】なし。

【平面形・規模】平面形は長楕円形である。規模は334×81cm、検出面からの深さは99cmである。

【壁・底面】壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

【堆積土】黒褐色土を主体に8層からなる。底面にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

【出土遺物】出土していない。

【遺構時期】縄文時代中期から後期初頭である。

【備考】軸線方向はN-44°-W。遺構が形成される南東向き斜面には類似した軸線方向を確認できないことから様相は判然としない。ただし、他の陥し穴状遺構と同じような配置であれば、調査区外にその存在が想定される。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT05 (第76・79図 写真図版40)

【位置・検出層位】ⅢC5グリッドに位置しており、標高86.1~86.8mの南東向き斜面、等高線と直交して形成されている。検出層位はⅣ層である。

【重複遺構】SK27・29と重複しており、本遺構が古い。重複関係については精査当初に把握できていなかったが、SK27・29の存在を認識してからはSK27の上端、SK29の下端が本遺構よりそれぞれ新しいことを確認している。

【平面形・規模】平面形は長楕円形である。規模は246×56cm、検出面からの深さは111cmである。

【壁・底面】壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

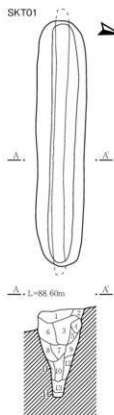
【堆積土】黒褐色土を主体に9層からなる。底面にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

【出土遺物】土器4点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

161・162はⅡa群である。これらの他には掲載遺物と同群のものが認められたが、小片のため図化していない。

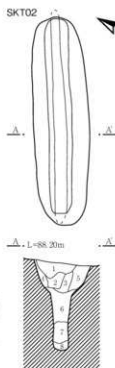
【遺構時期】縄文時代中期から後期初頭である。

【備考】軸線方向はN-58°-W。遺構が形成される南東向き斜面には類似した軸線方向を確認できないことから様相は判然としない。ただし、距離が離れているものの、SKT13と類似していることが窺える。ただし、他の陥し穴状遺構と同じような配置であれば、調査区外にその存在が想定される。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。



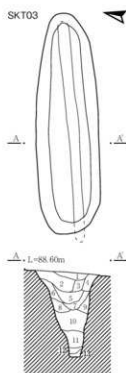
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
2. 暗褐色土 (10YR3/3)
3. 黒色土 (10YR2/1)
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2)
5. 黒褐色土 (10YR3/2)
6. 黒褐色土 (10YR3/2)
7. 黒褐色土 (10YR3/1)
8. 黒褐色土 (10YR3/4)
9. 灰黄褐色土 (10YR5/2)
10. 黒褐色土 (10YR3/2)
11. 明黄褐色土 (10YR6/6)
12. 明黄褐色土 (10YR6/6)
13. 濃い黄褐色土 (10YR5/4)
14. 黒褐色土 (10YR3/2)

粘性や中強い、しまり強い、
粘性や中強い、しまり強い、
黒褐色土 (10YR2/1) 層相別。
粘性、しまり共に中強い、
粘性や中強い、しまりや中強い、
粘性や中強い、しまりや中強い、
粘性や中強い、しまりや中強い、
粘性中、しまりや中強い、
厚層アロックスを少量含む、
粘性や中強い、しまりや中強い、
粘性中、しまりや中強い、
ローム層基土に少量含む、
粘性、しまり共に強い、
ローム層基土、
ローム層基土に厚層アロックスを
含む、
粘性、しまり共に中強い、
粘性や中強い、しまりや中強い、



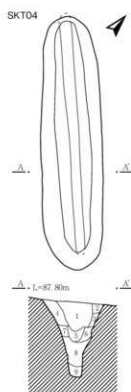
1. 黒色土 (10YR2/1)
2. 黒褐色土 (10YR3/2)
3. 暗褐色土 (10YR3/3)
4. 暗褐色土 (10YR3/4)
5. 灰黄褐色土 (10YR4/2)
6. 濃い黄褐色土 (10YR5/4)
7. 濃い黄褐色土 (10YR5/4)
8. 黒褐色土 (10YR3/1)

粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性中、
しまりや中強い、
粘性中、
しまりや中強い、
粘性、
しまりや中強い、
粘性、しまり共に
中強い、
粘性、しまり
や中強い、
黒色アロックスを
少量含む、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性や中強い、
しまりや
中強い、
厚層相別、



1. 暗褐色土 (10YR3/3)
2. 暗褐色土 (10YR3/1)
3. 黒褐色土 (10YR2/2)
4. 暗灰色土 (10YR4/1)
5. 黒褐色土 (10YR3/1)
6. 暗褐色土 (10YR3/3)
7. 黒褐色土 (10YR2/2)
8. 黒褐色土 (10YR3/2)
9. 黒褐色土 (10YR3/2)
10. 灰黄褐色土 (10YR4/2)
11. 暗灰色土 (10YR4/1)
12. 濃い黄褐色土 (10YR5/2)
13. 黒色土 (10YR2/1)

粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
厚層アロックスを少量
含む、
粘性、
しまりや中強い、
粘性中、
しまりや中強い、
厚層アロックスを少量
含む、
粘性、
しまり共に中
強い、
粘性、しまり共に中
強い、
ローム層基土、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
厚層相別、



1. 黒色土 (10YR2/1)
2. 黒褐色土 (10YR3/2)
3. 暗褐色土 (10YR3/3)
4. 黒褐色土 (10YR3/2)
5. 黒褐色土 (10YR3/1)
6. 黒褐色土 (10YR3/2)
7. 暗灰色土 (10YR4/1)
8. 灰黄褐色土 (10YR4/2)
9. 黒色土 (10YR2/1)

粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
粘性中、
しまりや中強い、
粘性、
しまり共に中
強い、
粘性、しまり共に中
強い、
ローム層基土に少量
含む、
粘性や中強い、
しまりや中強い、
厚層相別、

0 1:50 1m

第75図 SKT01~04

SKT06 (第76・79図 写真図版40)

[位置・検出層位] III C 2・7グリッドに位置しており、標高88.8mの南東向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は341×76cm、検出面からの深さは136cmである。

[壁・底面] 壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色・黒褐色土を主体に7層からなる。底面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

163はVb群である。この他には掲載遺物とは異なるV群の可能性もあるものも認められたが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-59°-E。軸線方向からは南東向き斜面の下方に形成されているSKT02と対になるものと思われる。両者の距離は9m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT07 (第76・79図 写真図版41)

[位置・検出層位] III C 4グリッドに位置しており、標高87.8mの南東向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI01と重複しており、本遺構が古い。SI01の精査時に床面において本遺構の存在を確認し、重複関係を把握している。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は295×46cm、検出面からの深さは85cmである。

[壁・底面] 壁は底面から直立気味に立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色・にぶい黄褐色土を主体に9層からなる。底面にはII層相当の黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土器16点、石器6点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

164はI群、165はVa群である。これらの他にはIIa群やV群なども認められたが、小片のため図化していない。

石器は不定形石器、剥片などである。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

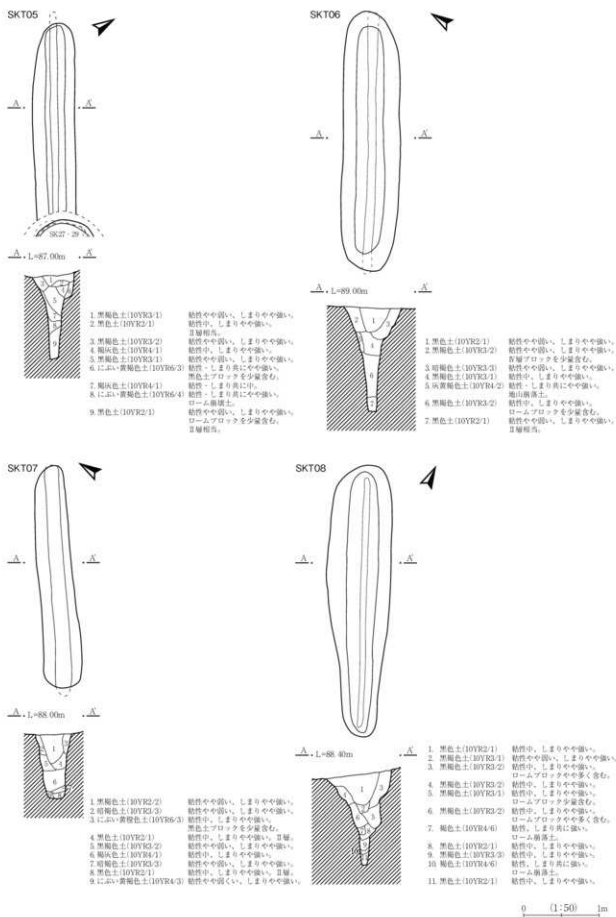
[備考] 軸線方向はN-61°-E。軸線方向からは南東向き斜面に形成されているSKT02・06と類似している。それらと対になる可能性があるものの、若干近接しているように捉えられることから様相は判然としにくい。ただし、他の陥し穴状遺構と同じような配置であれば、調査区外にその存在が想定される。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT08 (第76図 写真図版41)

[位置・検出層位] II B21、III B1グリッドに位置しており、標高88.1～88.2mの南西向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI39と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は357×84cm、検出面からの深さは120cmである。



第76図 SKT05~08

〔壁・底面〕壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて凹凸が認められるものの外傾する。底面は平坦である。

〔堆積土〕黒色・黒褐色土を主体にⅡ層からなる。底面にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器3点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。土器は分類不明なうえに小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代中期から後期初頭である。

〔備考〕軸線方向はN-24°-W。軸線方向からは北西向き斜面の下方に形成されているSKT09と対になるものと思われる。両者の距離は10m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT09 (第77図 写真図版41)

〔位置・検出層位〕ⅡA24・25グリッドに位置しており、標高86.7~86.9mの南西向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は長楕円形である。規模は360×67cm、検出面からの深さは140cmである。

〔壁・底面〕壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

〔堆積土〕黒色・黒褐色土を主体に7層からなる。底面にはⅡ層相当の黒色土が堆積している。

〔出土遺物〕石器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

〔遺構時期〕縄文時代中期から後期初頭である。

〔備考〕軸線方向はN-27°-W。軸線方向からは南西向き斜面の上方に形成されているSKT09と対になるものと思われる。両者の距離は10m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT10 (第77図 写真図版41)

〔位置・検出層位〕ⅡA13グリッドに位置しており、標高86.9~87.1mの南西向き斜面、等高線と平行して形成されている。検出層位はⅣ層である。

〔重複遺構〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は長楕円形である。規模は343×72cm、検出面からの深さは95cmである。

〔壁・底面〕壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

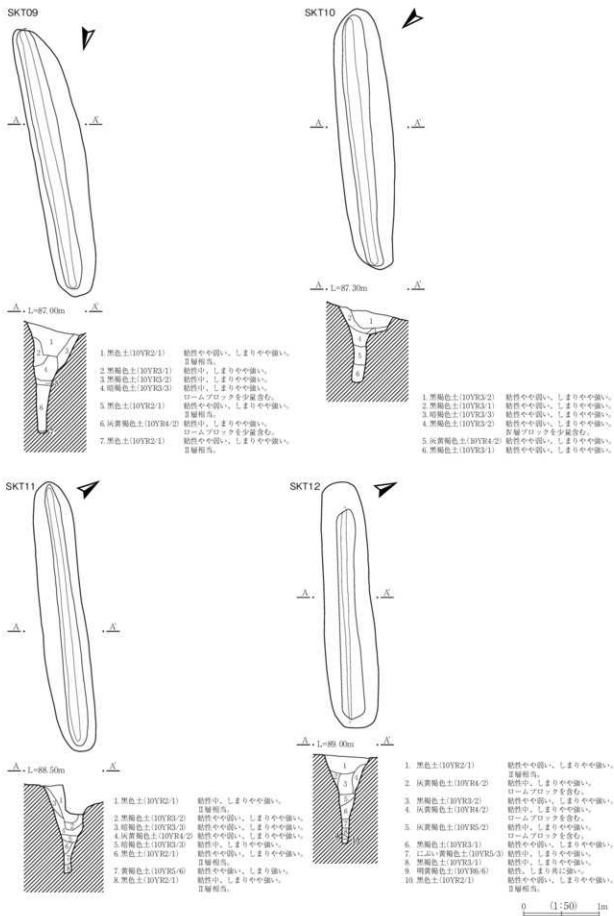
〔堆積土〕黒褐色土を主体に6層からなる。底面にはⅡ層相当の黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器2点、石器1点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はⅣa群が認められたが、小片のため図化していない。

〔遺構時期〕縄文時代中期から後期初頭である。

〔備考〕軸線方向はN-55°-W。軸線方向からは頂部に形成されているSKT14と対になるものと思われる。両者の距離は18m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。



第77図 SKT09~12

SKT11 (第77図 写真図版41)

[位置・検出層位] II B 5、II C 1 グリッドに位置しており、標高88.3mの頂部、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。トレンチを入れて平面形を確認した結果、北壁側を大きく削平している。

[重複遺構] なし。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は358×58cm、検出面からの深さは116cmである。

[壁・底面] 壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土を主体に8層からなる。上面と底面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-62°-W。軸線方向からは頂部に形成されているSKT12と対になるものと思われる。両者の距離は26m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT12 (第77図 写真図版41)

[位置・検出層位] II B 12、13グリッドに位置しており、標高88.8~88.9mの頂部、等高線と平行して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI24、SK65と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は325×61cm、検出面からの深さは115cmである。

[壁・底面] 壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色・灰黄褐色土を主体に10層からなる。上面と底面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 土器1点が堆積土中から出土している。縄文時代早期中葉から前期前葉に属する。

土器はIV a 類が認められたが、小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-68°-W。軸線方向からは頂部に形成されているSKT11と対になるものと思われる。両者の距離は26m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT13 (第78図 写真図版42)

[位置・検出層位] II B20グリッドに位置しており、標高89mの頂部に形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI11と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は323×67cm、検出面からの深さは78cmである。

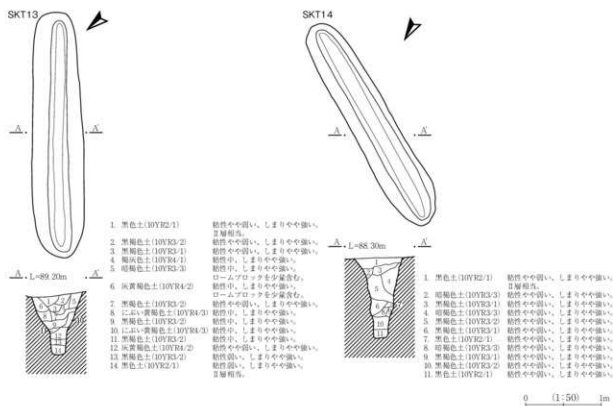
[壁・底面] 壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色・黒褐色・灰黄褐色土を主体に14層からなる。上面と底面にはII層相当の黒色土が堆積している。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-48°-W。遺構が形成される頂部には類似した軸線方向を確認できないことか



第78図 SKT13・14

ら様相は判然としない。ただし、他の陥し穴状遺構と同じような配置であれば、調査区外にその存在が想定される。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

SKT14 (第78・79図 写真図版42)

[位置・検出層位] I A 24、II A 4・5グリッドに位置しており、標高88.1mの頂部、等高線と直交して形成されている。検出層位はIV層である。

[重複遺構] SI31・32と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形である。規模は302×56cm、検出面からの深さは106cmである。

[壁・底面] 壁は底面から直立して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾する。底面は平坦である。

[堆積土] 黒色・黒褐色土を主体に11層からなる。上面と底面にはII層相当の黒色土が堆積している。

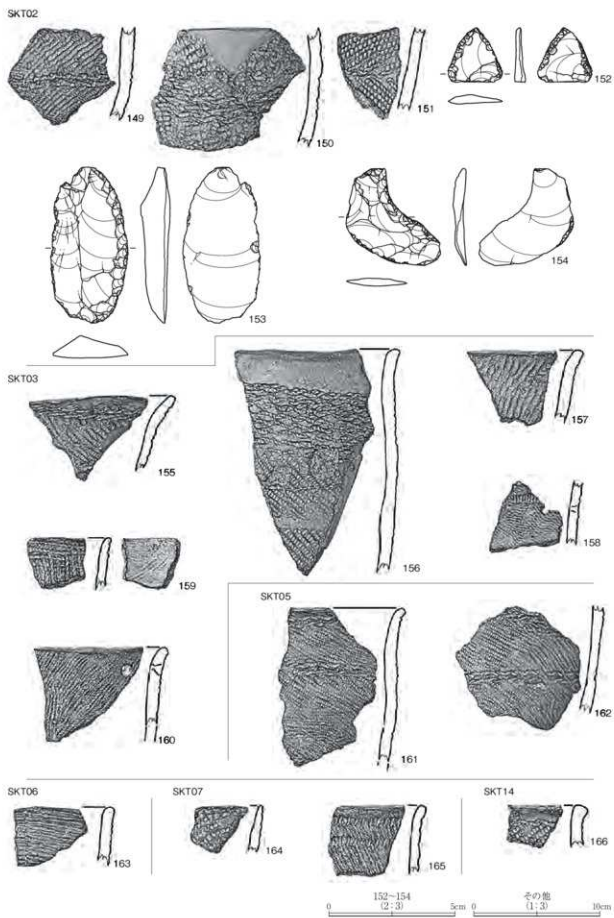
[出土遺物] 土器2点が堆積土中から出土している。いずれも縄文時代早期中葉から後葉に属する。

166はII a群である。この他は分類不明なうえに小片のため図化していない。

[遺構時期] 縄文時代中期から後期初頭である。

[備考] 軸線方向はN-63°-W。軸線方向からは南西向き斜面下方に形成されているSKT10と対になるものと思われる。両者の距離は18m前後である。遺構時期は主体層と他の陥し穴状遺構の帰属時期から判断している。

2 検出された遺構・遺物



第79図 SKT出土遺物

遺構外出土遺物(第80～92)

土器は層位ごとに掲載している。Ⅰ・Ⅱ層では後期前葉の土器、Ⅲ層以下では早期中葉から前期前葉が主体をなしている。

Ⅰ層：167～171・178は縄文後期前葉の土器群である。それ以外は早期中葉から後葉に属するものである。172はⅠ群、173・174・177・179・180はⅣa群、175はⅤa群、176はⅤ群である。

Ⅱ層：182・183は縄文後期前葉の土器群である。184はⅡa群であり、早期中葉から後葉に属するものである。

Ⅱ～Ⅲ層：185はⅣa群である。

Ⅲ層：186はⅠ群、187～201はⅡa群、202はⅢa群、203・204はⅢb群、205～214・217～220はⅣa群、215・216はⅣb群、221・222はⅤa群、223～226はⅤb群、227・228はⅥ群、229は小型土器、230は土製品である。

Ⅳ層：231はⅠ群、232はⅥ群、233はⅤ群である。

石器は層位ごとに掲載している。Ⅲ層以下は早期中葉から後葉に属するものの、それより上位については土器と同様の後期が主体となるものと思われる。しかしながら、ここでは時期区分できないことから、Ⅰ・Ⅱ層出土石器の帰属時期については不明としておきたい。

Ⅰ層：234～236は石鏃Ⅱ類、237は石匙Ⅱ類、238は石匙Ⅰ類、239～242は磨製石斧（4・3・1・1段階）、243は石鎌、244～250は敲磨器類である。

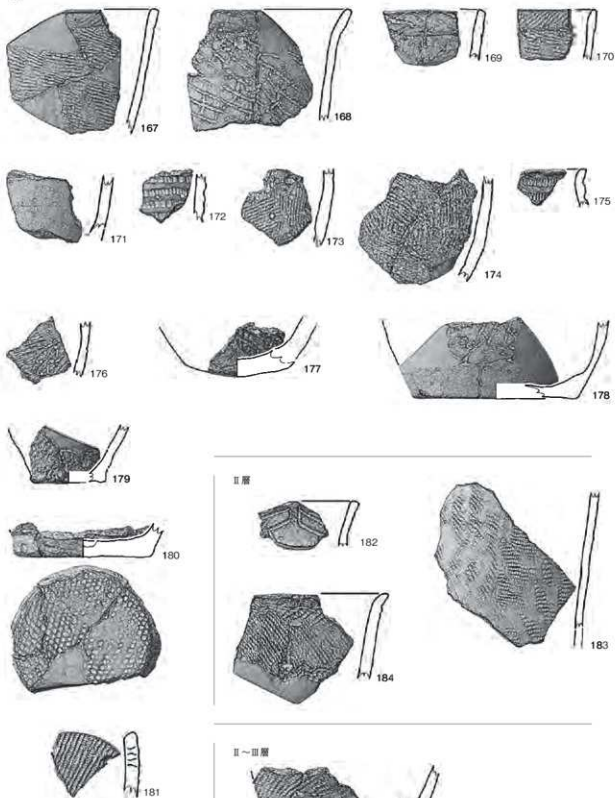
Ⅱ層：251は尖頭器、252は磨製石斧（4段階）、253・254は敲磨器類である。

Ⅲ層：255・256は石鏃の製作段階での失敗品、257は石鎌、258～260は石匙Ⅱ類、261は石匙Ⅲ類、262～264は不定形石器Ⅲ・Ⅱ・Ⅳ類、265～269は磨製石斧（4・3・3・3・3段階）、270は石鎌、271・272は礫器、273～293は敲磨器類である。

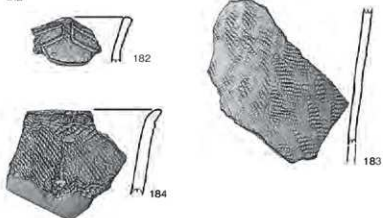
Ⅳ層：294は磨製石斧（3段階）、295は敲磨器類である。

2 検出された遺構・遺物

I層



II層



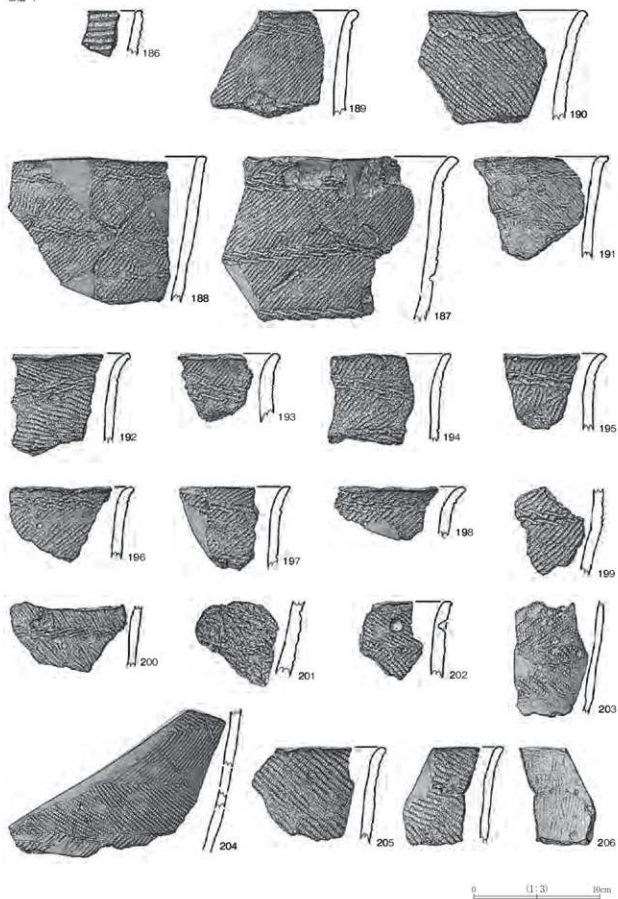
II~III層



0 (1:3) 10cm

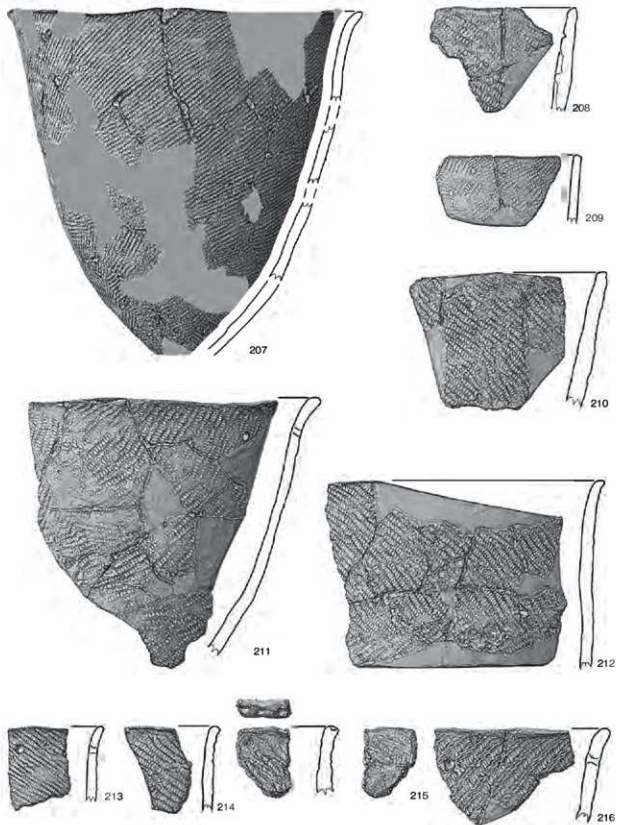
第80図 遺構外出土土器(1)

III層-1



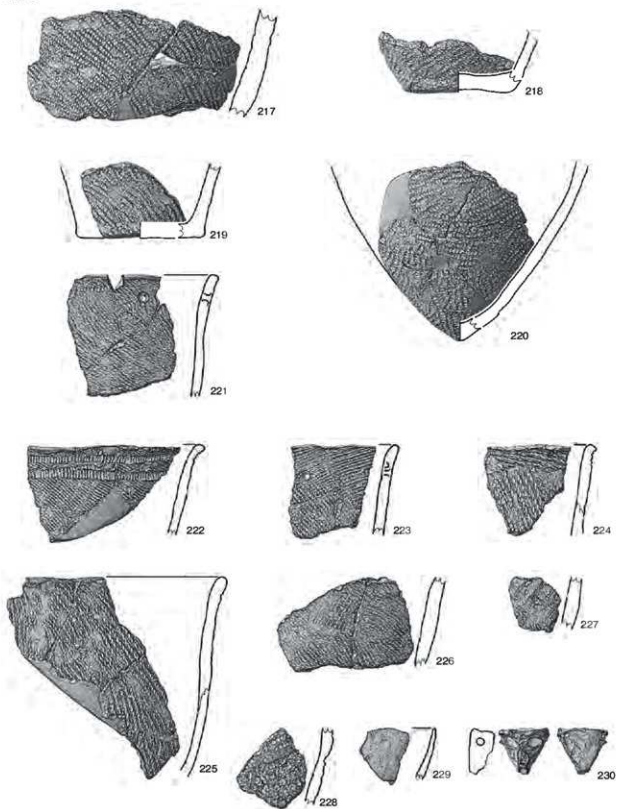
第81圖 遺構外出土土器 (2)

III層-2



第82図 遺構外出土土器(3)

III圖-3



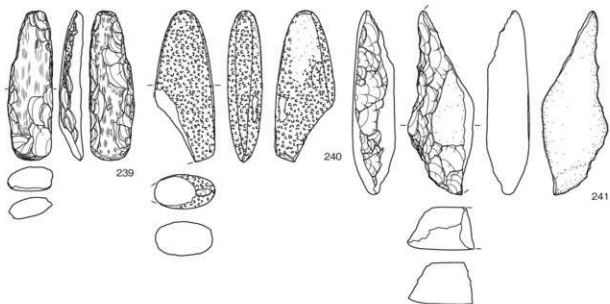
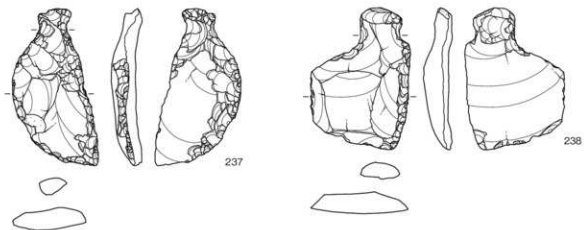
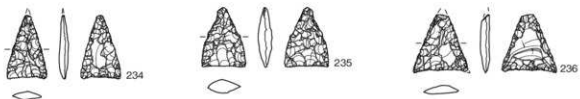
第83圖 遺構外出土土器 (4)

2 検出された遺構・遺物

IV層



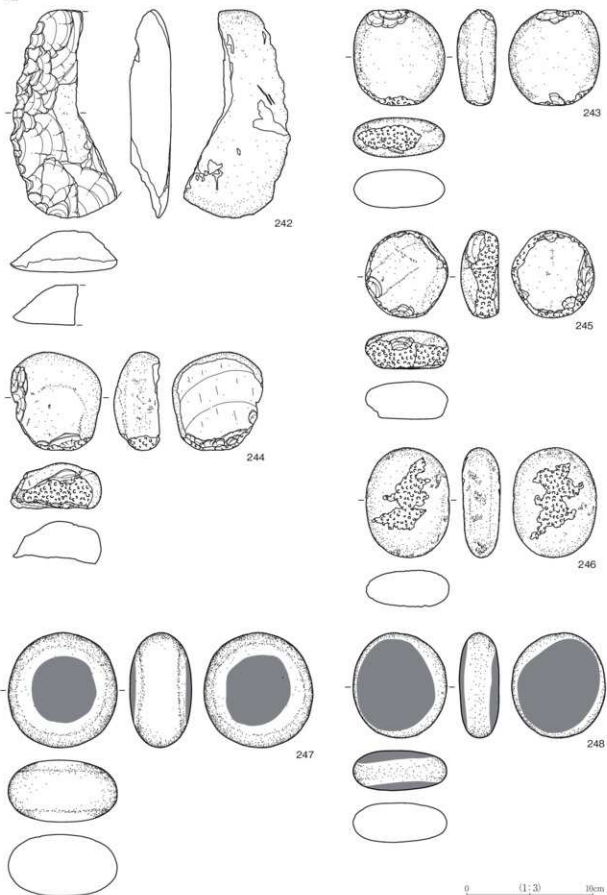
I層



0 234-238 (2:3) 5cm 0 その他 (1:3) 10cm

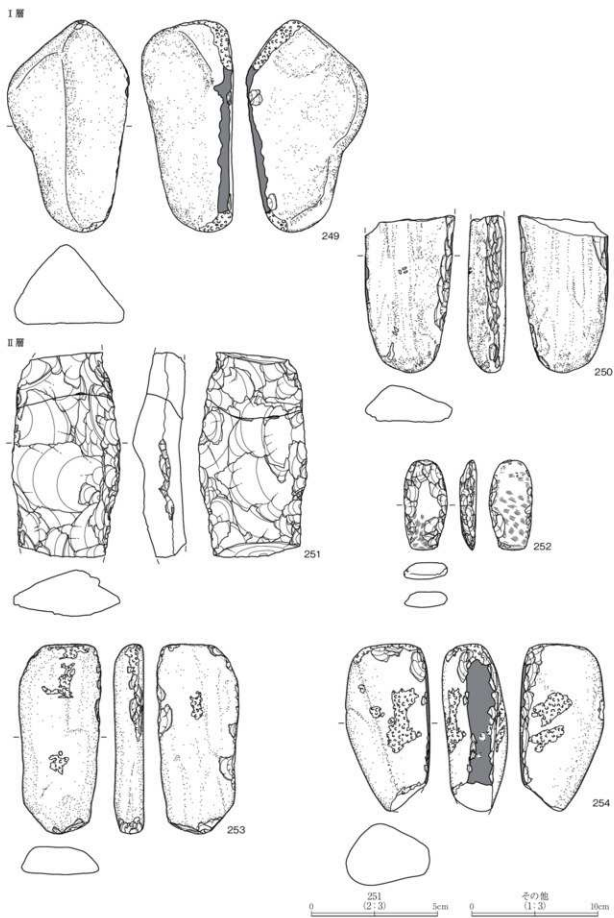
第84図 遺構外出土土器(5)・石器(1)

I 層



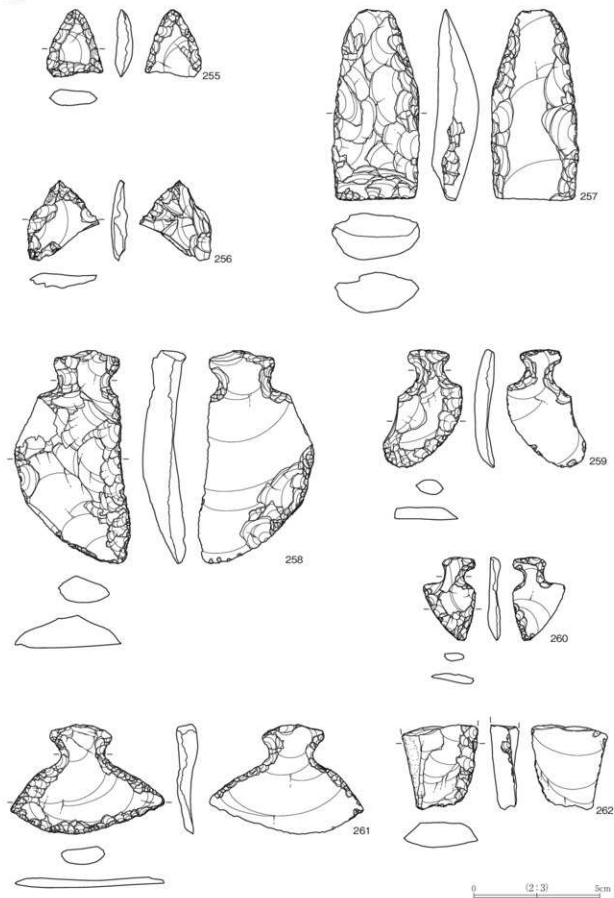
第85図 遺構外出土石器 (2)

2 検出された遺構・遺物



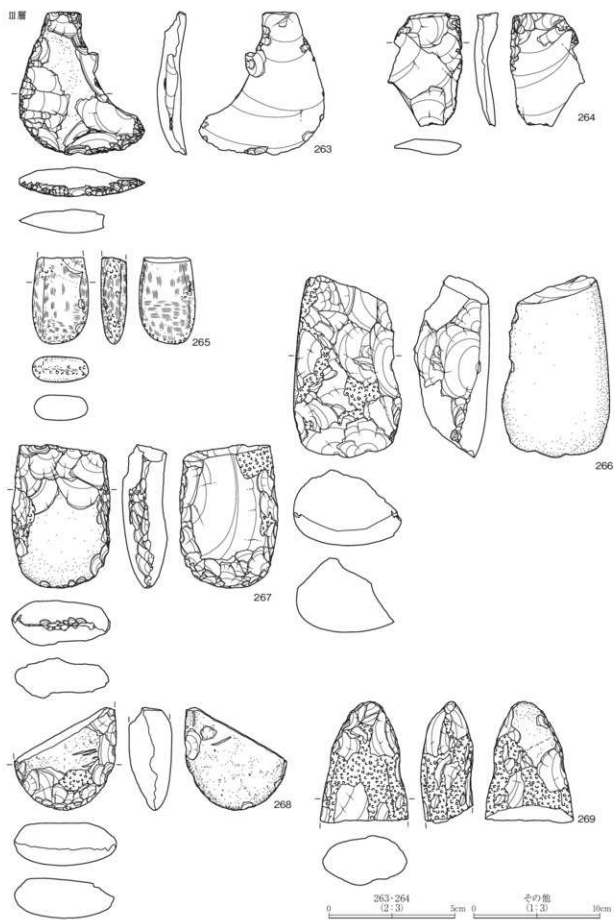
第86図 遺構外出土石器 (3)

III層

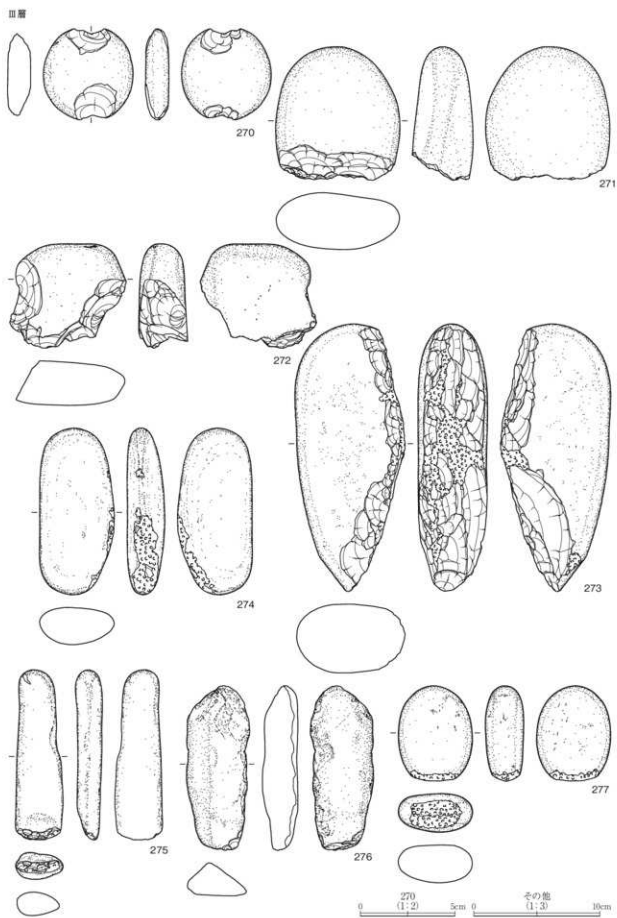


第87図 遺構外出土石器(4)

2 検出された遺構・遺物

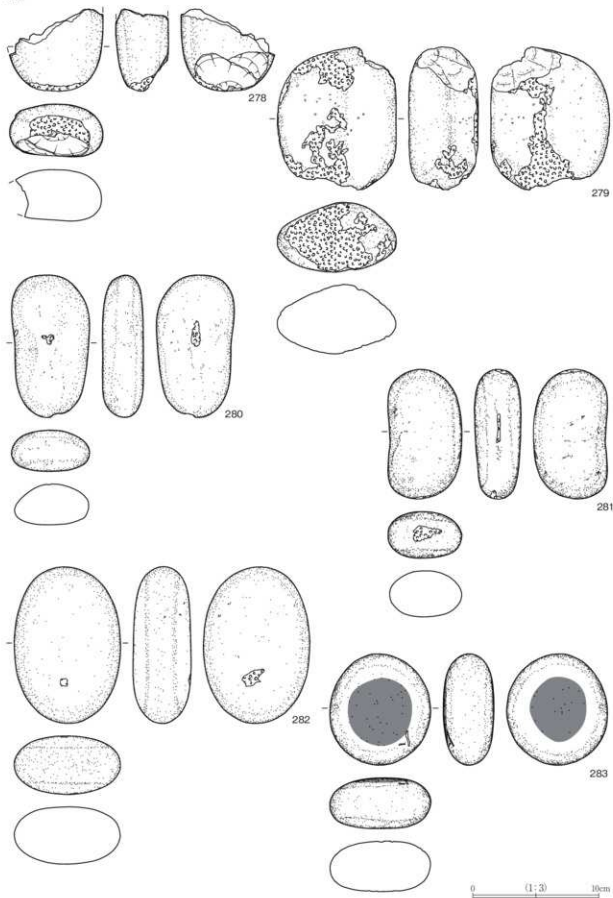


第88図 遺構外出土石器 (5)



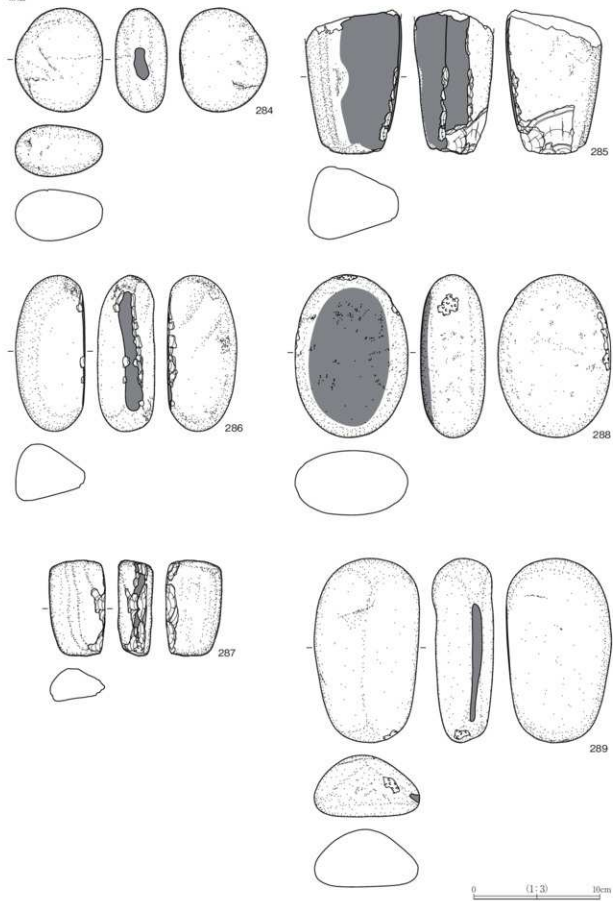
第89図 遺構外出土石器(6)

III層



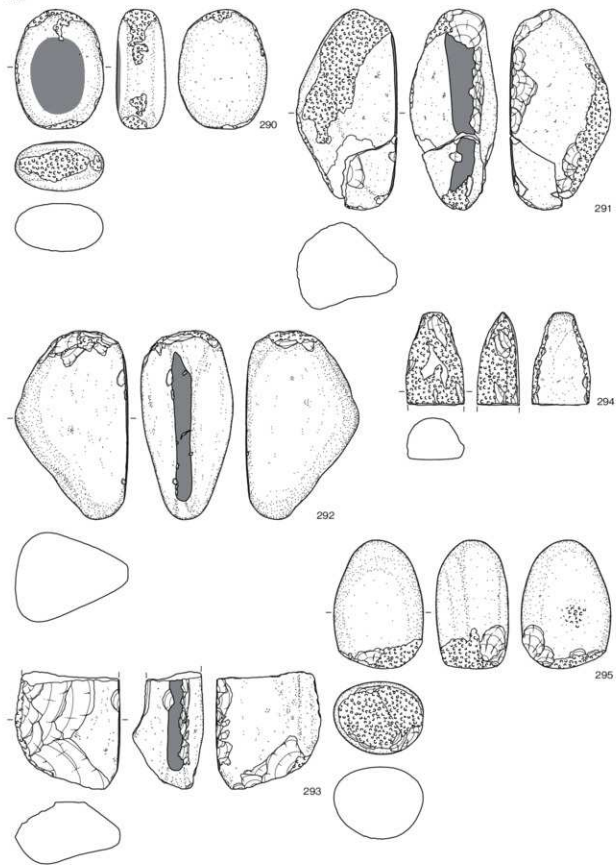
第90図 遺構外出土石器（7）

III層



第91図 遺構外出土石器(8)

III層



第92図 遺構外出土石器 (9)

第2表 土器観察表

掲載 No	出土位置	器種	部位	所見	分期	遺物 図版	写真 図版
1	S01 堆積土	深鉢	口縁	平口縁。地文：RL。胎土：繊維少量混入	IV a	14	54
2	S04 堆積土	深鉢	口縁	平口縁。竹管状工具による横位平行の押引沈線文。胎土：繊維微量・繊維少量混入	I	18	54
3	S04 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(RL)。地文LR。繊維やや多い	II a	18	54
4	S04 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(RL)。地文：LR。胎土：繊維多量・繊維少量混入	II a	18	54
5	S04 堆積土	深鉢	口縁	平口縁。結束第1種羽状縄文(LR・RL)。胎土：繊維・繊維少量混入	III a	18	54
6	S04 堆積土	深鉢	胴部	非結束羽状縄文(LR・RL)。穿孔あり。胎土：繊維微量・繊維少量混入	III b	18	54
7	S04・G5 堆積土上層 SE29-縁一括	深鉢	口縁	平口縁。地文：RL。胎土：繊維多量・繊維少量混入	IV a	18	54
8	S04 堆積土	深鉢	口縁	流状口縁。地文：RL。内面：横ナテ。胎土：繊維多量・繊維少量混入	IV a	18	54
9	S04 堆積土	深鉢	口縁	平口縁。直前段合摺(LR・LR・R)。内面：横ナテ。胎土：繊維少量・繊維微量混入	IV b	18	54
10	S04 堆積土 上層	深鉢	口縁～胴部	平口縁。地文：直前段合摺(LR・LR・R)。穿孔あり。胎土：繊維少量・繊維微量混入	IV b	18	54
11	S04 堆積土	平底深鉢	胴部	地文：LR。繊維微量・繊維少量混入	IV a	18	54
12	S04 堆積土	平底深鉢	底部	地文：LR。胎土：繊維・繊維微量混入	IV a	18	54
16	S05 堆積土	深鉢	口縁	平口縁。結節回転文(RL)。内面：横ナテ。地文：LR。胎土：繊維・繊維少量混入	II a	19	54
20	S07・SE5 堆積土上層	深鉢	口縁	流状口縁。結束第1種羽状縄文(RL・LR)。内面：条痕。胎土：繊維・繊維少量混入	III a	21	54
21	S07・SE5 堆積土上層	深鉢	口縁	流状口縁。口唇部に刺突。胎土：繊維・繊維微量混入	VI	21	54
24	S08 堆積土上層	平底深鉢	胴部	竹管状工具による縦位平行の押引沈線文。地文：RL。胎土：繊維微量・繊維少量混入。25と同一個体	I	22	54
25	S08 堆積土上層	平底深鉢	胴部	竹管状工具による押引沈線文。地文：RL。胎土：繊維微量・繊維少量混入。24と同一個体	I	22	54
26	S08 堆積土上層	平底深鉢	底部	単輪結条体第1類(LR)。胎土：繊維多量・繊維少量混入	V	22	54
28	S09 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁。地文：LR。内面：横ナテ。胎土：繊維・繊維微量混入	IV a	22	54
29	S10 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁。地文：RL。内面：条痕。胎土：繊維多量・繊維少量混入	IV a	23	55
30	S11 堆積土上層	深鉢	胴部	単輪結条体第1類(R)。胎土：繊維・繊維微量混入	V	24	55
31	S11 堆積土上層	平底深鉢	底部	胎土：繊維・繊維少量混入	-	24	55
32	S13・25 堆積土上層	深鉢	口縁～胴部	平口縁。結節回転文(RL)。地文：LR。内面：横ナテ。胎土：繊維多量・繊維微量混入	II a	27	55
33	S13 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁。結節回転文(LR)。地文：RL。胎土：繊維微量混入	II a	27	55
34	S17 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁。地文：RL。内面：条痕。胎土：繊維多量・繊維微量混入	IV a	28	55
35	S17 堆積土上層	深鉢	底部	単輪結条体第1類(LR)。胎土：繊維・繊維微量混入	V	28	55
36	S18 堆積土上層	深鉢	胴部	地文：LR。胎土：繊維少量・繊維微量混入	IV a	30	55
37	S19 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁。結節回転文(LR)。地文：RL。穿孔あり。胎土：繊維少量・繊維微量混入	II a	30	55
38	SD0 堆積土上層	深鉢	胴部	附加条(LR・R)。胎土：繊維多量・繊維微量混入。	IV b	30	55
39	SD22 堆積土上層	深鉢	胴部	結節回転文(RL)。地文：LR。胎土：繊維微量混入	II a	31	55
40	SD25 堆積土上層	深鉢	底部	単輪結条体第1類(R)。胎土：繊維少量・繊維微量混入。底面：木葉痕	V	34	55
41	SD26 堆積土上層	深鉢	胴部	地文LR。胎土：繊維微量・繊維少量混入	IV a	35	55
42	SD30 堆積土中層	深鉢	胴部	単輪結条体第1類(LR)。胎土：繊維少量・繊維微量混入	V	38	55
43	SD30・31 堆積土上層	深鉢	口縁～胴部	平口縁。地文：RL。胎土：繊維多量・繊維微量混入	IV a	39	55
44	SD30・31 堆積土上層	平底深鉢	胴部	地文：RL。胎土：繊維・繊維少量混入	IV a	39	55
46	SD39 堆積土	深鉢	口縁	平口縁。結節回転文(RL)。地文：LR。胎土：繊維・繊維少量混入	II a	55	55

2 検出された遺構・遺物

掲載 No	出土位置	器種	部位	所見	分類	遺物 写真 図版
48	SI39・40 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV a	55 55
49	SI39・40 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結束第1種羽状縄文(LR・RL)、内面：横ナテ、胎土：繊維・細粒少量混入	III a	55 55
50	SI39・41 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：真前段合摺(LR・LR・L)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	II c	55 55
51	SI39・41 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維・細粒少量混入	II a	55 55
52	SI39・41 堆積土上層	深鉢	胴部	結節回転文(RL)、地文はLR、胎土：繊維・細粒少量混入	II a	55 55
53	SI39・41 堆積土上層	深鉢	胴部	地文附加条(LR・R)、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV b	55 55
54	SI39・41 堆積土上層	深鉢	胴部	地文附加条(LR・R)、胎土：繊維多量・細粒少量混入、53と同一個体	IV b	55 55
55	SI39・41 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、車輪跡条体第1類、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒少量混入	V b	55 55
56	SI39・41 堆積土上層	深鉢	底部	穿孔あり、胎土：繊維・細粒微量混入	-	55 55
57	SI39・41 堆積土上層	深鉢	胴部-底部	地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	IV a	55 55
58	SI39・42 堆積土上層 SI39-48一括	深鉢	口縁-胴部	平口縁、地文RL、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV a	56 55
59	SI39・42 堆積土上層 SI39-48一括	深鉢	胴部	結節回転文(RL)、地文RL、繊維やや少ない	IV a	56 54
63	SI41 堆積土	深鉢	胴部	車輪跡条体第1類(L)、胎土：繊維少量・細粒微量混入	V	57 55
64	SI42・43・45・47・48・52 堆積土	深鉢	口縁-胴部	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、内面：条痕、穿孔あり、胎土：繊維微量・細粒少量混入	II a	57 53
65	SI42・43・45・47 堆積土上層	深鉢	口縁-胴部	平口縁、地文：RL、内面：条痕、胎土：繊維多量・細粒少量	IV a	57 56
66	SI42・43・45・47 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結束第1種羽状縄文(RL・LR)、内面：条痕、胎土：繊維多量・細粒少量混入	III a	57 56
67	SI42・43・45・47 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：繊維・細粒少量混入	IV a	58 56
68	SI42・43・45・47 堆積土上層	深鉢	胴部	結束第1種羽状縄文(LR・RL)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	III a	58 56
69	SI42・43・45・47 堆積土上層	深鉢	底部	地文：RL、底面：RL、胎土：繊維・細粒微量混入	IV a	58 56
72	SI43 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維・細粒微量混入	II a	58 56
73	SI43 堆積土	深鉢	胴部	地文：RL、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV a	58 56
76	SI44 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、竹管状工具による横・縦位平行の比線文・刺突凹、胎土：繊維・細粒少量混入	VI a	59 56
78	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁-胴部	平口縁、結節回転文(LR)、地文はRL、内面：条痕、胎土：繊維・細粒少量混入	II a	59 56
79	SI46・48 堆積土上層 莖部	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維少量・細粒微量混入	II a	59 56
80	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維少量混入	II a	59 56
81	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒微量混入	II a	59 56
82	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、内面：条痕が、胎土：繊維多量混入	II a	59 56
83	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、胎土：繊維多量・細粒微量混入	II	59 56
84	SI46・48 堆積土上層	深鉢	胴部	結節回転文(LR)、地文：RL、繊維やや少ない	II a	59 56
85	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結束第1種羽状縄文(RL・LR)、胎土：繊維少量混入	III a	59 56
86	SI46・48 堆積土上層	深鉢	胴部	非結束羽状縄文(LR・RL)、胎土：繊維微量・細粒少量混入	III b	59 56
87	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：繊維少量混入	IV a	59 56
88	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	地文：RL、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV a	59 56
89	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、地文：RL、胎土：繊維少量・細粒微量混入	IV a	59 56
90	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、横面圧痕、車輪跡条体第1類(R)、胎土：繊維・細粒少量混入	V a	59 56
91	SI46・48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、横面圧痕、車輪跡条体第1類(R)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	V a	59 56

掲載 No	出土位置	器種	部位	所見	分類	遺物 図版	写真 図版
92	SI46-48 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、単輪結条体第1類(L)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	V b	59	56
97	SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、内面：横ナテ、胎土：繊維多量・細粒微量混入	II a	60	56
98	SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維・細粒微量混入	II a	60	56
99	SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	II a	60	56
100	SI05堆積土上層 SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、胎土：繊維微量・細粒少量混入	II	60	56
101	SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、結束第1種羽状縄文(RL・LR)、穿孔あり、胎土：繊維・細粒少量混入	III a	60	56
102	SI39-48検出面一括	深鉢	胴部	結束第1種羽状縄文(LR・RL)、胎土：繊維・細粒微量混入	III a	60	56
103	SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒微量混入	IV a	60	56
104	SI39-48検出面一括	尖底深鉢	底部	地文：RL、胎土：繊維少量混入	IV a	60	56
105	SI39-48検出面一括	尖底深鉢	底部	地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	IV a	60	56
106	SI39-48検出面一括	深鉢	底部	地文：LR、穿孔あり、胎土：繊維細粒少量混入	IV a	60	56
107	SI39-48検出面一括	深鉢	口縁	平口縁、単輪結条体第1類(L)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	V b	60	56
108	SI39-48検出面一括	深鉢	底部	胎土：繊維・細粒少量混入	-	60	57
118	SK02 堆積土	深鉢	胴部	地文：直前没合穂(LR・LR・R)、胎土：繊維多量・細粒微量混入	IV b	72	57
119	SK03 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒微量混入	II a	72	57
120	SK11 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、内面：横ナテ、胎土：繊維・細粒少量混入	II a	72	57
121	SK11 堆積土	深鉢	胴部	地文：RL、胎土：繊維少量・細粒微量混入	IV a	72	57
122	SK15 堆積土	深鉢	胴部	地文：LR、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV a	72	57
123	SK19 堆積土	口縁	胴部	竹管状工具による横位平行の沈線文、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒少量混入	VI	72	57
124	SK19 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒少量混入	II a	72	57
126	SK22 堆積土	深鉢	胴部	地文：LR、胎土：繊維多量・細粒少量混入	IV a	72	57
128	SK35 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、竹管状工具による横位平行の押引沈線文、口唇部に刺突列と胴部に穿孔あり、地文：RL、内面：細かい横ナテ、胎土：繊維・細粒少量混入	I	72	57
129	SK38 堆積土	深鉢	胴部	地文：LR、胎土：繊維・細粒微量混入	IV a	72	57
131	SK38堆積土上層 SK38-40堆積土上層	深鉢	口縁～胴部	平口縁、結束第1種羽状縄文(LR・RL)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	III a	72	53
132	SK38-40 堆積土上層	深鉢	口縁～胴部	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維微量・細粒少量混入	II a	73	57
133	SK38-40 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、内面：柔質、胎土：繊維少量・細粒微量混入	II a	73	57
134	SK38-40 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維微量・細粒少量混入	II a	73	57
135	SK38-40 堆積土上層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒微量混入	II a	73	57
136	SK38-40 堆積土上層	深鉢	胴部	結束第1種羽状縄文(LR・RL)、胎土：繊維多量・細粒少量混入	III a	73	57
137	SI46-48堆積土上層 SK38-40堆積土上層	深鉢	胴部～底部	非結束羽状縄文(RL・LR)、胎土：繊維・細粒少量混入	III b	73	53
141	SK44 堆積土	深鉢	胴部	単輪結条体第5類(R)	-	74	57
144	SK45堆積土上層 I層	深鉢	胴部～底部	胎土：細粒多量混入	-	74	53
145	SK49 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、結束第1種羽状縄文(RL・LR)、内面：柔質、胎土：繊維・細粒微量混入	III a	74	57
146	SK59 堆積土	尖底深鉢	底部	結束第1種羽状縄文(RL・LR)、胎土：繊維少量・細粒微量混入	III a	74	57
147	SK68 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、内面細かい横ナテ、胎土：繊維・細粒少量混入	II a	74	57
148	SK68 堆積土	深鉢	胴部～底部	結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維少量・細粒微量混入	II a	74	53

2 検出された遺構・遺物

母坑 No	出土位置	器種	部位	所見	分類	遺物 写真 図版
149	SKT02 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細礫少量混入	II a	79 / 57
150	SKT02 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(LR)、地文：LR、胎土：繊維少量、細礫微量混入	II a	79 / 57
151	SKT02 堆積土	深鉢	胴部	非結束羽状横文(L・RL・RLR)、胎土：繊維少量・細礫微量混入	III b	79 / 57
155	SKT03 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、内面：横ナデ、胎土：繊維・細礫少量混入	II a	79 / 57
156	SKT03 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維多量・細礫少量混入	II a	79 / 57
157	SKT03 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：繊維・細礫多量混入	IV a	79 / 57
158	SKT03 堆積土	深鉢	胴部	側面圧痕、単軸結条体第1類(R)、穿孔あり、胎土：繊維多量・細礫微量混入	V a	79 / 57
159	SKT03 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、単軸結条体第1類(R)、内面：条痕・煤付着、胎土：繊維・細礫少量混入	V b	79 / 57
160	SKT03 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、単軸結条体第1類(L)、穿孔あり、内面：横ナデ、胎土：繊維多量・細礫微量混入	V b	79 / 57
161	SKT05 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維少量・細礫微量混入	II a	79 / 57
162	SKT05 堆積土	深鉢	胴部	結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維・細礫微量混入	II a	79 / 57
163	SKT06 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、単軸結条体第1類(R)、胎土：繊維多量・細礫少量混入	V b	79 / 57
164	SKT07 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、竹管状工具による横位平行の押引沈線文、地文：LR、胎土：繊維・細礫少量混入	I	79 / 57
165	SKT07 堆積土	深鉢	口縁	平口縁、側面圧痕、単軸結条体第1類(R)、胎土：繊維・細礫少量混入	V a	79 / 57
166	SKT14 堆積土下層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、内面：条痕少?、胎土：繊維少量・細礫微量混入	II a	79 / 57
167	I層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：細礫多量混入	-	80 / 57
168	I層	深鉢	口縁	平口縁、単軸結条体第5類(R)、胎土：細礫多量混入	-	80 / 57
169	I層	深鉢	口縁	平口縁、単軸結条体第5類(R)、胎土：細礫多量混入	-	80 / 57
170	I層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：細礫多量混入	-	80 / 57
171	I層	深鉢	胴部	横位沈線	-	80 / 57
172	I層	深鉢	胴部	竹管状工具による横位平行の押引沈線文、胎土：繊維微量・細礫少量混入	I	80 / 57
173	I層	深鉢	胴部	地文：LR、胎土：繊維少量混入	IV a	80 / 57
174	I層	深鉢	胴部	地文：RL、胎土：繊維微量・細礫少量混入	IV a	80 / 57
175	I層	深鉢	口縁	平口縁、側面圧痕、単軸結条体第1類(R)、胎土：繊維多量・細礫少量混入	V a	80 / 57
176	I層	深鉢	胴部	単軸結条体第1類(L)、胎土：繊維・細礫微量混入	V	80 / 58
177	I層	尖底深鉢	底部	丸底?、地文：LR、胎土：繊維多量・細礫少量混入	IV a	80 / 58
178	I層	深鉢	胴部～底部	単軸結条体第5種(R)、胎土：細礫多量混入	-	80 / 53
179	I層	深鉢	底部	地文：LR、胎土：細礫多量混入	IV a	80 / 58
180	I層	深鉢	底部	地文：RL、底面刷代痕	IV a	80 / 58
182	I層	深鉢	口縁	波状口縁、沈線による方形区画文、地文：LR	-	80 / 58
183	II層	深鉢	胴部	地文：RL、胎土：細礫少量混入	-	80 / 58
184	II層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、単軸結条体第1類(L)、地文：RL、内面：横ナデ、胎土：繊維多量・細礫少量混入	II b	80 / 58
185	II～III層	深鉢	胴部～底部	地文：LR、胎土：細礫多量混入	IV a	80 / 58
186	II層	深鉢	口縁	平口縁、竹管状工具による横位平行の押引沈線文、胎土：繊維微量・細礫少量混入	I	81 / 58
187	II層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細礫微量混入	II a	81 / 58
188	II層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細礫少量混入	II a	81 / 58

掲載 No	出土位置	器種	部位	所見	分類	遺物 図版	写真 図版
189	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文LR、内面：横ナデ、胎土：繊維多量・細粒少量混入	Ⅱ a	81	58
190	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅱ a	81	58
191	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、内面：横ナデ、胎土：繊維・細粒少量混入	Ⅱ a	81	58
192	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(LR)、地文：RL、胎土繊維多量・細粒少量混入	Ⅱ a	81	58
193	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文LR、内面：横ナデ、胎土：繊維・細粒少量混入やや多い。	Ⅱ a	81	58
194	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維・細粒多量混入	Ⅱ a	81	58
195	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、内面横ナデ、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒少量混入	Ⅱ a	81	58
196	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒少量	Ⅱ a	81	58
197	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅱ a	81	58
198	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結節回転文(RL)、地文：LR、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅱ a	81	58
199	Ⅱ層	深鉢	胴部	結節回転文(RL)、地文はLR、内面横ナデ付着、胎土：繊維微量混入	Ⅱ a	81	58
200	Ⅱ層	深鉢	胴部	結節回転文(LR)、地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅱ a	81	58
201	Ⅱ層	深鉢	胴部	結節回転文(LR)?、地文RL、胎土：繊維少量・細粒微量混入	Ⅱ a?	81	58
202	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、結束第1種羽状縄文(RL・LR)、内面：横ナデ、穿孔あり、胎土：繊維少量・細粒微量混入	Ⅲ a	81	58
203	Ⅱ層	深鉢	胴部	非結束羽状縄文(LR・LR)、内面：委痕少?、胎土：繊維微量・細粒少量混入	Ⅲ b	81	58
204	Ⅱ層	深鉢	胴部	非結束羽状縄文(RL・LR)、胎土：繊維微量・細粒少量混入	Ⅲ b	81	58
205	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：RL、内面：横ナデ、胎土：繊維多量・細粒少量	Ⅳ a	81	58
206	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：RL、内面：委痕、胎土：繊維微量混入	Ⅳ a	81	58
207	Ⅱ層	尖底深鉢	口縁～胴部	平口縁、地文：LR、尖底少、胎土：繊維多量・細粒少量混入	Ⅳ a	82	53
208	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：O段多糸、胎土：繊維多量・細粒少量混入	Ⅳ a	82	58
209	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、胎土：繊維少量・細粒多量混入	Ⅳ a	82	59
210	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅳ a	82	58
211	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：LR、繊維多量・細粒微量混入	Ⅳ a	82	58
212	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	平口縁、地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅳ a	82	59
213	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：RL、穿孔あり、胎土：繊維少量混入	Ⅳ a	82	59
214	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、地文：RL、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅳ a	82	59
215	Ⅱ層	深鉢	口縁	波状口縁、口唇部割突、地文：直前段合摺(RL・L・L)、内面：外面と同地文、胎土：繊維微量・細粒少量混入	Ⅳ b	82	59
216	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、直前段合摺(O段多糸、L・L)、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒少量混入	Ⅳ b	82	59
217	Ⅱ層	深鉢	胴部	地文：RL、胎土：繊維多量・細粒少量混入	Ⅳ a	83	59
218	Ⅱ層	深鉢	胴部～底部	地文：RL、胎土：繊維少量・細粒多量混入、底面：網代痕	Ⅳ a	83	53
219	Ⅱ層	深鉢	底部	地文：RL、底面：RL、胎土：繊維少量・細粒微量混入	Ⅳ a	83	59
220	Ⅱ層	尖底深鉢	底部	地文：LR、胎土：繊維多量・細粒微量混入	Ⅳ a	83	59
221	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、側面圧痕、車輪跡糸体第1類(R)、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒少量混入	V a	83	59
222	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、側面圧痕、車輪跡糸体第1類(R)、胎土：繊維多量・細粒微量混入	V a	83	59
223	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、車輪跡糸体第1類(L)、穿孔あり、胎土：繊維多量・細粒微量混入	V b	83	59
224	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、車輪跡糸体第1類(L)、胎土：繊維多量・細粒少量	V b	83	59

2 検出された遺構・遺物

掲載 No	出土位置	器種	部位	所見	分類	遺物 図版	写真 図版
225	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	平口縁、単輪結条体第1類(L)、胎土：繊維多量・細礫少量混入	V b	83	59
226	Ⅱ層	深鉢	胴部	単輪結条体第1類(R)、胎土：繊維多量・細礫少量混入	V	83	59
227	Ⅱ層	深鉢	胴部	細い工具による格子状沈線、胎土：繊維多量・細礫微量混入	VI	83	59
228	Ⅱ層	深鉢	胴部	竹管状工具による刺突列、地文：LRL？、胎土：繊維・細礫少量混入	VI	83	59
229	Ⅱ層	小型土器	口縁～胴部	胎土：繊維微量・細礫少量混入	-	83	59
231	Ⅱ層	深鉢	口縁	平口縁、口唇部に刺突列、竹管状工具による押引沈線文、地文：RL、胎土：繊維・細礫微量混入	I	84	59
232	Ⅳ層	深鉢	胴部	工具による沈線、繊維やや少ない	VI	84	59
233	Ⅳ層	尖底深鉢	底部	単輪結条体第1類(R)、胎土：繊維多量・細礫微量混入	V	84	59

第3表 土製品観察表

掲載 No	出土位置	所見	遺物 図版	写真 図版
181	I層	地文：RL、穿孔あり	80	58
230	Ⅱ層	穿孔あり、繊維少量混入	83	59

第4表 石器観察表

図表 No	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	遺物 図版	写真 図版
13	SI04堆積土	石匙Ⅱ類	39.5	28.8	6.8	907	頁岩	18	60
14	SI04堆積土	磨器Ⅰb類	127.8	76.4	52.4	697.34	石英斑岩	19	61
15	SI04堆積土	不明石器	173.7	43.5	47.2	499.60	珪化土	19	61
17	SI05堆積土	尖頭器	83.0	31.7	14.3	39.53	頁岩	19	60
18	SI05堆積土	石匙Ⅱ類	45.5	28.2	9.7	14.57	頁岩	19	60
19	SI05堆積土	磨器Ⅰb類	148.7	77.5	63.0	1112.16	石英斑岩	19	61
22	SI07・SI53堆積土上層	磨器Ⅰd類	125.4	54.6	45.1	485.07	砂岩	21	61
23	SI07・SI53堆積土上層	磨器Ⅱb類	133.8	67.6	46.7	525.77	細粒花崗閃緑岩	21	61
27	SI08堆積土下層	石鏝	14.6	16.2	3.0	0.59	頁岩	22	60
45	SI30・31堆積土上層	磨器Ⅰd類	74.5	68.6	67.1	466.86	チャート	39	61
47	SI30堆積土	石鏝Ⅰ類	39.1	15.0	5.5	2.81	頁岩	55	60
60	SI39・41・43・52堆積土上層	石匙Ⅱ類	49.4	40.4	9.2	19.86	頁岩	56	60
61	SI39・41・43・52堆積土上層	不定形石器Ⅰ類	96.7	35.0	12.7	36.88	頁岩	57	61
62	SI39・41・43・52堆積土上層	磨器Ⅰd類	69.2	124.3	26.9	358.79	細粒花崗閃緑岩	57	61
70	SI42・43・45・47堆積土上層	磨製石斧(3)	63.4	74.7	39.2	260.77	細粒花崗閃緑岩	58	61
71	SI42・43・45・47堆積土上層	磨器Ⅱa類	85.8	83.2	48.7	512.64	砂岩	58	61
74	SI43堆積土	磨器Ⅰd類	93.2	78.0	51.2	546.59	石英斑岩	58	61
75	SI43堆積土	磨器Ⅰa類	127.2	74.0	34.3	515.57	頁岩	58	61
77	SI44 塚積土上層	磨器Ⅱ類	126.1	67.2	43.5	623.66	細粒はんれい岩	59	61
93	SI46・48堆積土上層	石鏝Ⅱ類	23.1	20.1	3.6	1.55	頁岩	60	60
94	SI46・48堆積土上層	石匙Ⅰ類	70.7	23.2	9.8	14.83	頁岩	60	60
95	SI46・48堆積土上層	石匙Ⅱ類	55.4	21.6	7.7	11.21	頁岩	60	60
96	SI48堆積土	不定形石器Ⅳ類	49.3	52.3	11.5	25.87	頁岩	60	61
109	SI39-48一括	尖頭器	65.7	34.5	10.8	22.06	頁岩	61	60
110	SI39-48一括	石鏝Ⅱ類	21.6	17.1	4.2	1.39	頁岩	61	60
111	SI39-48一括	石鏝Ⅱ類	25.7	14.5	3.8	1.16	頁岩	61	60
112	SI39-48一括	石鏝Ⅱ類	29.4	23.4	4.7	2.84	頁岩	61	60
113	SI39-48一括	不定形石器Ⅱ類	33.5	35.8	4.8	4.93	頁岩	61	60
114	SI39-48一括	不定形石器Ⅰ類	20.4	31.1	7.5	5.54	頁岩	61	61
115	SI39-48一括	不定形石器Ⅳ類	43.4	29.9	7.0	8.25	頁岩	61	61
116	SI39-48一括	石鏝	47.1	47.4	12.2	41.56	砂岩	61	61
117	SI39-48一括	磨器Ⅱ類	115.1	66.0	51.5	571.46	花崗閃緑岩	61	61
125	SK19堆積土	石鏝	20.1	19.6	2.5	0.95	頁岩	72	60
127	SK31堆積土	石鏝	52.9	28.9	9.6	14.73	頁岩	72	60
130	SK38堆積土	磨器Ⅰd類	85.0	63.7	36.1	278.91	ホルンフェルス	72	61
138	SK38-40堆積土上層	石匙Ⅰ類	64.0	37.1	8.1	15.32	頁岩	73	60
139	SK38-40堆積土上層	磨製石斧(4)	124.8	51.3	21.1	187.87	ヒン岩	73	61
140	SK38-40堆積土上層	磨器Ⅰd類	63.2	58.4	49.1	250.49	チャート	73	61
142	SK44塚積土	磨器Ⅰb類	102.0	87.7	77.0	939.55	チャート	74	61
143	SK44塚積土	磨器Ⅰd類	76.6	71.0	62.6	477.93	チャート	74	61
152	SKT02堆積土上層	石鏝Ⅱ類	21.3	21.3	4.1	1.42	頁岩	79	60
153	SKT02堆積土上層	不定形石器Ⅰ類	61.6	30.4	11.7	17.96	頁岩	79	61
154	SKT02堆積土中層	不定形石器Ⅱ類	35.5	32.9	4.1	3.78	頁岩	79	61
234	I層	石鏝Ⅱ類	24.4	15.6	3.5	1.19	頁岩	84	60
235	I層	石鏝Ⅱ類	23.0	17.3	5.4	1.77	頁岩	84	60
236	I層	石鏝Ⅱ類	21.9	21.4	3.5	1.43	頁岩	84	60
237	I層	石匙Ⅱ類	60.6	30.2	9.6	18.84	頁岩	84	60
238	I層	石匙Ⅰ類	55.8	38.8	10.0	20.7	頁岩	84	60
239	I層	磨製石斧(4)	118.2	35.6	17.6	91.09	ホルンフェルス	84	61
240	I層	磨製石斧(3)	114.9	46.5	27.2	215.22	細粒花崗閃緑岩	84	61
241	I層	磨製石斧(1)	125.4	51.5	33.5	290.96	ヒン岩	84	61
242	I層	磨製石斧(1)	165.0	70.9	32.4	425.06	ヒン岩	85	61
243	I層	磨器Ⅰb類	75.4	71.9	30.6	290.78	ホルンフェルス	85	61

2 検出された遺構・遺物

図表 No	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	遺物 図版	写真 図版
244	I層	最密器Ⅰd類	77.5	71.6	35.1	317.10	ホルンフェルス	85	61
245	I層	最密器Ⅰd類	69.2	65.5	29.7	246.12	細粒はんれい岩	85	61
246	I層	最密器Ⅰc類	86.8	66.1	29.9	261.57	花崗質岩	85	61
247	I層	最密器Ⅱa類	90.9	86.3	48.8	568.22	石英質岩	85	62
248	I層	最密器Ⅱa類	83.2	74.3	31.4	314.89	石英質岩	85	62
249	I層	最密器Ⅲ類	167.8	95.5	72.7	1274.1	砂岩	86	62
250	I層	最密器Ⅲ類	121.9	69.3	30.3	358.32	ホルンフェルス	86	62
251	II層	尖頭器	81.0	42.6	18.2	58.22	頁岩	86	60
252	II層	磨製石斧(4)	71.2	34.1	12.9	46.85	細粒閃緑岩	86	62
253	II層	最密器Ⅰd類	150.1	64.9	23.7	382.36	ホルンフェルス	86	62
254	II層	最密器Ⅲ類	132.3	66.2	48.9	599.43	砂岩	86	62
255	II層	石鏃Ⅱ類	25.4	21.8	6.3	3.72	頁岩	87	60
256	II層	石鏃	27.2	27.5	6.0	3.9	頁岩	87	60
257	II層	石鏃	75.2	34.5	16.1	27.86	頁岩	87	60
258	II層	石鏃Ⅱ類	82.5	42.0	13.7	45.06	頁岩	87	60
259	II層	石鏃Ⅱ類	45.5	25.3	6.5	8.7	頁岩	87	60
260	II層	石鏃Ⅱ類	32.7	20.0	4.8	2.29	頁岩	87	60
261	II層	石鏃Ⅱ類	43.3	59.4	7.8	11.58	頁岩	87	60
262	II層	不定形石器Ⅲ類	32.4	29.6	11.2	10.88	頁岩	87	61
263	II層	不定形石器Ⅲ類	56.4	46.7	9.3	21.19	頁岩	88	61
264	II層	不定形石器Ⅳ類	44.6	27.7	8.0	8.25	頁岩	88	61
265	II層	磨製石斧(4)	68.1	44.1	20.1	111.64	ヒン岩	88	62
266	II層	磨製石斧(3)	141.4	85.4	59.6	960.36	細粒閃緑岩	88	62
267	II層	磨製石斧(3)	112.9	77.4	32.7	445.24	細粒花崗閃緑岩	88	62
268	II層	磨製石斧(3)	67.4	79.4	33.7	236.36	細粒花崗閃緑岩	88	62
269	II層	磨製石斧(3)	94.7	69.6	40.5	354.18	細粒花崗閃緑岩	88	62
270	II層	石鏃	54.5	50.9	13.8	50.72	砂岩	89	62
271	II層	礫器	104.3	98.3	47.6	868.96	細粒はんれい岩	89	62
272	II層	礫器	81.2	86.9	38.1	412.49	細粒花崗閃緑岩	89	62
273	II層	最密器Ⅰa類	211.8	86.1	55.4	1582.39	細粒はんれい岩	89	62
274	II層	最密器Ⅰa類	132.3	59.4	29.6	389.98	細粒花崗閃緑岩	89	62
275	II層	最密器Ⅰb類	134.3	37.0	20.9	150.01	砂岩	89	62
276	II層	最密器Ⅰb類	130.0	49.4	27.8	214.76	ホルンフェルス	89	62
277	II層	最密器Ⅰb類	75.3	58.8	30.6	255.97	細粒はんれい岩	89	62
278	II層	最密器Ⅰb類	58.8	72.0	41.7	280.88	細粒はんれい岩	90	62
279	II層	最密器Ⅰd類	112.1	94.2	55.0	780.28	花崗岩	90	62
280	II層	最密器Ⅰc類	112.8	61.3	32.7	400.7	ホルンフェルス	90	62
281	II層	最密器Ⅰd類	102.5	57.2	36.8	443.93	細粒はんれい岩	90	62
282	II層	最密器Ⅰc類	124.1	84.1	46.0	743.50	頁岩	90	62
283	II層	最密器Ⅱa類	88.2	80.0	40.0	430.47	花崗質岩	90	62
284	II層	最密器Ⅱb類	82.3	69.2	40.9	354.34	石英質岩	91	62
285	II層	最密器Ⅱc類	109.8	75.6	62.8	683.78	ダイヤモンド	91	62
286	II層	最密器Ⅱb類	123.5	54.8	45.2	430.99	砂岩	91	62
287	II層	最密器Ⅱb類	75.7	44.3	27.4	133.79	ホルンフェルス	91	62
288	II層	最密器Ⅲ類	129.3	89.4	51.4	928.15	花崗閃緑岩	91	62
289	II層	最密器Ⅲ類	145.8	82.7	47.1	862.22	砂岩	91	62
290	II層	最密器Ⅲ類	94.5	70.0	39.0	411.06	安山岩	92	62
291	II層	最密器Ⅲ類	158.6	79.8	69.0	1029.37	花崗閃緑岩	92	63
292	II層	最密器Ⅲ類	149.2	89.6	72.5	1119.34	細粒花崗閃緑岩	92	63
293	II層	最密器Ⅲ類	88.5	83.1	55.6	497.69	砂岩	92	63
294	IV層	磨製石斧(3)	73.4	45.6	33.4	172.07	細粒花崗閃緑岩	92	63
295	IV層	最密器Ⅰb類	101.8	71.0	57.4	617.77	頁岩	92	63

Ⅶ 自然科学分析

1 放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

田ノ端Ⅱ遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第44地内に所在する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化物合計10点である (表1)。

2 測定の意義

遺構の時期を特定する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料

の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.3較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の ^{14}C 年代は、 $12350 \pm 40\text{yrBP}$ (試料10) から $3660 \pm 20\text{yrBP}$ (試料5) と、かなりの幅がある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い試料10が $14454 \sim 14170\text{cal BP}$ の範囲、最も新しい試料5が $4075 \sim 3927\text{cal BP}$ の間に3つの範囲で示される。古い方から順に、試料8、10が縄文時代草創期の隆線土器から爪形文土器、7、9が草創期の多縄文土器の事例に近い。4、6が早期中葉頃、2、3が前期前半頃、1が前期後葉頃、5が後期前葉頃に相当する (小林2017、小林編2008)。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林謙一 2017 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—, 同成社
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

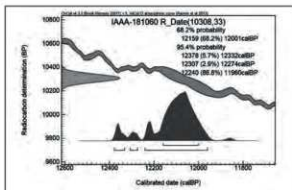
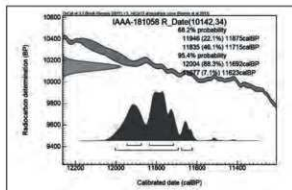
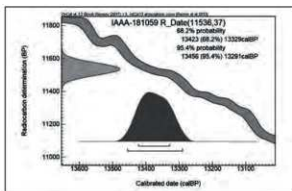
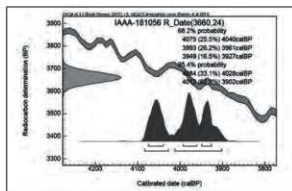
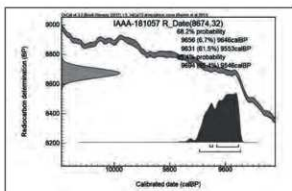
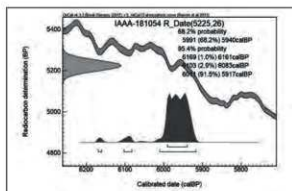
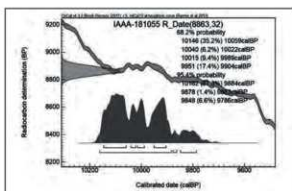
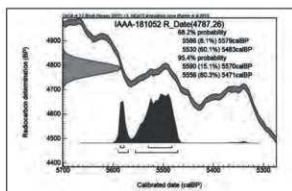
測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (SM)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正後	
						Libby Age (yrBP)	μMC (‰)
IAM-181052	1	S117 埋土下層	炭化物	AsA	-25.68 ± 0.21	4,790 ± 30	53.11 ± 0.18
IAM-181053	2	S117 埋土中層	炭化物	AsA	-24.29 ± 0.27	5,280 ± 30	51.80 ± 0.18
IAM-181054	3	S120 埋土中層	炭化物	AsA	-27.49 ± 0.25	5,230 ± 30	52.18 ± 0.17
IAM-181055	4	S122 埋土上層	炭化物	AsA	-25.96 ± 0.25	8,900 ± 30	33.18 ± 0.14
IAM-181056	5	S123 埋土中層	炭化物	AsA	-25.45 ± 0.22	3,660 ± 20	63.40 ± 0.19
IAM-181057	6	S125 埋土中層	炭化物	AAA	-26.72 ± 0.22	8,670 ± 30	33.96 ± 0.14
IAM-181058	7	S124 埋土中層	炭化物	AAA	-25.34 ± 0.25	10,140 ± 30	28.29 ± 0.12
IAM-181059	8	S131 床面	炭化物	AsA	-24.40 ± 0.36	11,540 ± 40	23.78 ± 0.11
IAM-181060	9	S135 床面	炭化物	AAA	-28.17 ± 0.27	10,710 ± 30	27.71 ± 0.12
IAM-181061	10	S187 埋土上層	炭化物	AsA	-27.06 ± 0.27	12,350 ± 40	21.50 ± 0.10

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	μMC (‰)			
IAM-181052	4,800 ± 30	53.03 ± 0.18	4,787 ± 38	5096calBP - 5079calBP (8.1%) 5330calBP - 5483calBP (30.1%)	5096calBP - 5079calBP (15.1%) 5056calBP - 5471calBP (30.3%)
IAM-181053	5,270 ± 30	51.88 ± 0.17	5,284 ± 27	6175calBP - 6152calBP (14.4%) 6136calBP - 6077calBP (24.7%) 6065calBP - 6047calBP (8.6%) 6025calBP - 5994calBP (19.3%)	6186calBP - 6141calBP (19.3%) 6126calBP - 5988calBP (72.3%) 5995calBP - 5949calBP (3.6%)
IAM-181054	5,260 ± 30	51.93 ± 0.17	5,225 ± 38	5991calBP - 5966calBP (38.2%)	6108calBP - 6161calBP (1.6%) 6108calBP - 6083calBP (2.3%)
IAM-181055	8,670 ± 30	33.14 ± 0.13	8,863 ± 32	10146calBP - 10059calBP (33.2%) 10006calBP - 10022calBP (6.2%) 10015calBP - 9999calBP (8.4%) 9953calBP - 9904calBP (17.4%)	10192calBP - 9884calBP (67.3%) 9878calBP - 9903calBP (1.4%) 9848calBP - 9796calBP (6.6%)
IAM-181056	3,670 ± 20	63.34 ± 0.19	3,669 ± 24	4075calBP - 4046calBP (25.3%) 3995calBP - 3961calBP (26.2%) 3949calBP - 3927calBP (16.3%)	4084calBP - 4028calBP (33.1%) 4012calBP - 3903calBP (62.3%)
IAM-181057	8,700 ± 30	33.84 ± 0.13	8,674 ± 32	9696calBP - 9696calBP (6.7%) 9631calBP - 9553calBP (51.5%)	9696calBP - 9546calBP (36.4%)
IAM-181058	10,150 ± 30	28.27 ± 0.12	10,142 ± 34	11946calBP - 11875calBP (22.1%) 11835calBP - 11715calBP (46.1%)	12004calBP - 11602calBP (58.3%) 11677calBP - 11622calBP (7.1%)
IAM-181059	11,530 ± 40	23.80 ± 0.11	11,536 ± 37	13423calBP - 13329calBP (68.2%)	13464calBP - 13291calBP (56.4%)
IAM-181060	10,360 ± 30	27.53 ± 0.11	10,308 ± 33	12158calBP - 12061calBP (68.2%)	12376calBP - 12332calBP (5.7%) 12307calBP - 12272calBP (2.9%) 12295calBP - 11990calBP (66.4%)
IAM-181061	12,360 ± 40	21.41 ± 0.10	12,349 ± 38	14454calBP - 14179calBP (68.2%)	14695calBP - 14122calBP (56.4%)

[参考値]

1 放射性炭素年代 (AMS測定)



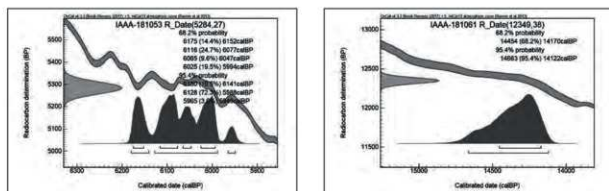


図1 暦年較正年代グラフ (参考)

2 火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

1. はじめに

三陸地方北部の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳など東北地方の火山のほか、浅間など中部地方、洞爺、三瓶、始良など北海道、中国地方、九州地方、さらには白頭山など遠方の火山に由来するテフラが数多く挟在されている。とくに、後期更新世以降の多くのテフラについては、層相や年代さらに岩石記載の特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，2011）などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を実施し、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古学的な遺物・遺構の層位や年代などに関する情報を得ることができるようになっている。

洋野町田ノ端Ⅱ遺跡における発掘調査でも、層位や起源が不明なテフラ層やテフラ粒子が認められたことから、地質調査と高純度の試料採取を行うとともに、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定）を実施して、それらの起源を求め、土層の層位と年代に関する資料を収集することになった。

2. 調査地点の土層層序

基本的土層断面である調査区北側土層断面では、下位より成層したテフラ層（層厚43cm、Ⅶ層）、上半がやや暗い黄灰色土（層厚14cm、Ⅵ層）、黄色細粒軽石混じりでやや灰色がかかった黄色土（層厚19cm、軽石の最大径5mm、Ⅴ層）、黄色細粒軽石を多く含む暗灰褐色土（層厚16cm、軽石の最大径4mm、Ⅳ層）、黄色細粒軽石を多く含む黒灰褐色土（層厚20cm、軽石の最大径2mm）、黄色粗粒火山灰混じりでややわらかい黒灰褐色土（層厚11cm、以上Ⅲ層）、暗褐色土（層厚7cm）、黒褐色土（層厚19cm）、暗灰褐色表土（層厚8cm、Ⅰ層）が認められる（図1）。

このうち、成層したテフラ層（Ⅶ層）は、下位より黄色細粒火山灰層（層厚5cm以上）、黄色軽石層（層厚2cm、軽石の最大径9mm、石質岩片の最大径2mm）、黄色砂質細粒火山灰層（層厚1cm）、黄色軽石層（層厚2cm、軽石の最大径27mm、石質岩片の最大径3mm）、黄色砂質細粒火山灰層（層厚7cm）、黄灰色砂質細粒火山灰層（層厚4cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚3cm）、黄色粗粒軽石層（層厚12cm、軽石の最大径13mm、石質岩片の最大径2mm）、黄色粗粒火山灰層（層厚5cm）、黄色軽石層（層厚2cm、軽石の最大径7mm、石質岩片の最大径2mm）からなる。

3. テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

詳細な分析に先立って、田ノ端Ⅱ遺跡から採取されたテフラ分析用試料のうち12点を対象として、試料に含まれるテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 砂分の量に応じて8～10gを電子天秤で秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去した後に、恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。調査区北側土層断面では、成層したテフラ層の一部を構成する軽石層から採取された試料23と、試料9および試料7から比較的多くの火山ガラスが検出された。試料23に含まれる火山ガラスには、スポンジ状軽石型が多く、繊維束状軽石型や中間型も認められる。それらの色調は、わずかに黄色がかった白色や白色である。重鉱物には、斜方輝石、単斜輝石、角閃石が認められる。試料9や試料7に含まれる火山ガラスは白色のスポンジ状軽石型であるが、前者にはほかにわずかながら細粒の白色軽石（最大径2.1mm）も認められる。これらの試料に含まれる重鉱物は、斜方輝石や単斜輝石である。

火山ガラスが比較的多く含まれる①区北西壁から採取された2試料のうち、試料2ではスポンジ状軽石型が、また試料1では繊維束状やスポンジ状の軽石型が認められる。前者は白色であるが、後者は白色、灰白色、淡褐色と多様である。重鉱物としては、いずれにも斜方輝石と単斜輝石が含まれている。

4. テフラ組成分析

(1) 分析方法

テフラ検出分析対象の12試料を対象として、テフラ粒子の量や特徴を定量的に把握するために、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて $>1/4\text{mm}$ 、 $1/4\sim 1/8\text{mm}$ 、 $1/8\sim 1/16\text{mm}$ 、 $<1/16\text{mm}$ の粒子に篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で $1/4\sim 1/8\text{mm}$ の250粒子を観察して、火山ガラスの形態（一部色調）別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
- 3) 偏光顕微鏡下で $1/4\sim 1/8\text{mm}$ の重鉱物250粒子を観察して、重鉱物組成を明らかにする（重鉱物組成分析）。

(2) 分析結果

テフラ組成分析の結果を図2に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果の内訳を表2と表3に示す。調査区北側土層断面では、試料23に多くの火山ガラスが含まれている（26.4%）。この試料に含まれる火山ガラスは、スポンジ状軽石型（12.8%）、繊維束状軽石型（11.2%）、中間型（2.0%）、無色透明のバブル型（0.4%）である。この試料では軽鉱物の含有率も高い（58.0%）。重鉱物には、斜方輝石（28.8%）、単斜輝石（20.8%）、角閃石（5.2%）が認められる。また、不透明鉱物以外の重鉱物は試料21や試料15で多く、斜方輝石や単斜輝石、そして微量の角閃石が含まれている。とくに、試料15で斜方輝石と単斜輝石の含有率が高い。

①区北西壁では、試料1に火山ガラスがやや多く含まれている。ただ、岩片の含有率や風化の程度、さらに不透明鉱物以外の重鉱物の含有率も試料2と試料1でさほど違いはない。含まれる重鉱物は、斜方輝石と単斜輝石である。

5. 屈折率測定（火山ガラス・鉱物）

(1) 測定試料と測定方法

テフラ組成分析対象試料のうちの10試料に含まれる火山ガラスと鉱物の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定方法は、温度変化型屈折率法（壇原、1993）である。

測定対象の火山ガラスは1/8-1/16mm粒子中のもの、鉱物は>1/4mm粒子から手選した斜方輝石を軽く粉砕したものとした。

(2) 測定結果

調査区北側における屈折率の測定結果を、代表的な指標テフラの屈折率特性も合わせて表4に示す。試料に含まれる火山ガラスの屈折率 (n) のrangeは1.499-1.513である。試料のうち、試料15には、ごくわずかながら1.514を超えるものも含まれている。また、試料9に含まれる火山ガラスの屈折率 (n: 1.500-1.513) はbimodal組成で、1.500 (1粒子) と1.509-1.513 (31粒子) からなる。一方、斜方輝石の屈折率 (γ) のrangeは1.701-1.713である。

6. 考 察

北側土層断面における土層断面観察、テフラ検出分析およびテフラ組成分析の結果から総合的に判断すると、次の試料採取層単にテフラの降灰層単があると考えられる。これらのテフラについて、テフラ粒子の岩相や重鉱物の組み合わせ、さらに火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性をもとに指標テフラとの同定を行った。

試料24・試料23 (Ⅶ層) : わずかに黄色をおびた白色や白色のスポンジ状軽石型ガラスや無色透明の繊維束状軽石型の火山ガラスを比較的多く含むこと、重鉱物として斜方輝石と単斜輝石のほか角閃石を比較的多く含むこと、火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性などから、このテフラ層は、十和田八戸テフラ (To-HP, 約1.5万年前, 早川, 1983a, Hayakawa, 1985, 町田・新井, 2011など) に同定される。

試料15 (Ⅴ層) : 野外では、暗灰褐色土中に多く含まれる黄色細粒軽石として認められる。白色のスポンジ状軽石型ガラスで、屈折率がほかと比較して高いものもある。さらに、両輝石型の重鉱物組成や斜方輝石の屈折率特性を合わせると、このテフラは十和田南部軽石 (To-Nb, 約9,400年前, 大池ほか, 1966, 中川ほか, 1972, 工藤・佐々木, 2007) と考えられる。

試料11 (Ⅲ層下部) : 野外では、黒灰褐色土中に多く含まれる黄色細粒軽石として認められる。白色のスポンジ状軽石型ガラスを含むこと、両輝石型の重鉱物組成、そして火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性などから、十和田小国軽石 (To-Og, 約8,300年前, Hayakawa, 1985, 工藤・佐々木, 2007, 早田, 未公表) の可能性が高い。

試料9 (Ⅲ層上部) : 野外では、やわらかい黒灰褐色土中の黄色粗粒火山灰で、白色の細粒軽石やスポンジ状や繊維束状の軽石型ガラスの存在、両輝石型の重鉱物組成、大多数の火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性などから、十和田中振テフラ (To-Cu, 約6,000-6,200年前, 大池ほか, 1966, 早川, 1983b, 町田・新井, 1992, 2003, 2011, 工藤・佐々木, 2007) に同定される。

試料5 (Ⅱ層上部) : 比較的多様な火山ガラスの組合せ、両輝石型の重鉱物組成、斜方輝石の屈折率特性、とくに低い屈折率を含む火山ガラスが含まれていることなどから考えると、Ⅱ層上部に含まれる特徴的なテフラは、915年に十和田火山から噴出した十和田 a テフラ (To-a, 大池, 1972, Hayakawa, 1985, 町田ほか, 1981) の可能性が指摘される。また、十和田 b テフラ (To-b, 約2,800年前, 大池, 1972, 町田・新井, 1992, 2003, 2011, 工藤・佐々木, 2007) が混在している可能性も否定はできない。本遺跡の発掘調査では、この土層の下位のⅡ層下部から縄文時代後期の可能性のある土器が検出されているらしい。

なお、発掘調査担当者により、①区北西壁においてⅡ層より上位から採取された2試料のうち、下方の試料2には白色のスポンジ状軽石型、上方の試料1には多様な火山ガラスが比較的多く含まれて

いる。いずれも両輝石型の重鉱物組成を示すことから、試料2にはTo-Cu、試料1にはTo-aのテフラ粒子が比較的多く含まれているように思われる。

7. ま と め

洋野町内の田ノ端Ⅱ遺跡において、地質調査を実施して詳細な土層観察と高純度の試料採取を行った。そして、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定）を実施した。その結果、下位より十和田八戸テフラ（To-HP、約1.5万年前）、十和田南部軽石（To-Nb、約9,400年前）、十和田小国軽石（To-Og、約8,300年前）、十和田中振テフラ（To-Cu、約6,000～6,200年前）、そして十和田a火山灰（To-a、915年）などを認めることができた。

文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」。東京大学出版会, p.138-149.
- 壇原 徹 (1993) 温度変化型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」。p.149-158.
- 早川由紀夫 (1983a) 火山豆石として降下堆積した十和田火山八戸火山灰。火山, 28, p.25-40.
- 早川由紀夫 (1983b) 十和田中振テフラ層の分布、粒度、組成、年代。火山, 28, p.263-273.
- Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. *Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo*, 60, p.507-502.
- 石村大輔・吉永祐一・山田圭太郎・原口 強・遠田晋次 (2017) 長野県、青木湖の構成堆積物中に新たに見出された十和田—中振テフラ。第四紀研究, 56, p.256-270.
- 工藤 崇・佐々木 寿 (2007) 十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年。地学雑, 116, p.653-663.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス」。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 「新編火山灰アトラス」。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス (第2刷)」。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.
- 中川久夫・中馬敦光・石田琢二・松山 力・七崎 修・生出慶司・大池昭二・高橋 一 (1972) 十和田火山発達史概要。岩井洋一教授記念論文集, p.7-17.
- 松山 力・大池昭二 (1986) 十和田火山噴出物と火山活動。十和田火山博物館, 4, p.1-62.
- 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年。第四紀研究, 11, p.232-233.
- 大池昭二・中川久夫 (1979) 地形並びに表層地質調査。東北農政局編「三戸地域広域農業開発基本調査報告書」。東北農政局, 103p.

2 火山灰分析

表1 田ノ端Ⅱ遺跡のテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			量	形態	火山ガラス		重鉱物
		量	色調	最大径			色調		
調査区北側	1				*	pat(spl), pm(fb)	灰白, 淡褐色	opx, cpx	
	5				*	pat(spl), md	灰白, 白, 淡灰	opx, cpx	
	7				**	pat(spl)	白	opx, cpx	
	9 (w)	白		2.1	**	pat(spl)	白	opx, cpx	
	11				*	pm(sp)	白	opx, cpx	
	15				*	pm(sp)	白	opx, cpx	
	19				*	pat(spl), md	白, 黄白, 淡灰	opx, cpx, (am)	
	21				*	pm(sp)	白	opx, cpx, (am)	
	23				**	pat(spl) > pm(fb), md	(黄) 白, 白	opx, cpx, am	
	24				**	pat(fb), pat(spl)	無色透明, (黄) 白	opx, cpx, am	
①区北西側	1				**	pat(fb), pat(spl)	白, 灰白, 淡褐色	opx, cpx	
	2				**	pat(spl)	白	opx, cpx	

*** とくに多い, ** 多い, * 中程度, * 少ない, (†) 非常に少ない, 最大径の単位は, mm.

bw: パズル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.

cl: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, hi: 黒雲母, () : 量が少ないことを示す.

表2 田ノ端Ⅱ遺跡の火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
調査区北側	1	0	0	0	16	9	5	121	59	40	250
	5	0	0	0	4	16	8	125	38	59	250
	7	0	0	0	4	11	5	111	36	63	250
	9	0	0	0	6	12	5	121	72	34	250
	11	0	0	0	5	12	3	153	49	28	250
	15	0	0	0	3	11	4	103	70	59	250
	19	0	0	0	2	8	7	110	71	52	250
	21	0	0	0	4	7	13	128	47	51	250
	23	1	0	0	5	32	28	145	26	13	250
	24	1	0	0	10	19	20	158	20	22	250
①区北西側	1	0	0	0	12	11	14	131	27	55	250
	2	1	0	0	6	10	6	127	42	58	250

bw: パズル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, 数字: 粒子数.

表3 田ノ端Ⅱ遺跡の重鉱物組成分析結果

地点	試料	cl	opx	cpx	am	hi	opq	その他	合計
調査区北側	1	0	134	40	2	0	70	4	250
	5	0	123	51	2	0	70	4	250
	7	0	114	44	0	0	89	3	250
	9	0	112	59	0	0	77	2	250
	11	0	120	59	1	0	67	3	250
	15	0	122	67	3	0	53	5	250
	19	1	99	67	8	1	71	3	250
	21	0	123	55	11	0	56	5	250
	23	0	72	52	13	0	111	2	250
	24	0	77	66	2	0	103	2	250
①区北西側	1	0	138	36	0	0	72	4	250
	2	0	123	68	0	0	76	3	250

cl: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, hi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物, 数字は粒子数.

表4 田ノ端II遺跡における屈折率測定結果

地点・指標テフラ	試料	火山ガラス		斜方輝石		文献
		屈折率 (n)	測定点数	屈折率 (γ)	測定点数	
調査区北側	1	1.499-1.514	32	1.703-1.712	33	本報告
	5	1.500-1.513	37	1.704-1.712	32	本報告
	7	1.504-1.511	30	1.701-1.713	31	本報告
	9	1.500-1.513 (1.500) (1.509-1.513)	32 (1) (31)	1.704-1.711		本報告
	11	1.502-1.511	33	1.704-1.714	31	本報告
	15	1.503-1.513*	33	1.704-1.714	32	本報告
	19	1.502-1.511	31	1.701-1.713	30	本報告
	21	1.500-1.512	35	1.701-1.710	30	本報告
	23	1.500-1.511	31	1.703-1.708	32	本報告
	24	1.499-1.512	31	1.701-1.707	32	本報告

岩手・青森地域の指標テフラ（後期旧石器時代以降）

白頭山苦小牧 (B-Tm)	1.511-1.522		町田・新井 (2011)
十和田 a (To-a)	青森周辺 岩手周辺	1.496-1.508 1.500-1.508	1.706-1.708 1.706-1.708 町田・新井 (2011)
十和田 b (To-b)	1.498-1.501	1.705-1.708	町田・新井 (2011)
十和田中報 (To-Cu)	1.508-1.512	1.703-1.709	町田・新井 (2011)
十和田小国 (To-Og)	1.510-1.514	1.703-1.708	早田 (未公表)
十和田南部 (To-Nb)	1.512-1.517	1.708-1.712	町田・新井 (2011)
十和田二の倉 (To-Nk)		1.696-1.706	町田・新井 (2011)
十和田八戸 (To-H)	1.502-1.509	1.705-1.708	町田・新井 (2011)
始点Tn (AT)	1.498-1.501		町田・新井 (2011)
十和田大不動 (To-Of)	1.505-1.511	1.707-1.710	町田・新井 (2011)

本報告の測定法：温度変化型（榎原, 1993）、町田・新井 (2011)、早田 (未公表) の測定法：温度一定型（新井, 1993）。

*：ごく微量ながら、 $n > 1.514$ の火山ガラスが含まれている。

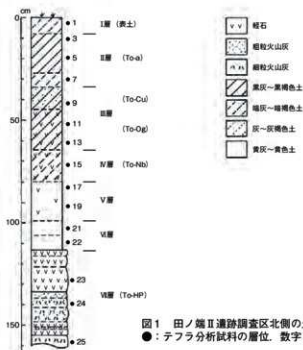


図1 田ノ端II遺跡調査区北側の土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位。数字：テフラ分析の試料番号。

田ノ端Ⅱ遺跡テフラ分析写真図版



0.2mm

写真1 調査区北側・試料9 (透過光)
中央・左など：スポンジ状軽石型ガラス，
左下：繊維束状軽石型ガラス。



0.2mm

写真2 調査区北側・試料11 (透過光)
中央など：スポンジ状軽石型ガラス，中
央左下など(長柱状有色鉱物)：斜方輝石。



0.2mm

写真3 調査区北側・試料15 (透過光)
中央下など：スポンジ状軽石型ガラス，
右下など(長柱状有色鉱物)：斜方輝石。

3 洋野町北半部の層序及び遺構堆積土について

1 はじめに

近年、洋野町内は復興調査に伴い多くの遺跡が調査されている。その結果、縄文時代を中心とした成果が得られている。このような中で、前節でも記載している(株)火山灰考古学研究所による同定分析が下記の4遺跡において行われており、良好な成果が得られている。ここではそれらを整理することで、当該地域の層序とテフラの堆積関係を明らかにしていく。

2 各遺跡の層序

各遺跡の位置と分析結果は以下のとおりであり、第1図に示している。

田ノ端Ⅱ遺跡：報告遺跡であり、位置や分析結果は先述のとおりである。

層序からは十和田 a テフラ・十和田 b テフラ・十和田中振テフラ・十和田小国軽石・十和田南部軽石が確認されている。

板橋Ⅱ遺跡：町内の中心部付近にあり、本遺跡の南東4.8kmに位置している。荒津内遺跡とは隣接する。現在調査中の遺跡であり、縄文時代後期の集落が確認されている。遺跡の様相は概ね鹿糠浜Ⅱ遺跡と類似している。

層序からは十和田中振テフラ・十和田小国軽石・十和田南部軽石が確認されている。

荒津内遺跡：町内の中心部付近にあり、本遺跡の南東5kmに位置している。板橋Ⅱ遺跡とは隣接する。縄文時代の土坑や陥し穴状遺構などが確認されている。

層序からは十和田 a テフラ・十和田 b テフラ・十和田南部軽石が確認されている。

鹿糠浜Ⅱ遺跡：町内の中心部から2km南方向にあり、本遺跡の南東6.5kmに位置している。縄文時代後期の集落が確認されている。参考までに分析結果を176頁に記載している。

層序からは十和田中振テフラ・十和田小国軽石・十和田南部軽石などが確認されている。

当該地域には、概ね十和田 a テフラ・十和田 b テフラ・十和田中振テフラ・十和田小国軽石・十和田南部軽石などの堆積を確認することができた。これらは、各時期において遺構の時期を特定するうえで重要な鍵となる。層序を対比させると第1図のようになり、基本的な堆積状況は類似していることが窺える。これについては当該地域の堆積環境をまとめた趙ら(2018)と同じである。つまり火山灰の堆積が認められなくても、主体となる層位を特定することで、大凡の時期を把握できるものと想定される。

3 各遺構の堆積事例

つぎに各遺構の堆積状況を把握していきたい。

第2・3図には、鹿糠浜Ⅱ遺跡、田ノ端Ⅱ遺跡、荒津内遺跡で検出された底面付近に黒色土から黒褐色土が堆積している遺構を掲載している。

鹿糠浜Ⅱ遺跡は堅穴住居、溝状の陥し穴状遺構、フラスコ状土坑を掲載している。堅穴住居については重複しない限り概ね類似した堆積状況である。それ以外の溝状の陥し穴状遺構やフラスコ状土坑には、黒色土や黒褐色土の堆積が認められるものと認められないもの両者が確認されている。重複関係から遺構時期は溝状の陥し穴状遺構を縄文時代中期から後期初頭、堅穴住居とフラスコ状土坑を縄文時代後期前葉と想定している。

荒津内遺跡は溝状の陥し穴状遺構、フラスコ状土坑を掲載している。両遺構には、黒色土や黒褐色土の堆積が認められるものと認められないものの両者が確認されている。今回は黒色土などが堆積しているものを掲載している。重複関係から遺構時期は溝状の陥し穴状遺構を縄文時代後期以前、フラスコ状土坑を縄文時代後期と想定している。

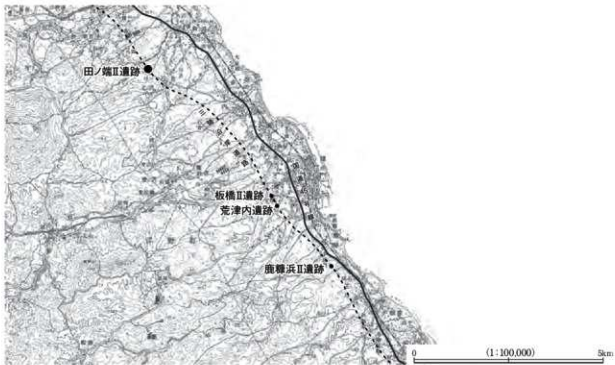
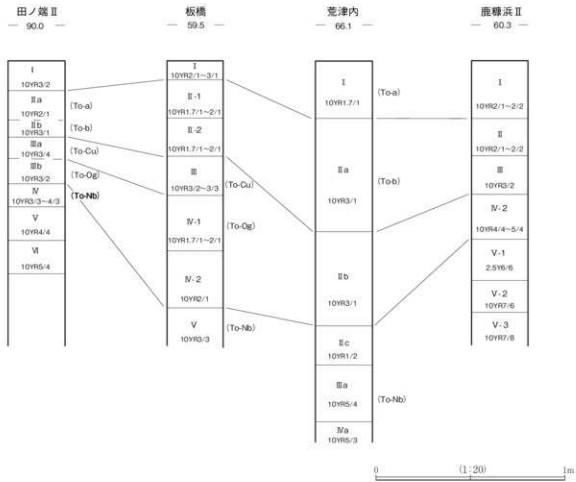
田ノ端Ⅱ遺跡は溝状の陥し穴状遺構、フラスコ状土坑、土坑を掲載している。溝状の陥し穴状遺構、フラスコ状土坑には概ね黒色土や黒褐色土の堆積が認められる。重複関係から遺構時期は溝状の陥し穴状遺構を縄文時代中期から後期初頭、フラスコ状土坑を縄文時代後期前葉と想定している。

さらに、これ以外には鹿糠浜Ⅱ遺跡の奈良時代に属するSI14の上面から十和田 a テフラの堆積が認められている。また、当該地域の他遺跡では早期の住居の堆積土に十和田南部テフラ、円形の陥し穴状遺構には十和田中堰テフラを堆積土中に確認することができる。

4 ま と め

上記のように基本層序において火山灰を確認することができる。これについては沿岸北部では十和田系テフラ・軽石などの堆積環境が安定して供給されていたことを意味するものである。また、稀にこれらの火山灰が遺構に堆積している状況を捉えられたことは大きな成果である。さらに、テフラが確認できなくても複数の遺構において、主体となる堆積土を把握することで時期が特定される可能性を示唆できたことも成果の一つである。これらは今後の指標にもなるものと思われることから、土層観察を継続しつつ、遺跡における堆積環境の把握に努めていきたい。

参考文献は194・196頁に記載している。

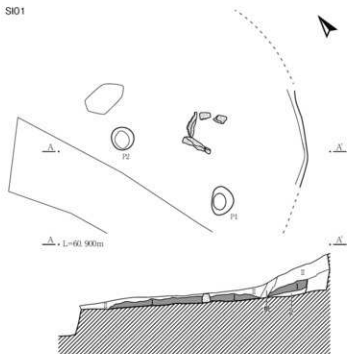


第1図 柱状図

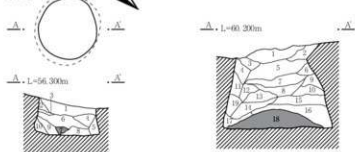
3 洋野町北半部の層序及び遺構堆積土について

鹿野浜Ⅱ遺跡

SI01



SK25



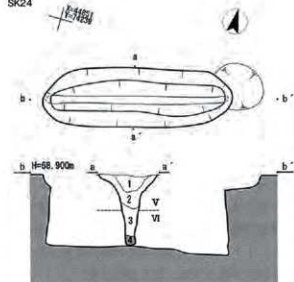
SKT05



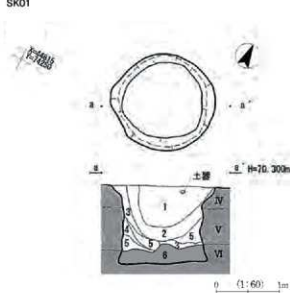
0 (1:50) 3m

荒津内遺跡

SK24



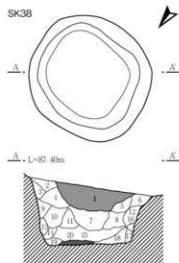
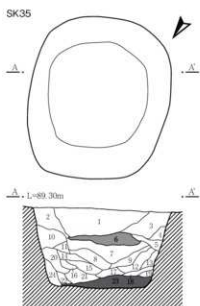
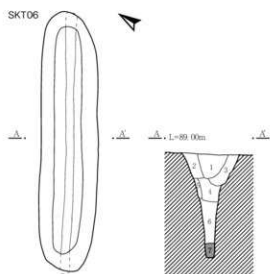
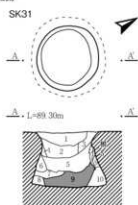
SK01



0 (1:60) 3m

第2図 遺構の堆積土

田ノ端Ⅱ遺跡



0 (1:50) 3m

第3図 遺構の堆積土

－参考分析報告－ 岩手県洋野町鹿糠浜Ⅱ遺跡における火山灰分析

(株)火山灰考古学研究所

1. はじめに

岩手県三陸地方北部の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳など東北地方の火山のほか、浅間など中部地方、洞爺、三瓶、蛤良など北海道、中国地方、九州地方、さらには白頭山など遠方の火山に由来するテフラが数多く挟在されている。とくに、後期更新世以降の多くのテフラについては、層相や年代さらに岩石記載の特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 1992, 2003, 2011)などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を実施し、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代、さらには考古学的な遺物・遺構の層位や年代などに関する情報を得ることができるようになっている。

平成29年度に実施された洋野町鹿糠浜Ⅱ遺跡における発掘調査でも、層位や起源が不明な土層が認められたことから、発掘調査担当者により採取された試料を対象にテフラ分析(テフラ検出分析・テフラ組成分析)を実施して、それらの起源を求め、土層の層位と年代に関する資料を収集することになった。

2. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

詳細分析に先立って、鹿糠浜Ⅱ遺跡①区北西壁のⅡ層上部から採取されたテフラ分析用の2試料を対象として、試料に含まれるテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 10gずつを電子天秤で秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去した後に、恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。いずれの試料からも、比較的粗粒の軽石やスコリアは検出されなかった。下位の試料2には、白色のスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。一方、上位の試料1にも火山ガラスが比較的多く含まれているが、試料2と比較すると多様で、無色透明や淡褐色の繊維束軽石型ガラスのほか、白色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスが認められる。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物としては、試料2と同じように斜方輝石や単斜輝石が含まれている。

3. テフラ組成分析

(1) 分析方法

テフラ検出分析対象となった①区北西壁の2試料について、テフラ粒子の量や特徴を定量的に把

握するために、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて $>1/4\text{mm}$ 、 $1/4\sim 1/8\text{mm}$ 、 $1/8\sim 1/16\text{mm}$ 、 $<1/16\text{mm}$ の粒子に篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で $1/4\sim 1/8\text{mm}$ の250粒子を観察して、火山ガラスの形態（一部色調）別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
- 3) 偏光顕微鏡下で $1/4\sim 1/8\text{mm}$ の重鉱物250粒子を観察して、重鉱物組成を明らかにする（重鉱物組成分析）。

(2) 分析結果

テフラ組成分析の結果を図1に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果の内訳を表2と表3に示す。試料2には、火山ガラスが9.2%、軽鉱物と重鉱物がそれぞれ50.8%と16.8%含まれている。このうち、火山ガラスは、含有率が高い順に、スポンジ状軽石型（4.0%）、分厚い中間型ならびに繊維束状軽石型（各2.4%）、無色透明バブル型（0.4%）である。重鉱物には、不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石（49.2%）と単斜輝石（19.2%）が含まれている。

一方、試料1には、火山ガラスが14.8%、軽鉱物と重鉱物がそれぞれ52.4%と10.8%含まれている。このうち、火山ガラスは、含有率が高い順に、繊維束状軽石型（5.6%）、中間型（4.8%）、スポンジ状軽石型（4.4%）である。重鉱物には、不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石（55.2%）と単斜輝石（14.4%）が含まれている。

4. 考 察

①区北西壁の試料2と試料1を対象としたテフラ検出分析とテフラ組成分析の結果を比較すると、試料1に、繊維束状軽石型や中間型で特徴づけられる火山ガラスがやや多く含まれている。その一方で、重鉱物や不透明鉱物以外の重鉱物の含有率、またその他とされた風化粒子や岩片の含有率も、試料2と試料1でさほど違いはない。さらに、斜方輝石と単斜輝石の含有率も2試料間でさほど違いはない。

以上のことから、上位の試料1付近に、試料2に含まれるテフラとは異なるガラス質テフラが混入している可能性が高い。平成30年度には、洋野町の田ノ端Ⅱ遺跡や板橋Ⅱ遺跡で火山灰編年学の研究者による土層の観察とテフラ分析が実施された（火山灰考古学研究所、別報）。田ノ端Ⅱ遺跡の分析対象土層断面では、比較的土壌化に伴うテフラ粒子の拡散の程度が高いものの、板橋Ⅱ遺跡における腐植質土壌の分析対象地点は埋没谷部でテフラの残りが良い。

含まれる火山ガラスの岩相に、板橋Ⅱ遺跡におけるテフラ検出分析結果を合わせて検討すると、試料1に混在するテフラに関しては、915年に十和田火山から噴出した十和田aテフラ（To-a、大池、1972、Hayakawa、1985、町田ほか、1981）が混在する可能性も完全に否定できないものの、有色の火山ガラスの存在に注目すると十和田中振テフラ（To-Cu、約6,000～6,200年前、大池ほか、1966、早川、1983、町田・新井、1992、2003、2011、工藤・佐々木、2007）の可能性が高いと考えられる。

なお、この試料や下位の試料2に含まれるテフラの中には、十和田南部軽石（To-Nb、約9,400年前、大池ほか、1966、中川ほか、1972、工藤・佐々木、2007）や、十和田小国軽石（To-Og、約8,300年前、Hayakawa、1985、工藤・佐々木、2007、早田、未公表）に由来するものが含まれていると思われる。

なお、本遺跡における発掘調査では、縄文時代後期の遺物が検出されているらしい。もし、Ⅱ層か

ら採取されたこの時期の遺物が、To-Cu混在層準から検出されているとしても、今回検出された可能性が高いTo-Cuは一次堆積層ではないために層位的に矛盾することはない。ただ、試料2以下の層準から、この時期の遺物が検出されているようにみえる場合には解釈に注意が必要となる。

分析者は試料採取地点の土層断面を実現しておらず、詳細については不明であるが、送付写真を見る限り、試料採取地点におけるⅡ層は比較的しまった土層のように見え、板橋Ⅱ遺跡などのTo-Cu出現層準付近の土層とさして違いないように思われる。その一方で、試料採取地点以外の土層断面の写真によれば、本遺跡では地点によって、Ⅱ層の上部がより暗色でさほど締まっていない部分があったように見える。

もし、今回の分析で推定されるテフラ降灰層準と、遺物の検出状況に矛盾があるとすれば、縄文時代後期の遺物検出地点には、より新しい時期に形成された土層が厚い部分が存在した可能性がある。今後、遺物包含層の層相などに関する詳細な検討を御願ひしたい。いずれにしても、テフラ分析の際には、火山灰編年学の研究者による現地での土層観察と試料採取が期待される。

5. ま と め

洋野町鹿糠浜Ⅱ遺跡において採取された試料を対象にテフラ分析（テフラ検出分析・テフラ組成分析）を実施した。その結果、十和田南部軽石（To-Nb, 約9,400年前）、十和田小国軽石（To-Og, 約8,300年前）、十和田中振テフラ（To-Cu, 約6,000～6,200年前）などに由来する可能性が高いテフラ粒子を検出することができた。

文献

- 早川由紀夫 (1983) 十和田中振テフラ層の分布、粒度、組成、年代、火山, 28, p.263-273.
Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. *Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo*, 60, p.507-592.
工藤 崇・佐々木 寿 (2007) 十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年. 地学雑, 116, p.653-663.
町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス-日本列島とその周辺」. 東京大学出版会, 276p.
町田 洋・新井房夫 (2003) 「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺」. 東京大学出版会, 336p.
町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺 (第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
中川久夫・中馬教充・石田球二・松山 力・七崎 修・生出慶司・大池昭二・高橋 一 (1972) 十和田火山発達史概要. 岩手県一教授記念論文集, p.7-17.
大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232-233.
大池昭二・中川久夫 (1979) 地形並びに表層地質調査東北農政局編「三戸地域広域農業開発基本調査報告書」, 103p.
大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, p.29-35.

表1 鹿野浜Ⅱ遺跡のテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		重鉱物 (不透明鉱物以外)
		量	色調	最大径	量	形態	
①区北西壁	1			**	pm (fb), pm (sp)	無色透明, 淡褐, 白, 灰白	opx, cpx
	2			**	pm (sp)	白	opx, cpx

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (): 非常に少ない, 最大径の単位は, mm.

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, () : 量が少ないことを示す.

表2 鹿野浜Ⅱ遺跡の火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
①区北西壁	1	0	0	0	12	11	14	131	27	55	250
	2	1	0	0	6	10	6	127	42	58	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, 数字: 粒子数

表3 鹿野浜Ⅱ遺跡の重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
①区北西壁	1	0	138	36	0	0	72	4	250
	2	0	123	48	0	0	76	3	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物, 数字は粒子数

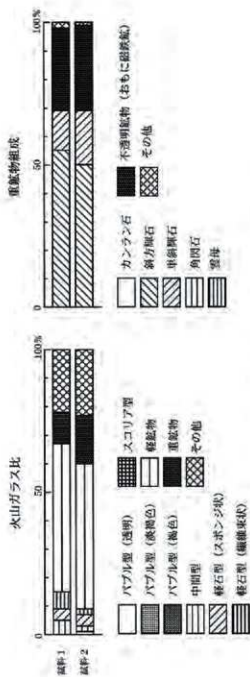


図1 鹿嶋Ⅱ遺跡①区北西壁のテフラ組成ダイヤグラム

Ⅷ 総 括

1. 縄文時代の遺構・遺物

ここでは成果が得られた縄文時代早期中葉から後期前葉にかけての遺構と遺物についてまとめていく。

竪穴住居：57棟を確認している。これらは早期中葉～前期前葉と後期前葉に属するものに分けられることから、時期ごとにまとめていく。

[早期中葉～前期前葉] 56棟を確認している。これらは丘陵の頂部に概ね形成されている。この中でもⅠA25・ⅡA5グリッド、ⅢB1・2・6グリッド付近で重複の激しいまとまりが認められるが、それ以外の重複は複数棟に留まっている。

重複する遺構には、時期が異なる遺構として陥し穴状遺構（SKT08・12～14）や土坑（SK44・51）などがあり、それらより古いことを確認している。

平面形状は隅丸方形、隅丸長方形、楕円形などがある（第93図）。主体となる形状は隅丸方形、隅丸長方形であり、後者が多い傾向にある。ただし、楕円形については、残存状況からの把握に留まるため判断としない。規模は2.40～7.82mに収まり、4m以下、6m前後が主体となる。さらに、平面形状と規模を合わせて見ていくと、分布図（第93図）に示したとおりである。隅丸方形は2.40～4.81mに収まり、4m前後が主体となる。また、隅丸長方形は2.73～7.82mに収まり、4m、6m前後が主体となる。

帰属する遺構には焼土が形成される例は認められず、土坑と柱穴のみが検出されている。土坑を確認できたのはSI06のみであり、それ以外では確認できていない。柱穴は規則的な配列が認められないものの、壁際に配置される例（SI04・10・12・18など）や一方の壁際に寄るような例（SI13・23・27・35など）がある。これらの数量は1個から存在しているが、多くは3～7個である。それぞれ見ていくと、3個はSI21・23・27・39、4個はSI12・16・22・31・52、5個はSI10・11、6個はSI18、7個はSI04などがある。この柱穴の数量と住居の規模には関係性が認められており、4m以下の住居は5個以下が多く、それ以上の規模になると増えていく傾向がある。

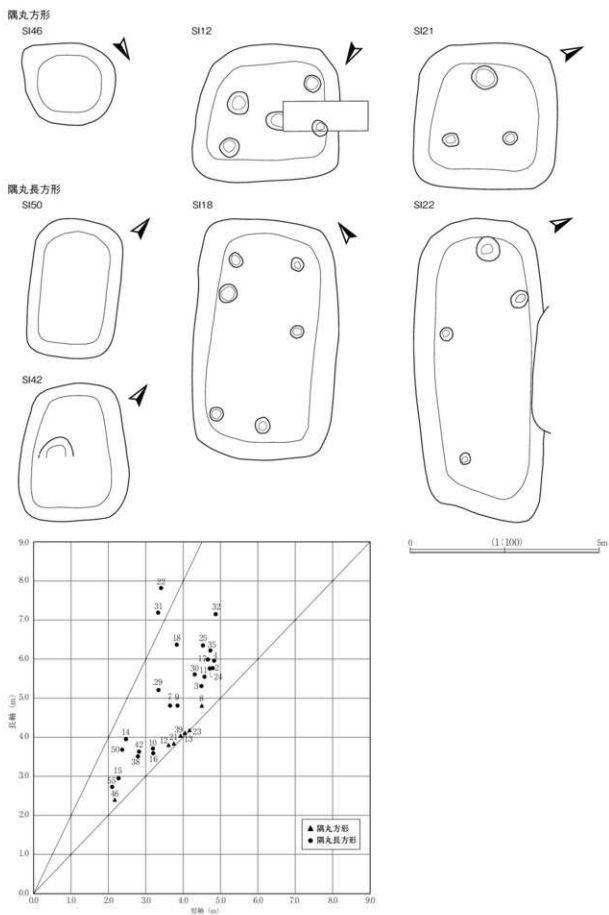
堆積土は基本的に流入速度が速い自然堆積が多いように思われる。中には風倒木痕と見間違えるような堆積状況が認められている。これは埋まりきらない過程で住居跡に新しく掘り上げた土が流入したか、もしくはそれらを埋め戻した結果、形成されたことが要因と考えられる。実際、調査が年度を跨ぐ際の現場において遺構やトレンチを放置しておいたが、短時間で50cm以上が自然に埋まる状況を把握している。このことから、埋まる過程（埋める行為？）と掘る行為が繰り返された結果に因るものと想定される。また断面観察において、分析結果などで示されている火山灰は確認できていない。

出土遺物はいずれも堆積土の上面もしくは上位からであり、床面付近からの出土は認められていない。土器と石器については下記にまとめておく。

帰属時期については放射性炭素年代測定を行い特定することを試みている。しかしながら、想定されるような年代値は得られていない。出土遺物や重複関係等から見ていくと、主体となる時期は早期中葉から後葉であり、前期に属するものは極めて少ないものと考えられる。

各住居の様相は上記のとおりだが、さらに、ここでは地形との関係性を捉えておく（第94図）。立地している地形は先述したように、頂部平坦部から北東・北西側の端部へ向かう緩斜面。それらに伴い南西向きと南東向きに斜面が形成されている。このような地形の中で、当該期の住居は頂部以外に、

1. 縄文時代の遺構・遺物



第93図 縄文時代早期後葉から前期前葉の竪穴住居

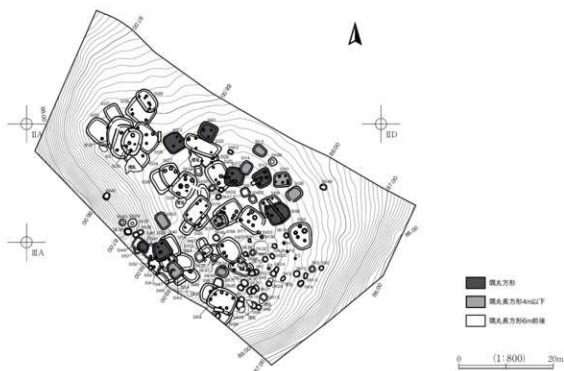
北西側先端部と南西向き斜面にも構築されている。これらと平面形状を合わせて見ていくと、隅丸方形、隅丸長方形（4m以下）は頂部と南西向き斜面、隅丸長方形（6m前後）は頂部から北西側先端部に分布している。特に、平面形状に関わらず南西向き斜面には3m以下の小規模な住居が集中していることが窺える。地形からは南西向き斜面では面積も狭く比較的傾斜が急であるため前者が多いものの、北西側先端部では後者が主体となる。そして、頂部は平坦部が比較的広い地形にあることからこの点については判然としない。このような状況の中で重複関係から平面形状を捉えていくと、隅丸長方形（4m以下）・隅丸方形が隅丸長方形（6m前後）より新しい傾向にある。さらに、新しい傾向にある住居の軸線方向を見ていくと、それらは南西・北東方向に長軸を持つものであることが窺える。

[後期前業] 1棟を確認している。南東向き斜面に形成されている。周辺にフラスコ状土坑などの遺構を配置している。重複する遺構には、陥し穴状遺構（SKT07）があり、それより新しいことを確認している。帰属する遺構としては柱穴を伴い、これらは壁際に配置している。焼土などは確認できていない。出土遺物は当該期に伴うものではなく、いずれも斜面上方の住居群から流入した早期中業から前期前業の土器である。

土坑：68基を確認している。これらは早期中業～前期前業と後期前業に属するものに分けられることから、時期ごとにまとめていく。

[早期中業～前期前業] 55基を確認している。これらは調査区南側の頂部から南東向き斜面を中心に形成されている。平面形状は隅丸長方形、隅丸方形、楕円形などがある。その形状については竪穴住居と概ね一致している。堆積土中にはⅢ層相当の黒褐色土が認められているものの、分析結果に提示されている火山灰は確認できていない。出土遺物は少ないうえに、堆積土上面もしくは上位の確認に留まる。

ここでは平面形状が特徴的な隅丸長方形、隅丸方形の土坑に限ってまとめていく。代表的な例を第95図に掲載している。それらの規模は104～215cm、深さは18～105cmの範囲に収まる。規模と深さは



第94図 竪穴住居形状別配置図

共に3分類でき、規模は120cm以下、150cm前後、2m以上、深さは40cm未満、50～60cm前後、70cm以上にまとまる。これらの中には規模と深さが共に小規模となるものも存在していることから、その点では関係性が認められるものの、多くは規模と深さにおいて関係性を見出すことができない。

時期については堅穴住居と同様、主体は早期中葉から後葉にかけてであり、前期に属するものは極めて少ないものと思われる。

[後期前葉]13基を確認している。これらは堅穴住居の周辺の南東向き斜面から頂部に形成されている。平面形は円形が主体である。堆積土中にはⅡ層相当の黒色・黒褐色土が認められる。当該期の出土遺物は少なく、稀に早期中葉から後葉の土器が流入していることを確認している。

ここでは検出されたフラスコ状土坑4基に限ってまとめていく。SK11・27は南東向き斜面、SK31・67は頂部に形成されており、両者は隣接している。平面形状は概ね円形である。規模は86～193cmの範囲に収まり、深さが1m未満となる小規模のものが主体となる。堆積土中から当該期の出土遺物が認められない状況は前述のとおりである。これらの中にフラスコ状土坑と土坑との重複関係が捉えられたことから第95図に掲載している。それは円形のフラスコ状土坑（SK27）の底面から掘り込まれた隅丸長方形の土坑（SK29）を確認できた例である。これらは陥し穴状遺構とも重複しており、それより新しいことを把握している。このSK29からは遺物が出土せず、堆積状況は黒色土による自然堆積と捉えられる。また、SK27も自然堆積と捉えられる。これらのことからSK29は通常の土坑と変わらない様相にあると想定される。そして、その後もフラスコ状土坑として利用していたと考えられる。つまり、SK29の用途については判然としないものの、付属施設と解釈するのが妥当かと思われる。

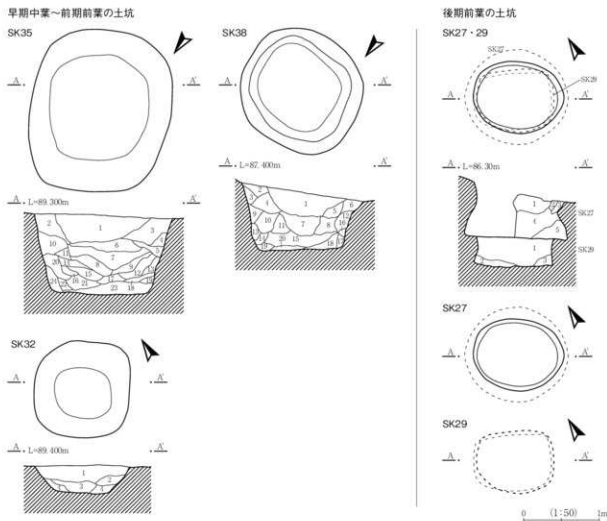
陥し穴状遺構：14基を確認している。平面形状は全て溝状である。規模は2.46～3.60mに収まり、3.2～3.4mが主体である。これらは頂部から南東・南西向き斜面にかけて分布している。これらは概ね等高線に対して平行に形成されているものの、それに直行するものも僅かに含まれる。軸線方向からは2基1対で構築されていることが想定される。堆積土の底面にはⅡ層相当の黒色土が観察されている。また、幾つかの遺構で重複関係が認められており、早期中葉から後葉の堅穴住居（SI11・24・31・32）より新しく、後期前葉の堅穴住居（SI01）より古いことを確認している。出土遺物は、南東向き斜面で形成されているSKT03・05・06・07などから早期中葉から前期前葉の土器が出土している。遺構時期については、堆積土と重複関係から早期中葉から前期前葉以降、縄文時代後期前葉以前にかけての時期で捉えることができる。ここでは先述したように底面に認められる堆積土を重視した結果、より新しい時期となる縄文時代中期～後期初頭に帰属するものと捉えておきたい。

土器：3.688点、53.227gが出土している。主体は早期中葉から前期前葉にかけての土器であり、僅かに後期前葉の土器も認められる。ここでそれらについてまとめていく。

[早期中葉～前期前葉]第Ⅳ章分類の項で述べたように、Ⅰ～Ⅵ群に分け、さらにその中で細分している。以下では、各群の特徴的をまとめ、それらの型式について検討してみたい。該当する土器については第96～98図に掲載している。

Ⅰ群：竹筒状工具による押引沈線文が施される一群である。今回の土器群の中では、本群の組成は僅かである。

器形は全体形状を把握できるものではなく、口縁部や底部付近の胴部のみである。確認できた口縁部は平口縁であり、口縁部は直線的に立ち上がる。底部は確認できていない。胴部は基本的に斜行縄文である。横位平行の押引沈線文（2、128、172）が主体であるが、口唇部に刺突列があり内面に細かい横ナデが施されている例（128、231）や縦位の押引沈線文が認められる例（24）がある。



第95図 縄文時代の土坑

この押し沈線文は表館式や早稲田6類などにおいて認められるものであり、128などに見られる口唇部の刻みや内面のナデなどからは表館式に比定されるものと思われる。

Ⅱ群: 結節回転文が施される一群である。今回の土器群の中では、本群は組成の主体をなしている。結節回転文は口縁部から胴部下半にかけて施文されている。施文されている縄文には斜行縄文(a)、燃糸文(b)、特殊縄文(c)が認められていることから、3分類している。主体は斜行縄文であり、僅かに燃糸文(184)と特殊縄文(50)を含む。

器形は全体形状を確認できるものが存在せず判然としない。口縁部は平口縁であるが、口縁部は概ねやや外反して立ち上がる。底部は確認できていない。結節回転文は基本的に口縁部から底部付近まで認められるが、口縁部に集中する例(156)も存在している。また、内面には横ナデが多いものの希に条痕文が施される例(82, 133)も認められる。b群はV群、c群はIV b群と一致している。

口縁部形状と結節回転文からは表館VI群(三浦1989)に比定されるものである。これらについては型式が判然としないことから、ここでは表館VI群として捉えておきたい。

Ⅲ群: 羽状縄文が施される一群である。施文されている羽状縄文には、結束(a)と非結束(b)が認められることから細分している。両者の比率は点数が少ないため判然としないものの、前者が主

体を占めている。

器形は全体形状を確認できるものが存在せず判然としない。口縁部は平口縁である。確認できた口縁部はやや外反して立ち上がる。これはⅡ群と同一形状と思われる。口縁は平口縁であり、底部は確認できていない。基本的に縄文は単節によるものだが、複節(203)も僅かながら存在している。また、本群においても内面に条痕文が施される例(20、66)も認められる。

羽状縄文については時期幅が広いため型式を特定できない状況にある。ここでは本遺跡で確認されている表館Ⅶ群から早稲田6類の中で捉えておきたい。様相は判然としないながらも、内面に条痕文が認められるものも存在することから、Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ群などと併行するものと想定される。

Ⅳ群:斜行縄文が施される一群である。施文されている縄文には、斜行縄文(a)と特殊縄文(b)が認められることから細分している。主体は前者であり、僅かに後者を含む。

器形は全体形状を確認できるものが存在せず判然としない。口縁部は基本的に平口縁である。確認できた口縁部は直線的もしくはやや外反して立ち上がる。底部は平底(57、218、219など)、丸底(177)、尖底(220)が認められる。底部に限っては平底が主体で、丸底や、尖底は少ない。口縁部の中には刻みを有するものも含まれる(215)。また、内面には条痕文が施される例(206、215)も認められる。b群には直前段合熱(10、215、216)、附加条(53)などがある。

a群は全般的に確認できることから、b群についてのみ言及していくと、直前段合熱のような特殊縄文は表館Ⅶ群(三浦1989)において認められるものである。これらについては早稲田5類相当に比定される。

Ⅴ群:捻糸文(単軸絡条体第1類)が施される一群である。胴部に施文されている側面圧痕の有無により細分している。両者の比率は判然としない。

器形は全体形状を確認できるものが存在せず判然としない。口縁部は基本的に平口縁であり、確認できた口縁部はやや外反して立ち上がる。これはⅡ群と同一形状と思われる。底部は尖底のみを確認している(25、233など)。また、内面には条痕文が施される例(159)も認められる。a群に関しては、側面圧痕が1段(221)と2段(90、222、165など)に形成されるものもあるが、やや後者が多い傾向にある。

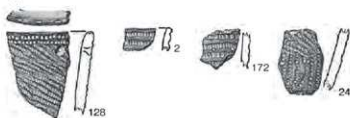
単軸絡条体第1類などは表館Ⅶ群(三浦1989)において認められるものである。これらについては早稲田5類相当に比定される。

Ⅵ群:詳細が不明の一群をまとめたものである。

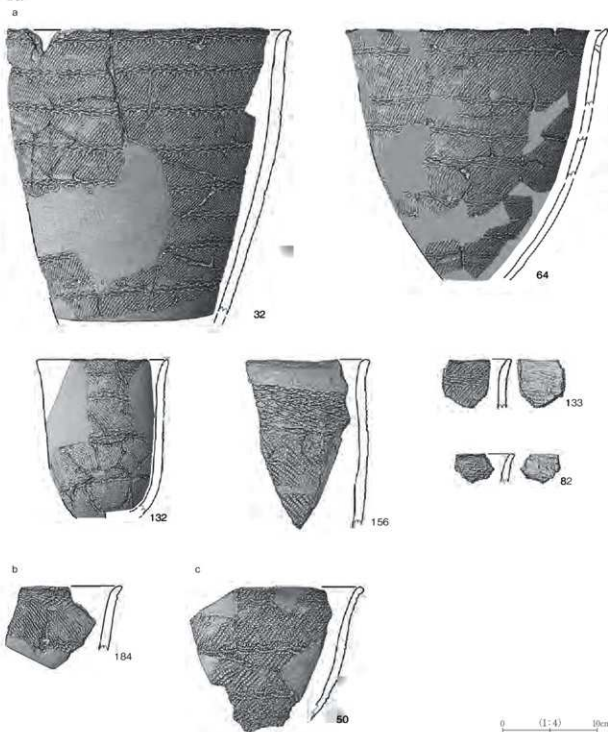
器形は全体形状を確認できるものが存在せず判然としない。これらの中には口縁が波状を呈し、口唇部に刺突を施すもの(21)がある。また、竹管状工具による沈線文が認められるものが含まれており、沈線と刺突を組み合わせたもの(76、123)と格子目状に沈線が施されているもの(232)がある。不明な一群であることから、複数の型式に分けられる。これらにはムシリ式に比定されるもの(232)、表館Ⅶ群に比定されるもの(21)、早稲田6類に比定されるもの(76、123)などがある。

上記のように遺跡からは早期中葉のムシリ式から前期中葉の表館式、早稲田6類にかけての土器群を確認でき、やや時間幅が広いことが明らかとなった。これらの中で主体となるのはⅡ群の表館Ⅶ群(青森県教育委員会1988)であり、Ⅳb、Ⅴ群の早稲田5類相当がそれに続いている。時期は早期中葉から後葉に属するもので占められていることになる。この両者については表館(1)遺跡(青森県教育委員会1988)などを参考にすると、出土層位により時期区分されているものである。しかしながら、本調査では概ね南西向き斜面に形成されている住居の堆積土上位などからは、両者が一括して出土しており分離できない状況にある。よって、ここではⅢ～Ⅴ群の土器を一括資料として扱い提示しておく。

I群



Ⅱ群

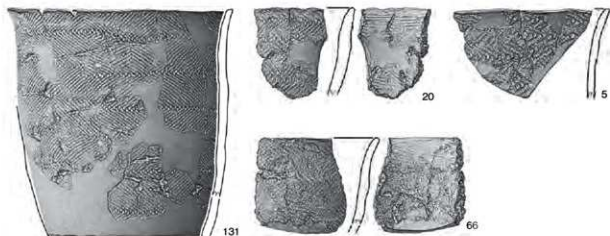


第96図 土器集成(1)

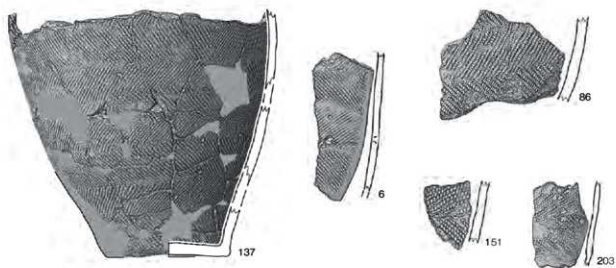
1. 縄文時代の遺構・遺物

III群

a

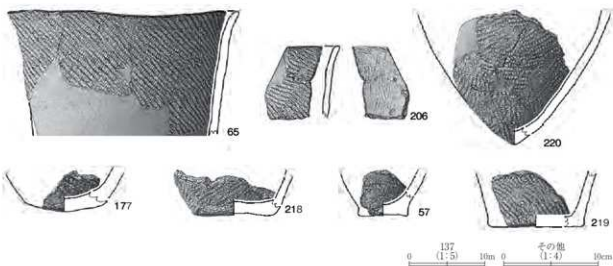


b



IV群

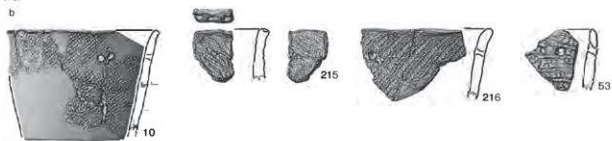
a



第97図 土器集成(2)

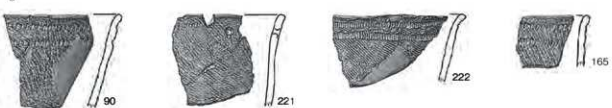
Ⅳ群

b

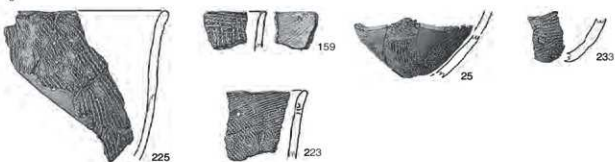


Ⅴ群

a



b



Ⅵ群



土製品



0 (1:4) 10cm

1. 縄文時代の遺構・遺物

[後期前葉] 遺構内の出土はSK44 (141)、SK45 (144) のみであり、遺構外となるⅠ・Ⅱ層において僅かに確認している。これらは単軸絡条体第5類 (141、168、169、178など) と方形区画文 (182) などである。基本的に胎土には小石を多く含み、上記の土器とは判別が可能となる。

これらについては型式名が判然としないことから、ここでは後期前葉の一群としておきたい。

土製品：2点 (230・181) を確認している (第97図)。顔を模したと思われるもの (230) と板状のもの (181) ある。前者には少量ながらも繊維の混入が認められている。

石器：663点が出土している。器種は石鏃、尖頭器、石鏃、石匙、不定形石器、磨製石斧、敲磨器類などからなる。主体は土器の時期と同様の早期中葉から後葉と考えられる。ただし、Ⅰ・Ⅱ層出土のものについては後期前葉の可能性があるものの、区分できないことから所属時期を不明としておく。ここではまず器種の特筆すべき点を以下にまとめていく。

石鏃は基部の無いⅡ類の平基鏃が多く認められる。尖頭器は17や109などが認められるものの、定形的な平面形状は確認できない。石鏃は周縁に加工が施されており、いずれも素材剥片の剥離面を残すものである。石匙は他の器種に比べて点数が多く、摘み部に対して刃部が斜行するⅡ類が主体である。不定形石器は定形的なものが少ない中で、Ⅱ類のノ字状の平面形状が特徴的である。磨製石斧は敲打を伴う製作段階での失敗品が主体を占めている。敲磨器類などは敲石類が磨石類よりも多く、中でもⅠb類が主体である。不明石器とした中には15のように穿孔を伴う砥石と考えられるものも認められている。

これらの器種と石器材料の関係をみていく。石鏃など剥片石器は頁岩、磨製石斧は細粒花崗閃緑岩、細粒閃緑岩、敲磨器類などはホルンフェルスや石英斑岩が、それぞれ主体的に用いられている。これらの石器材料は、花崗岩研究会によると、北上山系で獲得できるものであり、磨製石斧や敲磨器類の材料は遺跡周辺で採取可能とのことである。

第5表 器種・石器材料組成表

	石鏃	尖頭器	石鏃	石匙	不定形石器	剥片石器	磨製石器										石鏃	礫器	礫片	不明	原石	合計
							1a	1b	1c	1d	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱc	Ⅲ								
頁岩	3	13	2	13	45	163			4	2									5	3	253	
凝灰岩					1	13															14	
チャート						1		7		3										10	9	31
デイサイト											2			1								3
花崗閃緑岩								1	5	3	1	1	1		2					1	2	17
細粒花崗閃緑岩							6	4	5		1		2		1		1	21			8	49
細粒閃緑岩							2														1	3
斑岩									1			1									1	3
石英斑岩							1	2	7	4	2	5	2						6		5	34
花崗斑岩							3	2	2		4	2							4		8	25
花崗岩							1	1		1									17	1	66	87
細粒斑岩								1	2		2		1	1	1		1			3	1	9
砂岩					1	1		2	1		1	1	2		4	2			3	4	22	44
パツマタイト																						0
安山岩															1						2	3
石英																					2	2
珪岩								4		1		1	2	1						16		27
ホルンフェルス			1		1	1		2	12	2	2	2	3				2	10	1	16	55	
珪化木																					1	1
玉髓						1															1	2
合計	3	13	3	13	48	180	13	16	48	13	14	18	14	1	9	2	4	90	7	145	663	

2. 自然科学分析について

分析は放射性炭素年代測定、火山分析を行っており、その経緯と成果をまとめておく。

放射性炭素年代測定（AMS測定）：遺構の帰属年代を明らかにすることを目的としており、9遺構10点を分析している。

分析の結果、いずれも想定される年代とは乖離し、やや古い年代値が得られている。これについては複数の要因が考えられるものの判然としない。

火山灰分析：基本層序の時期を特定することを目的としている。

分析の結果、十和田aテフラ・十和田中テフラ・十和田小国軽石・十和田南部軽石などを確認することができた。先述したように広範囲においてこれらのテフラ・軽石を特定できたことは大きな成果である。ただし、遺跡内において最も鍵となる十和田小国軽石は十和田中テフラや十和田南部軽石などと異なり肉眼によって把握することが難しい。さらに、それは基本層序だけでなく含有すると考えられる遺構の堆積土中でも把握がたい状況にある。特に上記の中でも十和田小国軽石と堆積土との関係については、早期から前期に属する遺跡が確認されつつある当該地域において鍵となることから、今後の課題として挙げられる。

3. 縄文時代における遺構の変遷

上述してきたように各遺構をまとめた結果、本遺跡における遺構形成の時期は3時期に区分することができ、ここでは時期ごとの遺構配置を提示し、それらの様相を捉えていきたい。

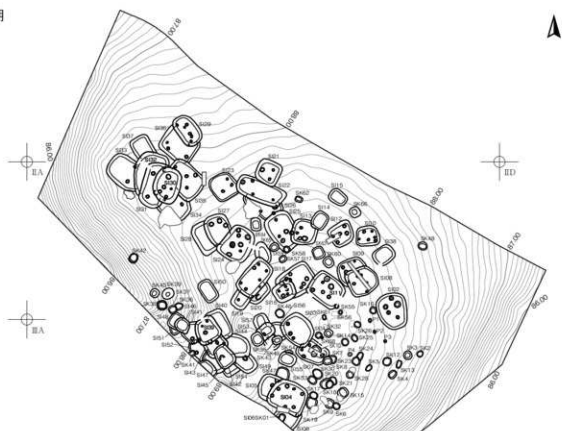
I期：早期中葉から前期前葉、竪穴住居56棟、土坑55基が形成される時期である。これらは早期中葉から後葉にかけてが主体となる。各遺構は丘陵の頂部から南西向き斜面を中心に分布している。住居の重複が激しく、幾度も利用されていたことが窺える。ただし、住居内や検出面においても焼土を確認するまでには至っていない。このような住居の分布状況や形状については、県内では盛岡市芋田沢田遺跡と類似しており、当該期で確認されている事例と概ね一致する（中村ほか1998、鈴木2009、須原2011）。本遺跡の様相については大規模な集落を形成しているようにも一見すると窺える。しかしながら、比較的時間幅があるにも関わらず、炬を持たない住居を繰り返し構築していることから、定住した集落と捉えるよりは異なる様相を呈していたものと思われる。このような在り方については一般的な集落の様相とはかけ離れていることが指摘されている（西脇2006）。これらのことから本遺跡は、遊動時のキャンプサイトとして利用されていた可能性を想定している。当該期における遊動的要素については阿部（2010）が指摘していることから、そのような事例の一つとして本遺跡を捉えていきたい。

II期：中期から後期初頭、陥し穴状遺構が形成される時期である。それらは頂部から南西・南東向き斜面において2基1対となるように分布している。このような検出状況は町内において一般的な様相であり、遺跡が立地する丘陵が狩猟場として利用されている。

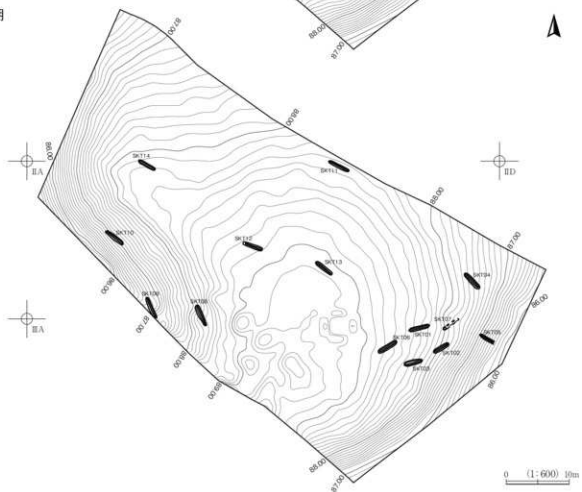
III期：後期前葉、竪穴住居1棟、土坑13基が形成される時期である。それらは丘陵の頂部から南東向き斜面を中心に分布している。このような検出状況は町内において一般的な様相である。小規模な集落を把握できたものと思われる。しかしながら、今回確認したような住居に対してプラスチック土坑の割合が多いようにも窺える。この点については町内の当該期の鹿糠浜Ⅱ遺跡の成果と比較してみると、

3. 縄文時代における遺構の変遷

I 期



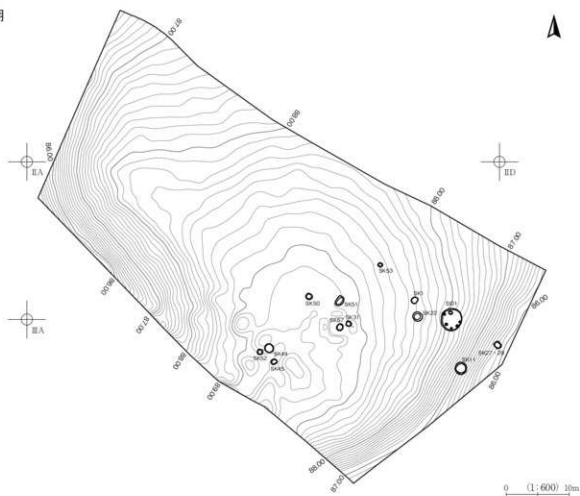
II 期



第99図 時期別遺構配置図(1)

0 (1:600) 10m

Ⅲ期



第100図 時期別遺構配置図(2)

住居1棟に対してフラスコ状土坑が2～3基であったことから、本遺跡においても調査区外に住居の存在が想定される。

上記のように同一丘陵上で3期の遺構が確認されていることが明らかとなった。1期の成果は町内において比較できる成果が認められないことから、その様相については判然としない。その他のⅡ期とⅢ期の成果は町内における調査成果とも概ね一致しており、この点については歴史的環境でも述べたとおりである。これらのことは環境と共に遺跡形成過程と大きく関わることから、復興調査の成果が全て報告された後に改めて検討を試みたい。

4. 土器の検討

上述したように、本遺跡からは早期中葉から前期前葉にかけての土器を確認することができた。町内では該当する時期を含め、その前後の時期に帰属する資料が増えつつある。ここでは町内において得られている本遺跡と同時期の成果を集成しておきたい(第101図)。

早期中葉：本遺跡からはムシリⅠ式、表館Ⅵ群に相当する土器が確認されている。前者の割合は低く、後者が主体となる。その他には掲載をしていないものの、西平内Ⅰ遺跡と中野城内遺跡からは白

4. 土器の検討

浜式か寺ノ沢式相当が遺構外において数点ながら確認されている。また、良好な資料が得られているのは宿戸遺跡のみで、集落を形成していることが判明している。

早期後葉：本遺跡からは早稲田5類（表館Ⅷ群）に相当する土器が確認されている。この他には南鹿糠Ⅰ遺跡でも住居を形成し、僅かに出土遺物が確認されている程度である。

前期初葉：本遺跡からは確認できていない。南鹿糠Ⅰ遺跡でも僅かに確認されている程度であり、当該期の全容については判然としない。

前期前葉：本遺跡からは表館式・早稲田6類に相当する土器が僅かながらも確認されている。この他には小田ノ沢遺跡で早稲田6類に相当する住居から土器と石器が確認されている。これらには押し引沈線文、結節回転文、羽状縄文の一群が認められている。

今回は上記のようにまとめてみたが、当該地域では早期中葉以降、各土器群を断続的に確認している。そのような中で本遺跡では早期中葉から後葉に属する表館Ⅵ群と早稲田5類（表館Ⅷ群）が概ね一括して出土しており、表館（Ⅰ）遺跡のように細分できないのが現状である。これらの一括した出土事例は、当該地域の特徴なのか、本来細分されるべきものなのか、今後検討していきたい。さらに、現時点でお整理されている宿戸遺跡や鹿糠浜Ⅰ遺跡の成果が加われば、当該地域における土器群の様相が明らかになるものと思われる。

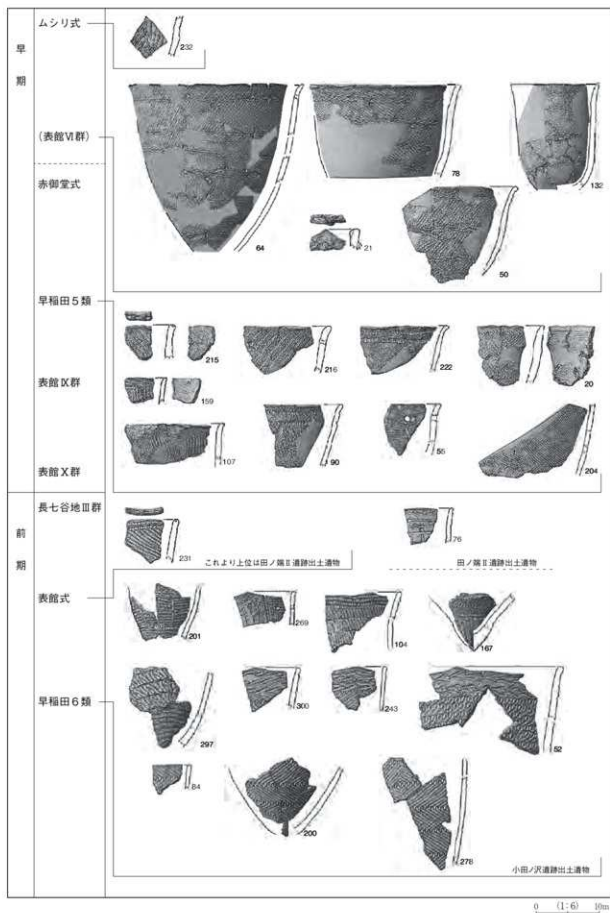
5. ま と め

以上、本遺跡からは早期中葉から前期前葉を主体とする集落、中期から後期初頭の陥し穴状遺構、後期前葉の小規模集落を確認することができた。早期中葉から前期初頭の集落以外は、町内において一般的に認められている成果である。そのような中で早期中葉から後葉を主体とする集落が確認できたことは良好な成果と言える。特にこの集落はキャンプサイトの可能性があることを示唆できた点も大きい。今後は周辺地域と合わせて検討していきたいながら当該期の様相を把握していきたい。また、沿岸北部地域において依然として調査は続き、また良好な成果が得られている遺跡は現時点で整理中にあることから、これらを踏まえて当該地域の歴史がより解明されることを願うばかりである。

参考文献

（下記の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第〇集については岩埋報第〇集としている。）

- 阿部芳郎2010『縄文早期における誘導的狩猟集団の拡散と回帰』『移動と流通の縄文社会史』藤山園
相原淳一1990『東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年—仙台湾周辺の分層発掘資料を中心に—』
考古学雑誌第76巻第1号
相原淳一1994『東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉土器群の様相について』『早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
青森県2017『青森県史 資料編 考古1』
青森県教育委員会1988『表館（Ⅰ）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第120集
青森県教育委員会2018『上桑木室遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第596集
（公財）岩手県文化振興事業団2013『芋田沢田Ⅳ遺跡・芋田沢田Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第604集
（公財）岩手県文化振興事業団2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第673集
（公財）岩手県文化振興事業団2017『平成28年度発掘調査報告書』岩埋報第676集
（公財）岩手県文化振興事業団2018『平成29年度発掘調査報告書』岩埋報第692集
（公財）岩手県文化振興事業団2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第687集
（公財）岩手県文化振興事業団2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』岩埋報第686集



第101図 町内出土土器変遷図

5. まとめ

- (公財) 岩手県文化振興事業団2019『平成30年度発掘調査報告書』岩埋報第708集
- (公財) 岩手県文化振興事業団2019『南鹿雄Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第697集
- (公財) 岩手県文化振興事業団2019『上ノマッカ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第698集
- (公財) 岩手県文化振興事業団2019『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩埋報第699集
- (公財) 岩手県文化振興事業団2019『荒津内遺跡発掘調査報告書』岩埋報第701集
- (公財) 岩手県文化振興事業団2019『鹿糠浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第702集
- 鈴木克彦2009「Ⅱ 東北地方の縄文集落の社会組織と村落」『集落の変遷と地域性』雄山閣
- 須原拓2011『縄文時代早期末葉から前期末葉にかけての集落様相について—岩手県北の河川流域を中心に—』紀要XXX(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 谷藤保彦2005「表層土器に関する一考察—広域分布からみた視点—」『北奥の考古学』葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 趙哲清・佐瀬隆・濱田宏・長瀬貞隆「岩手県沿岸北部における遺跡の層序学的検討」『紀要』第37号 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 中村哲也、坂本真弓1998「青森県の縄文早期住居跡集成」『研究紀要』第3号青森県埋蔵文化財調査センター
- 西脇対名大2006『卯のない住居』『ムラと地域の考古学』同成社
- 三浦圭介1989「表層遺跡出土の早・前期の土器群について」『東北・北海道における縄文時代早期末葉から前前期にかけての土器編年について』第4回縄文文化検討会シンポジウム
- 洋野町教育委員会2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 洋野町教育委員会2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

写真図版





遺跡遠景（平成29年度）



遺跡遠景（平成30年度）

写真図版1 遺跡遠景



遺跡近景（平成29年度）



遺跡近景（平成29年度）

写真図版2 遺跡近景（1）



遺跡近景（平成30年度）



遺跡近景（平成30年度）

写真図版3 遺跡近景（2）



竪穴住居群発掘 (1)



竪穴住居群発掘 (2)



竪穴住居群発掘 (3)



SI01 平面



SI01 断面



SI02 平面



SI02 断面



SI03 平面



SI03 断面



SI04 平面



SI04 断面



SI05 平面



SI06 平面



SI06 断面



SI07 平面



SI07 断面



SI08 平面



SI08 断面



SI09 平面



SI10 平面



SI10 断面



SI11 平面



SI11 断面



SI12 平面



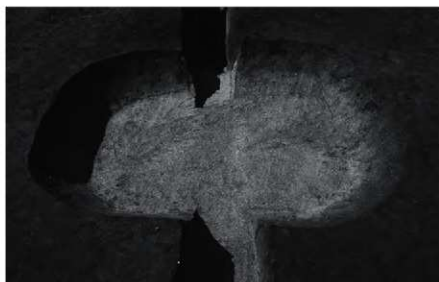
SI13 平面



SI13 遺物出土状況



SI14 平面



SI15 平面



SI15 断面



SI16 平面



SI17 平面



SI18 平面



SI18 断面



SI19 平面



SI19 断面



検出状況

写真図版15 SI19、検出状況



SI20 平面



SI20 断面



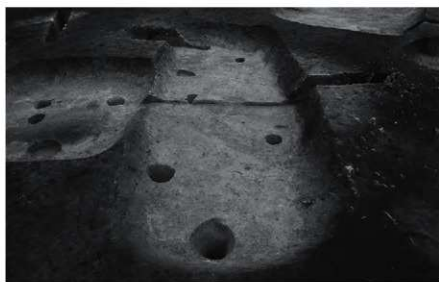
SI20 遺物出土状況



SI21 平面



SI21 断面



SI22 平面



SI22 断面



SI23 平面



SI23 断面



SI24 平面



SI24 断面



SI24 壁面



SI25 平面



SI25 断面



SI26 平面



SI26 断面



SI27 平面



SI27 断面



SI28 平面



SI28 断面



SI29 平面



SI29 断面



SI30 平面



SI30 断面



SI31 平面



SI31 断面



SI32 平面



SI32 断面



SI33 平面



SI33 断面



SI34 平面



SI34 断面



SI35 平面



SI35 断面



SI36 平面



SI36 断面



SI37 平面



SI37 断面



SI38 平面



SI38 断面



SI39 平面



SI39 断面



SI40 平面



SI40 断面



SI41 平面



SI42 平面



SI42 断面



SI43 平面



SI43 断面



SI44 平面



SI44 断面



SI45 平面



SI46 平面



SI46 断面



SI48 平面



SI48 断面



SI49 平面



SI49 断面



SI50 平面



SI51 平面



SI52 平面



SI52 断面



SI53 平面



SI53 断面



SI54 平面



SI54 断面



SI55 平面



SI55 断面



SI56 平面



SI56 断面



SI57 平面



SI57 断面



SKT01 平面



SKT02 平面



SKT03 平面



SKT04 平面



SKT05 平面



作業風景



SKT06 平面



SKT06 断面



SKT07 平面



SKT08 平面



SKT09 平面



SKT10 平面



SKT11 平面



SKT11 断面



SKT12 平面



SKT12 断面



SKT13 平面



SKT13 断面



SKT14 平面



SKT14 断面



SK01 平面



SK02 平面



SK03 平面



SK04 平面



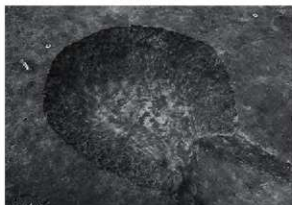
SK05 平面



SK06 平面



SK07 平面



SK08 平面



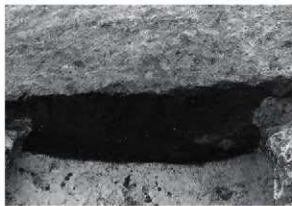
SK09 平面



SK10 平面



SK11 平面



SK11 断面

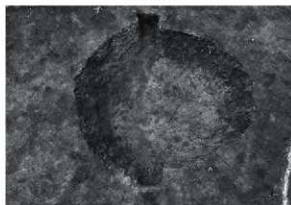
写真図版43 SK05~11



SK12 平面



SK13 平面



SK14 平面



SK15 平面



SK16 平面



SK17 平面



SK18 平面



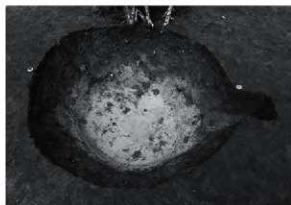
SK19 平面



SK20 平面



SK21 平面



SK22 平面



SK23 平面



SK24 平面



SK25 平面



SK26 平面



SK28 平面



SK27 平面



SK27・29 断面



SK29 平面



SK30 平面



SK31 平面



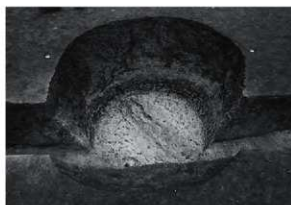
SK32 平面



SK33 平面



SK34 平面



SK35 平面



SK35 断面



SK37 平面



SK39 平面



SK38 平面



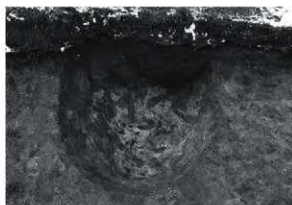
SK38 断面



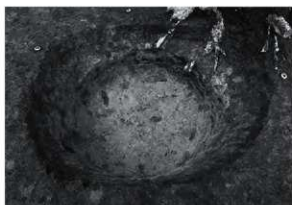
SK40 平面



SK40 断面



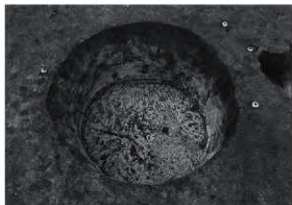
SK41 平面



SK42 平面



SK43 平面



SK44 平面



SK45 平面



SK46 平面



SK47 平面



SK48 平面



SK49 平面



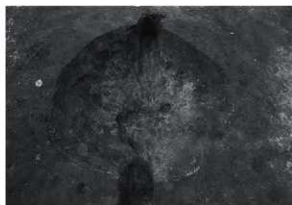
SK50 平面



SK51 平面



SK51 断面



SK52 平面



SK53 平面



SK54 平面



SK55 平面

写真図版49 SK49~55



SK56 平面



SK56 断面



SK57 平面



SK58 平面



SK59 平面



SK59 断面



SK60 平面



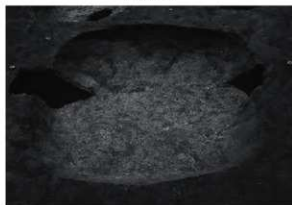
SK60 断面



SK61 平面



SK62 平面



SK63 平面



SK63 断面



SK64 平面



SK65 平面



SK66 平面



SK66 断面

写真図版51 SK61~66



SK67 平面



SK67 断面



SK68 検出状況



SK68 断面



基本層序



作業風景



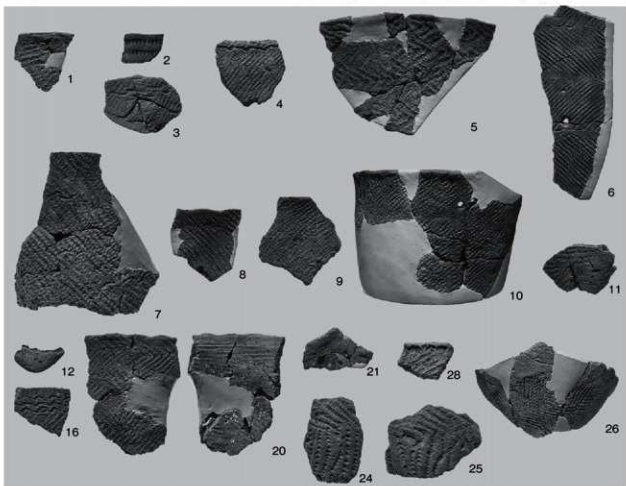
作業風景



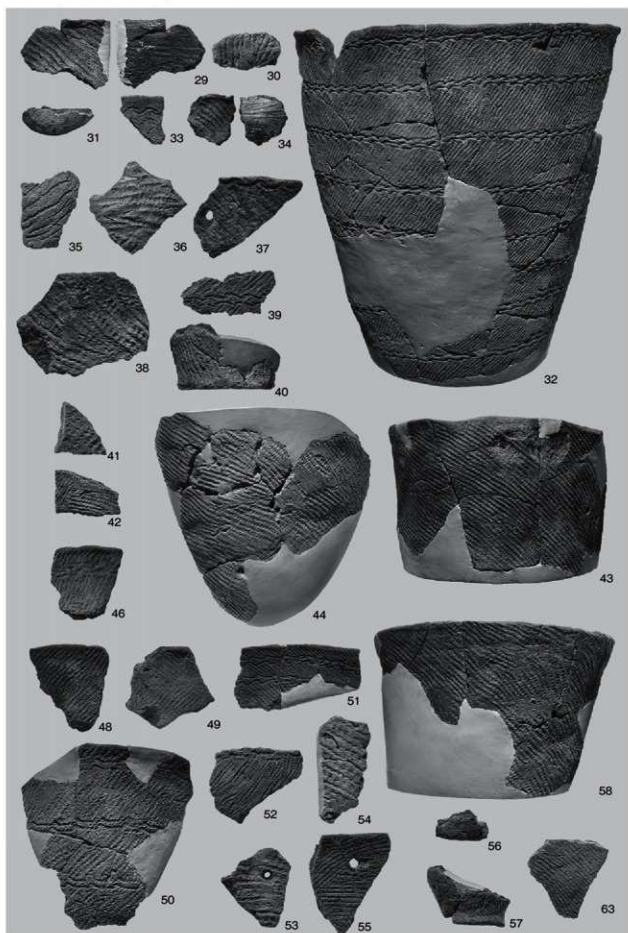
調査区現況



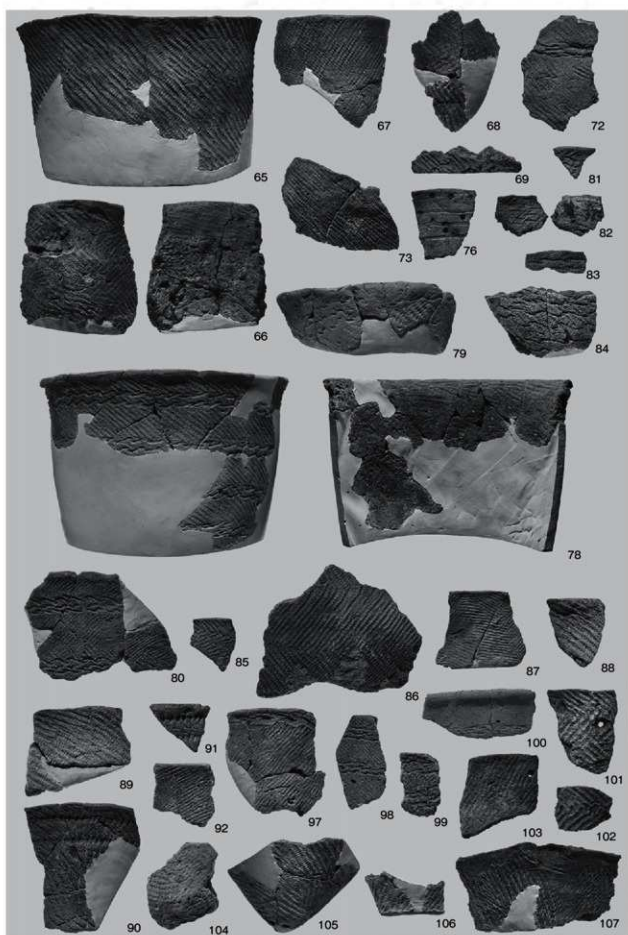
写真図版53 出土土器(1)



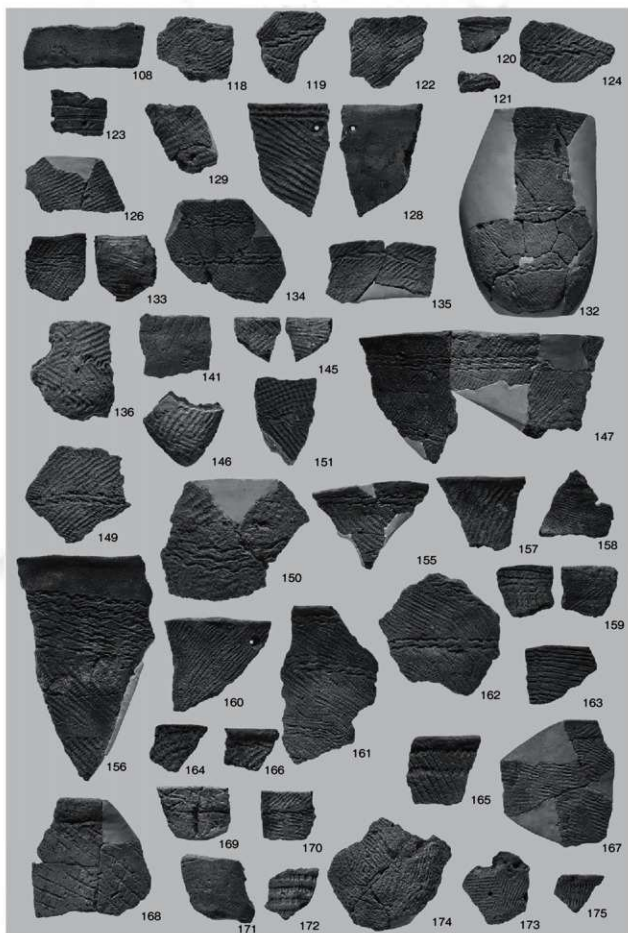
写真図版54 出土土器(2)



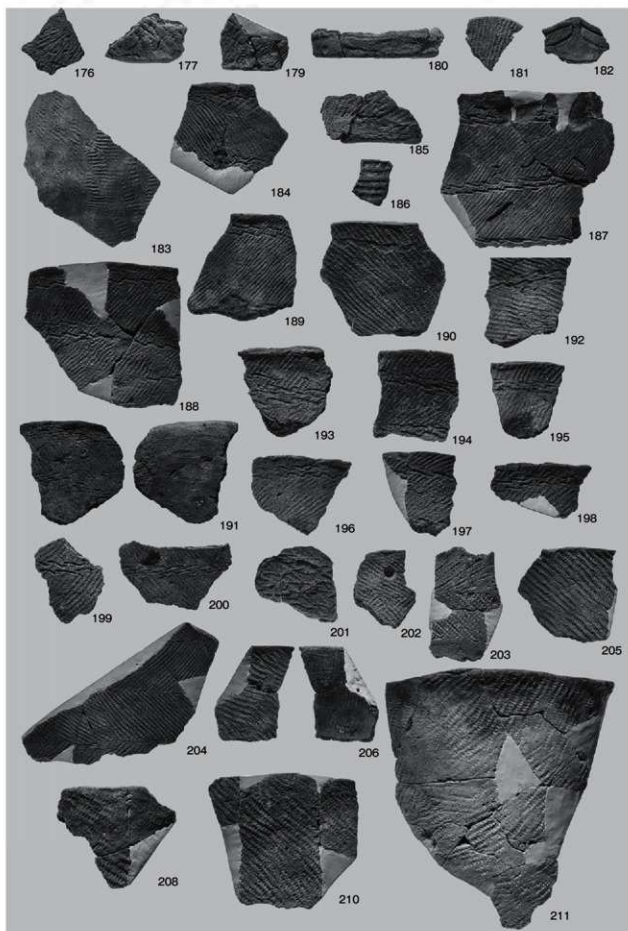
写真图版55 出土土器 (3)



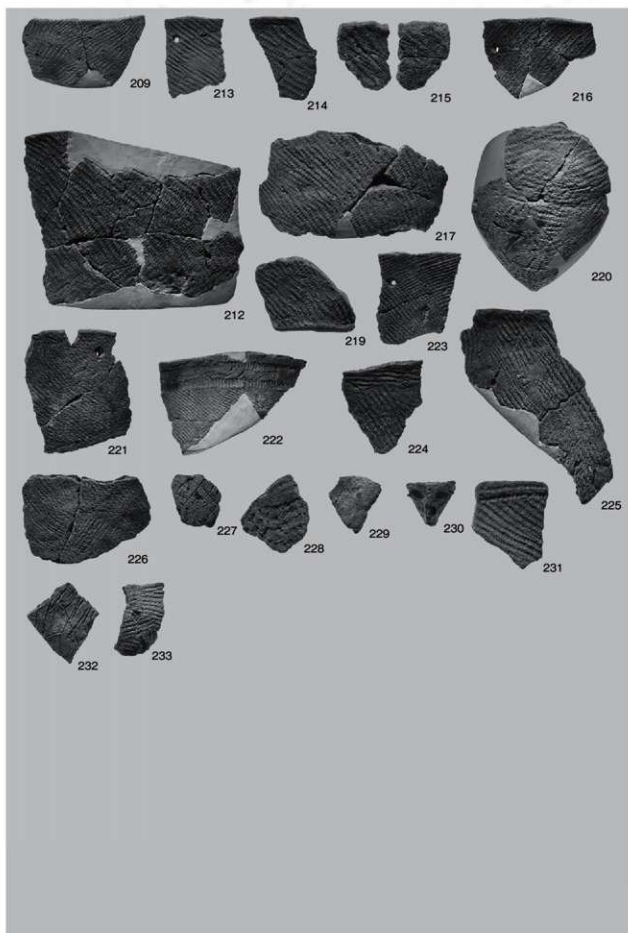
写真图版56 出土土器(4)



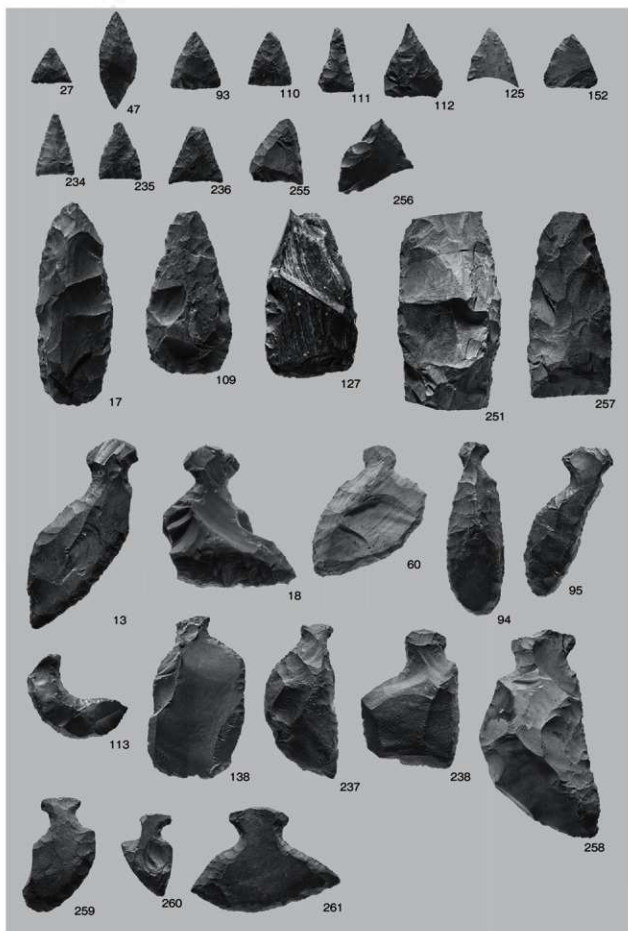
写真図版57 出土土器(5)



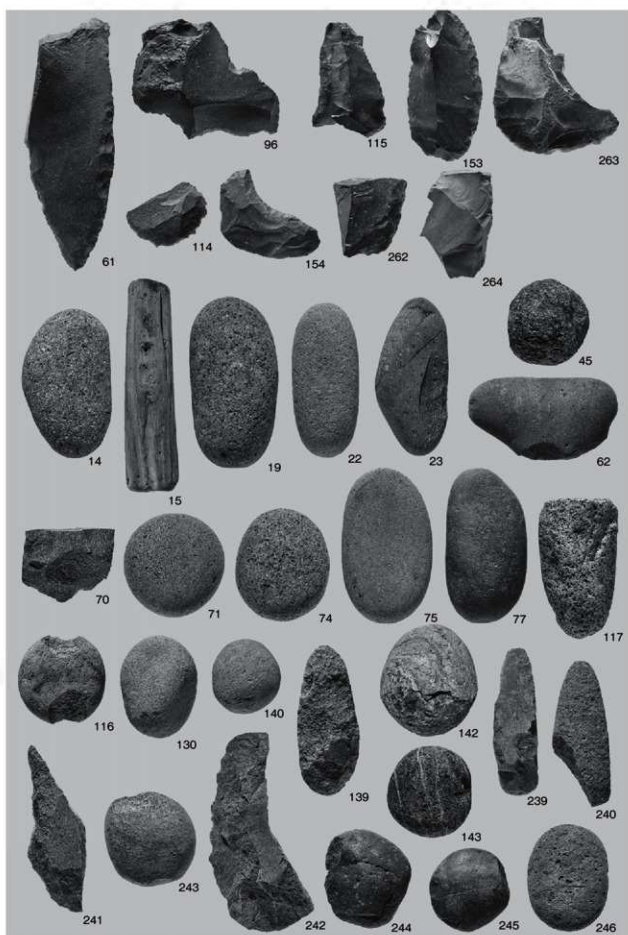
写真図版58 出土土器(6)



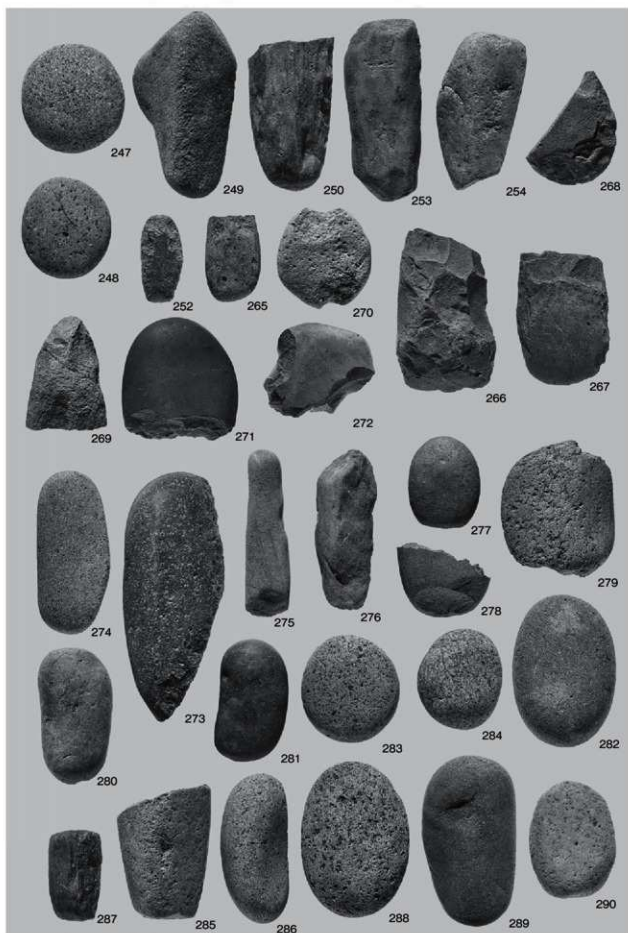
写真図版59 出土土器（7）



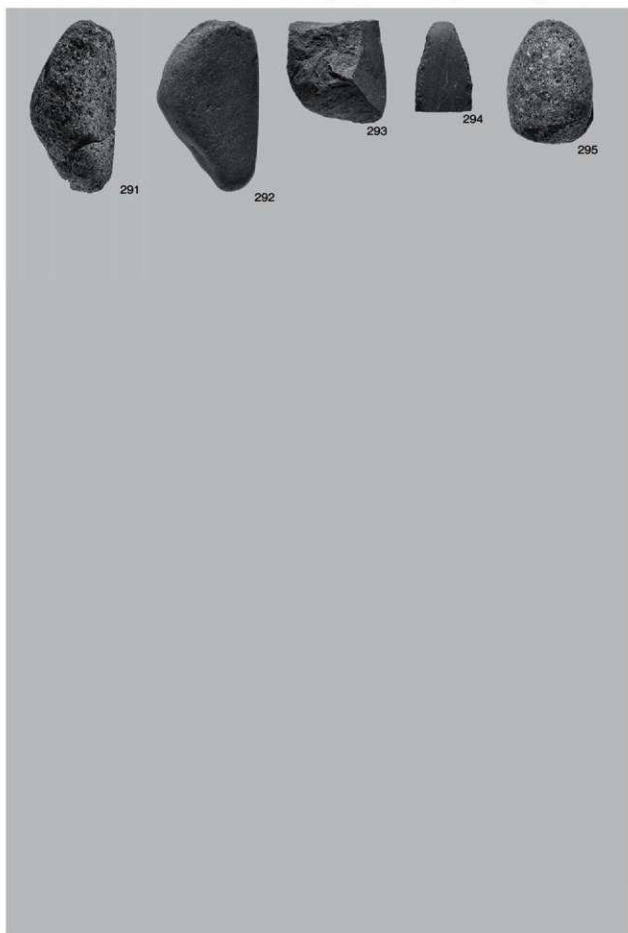
写真图版60 出土石器(1)



写真図版61 出土石器(2)



写真図版62 出土石器(3)



写真図版63 出土石器(4)

報告書抄録

ふりがな	たのはた2いせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第715集							
編著者名	村本 敬							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL. 019-638-9001							
発行年月日	西暦2020年3月6日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°'"	°'"			
田ノ端Ⅱ遺跡	岩手県九戸郡 洋野町 稲市 第42地割字田 ノ端地内	03507	IF37-2343	40度 26分 05秒	141度 39分 51秒	2017.1002～1213 2018.0404～0622	3,000㎡	三陸沿岸 道路建設
				世界測地系				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
田ノ端Ⅱ遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居 土坑 隔し穴状遺構 柱穴	57棟 68基 14基 4個	縄文土器 縄文石器		縄文時代早期中葉から 後期前葉にかけての集 落遺跡である	
要約	丘陵上に縄文時代早期中葉から後期前葉にかけての遺構・遺物を確認している。早期中葉から前期前葉にかけては竪穴住居や土坑が重複して形成されており継続的に集落が営まれている。中期から後期初頭にかけては隔し穴状遺構が形成され、狩り場として利用されている。後期前葉は竪穴住居や土坑が形成されており小規模な集落が営まれている。これらの遺構は形成される地形が異なり早期後葉は頂部から南西向き斜面、後期前葉は南東向き斜面を選地している。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第715集

田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連発掘調査

印刷 令和2年2月25日

発行 令和2年3月6日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号

電話 (0193) 62-1711

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印刷 川口印刷工業株式会社
〒020-0841 岩手県盛岡市羽場10-1-2

電話 (019) 632-2211